

茨城県教育財団文化財調査報告第236集

しま な くま やま い せき
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ

平成17年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



第29号方形竖穴遺構出土遺物（入子）



第1732号住居跡出土土器

序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。この一環である「つくばエクスプレス」の整備は、つくば市と東京圏を直結させることによって人・物・情報の交流を盛んにし、地域活性化の大きな力になるものです。そこで、平成6年7月に茨城県、つくば市、地権者が三者協議で合意に達したのを受け、新線整備と沿線開発を一体的に行う土地区画整理事業が進められております。

財団法人茨城県教育財団は、この予定地内に烏名熊の山遺跡が所在していたため、茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成7年4月から発掘調査を実施しました。その成果の一部は、既当財団の文化財調査報告第120集、第133集、第149集、第166集、第174集、第190集、第214集として刊行しています。

本書は、平成15年度に調査を行った烏名熊の山遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝の意を表します。

平成17年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15年度に発掘調査を実施した茨城県つくば市大字島名に所在する島名熊の山遺跡の一部である10・12区の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査	平成15年4月1日～平成15年9月15日
整 理	平成16年4月1日～平成17年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもとに行われ、担当は以下のとおりである。

首席調査員兼第2班長	萩野谷悟	平成15年4月1日～平成15年9月15日
主任調査員	黒澤秀雄	平成15年4月1日～平成15年6月30日
主任調査員	仲村浩一郎	平成15年4月1日～平成15年9月15日
主任調査員	近藤恒重	平成15年4月1日～平成15年5月31日
主任調査員	田中幸夫	平成15年4月1日～平成15年6月30日
副主任調査員	駒沢悦郎	平成15年4月1日～平成15年6月30日
副主任調査員	松本直人	平成15年4月1日～平成15年9月15日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長瓦吹堅のもと、主任調査員松本直人が担当した。

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標に準拠し、 $X = +7,320\text{m}$ 、 $Y = +20,200\text{m}$ の交点を基準点（A 1a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。





- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を（ ）を付けて併記した。
3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 S1-住居跡 SB-獨立柱建物跡 SK-土坑 SD-溝跡 SE-井戸跡 P-ピット
PG-ピット群 PR-柱穴列跡
遺物 TP-拓本記録土器 DP-土製品 Q-石器・石製品 M-金属製品・古銭
土層 K-攪乱

- 4 当遺跡は、「茨城県遺跡地図」（茨城県教育委員会 平成13年3月改訂）において、「熊の山遺跡」から「烏名熊の山遺跡」と名称が変更されているが、本書では遺跡の整合性から平成7年度調査から継続の遺構番号を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は1000分の1、10・12区全体図は200分の1、遺構は60分の1に縮小して掲載した。
(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合もある。
(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉・朱墨		炉・火床面・灰
	竈部材・粘土・炭化材・黒色処理		油煙・煤・柱痕
●	土器	○	土製品
□	石器・石製品	△	金属製品
---	硬化面		

- 6 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 7 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

- (1) 計測値の（ ）内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、cm、gで示した。
(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号、及びその他必要と思われる事項を記した。
(3) 文字資料のうち、焼成前に線刻されたものを「覽書」、焼成後に線刻されたものを「刻書」と分けて記述した。

- 8 「主軸」は、竈を持つ堅穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

抄 録

ふりがな	しまなくまのやまいせき							
書名	島名熊の山道跡							
副書名	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	Ⅷ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第236集							
編著者名	松本直人							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029(225)6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029(225)6587							
発行年月日	2005(平成17)年3月25日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
島名熊の山道跡 (10区)	茨城県つくば市大字島名字香取前1907-1番地ほか	08220	36度	140度	19	20030401	1.166㎡	島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴う事前調査
		214	3分 41秒 36度 3分 52秒	3分 46秒 140度 3分 34秒	~ 20m	~ 20030731		
島名熊の山道跡 (12区)	茨城県つくば市大字島名字道場前1664番地ほか	08220	36度	140度	15	20030514	2.077㎡	
		214	3分 32秒 36度 3分 43秒	3分 8秒 140度 2分 56秒	~ 23m	~ 20030915		
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
島名熊の山道跡 (10区)	集落跡	古墳	堅穴住居跡	2軒	土師器(坏・甕), 須恵器(甕), 石器・石製品(砥石)		過去の調査結果を含めると、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての堅穴住居跡約1800軒、掘立柱建物跡約230棟が確認されている県内最大級の集落跡である。今年度の調査区からは、掘立柱建物跡の集中域や中世のがを陶器(壺・長頸瓶)、白磁(碗)土製品(支脚・土玉・	
			掘立柱建物跡	1棟				
			井戸跡	1基				
奈良	奈良	奈良	堅穴住居跡	6軒	土師器(坏・甕・瓶), 須恵器(坏・高台付坏・壺・甕・甌・甔), 石器・石製品(紡錘車), 鉄製品(鐵)			
			溝跡	1条				
			平	安	堅穴住居跡	21軒	土師器(坏・高台付碗・甕・小皿・瓶), 須恵器(坏・高台付坏・高台付皿・壺・甕・甌・甔・甕・瓶・円面硯), 灰輪	
掘立柱建物跡	9棟							
井戸跡	3基							
土坑	8基							

				管状土鍾, 石器・石製品 (砥石・紡錘車・腰帯具), 鉄 製品(鎌・刀子・腰帯具・紡 錘車・釘)	県内で初めてとなる 古瀬戸の「入子」が 出土した。
その他	中世	方形竪穴遺構	2基	土師質土器(小皿・内耳)陶 器(皿・入子), 古銭	
		井戸跡 土坑	1基 2基		
	不明	掘立柱建物跡 溝跡 火葬土坑 土坑 ピット群 柱穴列跡	2棟 1条 1基 106基 7か所 2基	土師器(坏・甕), 須恵器 (坏・甕)	
鳥名熊の山遺跡 (12区)	集落跡	古墳	竪穴住居跡	8軒	土師器(坏・甕・高坏・甕), 土製品(支脚・土玉・紡錘 車), 石器・石製品(砥石)
			奈良	竪穴住居跡 掘立柱建物跡	2軒 2棟
		平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 井戸跡 土坑	12基 10棟 1基 5基	土師器(坏・高台付碗・甕・ 甕・小皿・高台付皿), 須恵器 (坏・高台付坏・蓋・甕・甕・ 鉢・甕・小瓶・有耳壺), 灰釉 陶器(長頸瓶・壺) 土製品 (支脚・紡錘車), 石器・石製 品(砥石), 鉄製品(刀子・ 鎌・釘・腰帯具)
	その他	中世	竪穴住居跡	2軒	土師質土器(小皿・内耳鍋), 土師器(三足鍋), 陶器(皿)
			掘立柱建物跡 方形竪穴遺構 溝跡 墓壇	2棟 6基 2条 2基	
		近世	土坑	2基	鉄製品(鏝), 泥面子
		不明	竪穴住居跡 墓壇 土坑 ピット群 柱穴列跡	1軒 1基 122基 3か所 4基	陶器, 磁器

目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本刷序	9
第3節 遺構と遺物(10区)	11
1 古墳時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	11
(2) 掘立柱建物跡	14
(3) 井戸跡	16
2 奈良時代の遺構と遺物	17
(1) 竪穴住居跡	17
(2) 溝跡	29
3 平安時代の遺構と遺物	30
(1) 竪穴住居跡	30
(2) 掘立柱建物跡	80
(3) 井戸跡	96
(4) 土坑	99
4 中世の遺構と遺物	107
(1) 方形竪穴遺構	107
(2) 井戸跡	109
(3) 土坑	110
5 その他の遺構と遺物	112
(1) 掘立柱建物跡	112
(2) 溝跡	114

(3) 土坑	114
ア 火葬土坑	114
イ 墓塚の可能性のある土坑	115
ウ その他の土坑	118
(4) ビット群	121
(5) 柱穴列跡	130
6 遺構外出土遺物	131
第4節 遺構と遺物(12区)	139
1 古墳時代の遺構と遺物	139
竪穴住居跡	139
2 奈良時代の遺構と遺物	163
(1) 竪穴住居跡	163
(2) 掘立柱建物跡	168
3 平安時代の遺構と遺物	171
(1) 竪穴住居跡	171
(2) 掘立柱建物跡	197
(3) 井戸跡	213
(4) 土坑	214
4 中世の遺構と遺物	218
(1) 竪穴住居跡	218
(2) 掘立柱建物跡	221
(3) 方形竪穴遺構	223
(4) 溝跡	230
(5) 墓塚	232
5 近世の遺構と遺物	233
土坑	233
6 時期不明の遺構と遺物	235
(1) 竪穴住居跡	235
(2) 土坑	235
(3) ビット群	243
(4) 柱穴列跡	247
7 遺構外出土遺物	249
第5節 まとめ	255
写真図版	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成6年9月19～27日に現地踏査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成7年3月8日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、事業地内に鳥名熊の山遺跡が所在する旨回答した。

平成7年3月14日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成7年3月16日、茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

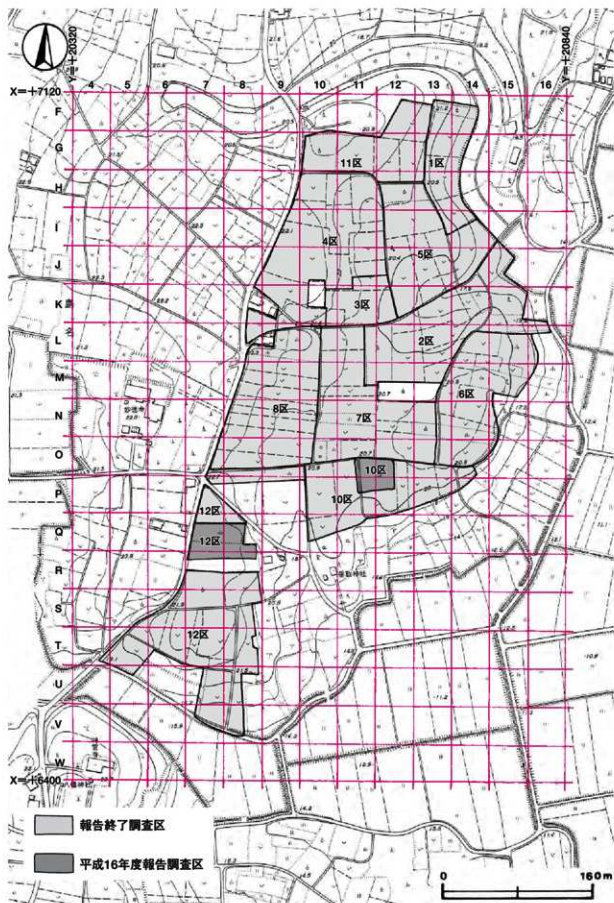
平成14年3月1日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長に対して、鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。同日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、鳥名熊の山遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成15年4月1日から平成16年3月31日まで鳥名熊の山遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

鳥名熊の山遺跡10区と12区の調査は、平成15年4月1日から平成15年9月15日までの約6か月間並行して実施した。以下、調査の経過について、概要を表で記載する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備 表土除去 遺構確認						
遺構調査						
遺物洗浄 注写整理						
補足調査 撤収						



第1図 島名熊の山道跡グリッド設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥名熊の山遺跡10区は、茨城県つくば市大字鳥名字香取前1907-1番地ほかに所在し、同12区は大字鳥名字道場前1664番地ほかに所在し、直線で東西に100mほど離れている。

つくば市は、筑波山を北端にして、その南西側に広がる標高約20～25mの平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。また、それぞれの河川によって大きく開析された流域には、標高5～10mの沖積地が発達している。さらに、両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており、これらの河川によっても台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

この筑波・稲敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層(0.3～5.0m)及び褐色の関東ローム層(0.5～2.0m)が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の旧谷田部町地の鳥名地区は、東谷田川と西谷田川に挟まれた平坦な台地上に位置している。当遺跡はその台地上の東谷田川に面した縁辺部に立地しており、標高は20～23mである。また、当遺跡を囲むように周囲には小さな谷津が入り込み、その名のように鳥状を呈している。この台地は主に畑地、また低地は水田としてそれぞれ利用されており、台地と水田面の比高は約10mである。当遺跡の調査前の現況は畑地であり、主に野素畑や栗畑として利用されていた。

第2節 歴史的環境

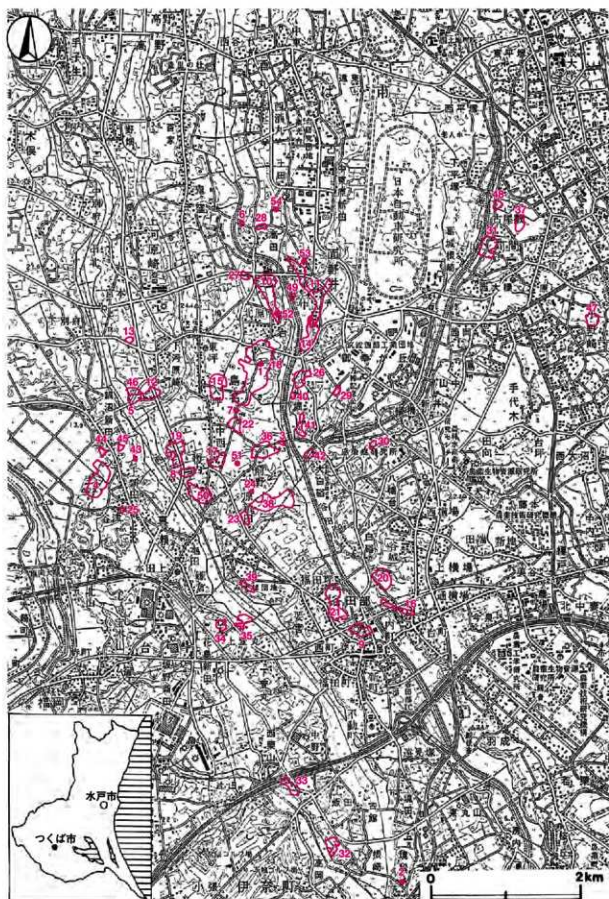
鳥名熊の山遺跡周辺の小貝川や東谷田川、西谷田川、蓮沼川流域の台地上には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、主に東谷田川と西谷田川流域の遺跡について述べる。特に、当遺跡が所在する鳥名地区は調査事例が多く、集落の動向をつかみやすい。

旧石器時代では、当遺跡や鳥名前野東遺跡²⁾(36)からナイフ形石器や剥片、面野井北の前遺跡(53)から荒屋型彫形などが確認されている。いずれも表土中からの出土であり、旧石器時代の遺構の存在は明らかではない。

縄文時代の遺構は、近年の調査の増加に伴って確認されるようになってきた。特に、西谷田川左岸の境松貝塚³⁾(2)では地点貝塚、東谷田川右岸の鳥名境松遺跡⁴⁾(38)では土器焼成遺構と考えられる土坑が確認されており、注目されている。当遺跡付近では、陥し穴数基と表土中から石鏃が複数確認されているにすぎない。

弥生時代の遺跡は少なく、後期の遺物が出土した当遺跡のほか、境松貝塚や鳥名一町田遺跡(24)などが確認されているだけであり、当遺跡から出土した土器片には痕跡が認められ、稲作を考える上で興味深い。

古墳時代になると、遺跡数の増加が顕著となる。前期では、当遺跡、鳥名前野遺跡⁵⁾(3)、鳥名前野東遺跡などで集落跡が確認され、鳥名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が調査されている。しかし、これらの集落はいずれも小規模で、東谷田川に沿って点在していた集落の一つととらえることができる。



第2図 烏名熊の山道跡周辺遺跡分布図（国土地理院5万分の1「土浦」）

表1 島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代								
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平			中世	近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世
1	島名熊の山遺跡		○		○	○	○	○	28	高田遺跡				○	○		
2	境松貝塚		○	○	○			○	29	水堀遺跡				○			
3	島名前野遺跡		○		○	○	○	○	30	柳橋遺跡				○	○		
4	真瀬山田遺跡		○						31	苅間神田遺跡	○	○	○	○	○	○	○
5	下河原崎高山遺跡			○	○				32	根崎遺跡	○	○		○	○	○	
6	高田和田台遺跡				○	○			33	西栗山遺跡	○	○		○			
7	島名薬師遺跡				○				34	真瀬三度山遺跡		○	○				○
8	島名榎内遺跡				○				35	上堂丸古屋敷遺跡	○		○			○	○
9	谷田部城跡						○	○	36	島名前野東遺跡	○		○	○	○	○	○
10	島名関ノ台古墳群				○				37	苅間六十目遺跡				○	○	○	○
11	面野井古墳群				○				38	島名境松遺跡	○		○				
12	下河原崎高山古墳群				○				39	谷田部漆遺跡	○		○	○			
13	下河原崎古墳群				○				40	水堀屋敷添遺跡	○		○				
14	面野井南遺跡				○	○	○	○	41	水堀道後前遺跡	○		○	○			
15	島名本田遺跡				○	○	○	○	42	平後遺跡				○		○	○
16	谷田部台町古墳群				○				43	真瀬堀附北遺跡			○				
17	島名榎内古墳群				○				44	真瀬山田北遺跡	○		○				
18	島名熊の山古墳群				○				45	鍋沼新田長峰遺跡	○		○				
19	島名ツバタ遺跡	○			○				46	下河原崎高山遺跡			○	○			
20	谷田部台成井遺跡	○							47	小野崎館跡						○	○
21	谷田部福田前遺跡	○			○	○			48	苅間城跡						○	○
22	島名八幡前遺跡				○	○	○		49	面野井城跡						○	○
23	島名タカドロ遺跡	○			○				50	島名榎内南遺跡	○		○	○			
24	島名一町田遺跡	○							51	島名前野古墳				○			
25	真瀬新田谷津遺跡	○							52	島名関ノ台南B遺跡				○	○		
26	水堀下道遺跡				○	○			53	面野井北の前遺跡				○	○	○	○
27	島名関ノ台遺跡				○				54	高田原山遺跡				○			

中期になると、集落は西谷田川沿いにまで広がりを見え、前述した遺跡に加えて、谷田部漆遺跡⁶⁾ (39) や鳥名ツバタ遺跡⁷⁾ (19)、真瀬三度山遺跡⁸⁾ (34)、上堂丸古屋敷遺跡⁹⁾ (35) などにおいても集落跡が確認されている。前・中期のこうした集落は、いずれも台地の縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離を置いて営まれており、集落の立地や経営は、いずれも台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く示唆される。

後期になると、台地の内陸部にまで集落が及ぶようになる。また、谷田部地区には古墳群11か所、古墳約300基が確認される¹⁰⁾ など、急速に古墳が築造されたことが分かる。当遺跡周辺には、鳥名熊の山古墳群 (18)、鳥名関ノ台古墳群 (10)、鳥名前野古墳 (51)、面野井古墳群 (11)、鳥名椀内古墳群 (17)、下河原崎高山古墳群 (12) などがあり、径10mほどの小円墳が大部分を占めるこれらの古墳群は、地域的な群集墳の在り方を示している。中でも、『谷田部の歴史』¹¹⁾ によれば、鳥名関ノ台古墳群は、円墳27基の他に、全長約40mの前方後円墳が存在しており、鳥名地区の盟主的存在であった可能性が高い。基盤となる集落としては、馬具や農具などの鉄器の他に須恵器なども相当数保持していた当遺跡を挙げることができる。

当遺跡では、過去5年間の調査により、4～5世紀に台地縁辺部に集落が出現した後、6世紀後半になって台地全体に集落が拡大し、急速に発展していく様子が明らかにされている¹²⁾。当遺跡と谷津を隔てて南側に隣接する鳥名八幡前遺跡¹³⁾ (22) は集落の形成時期を後期に求めることができ、この時期においても集落を維持していた鳥名前野遺跡や鳥名前野東遺跡とともに、当遺跡を中心とする近接する遺跡間で互いの増減を補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりまで集落が継続して営まれたことが分かる。

奈良時代になると、近年の発掘調査によって鳥名地区は急速に集落の再編が進むことが明らかとなった。その背景には、律令国家の成立と地方の国郡制の整備があったことは明らかで、当地区は河内郡嶋名郷に編入されることとなる。当遺跡や鳥名八幡前遺跡は、大形住居とそれに付随する掘立柱建物が集落の中心となり、規模や形状の等質化したその他の住居跡はいずれも主軸を真北にして並存するようになる。さらに、当遺跡にはL字状に配置された掘立柱建物群も整備され、郷関連の官衙施設の可能性も示唆されている。一方、鳥名前野遺跡や鳥名前野東遺跡では7世紀に一旦集落が途絶え、8世紀中頃に再び集落が形成される。それは、約半世紀の間空地となっていた当地が、律令体制の進展と共に再開発の標的となったためと思われる。しかし、その一方で、これらの遺跡以外に鳥名地区における該期の集落は認められなくなり、当遺跡周辺だけにこの時期の集落が集中するという現象が見られる。

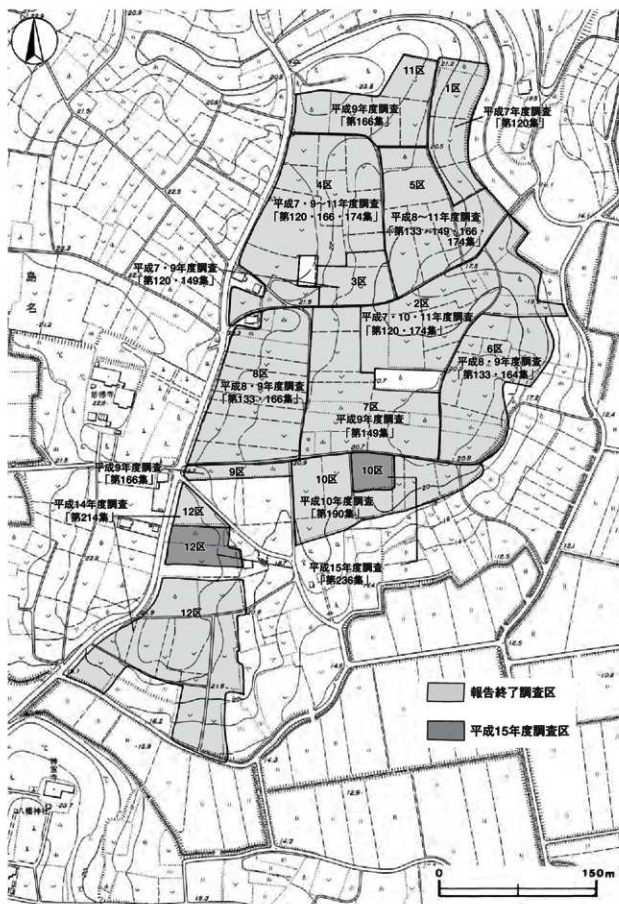
平安時代になると、遺跡数はさらに減少し、集落として明確に捉えられるのは当遺跡と鳥名八幡前遺跡だけとなる。この2遺跡は、鍛冶生産や紡績などの手工業と積極的に関わっており、9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。加えて、8世紀以来の集落が、大規模な集落を残し壊滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。この9世紀の集落編成も10世紀を迎えると新たな展開を示し、鳥名八幡前遺跡もまた集落としての終焉を迎えることになる。一方、当遺跡はそれ以降も存続し、11世紀まで継続的に集落が営まれるが、その後の集落の様相は、不明瞭になっていく。堅穴住居から平地住居への転換の時期と重なるためと思われるが、当遺跡の墓塚や井戸跡からは平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面から有力者層の存在をうかがうことができる。また、13世紀末には当遺跡の西側に妙徳寺が開山され、寺域周辺は墓域として利用されていく。ほぼ同じ頃、鳥名前野東遺跡には方1町に巡る堀に囲まれた方形居館が出現しており、居館内に居住する在地有力者が当遺跡の所在する鳥名地区一帯を治めていたものと思われる。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 3) 久野俊成「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第41集 1987年3月
- 4) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 5) 稲田義弘「島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告Ⅳ 島名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 6) 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司「島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部漆遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
- 7) 菅川修「島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 8) 白田正子「(仮称) 萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山遺跡 古屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 9) 註8) 同ジ
- 10) 谷田部町文化財保存会「谷田部町文化財報告Ⅰ」『古墳総覧』谷田部町教育委員会 1960年
- 11) 谷田部の歴史編さん委員会「谷田部の歴史」谷田部町教育委員会 1975年9月
- 12) 稲田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 13) 青木仁昌「島名八幡前遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月

参考文献

- 「つくば市道跡地図」つくば市教育委員会 2001年7月
『茨城県道跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月



第3図 鳥名熊の山道跡調査区設定図

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査区は、便宜上1～12区に分けられている。今回報告するのは、平成15年度に調査した10区と12区についてである。

調査の結果、古墳時代後期から平安時代の集落跡を中心とする複合遺跡であることが再確認できた。遺構は、竪穴住居跡54軒（古墳時代10、奈良時代8、平安時代33、中世2、時期不明1）、掘立柱建物跡26棟（古墳時代1、奈良時代2、平安時代19、中世2、時期不明2）、方形竪穴遺構8基、土坑245基、墓壇3基、火葬土坑1基、溝跡4条、井戸跡6基、柱穴列跡6基、ピット群10か所である。出土した主な遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、土師質土器、陶器、磁器、土製品（管状土錘、土玉、支脚）、石製品（勾玉、紡錘車）、金属製品（腰帯具、刀子、鎌、紡錘車）などである。

第2節 基本層序

当遺跡は、標高20mほどの平坦な台地上の縁辺部に立地しており、調査10区の南西部（Q10e3区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った。土層は9層に分層され、土層断面中、第2～7層が関東ローム層、第8・9層が常態粘土層である。以下、テストピットの観察から、層序を説明する。

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ローム小ブロックを中量含み、粘性・締まりとも弱い。層厚は8～11cmである。

第2層は、暗褐色を呈するハードローム層への漸移層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は15～21cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は5～13cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は11～13cmである。

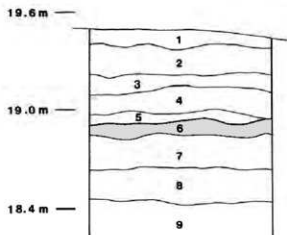
第5層は、褐色を呈するハードローム層で、火山ガラス粒子をわずかに含んでいる。始良Tn火山灰（AT）を含む層と考えられ、粘性・締まりともに強く、層厚は4～7cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層で、第II黒色帯に相当すると思われる。粘性・締まりともに強く、層厚は5～11cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は16～22cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに特に強く、層厚は10～13cmである。

第9層は、黄褐色を呈する粘土層で、明黄褐色の砂粒を少量含んでいる。粘性・締まりともに特に強い。厚さは20cm以上あり、下部が未掘のため、本来の厚さは不明である。



第4図 基本土層図（10区）

なお、住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。

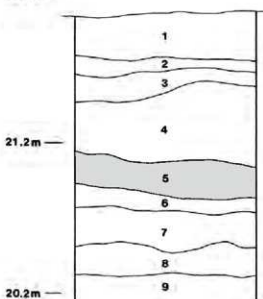
また12区については、調査区南寄り（T7j8区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った。土層は9層に分層され、土層断面図中、第3～6層が関東ローム層、第7～9層が常総粘土層である。以下、テストピットの観察から、層序を説明する。

第1層は、暗褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを中量含み、粘性・締まりとも弱く、層厚は25～33cmである。

第2層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりとも弱く、層厚は5～14cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は7～19cmである。

22.2m



第5図 基本土層図 (12区)

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は33～51cmである。

第5層は、暗褐色を呈するハードローム層で、第II黒色帯に相当すると考えられる。粘性・締まりともに強く、層厚は19～26cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は8～15cmである。

第7層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりとも特に強く、層厚は11～35cmである。

第8層は、黄褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりとも特に強く、層厚は11～26cmである。

第9層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層で、明黄褐色の砂粒を少量含み、粘性・締まりとも特に強い。下部は未掘のため、本来の厚さは不明である。

なお、住居跡などの遺構は、第3層上面で確認している。

第3節 遺構と遺物 (10区)

1 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代前期の井戸跡1基、古墳時代後期の竪穴住居跡2軒と掘立柱建物跡1棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1366号住居跡 (第6図)

位置 調査区東部のP12b5区、標高20mほどの西に傾斜する台地の縁辺部に位置している。東半部は平成10年度に調査が終了している。

重複関係 第1365号住居跡、第97・115号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.48m、短軸5.43mの方形で、主軸方向はN-17°-Eである。壁高は12~23cmで、各壁ともに外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦であり、中央部がよく踏み固められている。壁溝が周回し、幅10~25cm、深さ4~10cmほどで、断面形はU字状を呈している。

竪 北壁に付設されており、焚口部から煙道部まで90cm、両袖部幅160cmである。袖部は、床面から20cmほど不整形に掘り込んだ部分にローム土を主体とした暗褐色を充填し、その上部に砂質粘土混じりのローム土を用いて構築されている。火床面は床面と同じ高さの平坦面をそのまま使用し、熱を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

電土層解説

1 無暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量	9	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
2 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	10	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3 暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子少量			
4 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	11	灰黄褐色	ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子・粘土粒子少量
5 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量	12	褐色	ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
6 暗赤褐色	焼土粒子多量	13	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
7 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	14	灰褐色	ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
8 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子・砂粒少量	15	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量
		16	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

ビット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さは22~62cmである。P5は深さ13cmで、竪と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うビットである。

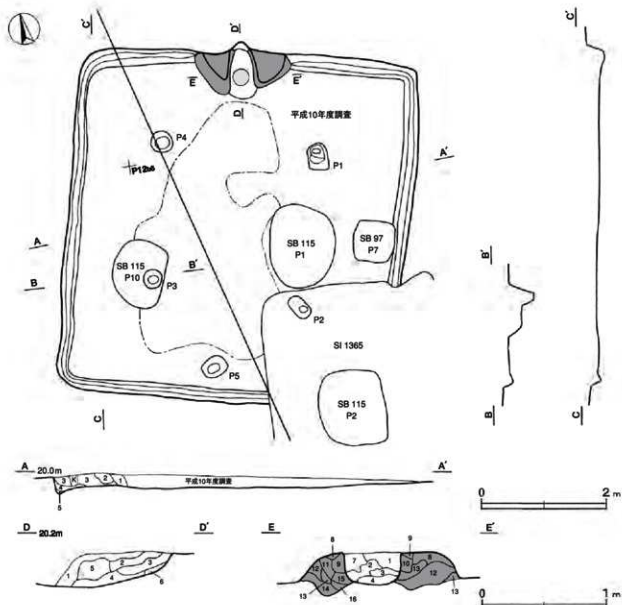
覆土 5層からなる。ロームを主体とした暗褐色土と褐色土からなり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック微量	5 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 本年度調査区からは、土師器片(壺)2点が出土しており、いずれも細片である。

所見 本年度調査区からは、時期判断できる遺物の出土はなかった。平成10年度に調査した東半部からは、良好な資料が出土している。時期は、出土土器から7世紀後半と報告されている。詳細については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集を参照されたい。



第6図 第1366号住居跡実測図

第1677号住居跡 (第7図)

位置 調査区南部のP12d4区、標高20mほどの平坦な台地の南端部に位置している。

重複関係 第1628・1629号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が削平された状態で検出されたため、南壁の立ち上がりは確認されなかった。北側部分の形状と暗褐色を呈する床面の広がりから、 $N-8^{\circ}-E$ を主軸とする長軸4.07m、短軸3.71mの方形と推定される。壁高は2~10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝が南壁際を除いて確認されており、幅10~15cm、深さ5~7cmほどで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁際中央部の床面に粘土粒子や砂粒が散在しており、第1628・1629号土坑によって掘り込まれて破壊されたものと考えられる。

ビット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さは35~64cmである。P5は深さ43cmで、南壁際の中央部に位置

していることや硬化面の広がりから見て、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

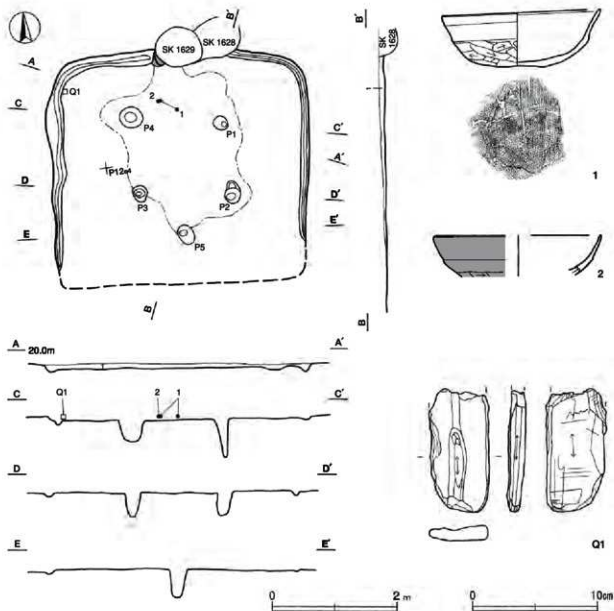
覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況の詳細は不明である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片19点(坏10, 甕9), 須恵器片3点(甕), 磁器片2点(碗), 石製品1点(砥石)が出土している。覆土が薄いために残存率が悪い。1は, 中央部北寄りの覆土下層から, つぶれた状態で出土している。2は, 竈手前の覆土下層から出土している。また, Q1は北西壁際の床面から出土しており, 中心部が腫状にへこんでいる。玉類を研いだものと想定されるが, それを裏付ける遺物は出土していない。磁器片は上部からの出土で混入したものである。

所見 遺物は破片が多く, 図化できた資料も少ない。赤彩された坏の体部や外面にヘラ削りが施されている甕の体部細片が遺物の大半を占めることなどから, 時期は6世紀前半と考えられる。



第7図 第1677号住居跡・出土遺物実測図

第1677号住居跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.8	4.5	3.6	長石・赤色粒子	にぶ青	普通	口辺内外面横ナデ、体部外面下縁多方向手持へずへず	下層	85% PL14
2	土師器	坏	[13.4]	(3.2)	-	長石・赤色粒子	黒褐	普通	口辺内外面横ナデ、体部外面下縁手持へずへず	下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(9.8)	4.7	1.3	(102.9)	粘板岩	紙面3面、うち1面は離状のへこみ有り、側面縦痕	床面	上部欠損 P123

(2) 掘立柱建物跡

第192号掘立柱建物跡（第8図）

位置 調査区南東部のP12b2区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1678・1687・1700号住居跡と第1617・1641・1681号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、N-0°を桁行方向とする南北棟である。規模は桁行5.40m、梁行4.20mほどで、面積は約22.68㎡である。柱間寸法は桁行1.80m、梁行2.10mを基調としており、柱筋はほぼ揃っている。

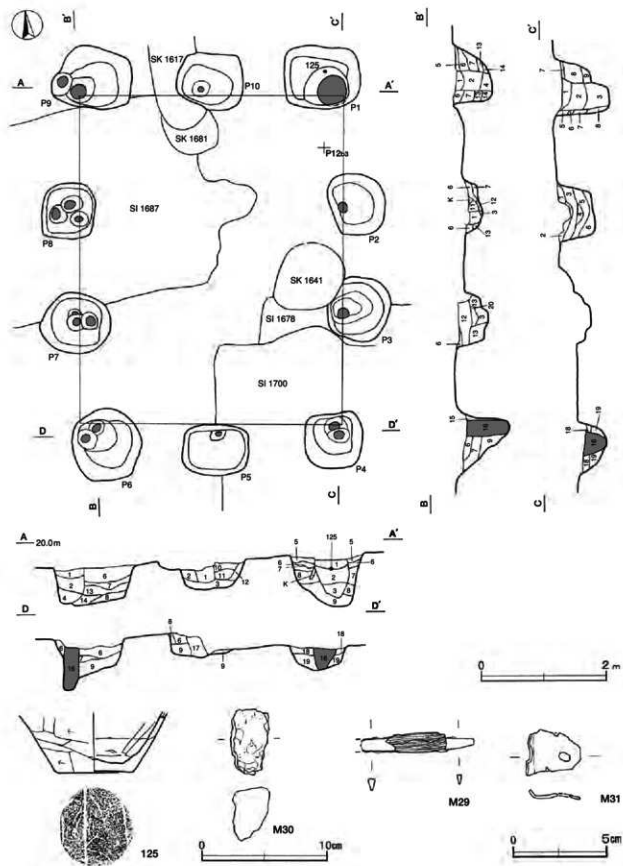
柱穴 10か所。平面形はP6・P7が円形で、その他は隅丸方形ないし楕円形を呈している。深さは42～88cmで、四隅が深い。規模は、長径0.85～1.1mほど、断面はU字形で、柱穴の多くにおいて掘方が乱れており、掘り直しや柱の建て替えが行われた痕跡が認められる。柱抜き取り痕跡は土層断面図中の第1～4・20層が相当し、締まりが弱い。P4・P6の土層断面からは柱痕跡が明確に確認され、推定される柱の太さは20～30cmである。また、すべてのピットの底面から柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色土や褐色土で互層をなしてあり、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量	12	暗褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック少量	14	暗褐色	ローム粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子中量	15	暗褐色	ローム粒子中量
6	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	16	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック中量	17	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	18	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	19	暗褐色	ローム粒子中量
10	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	20	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片62点（坏3、高台付坏2、壺57）、須惠器片34点（坏12、高台付坏2、壺19、瓶1）、灰釉陶器片1点（高台付碗）、鉄製品3点（刀子、鉄斧、金具）が出土している。125はP1の柱抜き取り痕跡から出土している。また、埋土からは赤彩された碗と思われる坏の体部が出土している。本跡は遺構の重複が著しいことから、他からの混入が多いものと考えられる。

所見 規模や形状から見て、倉庫の建物と思われる。時期は、重複関係と出土土器の形状から、7世紀後葉～8世紀前葉に機能していたものと考えられる。本跡の南約10mには第1366号住居跡、北約8mには第1682号住居跡がそれぞれ隣接しており、本跡はこれらに付属する施設と思われる。また、P4・P6～P9には複数の柱のあたりが見られることから、同じ場所での建て替えが想定される。



第8图 第192号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第192号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
125	土師器	小形壺	-	(5.0)	6.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面下縁へラナリ、内面輪積痕・ヘラナリ、底面木葉痕	P 1 抜き取り遺跡	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	刀子	(5.0)	1.2	0.3	(4.6)	鉄	刃先部欠損、片貫、基部朽木残存	P 4 埋土	PL23
M30	洋	5.4	3.1	4.4	106.6	鉄	着磁石有り、外面焼土付着	P 10 埋土	
M31	鎌金具	(2.9)	(2.5)	0.2	(4.3)	鉄	一部湾曲	P 8 埋土	PL24

(3) 井戸跡

第38号井戸跡（第9・10図）

位置 調査区北部のO119区、標高19mほどの南にやや傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1678号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認面の規模は、長径1.92m、短径1.62mの楕円形で、長径方向はN-6°-Wである。確認面から0.8mほどまでは漏斗状、それ以下は0.6mほどの円筒状に掘り込まれている。1.6mほど掘り下げた時点で湧水のため以下の調査を断念したが、ローム層を掘り抜き、さらに白色粘土層も掘り込んでいることが確認された。

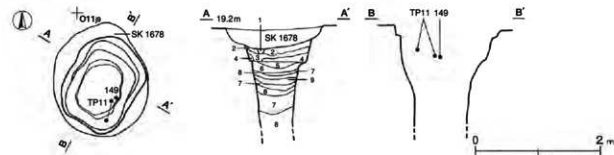
覆土 9層からなり、全体的に軟弱な土質である。ロームを含んだ黒褐色土と暗褐色土で互層をなした人為堆積である。

土層解説

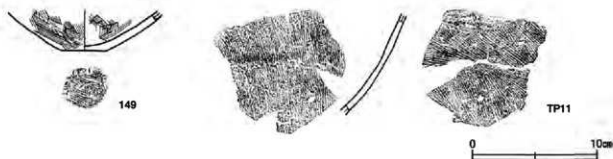
1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量	7	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子微量
			9	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片31点(壺)が出土している。149は体部内外面に刷毛目痕が認められ、覆土中層からまとまって出土している。周辺に同時期の遺構がないことから、混入とは考えられない。また、遺物が破片のため、投棄された可能性が高い。

所見 木枠を持たない素掘りの構造である。時期は、出土土器から、4世紀後葉と考えられ、周辺に同時期の遺構が見当たらないことから注目される。



第9図 第38号井戸跡実測図



第10図 第38号井戸跡出土遺物実測図

第38号井戸跡出土遺物観察表 (第10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
149	土師器	甕	-	(32)	3.6	粘土・石英・ 磁石・黒炭・ 鉄屑	黒	普通	体部内外面・底部刷毛目	中層	5% PL22
TP11	土師器	甕	-	(8.1)	-	粘土・石英・ 磁石・黒炭・ 鉄屑	黒	普通	体部内外面刷毛目痕	中層	5% PL22

2 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の竪穴住居跡6軒、溝跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1678号住居跡 (第11・12図)

位置 調査区南東部のP12c3区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第192号掘立柱建物跡を掘り込み、第1681・1700号住居跡と第1641・1643・1651号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.95m、短軸3.71mの方形と推定され、主軸はN-8°-Eである。壁高は2~10cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、出入り口付近から竈の手前にかけて踏み固められている。壁溝が北部と東部に確認されており、幅15~20cm、深さ4~6cmほどで、断面形はじ字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており、袖部幅120cmで、壁外への掘り込みは認められない。天井部は遺存せず、袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。火床部は地山面をそのまま使用し、若干赤変しているものの焼け跡まりはないことから、使用頻度は低かったと思われる。また、煙道部の立ち上がりの勾配は大きい。竈廃絶後、間もなく天井部材が崩落したと考えられる。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	6	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土ブロック微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量	8	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
4	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量	9	褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量			

ピット 7か所。P1~P4は主柱穴で、深さは44~58cmである。P5は深さ19cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。P6・P7は深さがそれぞれ30cm・25cmで、性格は不明である。

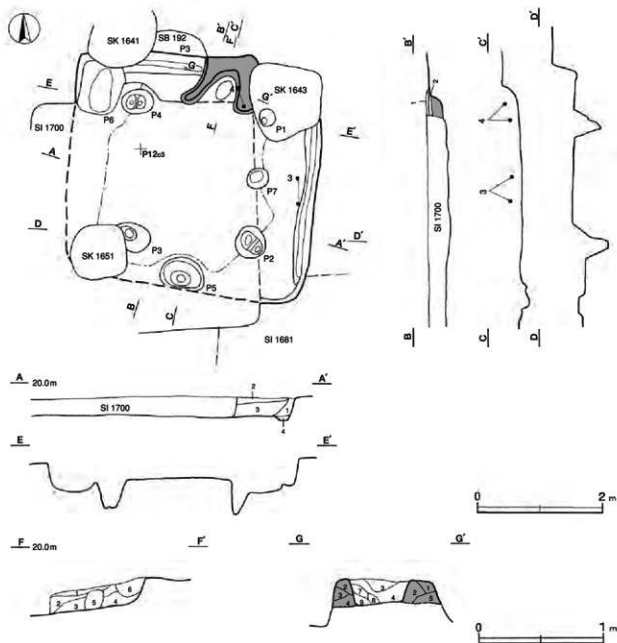
覆土 4層からなり、全体的に軟質である。大半が第1700号住居跡に掘り込まれているため、詳細は不明である。しかし、各層ともロームブロックを含んでいることから、人為堆積と思われる。

土層解説

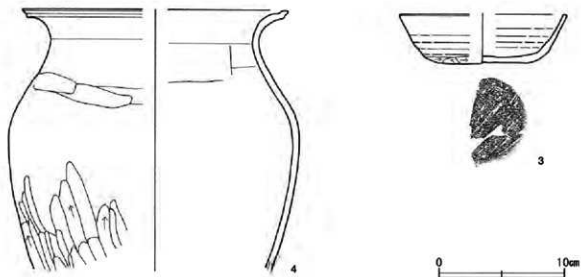
1 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	3 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土・ブロック微量	4 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片59点(坏7, 堇52), 須恵器片6点(坏4, 堇2)が竈手前や東側を中心に散在して出土している。3は東壁際の覆土中層から逆位で出土しており、人為的に打ち欠いた痕跡がある。4は竈内の覆土中層から斜位で出土している。外面が熱を受けて赤褐色を呈していることから、竈で使用していたものと思われる。いずれも摩耗が著しい上、細片化しており、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器などから8世紀中葉と考えられる。本跡の北側12mの位置には、同時期と考えられる第1684号住居跡が位置し、主軸方向もほぼ同じ真北を指していることから、本跡とともに集落を形成していたと考えられる。



第11図 第1678号住居跡実測図



第12図 第1678号住居跡出土遺物実測図

第1678号住居跡出土遺物観察表 (第12図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
3	須恵器	罎	[13.2]	3.9	[6.8]	長石・石英・雲母	灰	普通	体内外面ロクロナデ。体部外面下縁を方向に持ち上げへり削り、底縁二方向のへり削り	中層	40% PL14
4	土師器	甕	[20.9]	(20.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい壺	普通	体部外面へり削り、内面ヘラナデ	甕内	20% 片形観察

第1682号住居跡 (第13～15図)

位置 調査区東部のO12j3区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1621号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.29m、短軸4.19mの方形で、主軸方向はN-2'-Eである。壁高は51～56cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除きよく踏み固められている。壁溝が周囲しており、幅15～20cm、深さ10～15cmほどで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁の東寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで145cm、袖部幅85cm、壁外への掘り込みは75cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築しており、内側が熱を受けて赤変硬化している。火床面は熱を受けた痕跡が部分的で右袖手前に焼土ブロックが散在していることなどから、頻繁に灰の掻き出しが行われたと想定される。また、煙道部は火床面から階段状に緩やかな傾斜で立ち上がっている。

甕土層解説

1	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量	10	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
2	暗褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物少量	11	極暗赤褐色	焼土粒子少量
3	赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	12	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子多量	13	極暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量
5	極暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	14	暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量
6	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量	15	赤灰色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
7	にぶい褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量	16	褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量
8	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	17	褐色	砂質粘土粒子多量
9	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量	18	赤灰色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
			19	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
			20	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量

ビット P1は深さ17cmで、出入り口施設に伴うビットである。その周囲にはU字状に粘土を貼り付けた高まりが確認されており、出入り口に付随する施設であると考えられる。

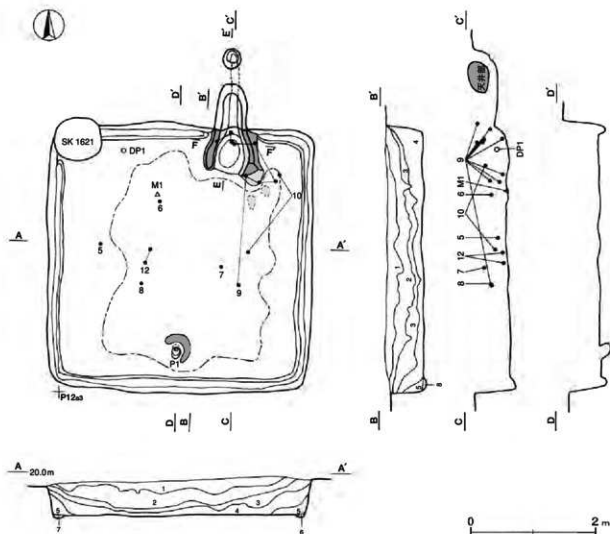
覆土 8層に分けられる。暗褐色土と褐色土からなり、全体的に軟質でレンズ状の堆積状況を示している。下層はロームブロックを含み、人為堆積である。中層から上層にかけては、自然堆積である。

土層解説

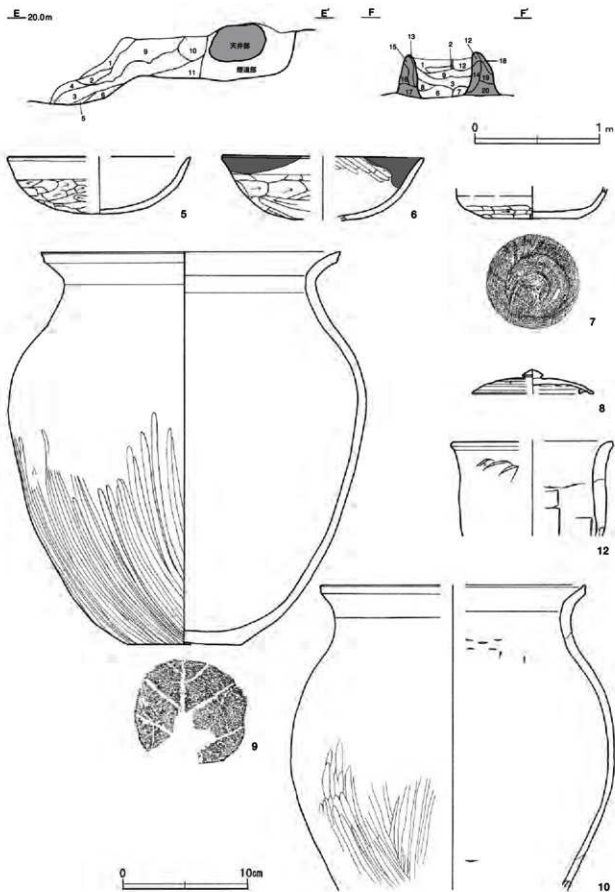
1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5	褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	6	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量
4	褐色	ロームブロック中量	8	褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片286点（坏23, 甕263）、須恵器片39点（坏22, 蓋3, 甕14）、陶磁器1点（碗）、灰軸陶器1点（長頸瓶）、土製品1点（紡錘車）、鉄製品2点（鉄鏃）、鉄滓1点が全域から散在して出土している。DP1は北壁際の覆土下層、7は中央部の覆土中層から逆位でそれぞれ出土している。M1は北側の床面から出土している。9は竈内と北東部の覆土中層から出土した破片が接合したもので、ほぼ一物体となる。破損した状態で出土していることから、竈内に投棄された可能性が考えられる。覆土中層からの出土も多く、5・8は西側、6は北側、12は中央部からそれぞれ出土している。灰軸陶器片・陶磁器は覆土上層からの出土であり、混入したものと考えられる。

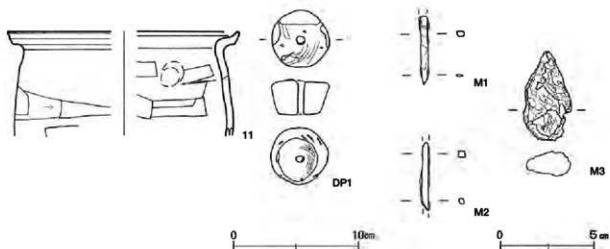
所見 竈の遺存状況が良好で、壁外に張り出す溝状の煙道部が特徴的である。また、煙道端部の遺存は竈の構造を考える上で好資料と言える。時期は、出土土器などから8世紀前葉と考えられる。



第13図 第1682号住居跡実測図



第14图 第1682号住居跡・出土遺物実測図



第15図 第1682号住居跡出土遺物実測図

第1682号住居跡出土遺物観察表 (第14・15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
5	土師器	環	[14.4]	4.6	-	赤色粒子	橙	普通	内面及び口辺部外面磨きナデ、体部外面下層多方向手持ちヘラ削り	中層	40% PL14
6	土師器	環	[15.8]	5.0	-	長石・石英	橙	普通	口辺部内外面磨きナデ後ヘラナデ、体部外面下層多方向手持ちヘラ削り	中層	30% 口縁部僅量付着
7	須恵器	坏	-	(2.5)	7.4	長石・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り	中層	50%
8	須恵器	蓋	[9.6]	1.9	-	長石・石英	灰	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	中層	10%
9	土師器	甕	23.6	31.4	9.0	長石・石英・雲母	赤い遺	普通	体部外面下層ヘラ磨き、内面ヘラナデ、底面ヘラナデ・輪痕後	層付近 層から上	80% PL21
10	土師器	甕	[21.0]	(24.4)	-	長石・雲母・赤色粒子	赤い遺	普通	体部外面上位ヘラナデ、下位ヘラ磨き、内面ヘラナデ・輪痕後	中層	20%
11	土師器	甕	[18.0]	(8.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤い遺	普通	口辺部内外面磨きナデ、体部外面ヘラ削り、内面輪痕後・口縁後	覆土中	5%
12	土師器	小形甕	[18.0]	(8.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内外面磨きナデ、体部外面ヘラ削り、内面輪痕後	下層	15%

番号	器種	最大径	口径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	輪軸車	4.6	0.6	2.8	64.9	土(長石・雲母)	ヘラ磨き、円錐台形	下層	PL22

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鉄	(3.6)	0.4	01-02	(2.1)	鉄	基部の破片、断面長方形の棒状	床面	
M2	鉄	(3.6)	0.4	0.30	(1.5)	鉄	基部の破片、断面正方形の棒状	覆土中	
M3	洋	4.7	1.3	2.5	24.2	砂鉄他	着磁性有り、外面機土付着	覆土中	

第1684号住居跡 (第16・17図)

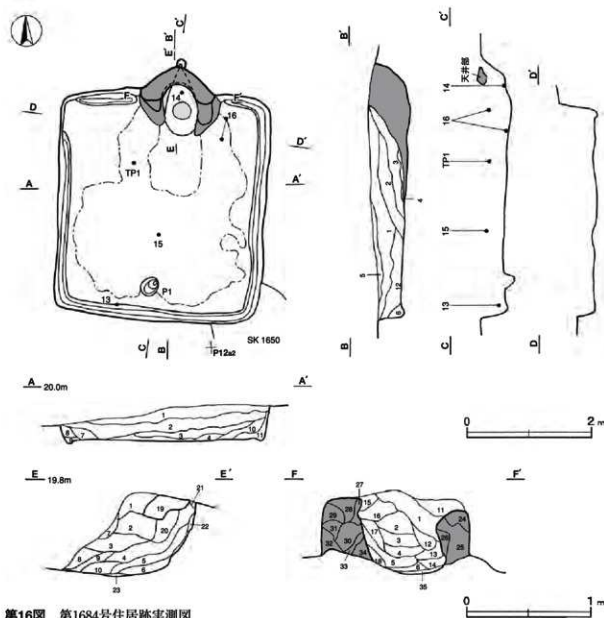
位置 調査区中央部のO12j1区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1650号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.67m、短軸3.28mの南北に若干長い長方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は30~55cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝が北西部の一部を除いて確認されており、幅10cm、深さ4~8cmほどで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁に付設されており、焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅115cmほどである。袖部は掘り残した地山を基部として、その上部に砂質粘土を用いて構築されており、内側は著しく硬化して焼け締まっている。火床部は床面を5cmほど皿状に掘りくぼめて使用しており、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は壁外へ40cmほど掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。



第16図 第1684号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 18 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 2 褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量 | 19 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 20 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物・砂質粘土粒子少量 | 21 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量 | 22 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 23 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 7 褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 24 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、ロームブロック少量 |
| 8 灰褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 25 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化物少量 | 26 に近い赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土ブロック少量 | 27 に近い赤褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 28 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化材微量 | 29 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量 |
| 13 暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・砂質粘土粒子少量 | 30 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量 |
| 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 31 褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量 | 32 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
| 16 灰褐色 | 粘土ブロック・ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 33 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
| 17 灰赤色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 34 褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量 |
| | | 35 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量、砂質粘土粒子少量 |

ビット P1 は出入り口施設に伴うビットで、深さは10cmである。

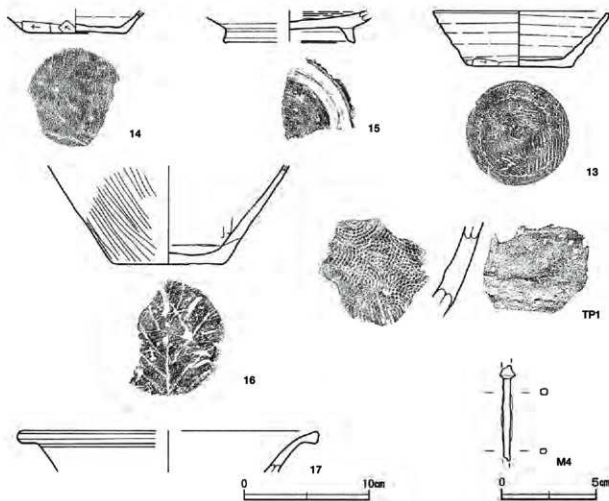
覆土 12層からなり、下層はロームブロックを含み、人為堆積である。中層から上層にかけては、ローム粒子を少量含む自然堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	黒褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子中量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量	9	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
			11	暗褐色	ローム粒子中量
			12	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片180点（坏28、高台付坏3、甕149）、須恵器片88点（坏31、蓋3、甕52、長頸瓶1、盤1）、鉄製品1点（鏝）がほぼ全域から出土している。遺物の大半は、床面から浮いた状態で出土しており、投棄されたものと考えられる。14は竈内から逆位で出土し、故意に打ち欠いた痕跡があるが、打ち欠き方は粗く特に面取りされたような痕跡はない。また、熱を受けた痕跡がないことから、廃絶の際に、故意に置かれたものと思われる。13は南壁際の覆土下層から逆位で出土し、15は中央部の覆土中層から斜位、16は北側の床面から覆土中層にかけてそれぞれ出土している。

所見 竈の遺存状況が良好で、竈の構造を考える上で好資料である。廃絶時期は、坏類の土師器と須恵器の構成比がほぼ同等であることや、出土した土器の形状から8世紀中葉と考えられる。



第17図 第1684号住居跡出土遺物実測図

第1684号住居跡出土遺物観察表 (第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
13	須臾器	坏	13.7	4.9	8.2	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部内外面ロクナデ、体部外面下端へう割り、底部回転へう割り後へうナデ、底部兼伏儀	下層	80% PL14
14	須臾器	坏	-	(1.9)	7.8	長石・石英・雲母	明褐色	良好	底部回転へう割り後一方のへう割り	壺内	20%
15	須臾器	甕	(2.6)	[10.2]		長石・石英・雲母 灰土・赤土・茶色粒子	こぶ黄褐色	良好	底部回転へう割り後高台付り付け	中層	15%
16	土師器	甕	-	(8.0)	9.0	長石・石英・雲母 灰土・赤土・茶色粒子	こぶ黄褐色	普通	体部外面下端へう割り、底部木葉痕	床面～中層	10%
17	須臾器	甕 [23.4]	(3.3)	-		長石・石英・雲母	褐色	良好	口辺部内外面横ナデ	覆土中	5%
TP1	土師器	甕	-	(7.5)	-	長石・石英・雲母	黄	普通	体部外面同心円印き、体部内面横ナデ・輪痕	中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	鉄	(5.2)	0.4	0.4	(5.2)	鉄	基部破片、縦状溝有り、断面方形の棒状	覆土中	

第1685号住居跡 (第18図)

位置 調査区北部のO119区、標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第189号掘立柱建物跡と第1655号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.82m、短軸2.90mの南北に長い長方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は14～18cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から出入り口施設にかけて踏み固められている。壁溝が周回し、幅10～15cm、深さ5～6cmほどで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅100cmである。袖部のうち、左袖は床面と同じ高さの地山に砂質粘土で構築しており、右袖は床面より若干高く掘り残した地山周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面で、火床面には焼土が多量に堆積しており、使用頻度は高かったと思われる。また、火床面の上には厚さ6cmほどの粘土を貼り付けて高さの調整をし、その上に支脚をのせている。竈は土層観察から、廃絶後に土が流入して崩落したものと推定される。

土層解説

1	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	12	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
2	暗褐色	焼土ブロック・焼土粒子少量	13	黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
3	暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土ブロック少量	14	こぶ黄褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	15	黒褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量、炭化物少量
5	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量	16	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6	褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量	17	暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量
7	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量	18	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量
8	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	19	黒褐色	炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
9	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	20	赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量
10	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量			
11	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量			

ビット P1は深さ19cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うビットと考えられる。

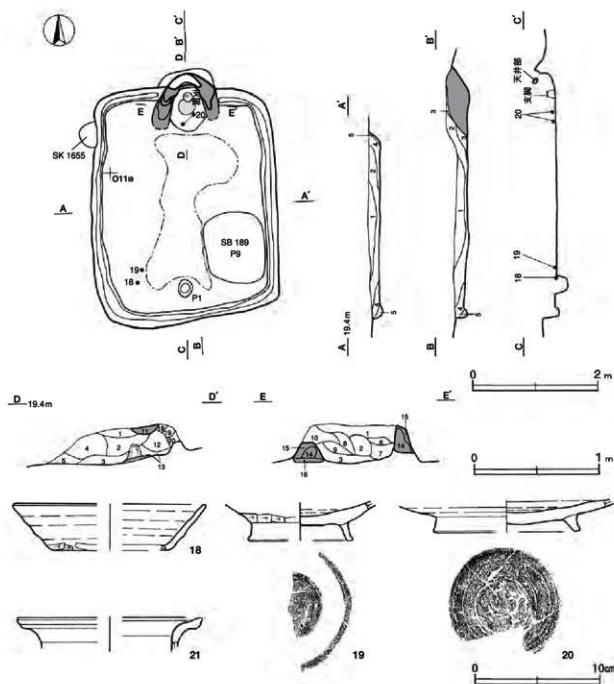
覆土 5層に分けられ、暗褐色土と黒褐色土からなる。レンズ状の堆積状況や含有物から、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	3	黒褐色	焼土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	4	黒褐色	ローム粒子少量
			5	黒褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片32点(坏11, 甕21), 須臾器片27点(坏17, 甕2, 高台付坏1, 甕1), 土製品2点(支脚)が出土している。遺物の中に完形品はなく、18・19は南西部の床面, 20は壺内の床面から、いずれも細片で出土している。遺物の出土状況から、いずれも廃棄されたものと思われる。

所見 廃絶時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第18図 第1685号住居跡・出土遺物実測図

第1685号住居跡出土遺物観察表 (第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
18	須恵器	坏	[15.2]	3.6	[9.2]	長石・石英	暗灰黄	良好	体部内外面 ロクロナデ、体部外面 下端へツ 取り	床面	30%
19	須恵器	高台杯	-	(3.2)	[8.2]	長石・石英・礫	灰黄褐	普通	体部外面 下第一方向へツ取り、底部回転へ ツ取り 長高台貼り付け	床面	20%
20	須恵器	甕	-	(2.6)	[11.5]	長石・石英・雲母	灰	普通	底部回転へツ切り 縁高台貼り付け	甕内	40%
21	土師器	羹	[14.4]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土中	5%

第1694号住居跡 (第19図)

位置 調査区西部のO1115区、標高20mほどのやや西に傾斜する台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第1692号住居跡・第198号掘立柱建物跡・第29号方形竪穴状遺構・第107号溝跡・第1732号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出されたため、暗褐色を呈した床面の広がりから規模を判断し、N-80°-Eを主軸とする長軸3.83m、短軸2.64mの東西に長い長方形と推定される。

床 耕作によって削平されたため、硬化面は一部にしか確認できなかった。壁溝は検出されていない。

ピット 7か所。P1~P7は深さ4~23cmで、配置に規則性がなく、性格は不明である。周辺にピット群が存在していることから、遺構に伴わない可能性が想定される。

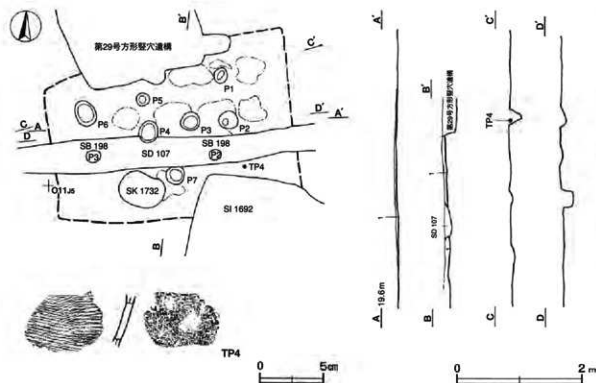
覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況の詳細は不明である。

土層解説

1 珪 礫 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 須恵器片1点(変)のみ出土している。TP4は、南東コーナー一部の床面から出土している。小片であり、廃棄されたものと考えられる。

所見 遺物は小片のため判断材料に乏しいが、第1692号住居跡・第107号溝跡との重複関係から、時期は8世紀代と考えられる。



第19図 第1694号住居跡・出土遺物実測図

第1694号住居跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP4	須恵器	変	-	(4.1)	-	茶色・赤黒・黒	こげ・焼	普通	床面外周部子状に斜位の平行印き、体部内底縁部縦線・拍痕あり	床面	5% PL22

第1699号住居跡 (第20・21図)

位置 調査区南部のP11d9区、標高19mほどの南へ緩やかに傾斜する台地の縁部に位置している。

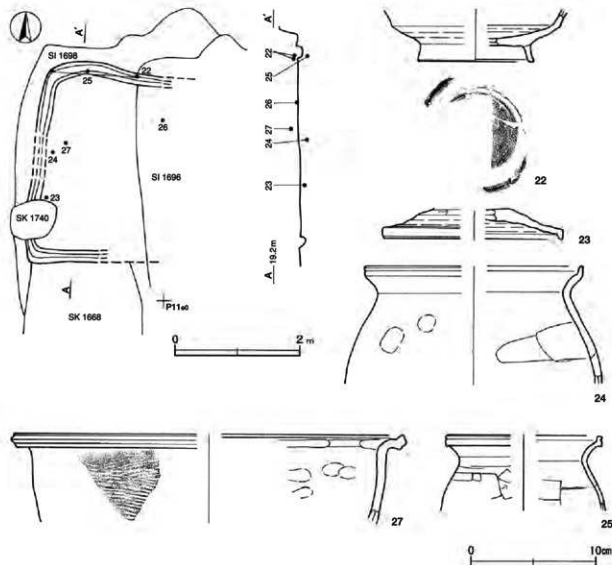
重複関係 第1696・1698号住居跡と第1668・1740号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 東壁が第1696号住居跡に掘り込まれており、南北軸3.20m、東西軸は1.84mだけが確認された。形状は方形または長方形で、主軸方向はN-4°-Eと思われる。

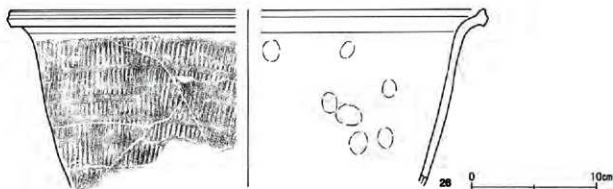
床 はほぼ平坦で、壁溝が確認された範囲で巡っている。壁溝の幅は20cm、深さは8~10cmほどであり、断面形はU字状を呈している。

遺物出土状況 土師器片24点(甕), 須恵器片39点(坏22, 蓋1, 鉢2, 甕11, 高台付坏3)がほぼ全域から散在して出土している。遺物の大半は、細片で出土しており、投棄されたものと考えられる。22は北西コーナー付近と北側の覆土下層から出土したものが接合されたものである。25は北側の壁溝内、23・24は西壁際の床面から出土しており、内・外面の摩耗が著しい。26は北側中央部の床面、27は西側の覆土中層からまともって出土しているが、いずれも細片化している。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後半頃と考えられる。



第20図 第1699号住居跡・出土遺物実測図



第21図 第1699号住居跡出土遺物実測図

第1699号住居跡出土遺物観察表 (第20・21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
22	須恵器	甗付杯	-	(4.2)	(9.2)	長石・石英・霏	暗灰黄	普通	体部内外面ロクロナデ、体部下層横ナデ、底面回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	20%
23	須恵器	甗	[14.0]	(2.3)	-	長石・石英・霏	灰黄褐	良好	天井部右回りのヘラ削り	床面	20%
24	土師器	甗	[17.2]	(9.5)	-	長石・石英・霏	におい豊	普通	口辺部内外面横ナデ、体部外面指痕直、内面輪積直	床面	15%
25	土師器	甗	[12.0]	(5.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面輪積直	壁溝内	5%
26	須恵器	鉢	[37.6]	(14.0)	-	長石・石英・霏 鉄・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面縦位の平行叩き、内面ヘラナデ・指痕直	床面	20%
27	須恵器	鉢	[30.8]	(7.0)	-	長石・石英	灰	良好	体部外面斜位の平行叩き、内面ヘラナデ・指痕直	中層	5%

(2) 溝跡

第77号溝跡 (第22図・付図1)

位置 調査区北西部のO11g3～O11h5区、標高20mほどの西にやや傾斜する台地の縁辺部に位置している。
規模と形状 当調査区の北西部を東西方向(N-85°-W)に直線的に延び、O11h5区で北方向(N-14°-E)に曲がり、確認された長さは、8.26mである。規模は、上幅0.58～1.74m、下幅0.44～1.02m、深さ0.08～0.30mで、底面はU字状で、壁面は外傾して立ち上がる形状を呈している。また、底面の高低差はほとんど認められない。

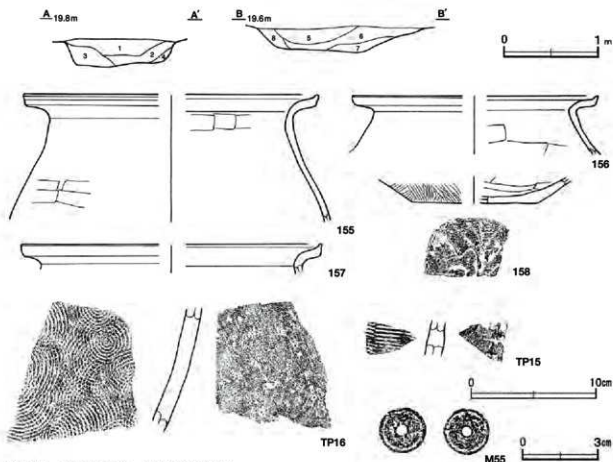
覆土 8層からなり、全体的にロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。土層断面図の2・3・6・7層は締まりが強い。

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	5	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
2	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
3	黒	褐色	ローム粒子中量	7	暗	褐色	ロームブロック中量
4	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	暗	褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片86点(坏2, 高台付坏1, 甗83), 須恵器片10点(鉢1, 甗9), 金属製品1点(古銭), 磁器片1点(不明)がほぼ全域に散在した状態で出土し、いずれも細片である。また、ほとんど破断面が摩耗しており、埋没途中で混入したものと考えられる。M55は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器の形状から8世紀中葉に相当するものと考えられるが、いずれも覆土中からの出土であり、本跡が機能していた時期は、8世紀代と推定される。性格的には、区画的な機能を有していたことが想定される。覆土中層から下層にかけて土に締まりがあり、近世では道として利用されていた可能性もある。



第22図 第77号溝跡・出土遺物実測図

第77号溝跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
155	土師器	甕	[23.4]	(10.1)	-	長石・石英・雲母・赤色鉄子	にぶい	普通	口辺部内外面横ナデ, 体部外面ヘラナデ	覆土中	5%
156	土師器	甕	[19.4]	(4.6)	-	長石・石英・赤色鉄子	にぶい	普通	口辺部内外面横ナデ, 内面ヘラナデ	覆土中	5%
157	土師器	甕	[23.6]	(2.3)	-	長石・石英・赤色鉄子	にぶい	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土中	5%
158	土師器	甕	-	(2.2)	[10.0]	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部外面下層磨き, 体部内面ヘラナデ, 底能木裏	覆土中	5%
TP15	須恵器	鉢	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部外面横位の平行叩き	覆土中	5%
TP16	須恵器	甕	-	(9.8)	-	長石・石英・雲母・赤色鉄子	にぶい	普通	体部外面同心円叩き	覆土中	5% PL22

番号	器種	径	孔	重量	初辨年	材質	特徴	出土位置	備考
M55	白銅貨	1.9	0.4	2.4	1918 5.2.27	銅・ニッケル	五銭。菊と銅の紋様	覆土中	PL24

3 平安時代の遺構と遺物

堅穴住居跡21軒と掘立柱建物跡9棟, 土坑8基, 并戸跡3基を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第1257号住居跡 (第23~25図)

位置 調査区北東部のO12g4区, 標高20mほどのやや南に傾斜する台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第194号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 N-84°-Eを主軸とする長軸3.80m、短軸3.63mほどの方形で、各壁とも外傾して立ち上がり、壁高は19~34cmである。壁部に棚状施設を有している。

床 ほほ平坦で、壁際を除き強く踏み固められている。壁溝が周回しており、幅15~20cm、深さ5~8cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 2か所。竈1は東壁のやや南寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで100cm、壁外への掘り込みは80cmで、袖部は左袖のみ残存している。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用し、火床面が赤変硬化していることから、使用頻度の高さがうかがえる。また、煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。竈2は北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm、壁外への掘り込みは60cmで、袖部は一部しか残存しておらず、砂質粘土で構築されていたと推定される。火床部は15cm掘りくぼめられた部分を使用しており、火床面には若干の熱を受けた痕跡が認められる。煙道部の立ち上がりの勾配は大きい。竈2はローム土を人為的に埋め戻し、土を叩き締めて棚部を作った痕跡が認められることから、竈2から竈1への作り替えが想定される。

竈1土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	5	暗	赤	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量
2	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	6	極	暗	赤褐色	炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量
3	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	7	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量、砂質粘土粒子・炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	8	灰	褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量

竈2土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	9	褐	色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	
2	暗	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	
3	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	灰	褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量	
4	暗	褐	色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	12	褐	色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量	
5	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	13	褐	色	ロームブロック多量、砂質粘土粒子中量		
6	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14	に	ぶ	い	褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック中量、焼土ブロック少量
7	暗	褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	15	暗	褐色	色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	
8	暗	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量						

棚状施設 竈左側に設けられており、奥行45cm前後、幅135cm前後の長方形で、床面から25cmほどの高さで確認することができた。構築方法は、竈2にローム土を埋め戻した後、土を叩き締め、砂質粘土を貼り付けたものと考えられる。なお、棚状施設は竈2土層断面図の第4層に相当する。

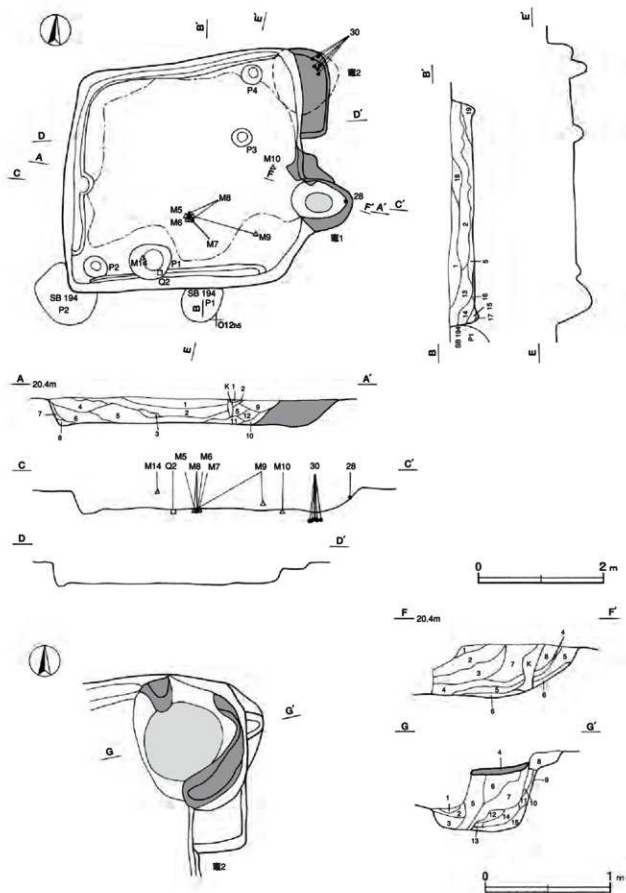
ピット 4か所。P1~P4は深さ10~23cmで、配置に規則性がなく、性格は不明である。

覆土 19層からなり、軟質で締まりがない。レンズ状の堆積状況を示すが、全体的にロームブロックを少量含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗	褐色	色	ローム粒子・炭化粒子微量	11	暗	褐色	色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗	褐色	色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
3	暗	褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13	暗	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4	暗	褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5	暗	褐色	色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	15	灰	褐色	色	砂質粘土粒子多量
6	暗	褐色	色	炭化物少量、ロームブロック微量	16	暗	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子少量
7	暗	褐色	色	ローム粒子中量	17	暗	褐色	色	ローム粒子中量
8	暗	褐色	色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	18	暗	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子少量
9	暗	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子微量	19	暗	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
10	暗	褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量					

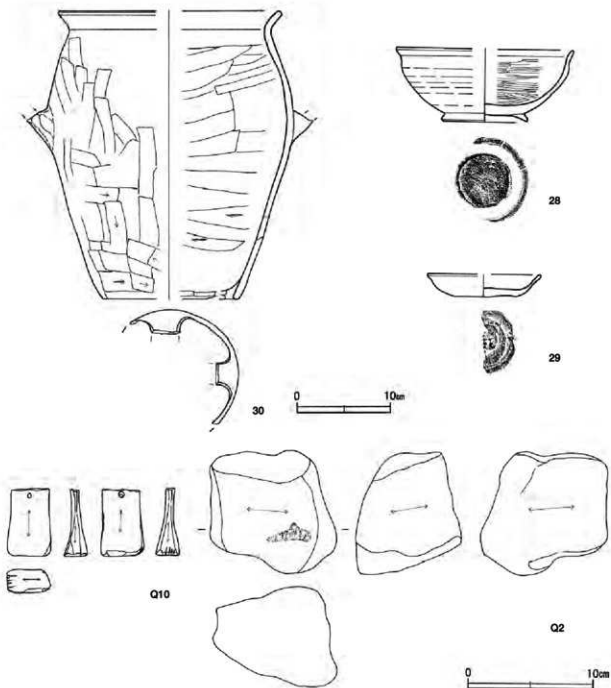
遺物出土状況 土師器片316点（坏58、高台付輪22、甕222、小形甕2、小皿1、瓶11）、須恵器片37点（坏18、高台付坏1、甕2、甕16）、鉄製品9点（鎌8、刀子1）、石製品2点（砥石）がほぼ全域から散在した状態で出土している。28は竈1の覆土下層から逆位で出土しているが、熱を受けた痕跡がまったく認められないこと



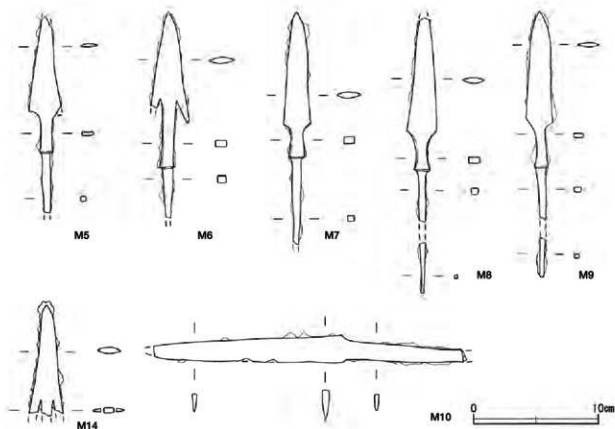
第23图 第1257号住居跡实测图

から、住居廃絶時に故意に遺棄されたものと考えられる。30は竈2の床面から重なり合って出土しており、竈2を埋め戻す際、土圧によってつぶれたものと考えられる。また、鉄鏝が中央部の床面から竈手前の床面にかけてまどまど出土している。出土状態から、住居外からの流入あるいは廃棄とは考えにくく、遺棄したものと思われる。Q2は南壁際の床面から出土し、一部に鉄分が付着していることから、鉄製品を研いだものと推定される。

所見 竈の脇に棚を有する住居形態と鉄鏝を豊富に有していることから、当集落の中心的な住居の一つと考えられる。竈2から土師器瓶、竈1から高台付椀、住居内から小皿が出土していることから、時期は、10世紀後葉と考えられる。



第24図 第1257号住居跡出土遺物実測図(1)



第25図 第1257号住居跡出土遺物実測図(2)

第1257号住居跡出土遺物観察表 (第24・25図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
28	土師器	高台瓶	[14.0]	5.8	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き	甕内	60% PL17
29	土師器	小瓶	[8.8]	1.7	5.0	長石・石英・雲母・赤色鉄子	浅黄橙	普通	体部内外面横ナデ、底部回転ヘラ切り	覆土中	40% PL19
30	土師器	瓶	[23.1]	30.4	[14.6]	長石・石英・雲母・赤色鉄子	橙	普通	体部外面多方向のヘラ磨り、内面ヘラナデ・輪横直	甕内	40% PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	砥石	9.9	10.2	8.2	919.8	雲母片岩	砥面3面、他は破断面。一部鉄分付着	床面	外面に鉄分付着
Q10	砥石	5.4	3.5	1.9	36.3	凝灰岩	掘り砥石、砥面5面、上端中央部に孔	覆土中	PL23
M 5	鉄	[10.4]	(1.6)	0.3	(10.5)	鉄	長三角形、両丸造、両開	床面	PL23
M 6	鉄	(10.8)	(2.1)	0.4	(16.1)	鉄	長三角形、両丸造、両開、脇挟有り	床面	PL23
M 7	鉄	(12.2)	1.5	0.4	(13.8)	鉄	柳葉式、両丸造、両開	床面	PL23
M 8	鉄	[14.7]	1.6	0.3	(14.7)	鉄	長三角形、両丸造、両開	床面	PL23
M 9	鉄	[14.1]	1.4	0.3	(16.4)	鉄	柳葉式、両丸造、台状開	床面	PL23
M10	刀子	(16.7)	1.5	0.4	(24.7)	鉄	片開	床面	PL23
M14	鉄	(5.8)	(1.9)	0.4	(7.6)	鉄	鎌身部から脇被部にかけての破片、両丸造、両開、脇挟有り	中層	PL23

第1339号住居跡 (第26図)

位置 調査区西部のP11b5区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。本跡の西半部は平成10年度に調査が終了している。

重複関係 第1334号住居跡と第196号掘立柱建物跡、第1726号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.10m、短軸2.75mほどのN-7°-Wを主軸とする南北に若干長い長方形である。壁高は5

～20cmで、各壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、南東部が踏み固められている。壁溝が南側の一部に認められ、幅15cm、深さ8cmほどで、断面形はU字状を呈している。

ピット 4か所。P1～P4は深さ11～74cmで、性格は不明である。

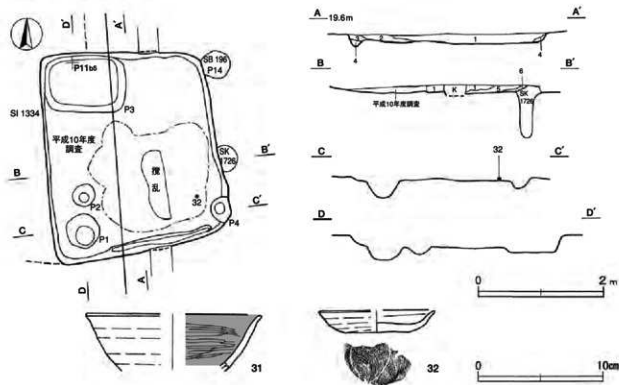
覆土 6層に分けられる。暗褐色土と黒褐色土からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・炭化物微量	4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 今年度の調査区からは、土師器片5点（坏1，甕3，小皿1），須恵器片1点（甕）が南東部の覆土下層を中心に出土している。32は南東コーナー部の床面から逆位で出土している。

所見 時期は、高台付碗が見られず、底部に回転糸切り跡しが施された小皿などが出土していることから、10世紀後葉と思われる。また、既刊の報告書において、P3は貯蔵穴の可能性を推測しているが、本跡は甕を有しないことから土坑と推定され、方形竪穴遺構の可能性もある。



第26図 第1339号住居跡・出土遺物実測図

第1339号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
31	土師器	坏	[13.8]	(4.6)	-	長石・雲母・赤色粒子	Cい・黄緑	普通	体部外面ロクロナデ、内面磨き	覆土中	10%
32	土師器	小皿	[9.0]	1.8	5.0	長石・石英・赤色粒子	灰白色	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り	床面	30% PL19

第1341号住居跡 (第27図)

位置 調査区西部のP11a5区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。本跡の西半部は平成10年度に調査が終了している。

重複関係 第1289号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m、短軸2.95mのN-87°-Eを主軸とする東西に長い長方形である。壁高は2~6cmで、壁は外方向に開き気味に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。壁溝が東壁際を除いて確認されており、幅10~25cm、深さ7~10cmほどで、断面形はU字状を呈している。

竈 東壁中央部に付設されており、袖部幅80cm、壁外への掘り込みは40cmである。火床部は浅い皿状に24cm掘りくぼめられ、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

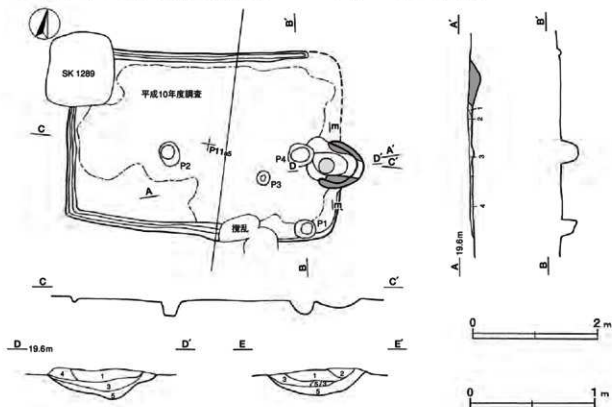
1	褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	4	暗褐色	焼土ブロック・ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
			5	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量

ビット 4か所。P1・P3・P4は不自然な配置を示し、性格は不明である。また、P2は西壁から離れた位置にあり、竈と対峙しているが、出入口施設に伴うビットとは考えられない。深さは24cmである。

覆土 4層に分けられる。褐色土と暗褐色土からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	3	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4	褐色	ローム粒子中量



第27図 第1341号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片20点（坏12，甕8），須恵器片1点（甕），雲母片岩1点が竈周辺より出土している。出土した土器は、いずれも細片である。

所見 今回の調査で時期を決定できる遺物は出土していない。しかし、平成10年度の調査では良好な資料が出土しており、底部に回転糸切り離しの施された小皿が出土していることから、時期は10世紀後半と考えられる。

第1353号住居跡（第28・29図）

位置 調査区南部のP12e1区、標高20mほどの南へ緩やかに傾斜する台地の縁辺部に位置している。南半部は平成10年度に調査が終了している。

重複関係 第1686号住居跡と第195号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.58m，短軸5.10mの方形で，主軸方向はN-3°-Eである。壁高は6～14cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁際を除いて硬化しており，特に出入り口施設から竈前面にかけては顕著である。竈前面の床面下からは掘り方が確認されている。また，壁溝が周回しており，幅15cm，深さ5～7cmで，断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており，焚口部から煙道部まで137cm，袖部幅175cmほどである。左袖部は床面とほぼ同じ高さの地山上に砂質粘土で構築しており，右袖部は床面より若干高く掘り残した地山を基部とし，その上面に砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は，床面を15cmほど皿状に掘りくぼめて，粘土を貼り付けている。火床面は熱を受けて亦硬化しており，焼土が多量に堆積しており，使用頻度の高さがうかがえる。また，煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。住居廃絶後，間もなく天井部材が崩落したと判断できることから，人為的に壊されたものと推定される。

竈土層解説

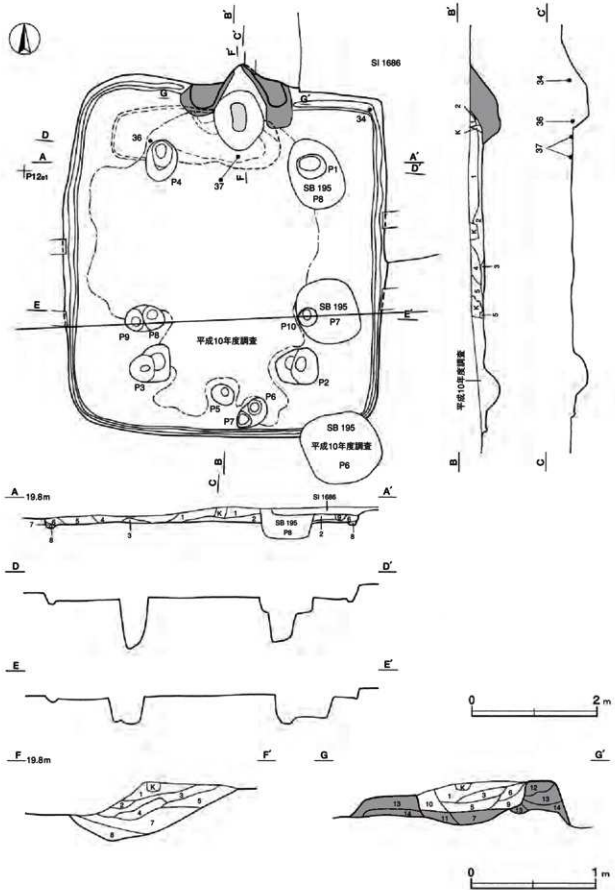
1 暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ロームブロック微量
2 暗褐色	焼土粒子中量，砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量	8 黒褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子微量	10 に近い赤褐色	焼土粒子・砂質粘土中量，ロームブロック少量
5 暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量，砂質粘土ブロック・炭化物微量	11 褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
		13 に近い黄褐色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子微量
		14 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量

ピット 10か所。P1～P4は主柱穴で，深さは44～81cmであるが，P1は第195号掘立柱建物跡の掘り方と重複している。P5は深さ20cmで，竈に対峙することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P8～P10は，深さが43～48cmでP1～P4と形状が類似しており，底面から柱のあたりが確認されていることから主柱穴と思われる，住居の建て替えを行った可能性が考えられる。また，P6・P7の性格は不明である。

覆土 9層に分けられる。ローム土を主体とする暗褐色土と褐色土からなり，ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

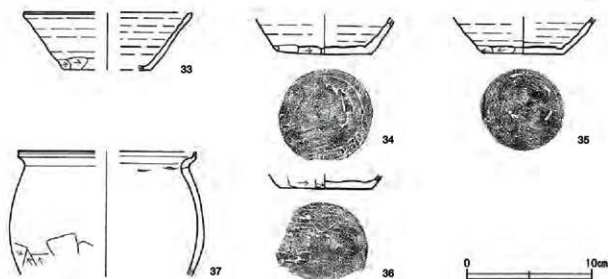
1 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化ブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量
		9 暗褐色	ロームブロック微量



第28図 第1353号住居跡実測図

遺物出土状況 今年度の調査区からは、土師器片234点(甕), 須恵器片71点(坏44, 蓋3, 甕24), 雲母片岩1点がほぼ全域から散在した状態で出土している。34は北東部壁際の覆土下層から逆位で, 36は北西部の床面から正位でそれぞれ出土している。いずれも口縁部から体部を打ち欠いており, 別な用途のための転用も考えられる。また, 37は竈周辺の床面から細片化して出土している。多くが床面より出土しているが, いずれも破片であることから, 住居廃絶時に廃棄されたものと思われる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第29図 第1353号住居跡出土遺物実測図

第1353号住居跡出土遺物観察表 (第29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
33	須恵器	坏	[13.2]	4.6	[6.8]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内外面ロクロナデ, 体部外面下端一方のヘラ削り	覆土中	20%
34	須恵器	坏	-	(3.0)	7.4	長石・石英	黄灰	良好	体部内外面ロクロナデ, 体部外面下層一方のヘラ削り, 底部回転ヘラ削り長二方向のヘラ削り	下層	50%
35	須恵器	坏	-	(3.0)	6.3	長石・石英	灰	普通	体部内外面ロクロナデ, 体部外面下層一方のヘラ削り, 底部回転ヘラ削り	覆土中	50%
36	須恵器	坏	-	(1.2)	7.2	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面下層一方方向ヘラ削り, 底部一方のヘラ削り	床面	40%
37	土師器	小形甕	[14.0]	(9.9)	-	長石・石英	明褐	普通	体部内外面上位種子デ, 体部外面下位ヘラ削り, 内面輪轆成	床面	25%

第1369号住居跡 (第30図)

位置 調査区東部のO12j4区, 標高20mほどの西に傾斜する台地の縁辺部に位置している。本跡の東半部は平成10年度に調査が終了している。

重複関係 第1370号住居跡と第91号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.00m, 短軸3.05mの東西に長い長方形で, 主軸方向はN-63°-Eである。壁高は4cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。全体的に軟弱であり, 竈手前の一部に硬化面が見られる。なお, 壁溝は認められない。

竈 東壁の中央部に付設されており, 焚口部から煙道部まで85cm, 両袖部幅110cmである。壁外への掘り込みは25cmほどで, 袖部は基部だけが遺存し, 床面と同じ高さの地山面上に砂質粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用し, 熱を受けて赤変硬化している。また, 煙道の立ち上がり部には土師器甕や輪が支脚として据えられており, 煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|----------|----------------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 極暗赤褐色 | 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 極暗赤褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | | |
| 6 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

ピット 2か所。既刊の報告では、P1・P2が支柱穴として報告されているが、今回の調査ではそれらに対応する支柱穴は確認できなかった。

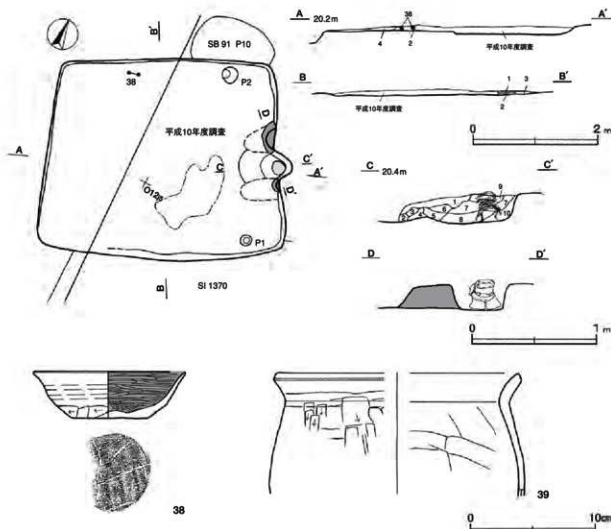
覆土 4層に分けられる。暗褐色土を基調とした土層で、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量、 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| | 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片44点（坏26，高台付碗3，甕15），須恵器片4点（坏3，甕1）が北壁際の覆土下層を中心に細片化して出土している。38は北壁際の床面に散在していた破片が接合したものである。

所見 東半部は平成10年度に調査が終了しているが、今年度の調査区から出土した遺物は少ないため、時期を判断する材料には乏しい。時期は、体部がわずかに内彎する土師器坏や体部外面にヘラ削りが施されている土師器甕が出土していることから、10世紀前半と考えられる。



第30図 第1369号住居跡・出土遺物実測図

第1369号住居跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
38	土師器	坏	12	3.7	6.1	長石・石英	橙	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端へうすり、内面磨き	床面	60% PL14
39	土師器	甕	[19.3]	[9.7]	-	長石・石英・炭化粒子	灰	普通	口部内外面磨き、体部外面一方のへうすり、内面へうすり	覆土中	10%

第1676号住居跡 (第31・32図)

位置 調査区北東部のO12h4区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第193号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 竈のみが確認され、規模は不明であるが、主軸方向はN-57°-Eと推定される。

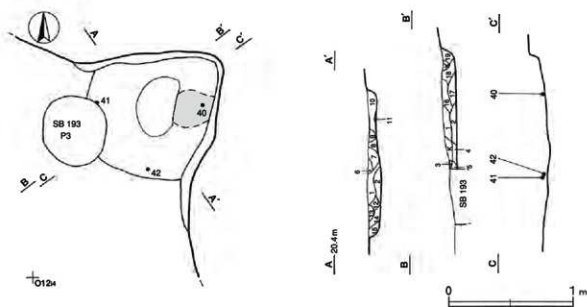
竈 東壁に付設されたと考えられる。天井部や袖部は遺存せず、付近に砂質粘土粒子が散在している。火床部は床を12cmほど掘りくぼめた部分にローム土を埋めて使用していた痕跡が認められる。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

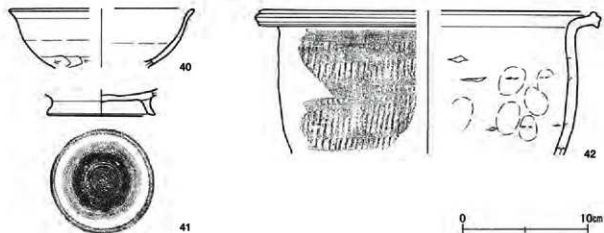
1	褐色	ローム粒子微量	11	褐色	ローム粒子多量
2	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量	12	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量	13	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子少量	14	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック少量	15	褐色	ローム小ブロック中量
6	暗褐色	焼土粒子少量	16	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック少量
7	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	17	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
8	暗赤褐色	焼土ブロック少量	18	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
9	明褐色	ローム粒子多量	19	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子中量			

遺物出土状況 土師器片18点(坏6, 高台付椀1, 甕11), 須恵器片1点(鉢), 磁器片2点(碗)が竈内の火床部から出土している。40・41は、熱を受けた痕跡が認められないことから、投棄されたものと思われる。42は、熱を受けた痕跡が認められることから、竈で使用されていたものが遺棄されたと思われる。また、磁器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第31図 第1676号住居跡実測図



第32図 第1676号住居跡出土遺物実測図

第1676号住居跡出土遺物観察表 (第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
40	土師器	環	[14.4]	(4.7)	-	長石・赤色粒子	黒褐	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下端一方向手持ちへつくり	竈内	20%
41	土師器	高台皿	-	(2.1)	8.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転へつ切り後高台貼り付け内面磨き	竈内	20%
42	須恵器	鉢	[26.4]	(11.4)	-	長石・石英・雲母	不白	不良	体部外面縦位の平行叩き、輪襷痕・指頭痕	竈内	5% 輪襷痕

第1679号住居跡 (第33・34図)

位置 調査区北部のO12g2区、標高20mほどの南にやや傾斜する台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第193号掘立柱建物跡と第1648・1741・1742・1743号土坑を掘り込み、第1624・1625・1734・1735号土坑に掘り込まれている。

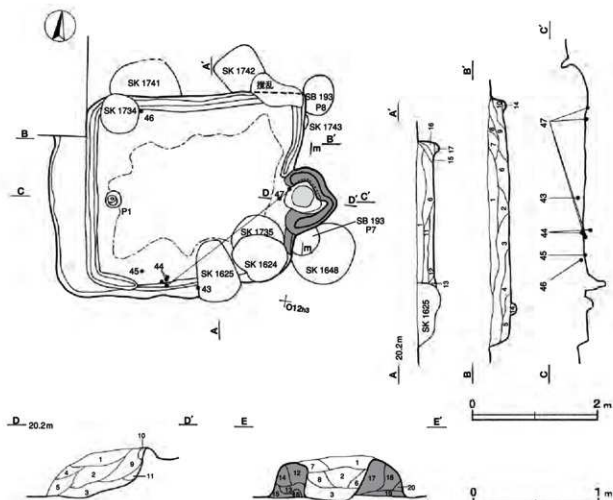
規模と形状 長軸3.32m、短軸3.19mの方形で、主軸方向はN-83°-Wである。壁高は16-28cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。壁溝が周囲しており、幅15-20cm、深さ5-10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 東壁のやや南寄りに付設されており、竈口部から煙道部まで90cm、袖部幅110cmで、壁外への掘り込みは60cmある。袖部は床面と同じ高さの地山面に、ローム土と砂質粘土を混ぜた土で構築されている。竈石の壁面には厚さ10cmほどの砂質粘土を貼り付けており、棚状施設の一部と考えられる。火床部は床面とはほぼ同じ高さの地山面を使用し、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	13	明	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量
2	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	14	灰	褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化物少量
3	不白赤褐色	色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	15	明	褐色	ローム粒子多量
4	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	16	不白赤褐色	色	ローム粒子・焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	17	灰	褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量
6	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	18	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7	暗	赤褐色	焼土粒子・ロームブロック中量、炭化粒子少量	19	暗	赤褐色	炭化粒子・ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
8	暗	赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	20	灰	褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量
9	不白赤褐色	色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量				
10	暗	赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量				
11	灰	赤色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量				
12	暗	赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量				



第33図 第1679号住居跡実測図

棚状施設 竈右側の壁に砂質粘土が貼り付けられており、棚状施設を有する可能性が考えられる。しかし、確認面では粘土の広がりを検出できなかったので平面形については不明である。

ビット P1は深さ31cmで、竈と向かい合う西壁際中央部に位置し、出入り口施設に伴うビットと考えられる。

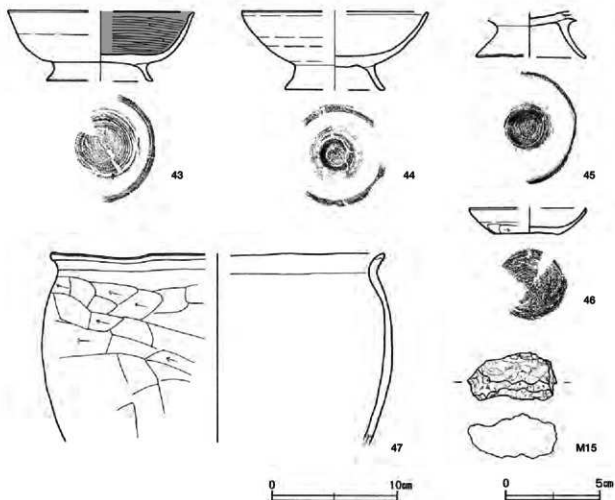
覆土 17層からなり、全体的に軟質で締まりがなく、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
5	褐色	ローム粒子中量、炭化物微量	14	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量	15	黒褐色	ローム粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	17	よい褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
9	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片211点（坏72、高台付椀35、甕100、小皿4）、須恵器片30点（坏11、蓋1、甕18）、鉄滓1点がほぼ全域から散在した状態で出土しており、そのほとんどが細片である。43は覆土下層から、44は南壁際の床面から床面にかけて、いずれも細片化して出土し、器面全体の摩耗と剥離が著しい。45は南西部の床面、46は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。また、47は竈内の火床部と南壁中央部の床面から出土した遺物が接合したものである。須恵器は覆土上層からの出土が多く、本跡に伴う遺物とは考えられない。また、完形品がなく、細片が多い状況から住居廃絶時に廃棄されたものと思われる。

所見 甕右の壁面に砂質粘土が貼り付けてあり、棚を有する住居の可能性が想定される。廃絶時期は、高台付碗や底部に回転承切りの施された小皿が出土していることから、10世紀後葉と考えられる。主軸方向がほぼ同じで、同時期と考えられる第1257号住居跡が隣接しており、小集団を形成していたと考えられる。



第34図 第1679号住居跡出土遺物実測図

第1679号住居跡出土遺物観察表 (第34図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
43	土師器	高台付碗	[14.7]	5.6	[8.3]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面口ケロナデ、内面着き、底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	60% PL17
44	土師器	高台付碗	[14.8]	6.2	[7.8]	長石・石英・赤色粒子・雲母	橙	普通	体部内外面口ケロナデ、底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	50% PL17
45	土師器	高台付碗	-	(3.7)	[8.7]	赤色粒子	にぶい	普通	底部内面見込みナデ、底部回転ヘラ切り後高台貼り付け後	床面	20%
46	土師器	小皿	[9.2]	2.0	5.3	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内外面口ケロナデ、体部外面下端ヘラ削り、底部回転承切り	下層	50% PL19
47	土師器	甕	[26.4]	(15.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	体部外面ヘラ削り	甕内	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	洋	2.6	4.8	2.4	37.4	鉄	着磁性有り、外面機土付着	甕土中	

第1680号住居跡 (第35・36図)

位置 調査区北部のO11g0区、標高20mほどの南にやや傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1688号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.48m、短軸3.27mの方形で、主軸方向はN-56°-Eである。壁高は8cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。

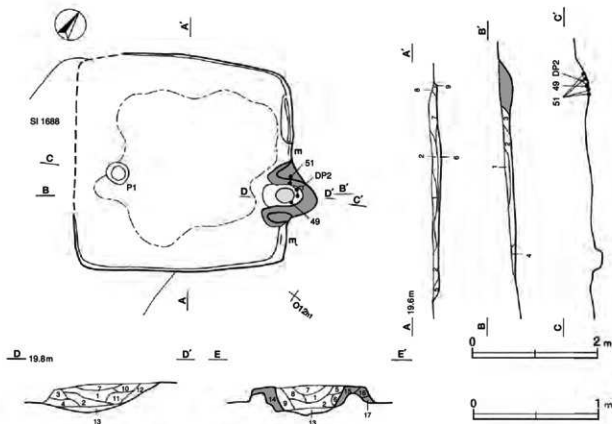
竈 東壁のやや南寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅95cmで、壁外への掘り込みは50cmある。袖部は掘り残した地山を芯とし、その周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は6cm皿状に掘りくぼめられており、火床面は熱を受けてして赤変硬化し、使用頻度は高かったものと推定される。また煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量	10 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗 赤 褐色	焼土粒子中量、焼土ブロック・粘土粒子少量	11 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、粘土ブロック少量
3 黒 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	12 暗 赤 褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
4 暗 赤 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13 暗 赤 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量
5 黒 褐色	焼土粒子少量	14 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
6 暗 赤 褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	15 灰 褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
7 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	16 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子中量
8 黒 褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	17 褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量
9 黒 褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量		

ピット 1か所。P1は深さ16cmで、竈と向かい合う西壁中央部際に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分けられる。暗褐色土と褐色土からなり、各層にローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む人為堆積である。



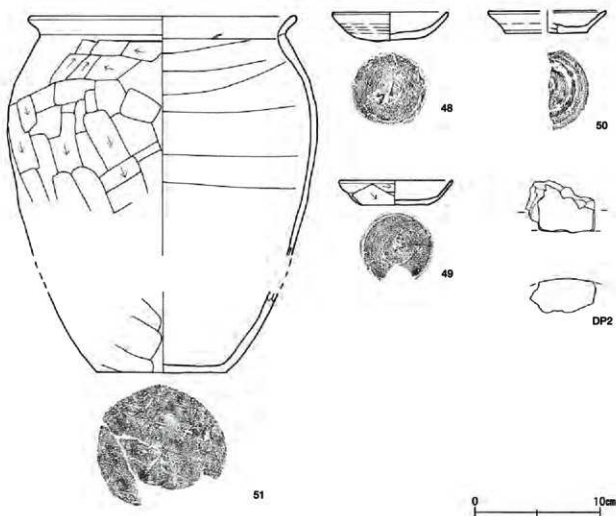
第35図 第1680号住居跡実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量	7	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	8	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	9	暗褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片197点（坏58，高台付碗18，甕116，小皿5），須恵器片41点（坏15，高台付坏2，蓋4，甕20），土製品1点（支脚）がほぼ全城から散在した状態で出土し、甕の火床面からも土器片がまとまって出土している。49・51は支脚とともに破損した状態で出土し、熱を受けた痕跡がないことから、遺棄されたものと思われる。須恵器片は覆土上層からの出土であり、混入したものと考えられる。

所見 東甕であるが、隣接する第1257・1679号住居跡と主軸方向がずれている。時期は、回転ヘラ切り離しの小皿が出土し、高台付碗が見られないことから、10世紀中葉と考えられる。



第36図 第1680号住居跡出土遺物実測図

第1680号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
48	土師器	小皿	9.2	2.3	5.0	長石・石英・赤色粒子・糠	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラ切り	覆土中	95% PL19
49	土師器	小皿	8.9	2.0	5.0	長石・石英・糠	こみ黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面一部ヘラ削り、底部回転ヘラ切り	甕内	75% PL19
50	土師器	小皿	[9.4]	1.8	[6.6]	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ、底部粗雑な回転ヘラ削り	覆土中	40% PL19

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
51	土師器	甕	21.0	[25.4]	10.2	長石・石英・雲母 にふくむ		普通	体部外面多方向へう割り、 内面へらナデ・ 輪切製、底部へう割り	竈内	30% PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	(4.2)	(5.5)	(2.7)	(48.6)	土製(長石・雲母)	ナデ	竈内	

第1681号住居跡 (第37図)

位置 調査区南東部のP12c3区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1678・1700住居跡と第115・195号堀立柱建物跡を掘り込んでいたと考えられる。

規模と形状 床面が露出した状態で検出され、壁の立ち上がりは確認できなかった。暗褐色を呈した床面の広がりから、N-89°-Eを主軸方向とする長軸3.30m、短軸3.20mほどの方形と推定される焼失住居である。床 硬化面は耕作等により削平され、一部しか確認できないため詳細は不明である。

竈 東壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く、火床面の一部が確認されただけであり、竈規模などについては不明である。

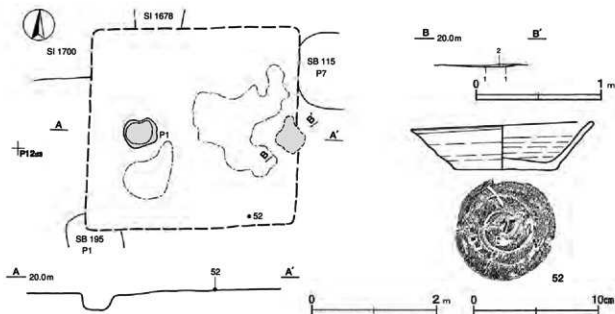
竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 2 灰褐色 焼土粒子多量、ローム粒子少量

ビット P1は深さ26cmで、竈と向かい合う西壁際中央部に位置しているが、出入り口施設に伴うビットではないと考えられる。

遺物出土状況 土師器片10点(坏1, 甕9), 須恵器片2点(蓋1, 甕1)が主にビットから出土し、そのほとんどが細片である。52は南部の床面から出土しており、遺棄したものである。口辺部外面の一部には、熱を受けた痕跡が認められる。須恵器片2点については、露出した床面より外れた位置から出土していることから、混入したものと考えられる。

所見 遺物が少なく、時期判断資料に乏しいが、時期は、東竈を有する住居形態と、へら磨きや黒色処理が施されない未調整で粗雑な土師器が出土していることなどから、10世紀後半と考えられる。P1内から、多量の焼土や炭化物が出土しており、工房の可能性も想定されるが、工房を裏付ける遺物は出土していない。



第37図 第1681号住居跡・出土物実測図

第1681号住居跡出土物観察表 (第37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
52	土師器	坏	14.4	3.8	8.3	長石・石英・炭化粒子・褐色粒子・澱	橙	普通	体部内外面ロクロナデ、底部粗雑な回転ベツ切り	床面	図15 口縁部断面図

第1683号住居跡 (第38・39図)

位置 調査区西部のP11b6区、標高20mほどの西にやや傾斜する台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.30m、短軸2.78mの東西に若干長い長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は30~34cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。壁溝が北東部を除いて確認されており、幅10~15cm、深さ5cmほどで、断面形はU字状を呈している。また、床下の中央部には長径1.10m、短径0.95mの楕円形で、深さ8cmほどの掘り方が確認されている。

竈 2か所。竈1は北壁中央部のやや東寄りに付設されている。袖部や天井部は遺存せず、覆土の含有物から砂質粘土を用いて構築されていたと推測される。火床面は若干赤変しているものの焼け締まてはいない。また、煙道の立ち上がり部には支脚に転用されたと思われる小形甕が逆位に据えられており、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。竈2は北壁中央部のやや西寄りに付設されている。袖部や天井部は遺存せず、壁外への掘り込みが見られ、熱を受けて赤変硬化した火床面だけが確認されている。竈2の手前には壁溝が回っていることや、竈1には、支脚に転用された小形甕が据えられていることなどから、竈2から竈1へ作り替えられたと考えられる。なお、竈2の土層解説は、覆土の土層解説4~7層にあたる。各層にローム粒子・ロームブロックを含み、人為的に埋め戻された痕跡が認められる。

棚状施設 竈1と竈2の間に設けられており、奥行70cm前後、最大幅135cm前後の不整形である。竈の新旧関係から、当初は竈2の右側に棚状施設を設けていたものと想定される。

ピット 2か所。P1は深さ27cmで竈と向かい合う南壁中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ15cmで、性格は不明である。

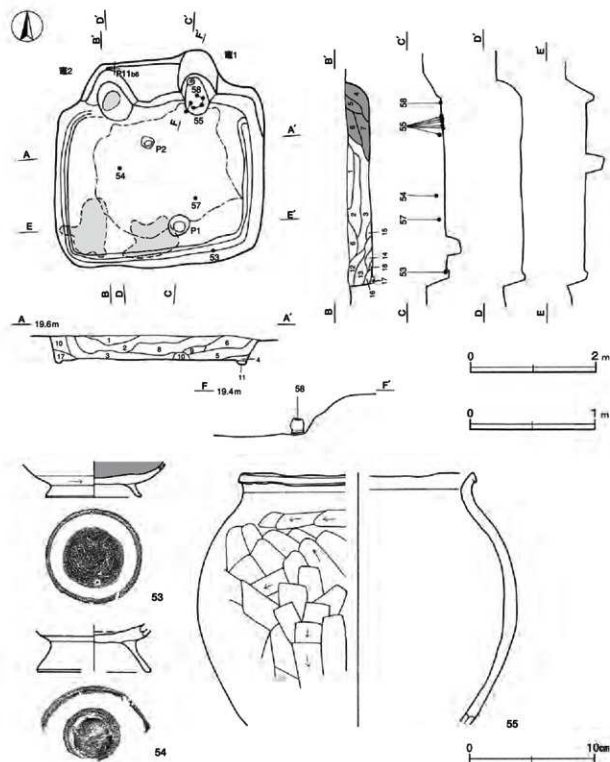
覆土 18層からなり、全体的に軟質で締まりがない。南壁際の床面には焼土の堆積が顕著である。中層から上層にかけては、焼土粒子は少量で、全体的にローム粒子・ロームブロックを含んでいることから、住居の焼失後に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

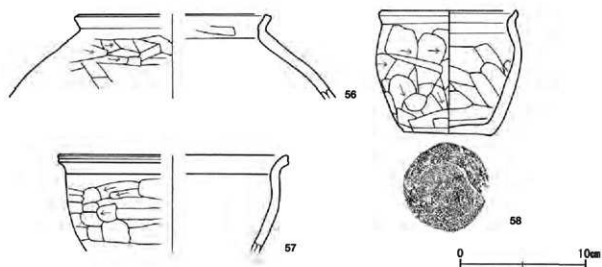
1 暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量	10 黒 褐色	色 砂質粘土ブロック多量、炭化粒子少量
2 灰 褐色	色 ローム粒子・焼土粒子少量	11 褐色	色 ロームブロック少量
3 黒 褐色	色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	12 灰 褐色	色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 灰 褐色	色 ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	13 褐色	色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
5 灰 褐色	色 砂質粘土粒子・ロームブロック中量、炭化物微量	14 褐色	色 焼土粒子中量、ロームブロック少量
6 黒 褐色	色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	15 灰 褐色	色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7 灰 褐色	色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子中量	16 灰 褐色	色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
8 黒 褐色	色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	17 っぽい褐色	色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
9 灰 褐色	色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	18 橙 褐色	色 焼土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片197点(坏40、高台付碗26、甕128、瓶3)、須恵器片17点(坏5、高台付坏1、甕11)が東壁際を中心に出土している。53は南壁際の床面、54は中央部の覆土下層、57は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも打ち欠いた痕跡が見られ、破損している状況から廃棄されたものと推定される。55は竈1の前面からまともに出て出土した細片が接合したものである。58は竈1内から出土しており、熱を受けた痕跡が認められることから、支脚として使用されたものと思われる。

所見 住居南壁際から焼土塊が検出され、食器具類はあらかじめ持ち出されていることから、廃絶に伴った焼失住居の可能性がある。また、竈2を廃棄する際、人為的に埋め戻して棚部を作り、竈1へ作り替えを行ったと想定される。棚状施設は当遺跡において10世紀以降に位置付けられる住居形態の一類型である。時期は、出土土器に小皿が見られないことから、10世紀前葉と考えられる。



第38図 第1683号住居跡・出土遺物実測図



第39図 第1683号住居跡出土遺物実測図

第1683号住居跡出土遺物観察表 (第38・39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
53	土師器	高台樽	-	(2.8)	7.6	長石・石英・雲母	にぶい	普通	体部外面下縁周縁へラ削り、内面磨き、底部周縁先切り戻し、高台貼り付け	床面	40%
54	土師器	高台樽	-	(3.8)	(8.8)	長石・赤色粒子	にぶい	普通	底部内面見込みナデ高台貼り付け後横ナデ	下層	30%
55	土師器	甕	[18.4]	(19.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ、体部外面多方向へラ削り	甕1内	20% PL21
56	土師器	甕	[14.8]	(6.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ、体部外面多方向へラ削り	甕1内	5%
57	土師器	甕	[18.4]	(7.8)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ、体部外面一方向手持ちへラ削り	下層	5%
58	土師器	小形甕	10.8	9.5	7.0	長石・石英	橙	普通	体部外面多方向へラ削り、内面へラナデ	甕1内	90% 外面 黄褐色 PL21

第1686号住居跡 (第40・41図)

位置 調査区南部のP12d2区、標高20mほどの南へ緩やかに傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1353号住居跡と第195号掘立柱建物跡を掘り込み、第1640・1646・1656・1657号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が削平された状態で検出されているため、暗褐色を呈した床面の広がりから、N-4°-Eを主軸とする長軸4.43m、短軸3.24mの南北に長い長方形と推定される。壁高は8~15cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められており、壁溝は認められない。

竈 北壁中央付近に粘土ブロックが散在していることから、第1657号土坑によって破壊されたものと考えられる。

ピット 2か所。P1・P2はそれぞれ深さが16cmと36cmで、性格は不明である。

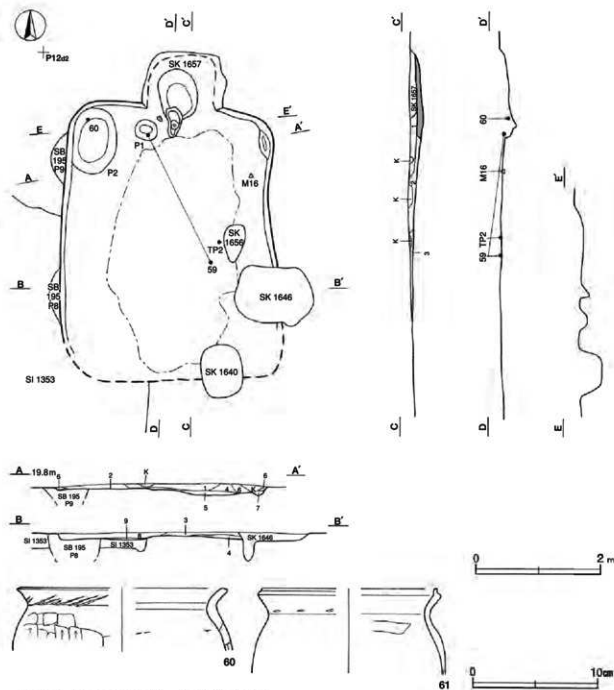
覆土 9層からなり、全体的に軟質で締まりがない。各層に含まれるローム粒子はわずかであるが、ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

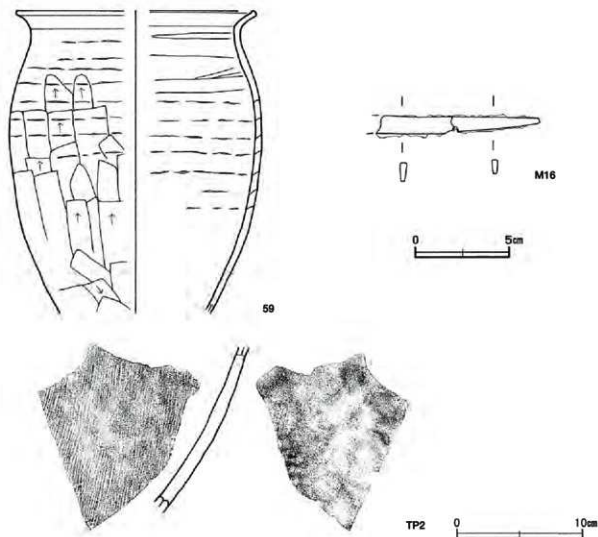
1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	7	褐色	ローム粒子中量、ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	8	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック微量	9	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
5	黒褐色	炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片108点（坏48，高台付碗2，甕58），須恵器片23点（坏15，甕8），灰軸陶器片2点（長頸瓶），鉄製品1点（刀子）が竈の前面から北西コーナー部にかけて出土している。59は竈手前の床面と東壁際の床面から出土した破片が接合したもので、60は北西コーナー部の覆土下層から出土している。TP2は東側から出土し、断面が摩滅していることから、礫石に転用されたものと思われる。表面には鉄分が付着しており、鉄製品を研いだ可能性が考えられる。また、M16は東側の床面から破損した状態で出土している。出土遺物の大半が破片であり、いずれも廃棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から、9世紀後半と考えられる。



第40図 第1686号住居跡・出土遺物実測図



第41図 第1686号出土遺物実測図

第1686号住居跡出土遺物観察表 (第40・41図)

番号	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
59	土師器	寛 [18.6]	(24.1)	-	長石・石英	橙	普通	口辺部外面横ナデ、体部外面一方内ヘラ削り、内面ヘラナデ・輪轆痕	床面	30% PL21
60	土師器	寛 [16.0]	(5.0)	-	長石・石英	にぶ橙	普通	口辺部内面横ナデ、体部内面輪轆痕、体部外面一方内ヘラ削り	下層	5% 口辺部内面ヘラ削り、体部内面輪轆痕
61	土師器	寛 [13.8]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ、内面ヘラナデ	覆土中	5% 口辺部内面ヘラ削り、体部内面輪轆痕
TP2	須恵器	寛 -	(13.0)	-	長石・石英	灰	普通	体部縦位平行叩き、内面輪轆痕	床面	5% 口辺部内面ヘラ削り、体部内面輪轆痕

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	刀子	(8.8)	1.0	0.4	(11.1)	鉄	刃部から基部にかけての破片、片割	床面	PL23

第1687号住居跡 (第42~44図)

位置 調査区中央部のP12b2区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第192号掘立柱建物跡を掘り込み、第1617・1681号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.87m、短軸3.26mほどの東西に長い長方形で、主軸方向はN-70°-Eである。壁高は8~24cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

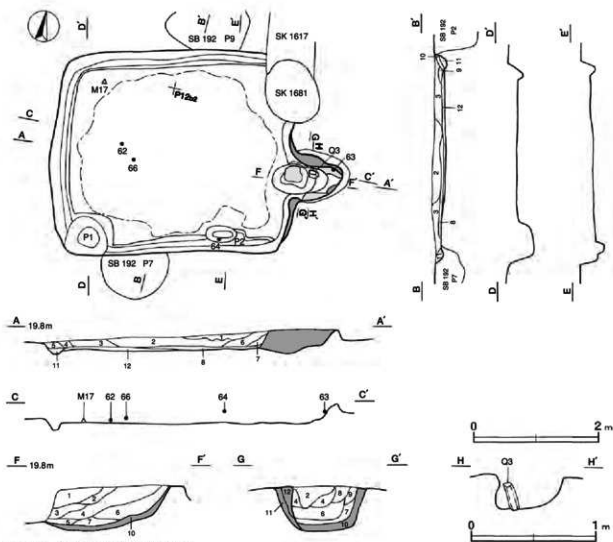
床 はほぼ平坦で、壁際を除いて全体的によく踏み固められている。壁溝が周回しており、幅15～20cm、深さは10cmほどで、断面形はU字状を呈している。

竈 東壁のやや南寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで115cm、壁外への掘り込みは75cmである。袖部は厚さ10～20cmほどの砂質粘土を、東壁の広い範囲に貼り付けて構築している。火床部は浅く皿状に掘りくぼめ、砂質粘土を貼り付け、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、煙道の立ち上りの部分には、支脚と考えられる雲母片岩が直立した状態で据えられており、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、 砂質粘土粒子微量	7 黒 褐 色	焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土 粒子微量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒 子微量	8 暗 褐 色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘 土粒子微量
3 黒 褐 色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物・砂質 粘土粒子微量	9 暗 褐 色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭 化粒子微量
4 暗 赤 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭 化粒子微量	10 褐 色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭 化粒子少量
5 黒 褐 色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	11 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
6 暗 赤 褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子 ・炭化物微量	12 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量

棚状施設 竈両側の壁に砂質粘土が貼り付けられており、棚状施設を有する可能性が考えられる。しかし、確認面では粘土の広がりを検出できなかったので平面形については不明である。



第42図 第1687号住居跡実測図

ピット 2か所。P1・P2は柱のあたりはあるものの、大きさが形状が異なり、本跡に伴う柱穴は床には見られない。

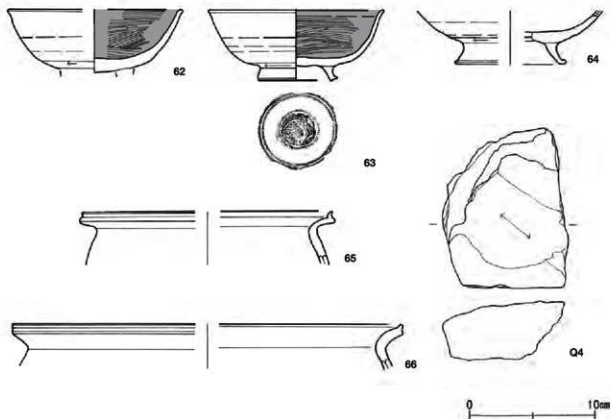
覆土 12層からなり、レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

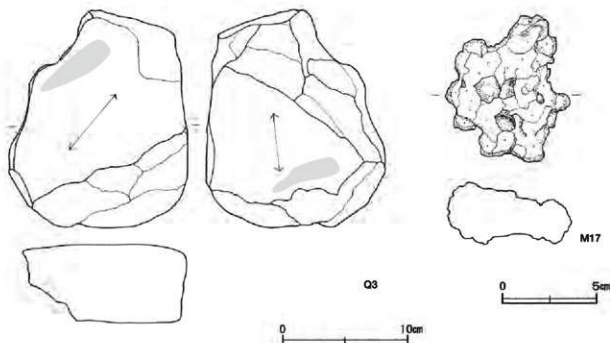
1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子微量	11	褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ローム粒子少量	12	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量			
7	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片212点（坏104、高台付碗17、甕85、瓶6）、須恵器片69点（坏12、甕57）、石製品2点（砥石）、雲母岩1点（転用支脚）、鉄滓1点がほぼ全域から散在して出土している。62・66は西側中央部の床面から覆土下層、64は南東部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。いずれも細片で、床面から若干浮いた位置から出土しており、住居が廃絶された時期以降に流れ込んだ可能性がある。また、竈内からも土師器片がまとまって出土し、63は逆位で砥面のある転用支脚とともに煙道の立ち上がり部分から出土している。熱を受けた痕跡が認められないことから、住居廃絶の際、意図的に置かれたものと思われる。

所見 時期は、5孔式の土師器瓶や口縁端部が上方につまみ上げられて、断面三角形を呈する土師器甕が出土していることと小皿が見られないことから10世紀前葉と考えられる。当遺跡におけるこの時期の住居跡は、主軸方向が真北を指すか、東に振れるものの2タイプに分けられ、本跡は後者にあたる。また、竈の両脇には厚さ20cmほどの砂質粘土が貼り付けてあることから棚を有していた可能性が想定される。



第43図 第1687号住居跡出土遺物実測図(1)



第44図 第1687号住居跡出土遺物実測図(2)

第1687号住居跡出土遺物観察表 (第43・44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
62	土師器	筒形甕	[13.8]	(5.0)	-	長石・石英・赤色鉄子	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下層回転ヘリ有り、内面磨き	床面	40%
63	土師器	筒形甕	13.7	5.6	6.3	長石・石英・赤色鉄子	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下層回転ヘリ有り、内面磨き、底面回転ヘリ切り高さ約10cm有り	竈内	70% PL17
64	土師器	筒形甕	-	(4.2)	[8.8]	長石・石英・赤色鉄子	にぶい	普通	体部内面ロクロナデ	中層	20%
65	土師器	甕	[19.8]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土中	5%
66	土師器	甕	[30.0]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口辺部内外面横ナデ	下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	17.3	14.3	6.3	2280.6	雲母片岩	砥面2面、他は破断面。二次焼熟痕有り	竈内	転用支脚
Q4	砥石	12.7	9.7	4.8	756.5	雲母片岩	砥面1面、全面的に二次焼熟痕有り	覆土中	転用支脚
M17	洋	7.8	6.7	3.3	146.8	鉄	着磁石有り、外面焼土付着	下層	

第1688号住居跡 (第45~47図)

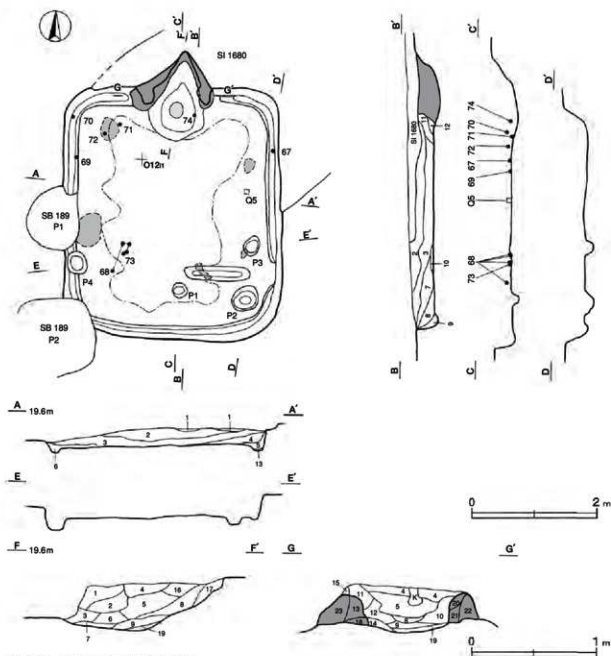
位置 調査区北部のO121区、標高20mほどの南にやや傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1680号住居跡・第189号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.04m、短軸3.48mの南北に若干長い長方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は16~37cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。壁溝が東壁の一部を除いて確認されており、幅15~20cm、深さは5~10cmで、断面形はU字状を呈している。南東コーナー部には、溝状の落ち込みが確認されているが、住居の拡張が想定される。また、床面に焼土ブロックが散在しており、焼失住居と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで145cm、袖部幅120cm、壁外への掘り込みは60cmである。袖部は、床面とはほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅い皿状を呈し、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。



第45図 第1688号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土粒子微量 | 10 暗 赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化物微量 | 11 暗 赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 13 褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量、炭化物微量 | 14 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量 |
| 6 暗 赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物少量 | 15 暗 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物粒子微量 |
| 7 黒 色 | 焼土粒子・ローム粒子・炭化物少量、炭化物・砂質粘土粒子微量 | 16 灰 褐色 | 砂質粘土粒子・焼土粒子中量、炭化物粒子少量 |
| 8 暗 赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物粒子微量 | 17 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化材少量 |
| 9 灰 褐色 | 焼土粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土粒子・炭化物微量 | 18 黒 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| | | 19 上ぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量 |
| | | 20 灰 褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量 |
| | | 21 暗 赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| | | 22 灰 褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化材少量 |
| | | 23 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |

ビット 4か所。P1は深さ13cmで竈と向かい合う位置にあることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。南東コーナー部に位置しているP2は、楕円形で深さは17cmである。その形状から貯蔵穴の可能性も考

えられるが、出土遺物がなく、性格は不明である。P3・P4の性格は不明である。

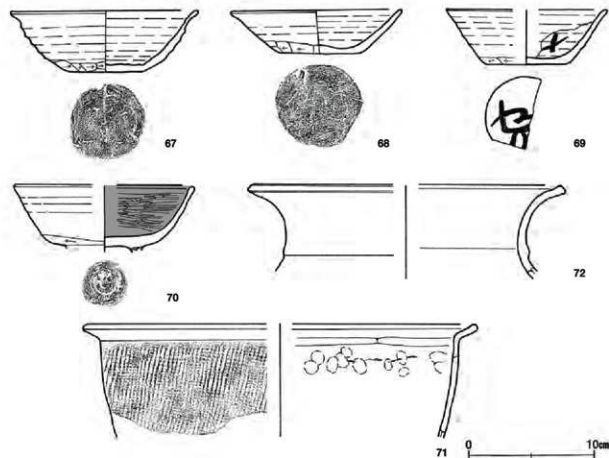
覆土 13層からなり、レンズ状に堆積している。しかし、各層にロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。また、各層に焼土粒子・炭化粒子を多く含み、床面上には焼土が散在していることから、焼失後に人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

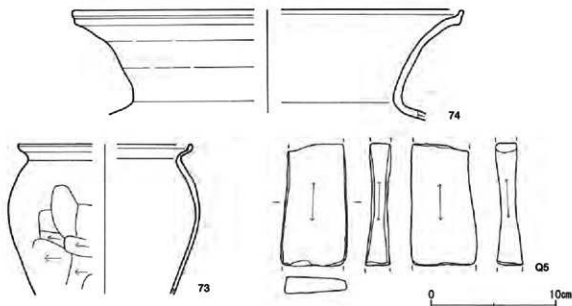
1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量	8	黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	9	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	10	褐色	ローム粒子中量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量	11	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
5	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	12	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック少量	13	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片152点(環30, 高台付碗5, 甕117), 須恵器片153点(環47, 高台付環3, 蓋1, 鉢1, 甕97, 甌4), 石製品1点(砥石)がほぼ全域から散在して出土している。67は、東壁際の床面から出土しており、遺棄されたものと思われ、器面全体には、熱を受けた痕跡が観察される。68は、南西部の床面から覆土下層にかけて出土し、遺棄されたものと思われる。西壁際から出土した69の底部には「育」、内面にも判読不能の文字が横位に墨書されている。70は西壁際、71・74は竈前面の覆土下層、72は北西部の覆土下層、73は南西部の床面からそれぞれ出土している。Q5は東側の床面からの出土で、上下部が欠損している。

所見 壁際に焼土が散在している状況から、焼失に伴った焼失住居と推定されるが、坏類は二次焼成痕から遺棄されたものである。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。本跡から出土した墨書土器「育」は当遺跡に共通する文字で、平成9年度調査の7区第688号住居跡からも出土しており、時期も一致している。



第46図 第1688号住居跡出土遺物実測図(1)



第47図 第1688号住居跡出土遺物実測図(2)

第1688号住居跡出土遺物観察表 (第46・47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
67	土師器	坏	14.6	5.0	6.0	長石・石英・雲母	暗赤灰	普通	体内外外面ロクロナデ。体部外面下層一方のすべりへり。底面一方へり。	床面	5% PL15
68	土師器	坏	13.5	3.6	6.6	長石・石英・雲母	明褐色	普通	体内外外面ロクロナデ。体部外面下層一方のすべりへり。底面一方へり。	床面～下層	70% PL15
69	土師器	坏	[12.8]	4.4	[6.6]	長石・石英・雲母	におい暗	普通	体内外外面ロクロナデ。体部外面下層一方のすべりへり。底面一方へり。	床面	5% PL17
70	土師器	高台付	[14.2]	(5.3)	-	長石・石英・雲母・雲母	浅黄	普通	体内外外面ロクロナデ。体部外面下層一方のすべりへり。底面一方へり。	下層	60% PL17
71	須恵器	鉢	[30.8]	(9.0)	-	長石・石英	褐色	普通	体内外外面ろくろナデ。口辺部及内面横ナデ。輪痕。	下層	5%
72	須恵器	壺	[24.4]	(7.3)	-	長石・石英・雲母	におい暗	不良	口唇部沈縮。口辺部内外面横ナデ	下層	5%
73	土師器	小形壺	[13.9]	(11.9)	-	長石・石英・雲母	におい暗	普通	体部外面へり。内面へりナデ	床面	15% PL21
74	須恵器	大壺	[30.8]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口辺部内外面ロクロ整形後横ナデ	下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	砥石	(9.6)	5.3	2.2	(139.9)	凝灰岩	砥面4面、上部・下部欠損	床面	PL23

第1689号住居跡 (第48・49図)

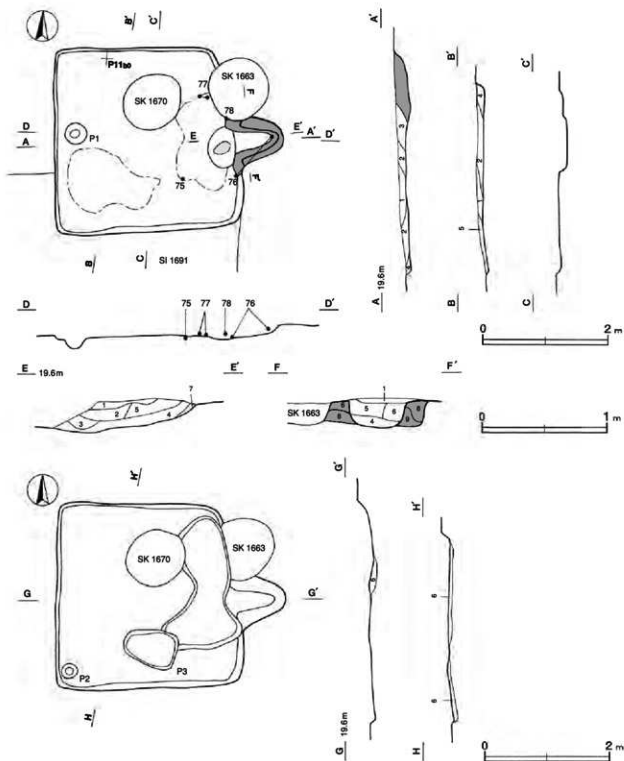
位置 調査区中央部のP11b0区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1691号住居跡を掘り込み、第1663・1670号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸298m、短軸292mの方形で、主軸方向はN-84°-Eである。壁高は8～15cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦な貼床である。掘り方内にロームブロックを均一に貼床が施されており、硬化面は竈の手前と出入り口施設の南側で一部確認されている。また、壁溝は認められない。

竈 東壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅75cm、壁外への掘り込みは70cmほどである。火床部は、床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火床面に熱を受けた部分は認められない。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。竈は、廃絶後に天井部材が崩落している。



第48図 第1689号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| | | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 3か所。P1は深さ15cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は、深さ8～11cmで貼床下にあり、掘り方の一部と考えられる。

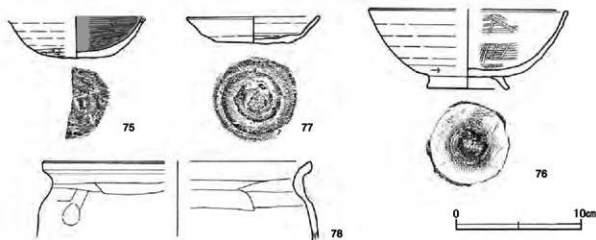
覆土 6層からなる黒褐色土である。全体的にローム粒子は少量で、レンズ状に堆積した自然堆積である。なお、第6層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片87点（坏45、高台付碗5、甕31、小皿6）、須恵器片27点（坏16、甕11）、鉄製品1点（不明）が竈周辺から散在して出土している。75は南東部の床面から逆位で、76は竈左袖付近の床面から逆位でそれぞれ出土しており、細片であり、廃棄されたものと思われる。77は竈左袖付近の床面から正位で出土しており、内外面ともに摩耗が著しく、遺棄されたものと考えられる。また、78は竈前面の覆土下層から出土している。本跡出土の遺物の大半は細片である。

所見 廃絶時期は、土師器小皿や高台付碗が出土していることから、10世紀後葉と考えられる。床面が軟弱であることや、竈の火床面に熱を受けた痕跡が認められないことから、本跡は短期間で廃絶された可能性が想定される。



第49図 第1689号住居跡出土遺物実測図

第1689号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	類別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
75	土師器	坏	-	(3.4)	4.9	長石	いぶき	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下縁一方向手持ちヘラ削り、内面磨き、底面ヘラ削り	床面	20%
76	土師器	甕の片	[15.8]	6.3	6.4	長石・石英・雲母	いぶき	普通	体部外側口タロ子デ、体部外側下縁細ヘラ削り、内面磨き、底面面ヘラ削り	床面	60% PL17
77	土師器	小皿	10.5	2.2	6.2	長石・石英・雲母	いぶき	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラ切り	床面	100% PL19
78	土師器	甕	[21.0]	(6.1)	-	長石・石英・雲母	いぶき	普通	口内面内外面磨きナデ、体部外面ヘラナデ・削り、内面ヘラナデ	下層	5%

第1690号住居跡（第50・51図）

位置 調査区南部のP12c1区、標高20mほどの南へ緩やかに傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1666・1673号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.88m、短軸3.50mほどの南北に長い長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は12～31cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。南側部分には床面より3cmほど高い高まりが認められ、その面も硬化している。壁溝は東壁際から南壁際にかけて一部確認されており、幅10cm、深さ5cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北東コーナー部に付設されており、焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅110cm、壁外への掘り込みは75cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、内側が熱を受けて赤変している。火床部は10cmほど掘りくぼめた部分にローム土を用いて床面と同じ高さに埋め戻して使用し、火床面は赤変硬化している。使用頻度は極めて高かったことが推測できる。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。北東コーナー部壁際には粘土が貼り付けてあり、顕著に硬化している。なお、第15層は掘り方埋土である。

覆土層解説

1	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	7	黒褐色	焼土ブロック中量、炭化物微量
2	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	9	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量、炭化物微量	11	にぶい黄褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
			13	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
			14	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
			15	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量

ピット 4か所。深さは20cm～40cmで、配置が不規則なことから柱穴とは考えられず、性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部と北西コーナー部の2か所から確認された。いずれも埋め戻された痕跡が認められるが、同時に機能していたものなのか、作り替えられたものなのかは不明である。貯蔵穴1は径65cmほどの円形で、深さは30cmほどであり、貯蔵穴2は径80cmほどの円形で、深さは27cmほどである。底面はともに皿状で、壁は緩やかに外傾している。貯蔵穴1からは、灰軸陶器片、貯蔵穴2からは、土師器杯の体部3点と石が出土している。

貯蔵穴1土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	3	暗褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量	4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

貯蔵穴2土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量			

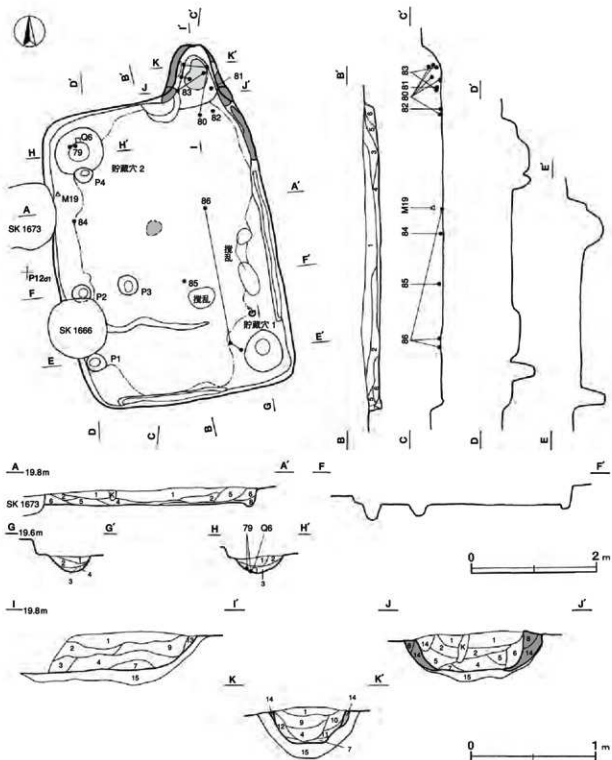
覆土 8層からなる。各層ともロームブロックを含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

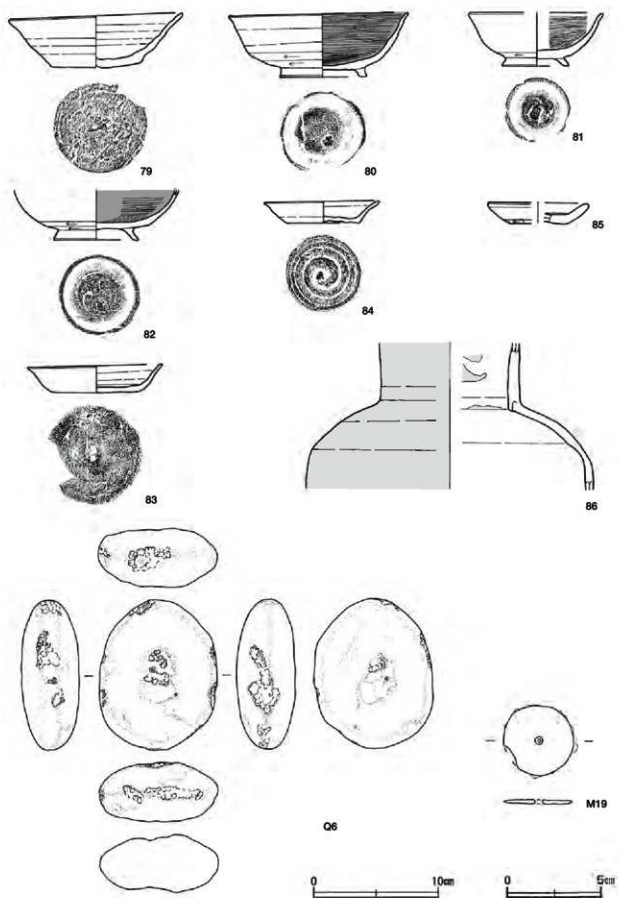
1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子中量	7	褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片336点（坏127、高台付碗23、甕182、小皿4）、須恵器片55点（坏8、甕47）、土師質土器片1点（小皿）、灰軸陶器片5点（壺長頸瓶）、鉄製品1点（紡錘車）、礫1点（敲石）がほぼ全域から散在して出土している。79は貯蔵穴2内から逆位で出土し、打ち欠かれた痕跡が観察できる。80は竈の火床面から覆土中層にかけて出土した破片が接合したもので、出土状況から住居を廃絶する際、くぼみに廃棄されたものと思われる。81・83は竈内下層から出土しており、加熱痕がなく、故意に打ち欠かれた状態で出土していることから、廃棄されたものと思われる。内外面の摩擦が著しい82は竈前面の床面より、84は西側の床面、85は中央部の覆土下層から出土している。M19は西壁際の覆土中層から出土している。86は南東部と北東部の床面から出土した破片が接合したものである。また、灰軸陶器片は東壁際の床面を中心に出土してい

るが、細片のため図示できなかった。Q 6 は、貯蔵穴 2 内の出土であり、混入したものである。
 所見 南側部分の高まりは、住居の建て増しを想起させるものである。この集落内で、10世紀代の住居は東壁を有しているが、本跡は第1683号住居跡とともに北壁で、構造も異質であり、南側への建て増しが行われている。時期は、高台付椀と小皿が出土していることから、10世紀後葉と考えられ、出土した土師質土器小皿は、古代から中世への移行期を示唆するものといえる。



第50図 第1690号住居跡実測図



第51图 第1690号住居跡出土遺物実測図

第1690号住居跡出土遺物観察表 (第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	土師器	坏	13.9	4.3	7.4	茶石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内外面ロクロナデ底部多方向へラ削り	貯蔵穴2内	70% PL15
80	土師器	高台樽	14.3	5.1	6.8	茶石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ、底部回転へラ削り、内面は、底部回転へラ削り高台削り付け	中層	70% PL17
81	土師器	高台樽	[10.6]	4.3	5.2	茶石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面へラ削り、内面は、底部回転へラ削り高台削り付け	壺内	70% PL17
82	土師器	高台樽	-	(4.0)	6.5	茶石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面へラ削り、内面は、底部回転へラ削り高台削り付け	床面	30%
83	土師器	小皿	10.6	2.2	7.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転へラ削り	壺内	80% PL19
84	土師器	小皿	9.2	1.8	5.8	茶石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転へラ削り	床面	80% PL19
85	土師質土器	小皿	[7.8]	1.7	[4.6]	長石	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下端手持ちへラ削り	下層	40% PL19
86	灰胎陶器	壺	-	(11.8)	-	長石・石英	黄褐	普通	体部内外面ロクロナデ、輪は刷毛焼	床面	10% PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	巖石	12.0	4.7	9.5	666.3	安山岩	全個縁に敲打痕、凹石兼用	貯蔵穴2内	PL23

番号	器種	最大径	孔	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M19	鉄鉢車	3.7	0.4	0.4	(11.9)	鉄	円盤状、軸欠損	中層	PL24

第1691号住居跡 (第52～54図)

位置 調査区中央部のP11b9区、標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1689号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.57m、短軸4.53mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は22～44cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

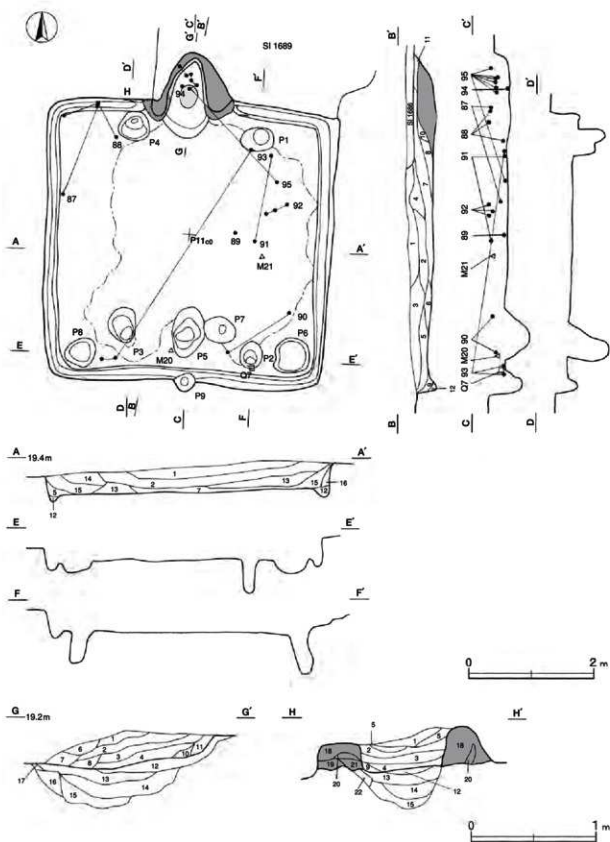
床 ほぼ平坦で、竈の手前から出入り口施設にかけて踏み固められている。壁溝が周回しており、幅10～20cm、深さ5～15cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口から煙道部まで140cm、袖部幅140cm、壁外への掘り込みは80cmほどである。袖部のうち、左袖については掘り残した地山を芯とし、砂質粘土を貼り付けて構築し、右袖については床面とほぼ同じ高さの平坦面を利用して砂質粘土で構築している。火床部は床面を30cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻している。袖部の内側と火床面は熱を受けて赤変硬化しており、使用頻度の高さが窺える。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。なお、第12～17・22層は掘方埋土である。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化材・砂質粘土粒子少量	14	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量
3	鮮暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化材中量、砂質粘土粒子少量	15	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4	暗赤褐色	炭化物中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量	16	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
5	灰赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量	17	暗褐色	焼土粒子・炭化材・砂質粘土ブロック少量
6	暗褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	18	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
7	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	19	暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量
8	黒褐色	炭化物多量、焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	20	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土ブロック少量
9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	21	灰褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量
10	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量	22	褐色	ローム粒子多量
11	鮮暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量			
12	ぶい褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量			

ピット 9か所。P1～P4は主柱穴に相当し、深さは51～65cmでほぼ均一である。P5は深さ41cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。P6～P8は深さ17～27cmで、大きさ・形状ともに同じタイプである。性格は不明である。P9は深さ53cmで、大きさ・形状・覆土の色から判断して本跡に伴わないと思われる。



第52图 第1691号住居跡実測图

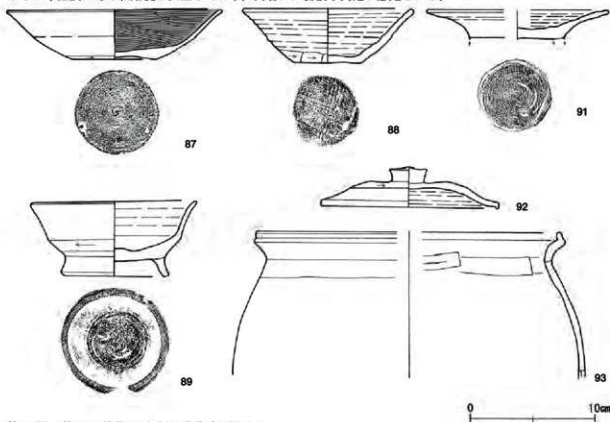
覆土 16層からなり、全体的に軟質で締まりがない。下層にはロームブロックを含み、人為的な埋め戻しが想定される。上層はレンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

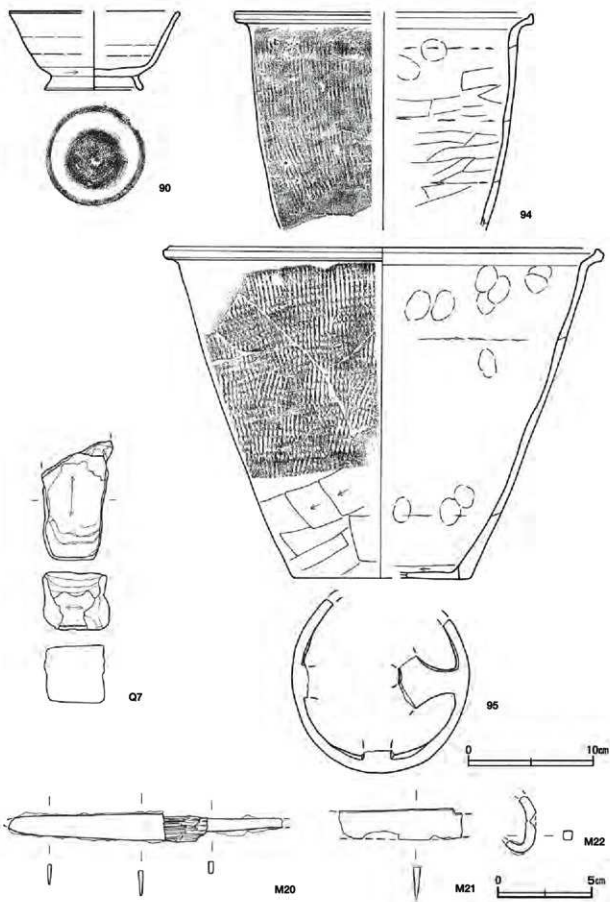
1 暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	10 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化物微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量	13 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	14 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片487点（坏76、高台付碗5、甕406）、須恵器片507点（坏158、高台付坏10、高台付皿1、蓋19、鉢1、甕265、瓶53）、鉄製品3点（刀子2、鉸具1）、灰軸陶器片1点（壺）、雲母片岩1点（転用砥石）が出土している。遺物は覆土下層を中心にほぼ全域に散在しており、破断面の摩耗が少ないことや残存率の高いものが目立つ。87・88はいずれも北西コーナー部の覆土下層から中層、89は中央付近の覆土下層、90は南東コーナー部の覆土中層、92は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。91は北東部の覆土下層と東側の覆土中層、93は北東部の床面と南東部の床面から出土したものがそれぞれ接合したものである。また、95は竈内からつぶれた状態で出土している。鉄製品も豊富で、M20は南壁際の覆土下層から出土している。土器を観察すると、91・93のように熱を受けた痕跡のあるものが多いが、土層などからは焼失住居の可能性は見当たらない。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡の南に隣接する第1696号住居跡と主軸方向や規模・出土遺物が類似しており、同時期に存在したことが想定される。また、本跡からは刀子、第1696号住居跡からは朱墨痕のある転用砥石が出土しており、両者には密接な関連が想定される。



第53図 第1691号住居跡出土遺物実測図(1)



第54图 第1691号住居跡出土物実測図(2)

第1691号住居跡出土土物観察表 (第53・54図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
87	土師器	坏	17.0	4.0	6.6	長石・石英・雲母	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下縁回転ヘラ削り、内面磨光、底部回転ホウキ削り	下層～中層	70% PL15
88	須恵器	坏	13.4	4.4	5.2	長石・石英・雲母	褐灰	不良	体部内外面ロクロナデ、体部外面下縁手持ちヘラ削り、底面ヘラ削り	下層～中層	80% 外面 裏面灰白土
89	須恵器	高台坏	13.2	6.1	8.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部内外面ロクロナデ、体部外面下縁回転ヘラ削り、底部回転ホウキ削り、底面台削り付	下層	85% PL17
90	土師器	高台坏	[13.4]	6.3	7.6	長石・石英	灰	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下縁回転ヘラ削り、底部回転ホウキ削り	中層	60% PL18
91	須恵器	高台坏	[13.4] (2.3)	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	良好	体部内外面ロクロナデ、体部外面下縁回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、底面台削り付	下層～中層	60% 外面 裏面灰白土
92	須恵器	蓋	14.0	3.2	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	天舟部右回りの回転ヘラ削り	下層～中層	50% 外面 裏面灰白土
93	土師器	蓋	[24.0]	[11.6]	-	長石・石英・雲母	こみね	普通	口辺部外面横ナデ、口辺部内面ヘラナデ、内面磨光	床面	10% 外面 裏面灰白土
94	須恵器	鉢	[23.6]	[17.2]	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面磨光の平行印あり、体部外面下縁ヘラ削り、内面ヘラナデ、輪轆底・指道底	床面	10%
95	須恵器	瓶	34.2	26.2	14.0	長石・石英・雲母・礫	灰	普通	体部外面磨光の平行印あり、体部外面下縁ヘラ削り、内面ヘラナデ、輪轆底・指道底	カマド内	60% PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	砥石	(9.5)	5.6	4.6	(359)	雲母片岩	砥面2面、他は破断面。断面方形	下層	
M20	刀子	(14.7)	1.4	0.3	(22.4)	鉄	片岡、基部納木残存	下層	PL23
M21	刀子	(6.6)	1.7	0.4	(15.4)	鉄	刃先部・基部欠損、片岡	中層	PL23
M22	鉋具	(2.9)	0.5	0.5	(2.6)	鉄	片岡欠損	覆土中	

第1692号住居跡 (第55図)

位置 調査区西部のO11j5区、標高20mほどの西へやや傾斜する台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第1694号住居跡を掘り込み、第196・197号掘立柱建物跡と第1704・1719号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が削平された状態で検出されているため、暗褐色を呈した床面の広がりから、N-17'-Eを主軸とする長軸2.95m、短軸2.70mほどの方形と推定される。壁高は6～8cmである。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてよく踏み固められている。また、壁溝は認められない。

竈 北壁際中央部の床面に粘土粒子や焼土粒子が散在しており、その付近に竈が構築されていたと推測されるが、耕作等によって破壊されている。

ピット 9か所。形状や底面に柱のあたりが認められることから、主柱穴はP1～P2が相当すると思われる、深さは12～20cmでほぼ均一である。南側に対応する柱穴は削平されたと思われる。P3～P9は、覆土の色から判断して、本跡に伴わないものである。

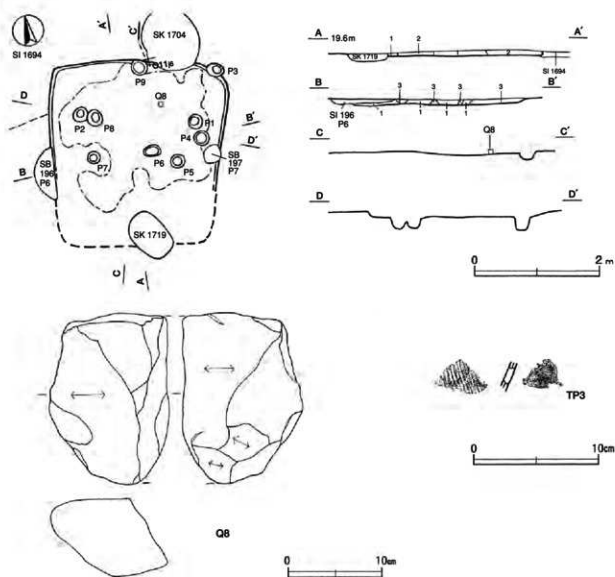
覆土 3層からなり、層厚は薄い。しかし、各層ともロームブロックを含み、不自然に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	3 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片19点(坏6, 蓋1, 甕12), 須恵器片1点(鉢), 石製品1点(砥石)が出土している。T P 3は、覆土中から出土しており、廃棄されたものと思われる。Q 8は、北東部の床面から出土している。

所見 時期は、出土した土器が細片のため明確ではないが、北竈の住居形態と第196号掘立柱建物跡との重複関係から、9世紀代と考えられる。



第55図 第1692号住居跡・出土遺物実測図

第1692号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP3	灰皿器	鉢	-	(24)	-	長石・石英・雲母	にぶき	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q8	砥石	18.1	(12.7)	8.3	(232.8)	雲母片岩	砥面2面, 他は破断面	床面	

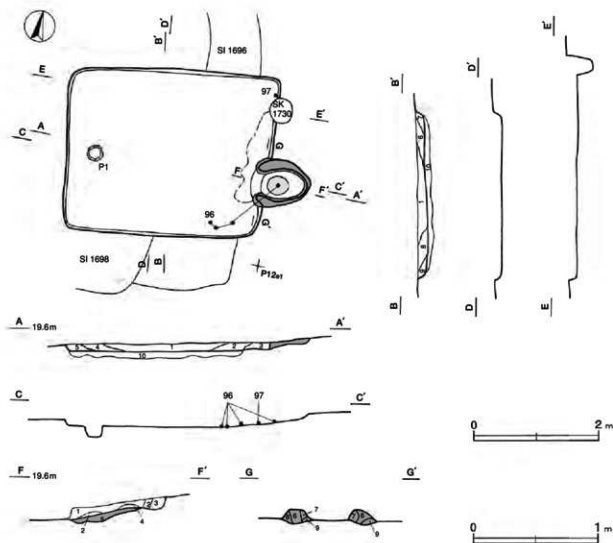
第1695号住居跡 (第56・57図)

位置 調査区南部のP1110区, 標高19mほどの南へ緩やかに傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1696・1698号住居跡を掘り込み, 第1730号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.26m, 短軸2.62mほどの東西に長い長方形で, 主軸方向はN-82°-Eである。壁高は10~14cmで, 各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, ロームブロックを用いて均一に貼床が施されており, 竈手前に硬化面が確認されている。また, 壁溝は認められない。



第56図 第1695号住居跡実測図

竈 東壁のやや南寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅75cm、壁外への掘り込みは70cmほどである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面にロームを主体とし、少量の砂質粘土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土を貼り付けて作っており、火床面は熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。廃絶後は、間もなく天井部材が崩落したことが土層から観察でき、人為的に壊された可能性が高い。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | 7 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量 | | |

ビット P1 は深さ17cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うビットと考えられる。

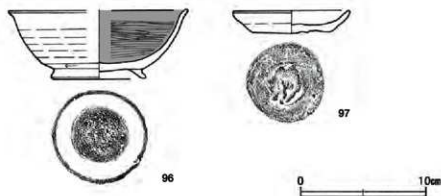
覆土 10層からなり、全体的に硬質で締まりがある。ロームブロックを含んでいるが、ほぼレンズ状に堆積しており自然堆積と思われる。なお、第10層は貼床の構築土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック中量・焼土粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子少量	8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10	暗褐色	ロームブロック中量・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片149点（坏45、高台付碗7、寛96、小皿1）、須恵器片58点（坏22、高台付坏1、寛35）、雲母片岩1点がほぼ全域から出土している。96は南東コーナー部の床面から破損した状態、97は北東コーナー部の床面から正位でそれぞれ出土し、いずれも遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は出土土器から10世紀後葉と考えられ、南8mの距離に位置する第1689号住居跡と主軸方向や規模・出土遺物が類似しており、同一の集落を構成していたと想定される。



第57図 第1695号住居跡出土遺物実測図

第1695号住居跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
96	土師器	高台付碗	[140]	5.5	7.2	長石・石英・雲母	いびく	普通	体部外壁ロケロナデ、体部外周下葉回転へつ削り、内周磨上、底部回転へつ削り兼高台削り付	床面	50% PL18
97	土師器	小皿	9.2	2.0	6.2	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内外周ロケロナデ、底部回転へつ削り	床面	100% PL19

第1696号住居跡（第58～60図）

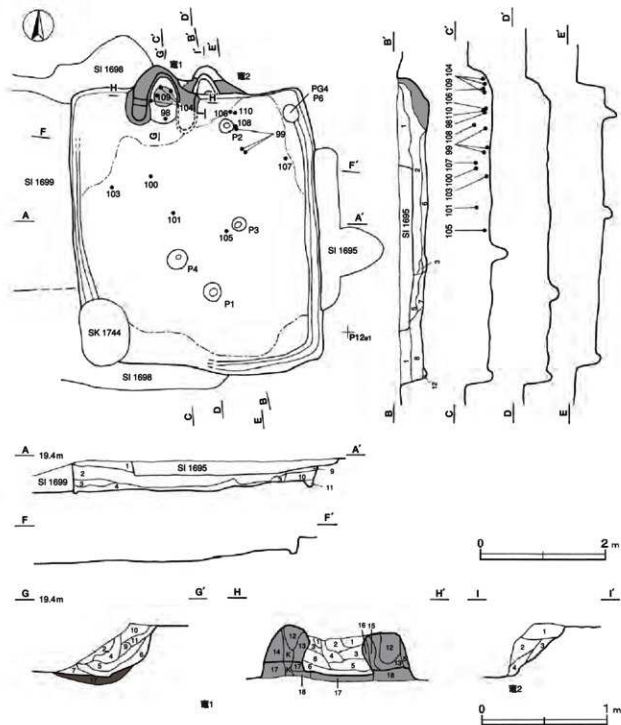
位置 調査区南部のP11do区、標高19mほどの南へ緩やかに傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1698・1699号住居跡を掘り込み、第1695住居跡・第1744号土坑・第4号ピット群P6に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.52m、短軸3.92mほどの南北に長い長方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は20～28cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて全体的によく踏み固められている。壁溝が北壁を除き確認されており、幅20cm、深さ8～10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 2か所。竈1は北壁中央部のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cm、袖部幅100cm、壁外への掘り込みが40cmほどで、袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築している。火床部は6cmほど掘りくぼめた部分に砂質粘土を貼り付けて使用しており、厚さ5cmにわたって焼け締まっており、使用頻度の高さがうかがわれる。また、煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。竈2は北壁中央部に付設されている。袖部は一部しか遺存しておらず、壁外への掘り込みが40cmほど見られ、熱を受



第58図 第1696号住居跡実測図

けて赤変硬化した火床面が北半部だけ確認されている。火床面や袖部の遺存状況から、竈2から竈1へ作り替えられたことが想定される。竈1は、廃絶後時間を経て天井部材が崩落したと考えられる。

竈1土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土ブロック・白色微粒子微量 | 4 暗 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化物少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 白色微粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土粒子微量 | 5 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 3 暗 褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 6 暗 赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
| | | 7 暗 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |

- | | | | |
|-----------|-------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 8 褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物・砂質粘土粒子少量 | 15 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 10 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化物微量 |
| 11 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 17 暗褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 12 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック微量 | 18 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子少量 |
| 13 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | | |

覆2土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |

ピット 4か所。P1は深さ15cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。P2～P4は深さ12～18cmで、大きさや形状ともに同じタイプであるが、性格は不明である。

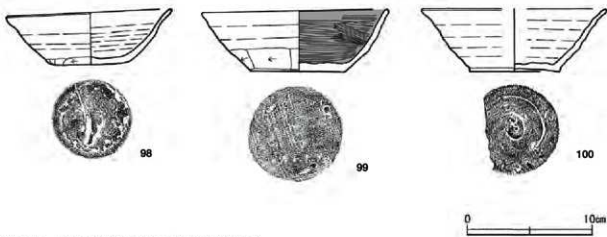
覆土 12層に分けられる。ローム土を主体とする暗褐色土などからなり、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

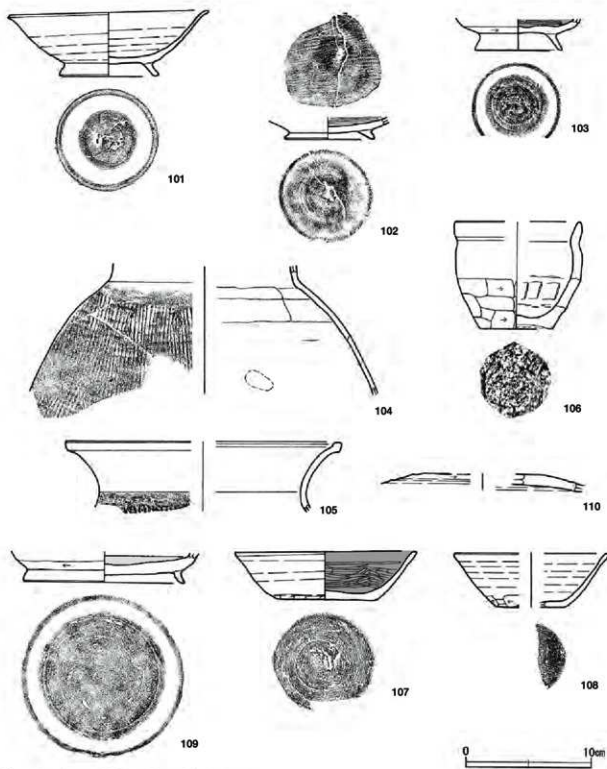
- | | | | |
|-------|-----------------------------|----------|------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 にぶい褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片409点（坏64、高台付碗9、甕334、高坏1、瓶1）、須恵器片411点（坏185、高台付坏10、蓋10、短頸壺2、甕195、盤1、瓶8）、灰陶陶器片5点（長頸瓶）、鉄製品1点（不明）、石製品2点（石鏃）がほぼ全域から散在して出土している。遺物の大半は、床面から浮いた状態で出土しており、投棄されたものと考えられる。98は竈1内の覆土下層から正位で出土し、99は竈2前面の覆土下層から破損した状態で出土している。また、102は内面に判読不能な刻書がされている。106は北側の覆土下層から正位で出土し、底部の剥離が著しい。また、覆土中層からの出土も多く、100・101・103は西側から中央部付近の覆土下層から中層、107・108は北東部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。竈1内の覆土下層から出土した109は、底部内面に朱墨痕が認められることから、硯に転用されたものである。

所見 灰陶陶器や転用硯など遺物量が多く、当集落の中心的な住居の一つと考えられる。時期は、出土土器から9世紀後半と考えられる。



第59図 第1696号住居跡出土遺物実測図(1)



第60図 第1696号住居跡出土遺物実測図(2)

第1696号住居跡出土遺物観察表 (第59・60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
98	土脚器	坏	13.1	4.4	6.2	長石・石英・雲母	明陶	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下縁平持ちへツ削り、底部回転へツ切り	下層	100% PL15
99	土脚器	坏	14.8	5.0	7.6	長石・石英・雲母	にぶい青	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下縁平持ちへツ削り、底部多方向のへツ削り、内面磨き	下層	70% PL15
100	須恵器	坏	[14.6]	5.0	7.2	長石・石英・雲母	明陶灰	不良	体部内外面ロクロナデ、底部回転へツ切り	下層	55% PL15

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
101	土師器	高台筒	15.7	5.3	7.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内外面クロコナダ、底部回転ヘラ切り 内面直上で行い、内面直上へツナナ	中層	100% PL18
102	土師器	高台筒	— (1.8)	7.0	—	長石・雲母・ 赤色粒子	にぶ黄	普通	体部内外面ヘラ削り、底部回転ヘラ切り 高台付付行	覆土中	40% 表18 PL18
103	土師器	高台筒	— (2.5)	6.8	—	長石・石英	にぶ黄	普通	体部下層回転ヘラ削り、底部回転ヘラ切り 後内面直上で行い、内面直上	下層	40%
104	須恵器	壺	— (10.2)	—	—	長石・雲母	灰黄褐	不良	体部外面直位の平行引き、内面ヘラナダ・ 短頸直、内面直上	壺内	10%
105	須恵器	壺 [220]	(5.5)	—	—	長石・石英・ 雲母・赤	灰	普通	体部外面直位の平行引き、口辺部内外面直 上で行い	下層	5%
106	土師器	小形甕 [98]	8.5	5.8	—	長石・石英	にぶ黄	普通	口辺部内外面直上、体部外面ヘラ削り、 内面直上	下層	60% 底部 直上
107	土師器	環 14.1	3.9	7.9	—	長石・石英・ 雲母・赤	褐	普通	体部外面下層手持ちヘラ削り、内面直上、 底部回転ヘラ削り	中層	80% PL15
108	須恵器	環 [122]	4.3	[5.6]	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内外面クロコナダ、体部外面下層手持 ちヘラ削り、底部一方削ヘラ削り	中層	15%
109	須恵器	壺	— (2.4)	12.8	—	長石・石英・雲 母・赤色粒子	灰黄	普通	体部外面下層回転ヘラ削り、底部回転ヘラ 切り高台直上で行い	壺1内	50% 表18 PL18
110	須恵器	壺	— (1.4)	—	—	長石・石英	灰白	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	下層	50%

第1698号住居跡 (第61・62図)

位置 調査区南部のP11d9区、標高19mほどの南へ緩やかに傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1696号住居跡と第1668・1740・1744号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.85m、短軸4.78mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は23~27cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて全体的によく踏み固められている。壁溝は北壁を除いて確認されており、幅10~20cm、深さ6~8cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅120cm、壁外への掘り込みは70cmほどである。袖部は床面と同じ高さになる土混じりの砂質粘土を用いて構築されている。火床面は熱を受けた部分が厚さ6cmにわたって焼け締まっており、使用頻度の高さがうかがえる。また、煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。土層観察から、廃絶後は、間もなく天井部材が崩落したと考えられ、人為的に壊された可能性が高い。

竈土層解説

1	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒 子微量	7	にぶい褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量	
2	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	8	褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量	
3	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量	9	にぶい褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量	
4	暗	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	10	褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土 粒子・炭化粒子微量	
5	にぶい赤褐色	色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量、炭化粒 子少量	11	暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物・砂質 粘土ブロック少量	
6	暗	赤褐色	焼土ブロック・焼土粒子中量、炭化物・砂質粘 土粒子少量	12	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ビット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さは12~60cmほどである。P5は深さ41cmで、竈と向かい合う位置にあることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。

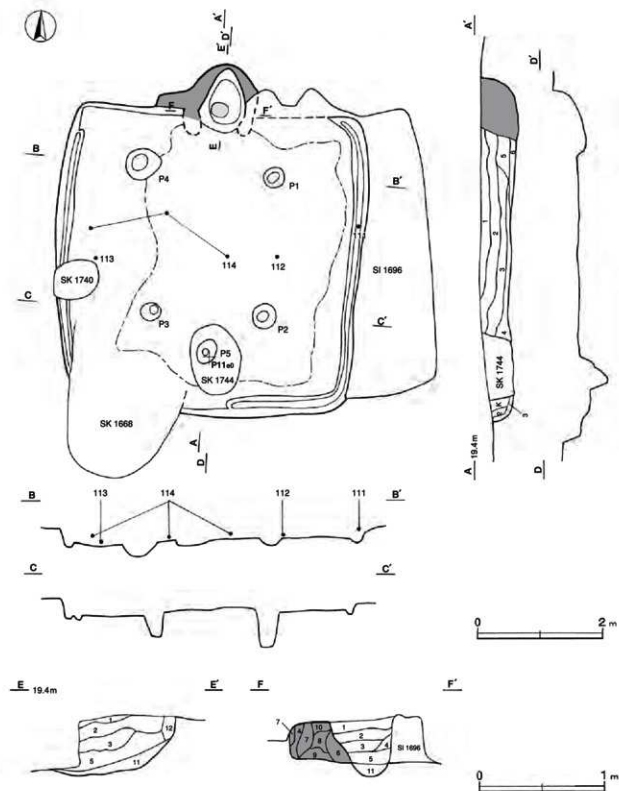
覆土 6層からなり、含有物やブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

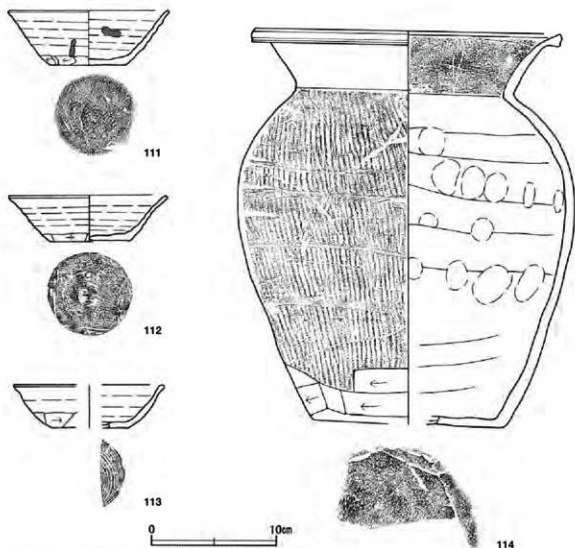
1	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	5	暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量、 砂質粘土粒子微量	
2	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量	3	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量	
3	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量	6	褐色	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
4	褐色	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量				

遺物出土状況 土師器片147点(環12、高台付碗7、壺128)、須恵器片137点(環57、高台付杯4、蓋8、短頸壺1、甕6、瓶1)、灰釉陶器片2点(高台付碗)がほぼ全域より散在して出土している。遺物の大半は、床面から若干干いた状態で出土しており、投棄されたものと考えられる。111は東壁際の覆土中層から斜線で出土しており、内外面にわずかな煤が付着している。112は東側の覆土下層、113は西側の覆土下層から、114

は内面の口辺部に「×」のへら書きがあり、中央部の覆土下層から中層にかけてそれぞれ出土している。
 所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡の東側には第195号掘立柱建物跡、西側には第190号掘立柱建物跡が隣接しており、同時期に機能していたと想定される。



第61図 第1668号住居跡実測図



第62図 第1698号住居跡出土遺物実測図

第1698号住居跡出土遺物観察表 (第62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
111	須恵器	坏	129	4.4	6.0	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体内外面ロクロナデ、底部外周下端手持ちヘラ削り、底部一方捨ヘラ削り	中層	70% 内外面 施位置 内底
112	須恵器	坏	124	3.7	6.6	長石・石英・雲母	灰	普通	体内外面ロクロナデ、体部外周下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り、底部方回ヘラ削り	下層	100% PL16
113	須恵器	坏	[11.7]	3.4	[6.0]	長石・石英	灰	普通	体内外面ロクロナデ、体部外周下端手持ちヘラ削り、底部方回削り	下層	20% PL16
114	須恵器	甕	242	31.7	[15.0]	長石・石英・雲母	黄灰	良好	口部内外面ロクロナデ、体内外面順位の平行削り、体部外周下端ヘラ削り、内面輪襷、拍置削	下層～中層	50% 内外面 [11.0]・9粒・5粒

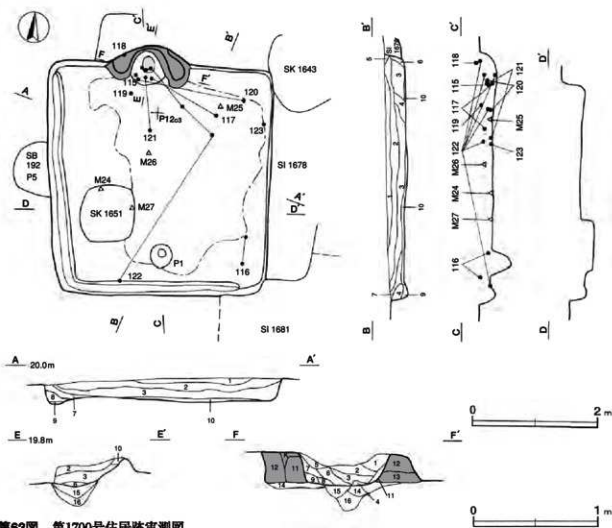
第1700号住居跡 (第63～65図)

位置 調査区南東部のP12c3区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1678号住居跡・第192号掘立柱建物跡をそれぞれ掘り込み、第1681号住居跡・第1643・1651号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.66m、短軸3.34mほどの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は18～30cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、竈の手前から出入り口施設にかけて硬化しており、特に北東コーナー部はよく踏み固められている。壁溝が北壁と東壁を除いて確認され、幅20cm、深さは5～8cmで、断面形はU字状を呈している。



第63図 第1700号住居跡実測図

竈 北壁のやや西寄りに付設されており、焚口部から煙道部まで65cm、袖幅130cm、壁外への掘り込みは25cmほどである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は40cmほど掘りくぼめた部分にローム土を主体とする暗褐色の土を床面と同じ高さまで埋め戻して構築されており、火床面は熱を受けて赤硬化している。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|--------|---------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、砂質粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・灰少量、炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | | |
| 9 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量 | | |

ピット P1は竈に向かい合う位置にあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

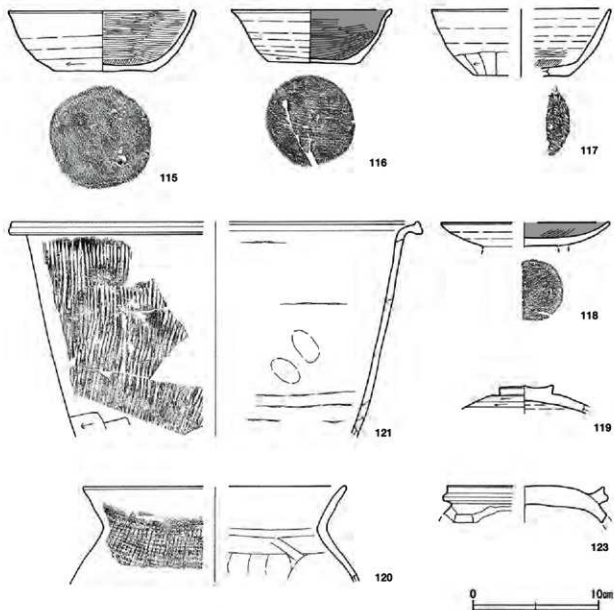
覆土 10層に分けられる。暗褐色土と褐色土からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

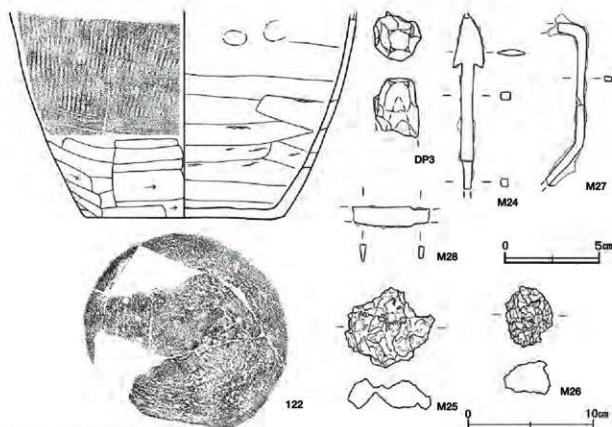
- | | | | | | |
|-------|---|---------------------|-------|---|-----------------------|
| 1 褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 7 褐色 | 色 | ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | 色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 褐色 | 色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | 色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | 色 | ローム粒子少量 |
| 5 褐色 | 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 10 褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片263点（坏51，高台付碗1，高台付皿5，甕205，瓶1），須恵器片123点（坏46，高盤1，蓋1，鉢1，甕70，瓶3，円面硯1），土製品1点（不明），鉄製品4点（鏝1，刀子1，鉄滓2），陶磁器片5点（碗）が竈内と北東コーナー部を中心に散在して出土している。遺物の大半は覆土の下層から中層にかけて出土している。115・118は竈内の覆土下層から中層にかけて正位で出土しており，加熱痕は認められない。119は竈前面の覆土中層から出土している。また，116は南東コーナー部の覆土下層，120・123は北東コーナー部の床面から覆土下層にかけてそれぞれ出土している。117・121は竈内の覆土下層から出土していることから，遺棄されたものが天井部とともに埋没したものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。本跡の西側に隣接する第1686・1698号住居跡と主軸方向が類似していることから，両跡は同時期に存在したことが想定される。本跡からの円面硯の出土は，集落内における文書行政の一端を示唆するものといえる。また，本遺跡で確認された円面硯は12点にのぼり，当調査区からは，平成10年度調査の第1091号住居跡と第76号溝跡から出土している。



第64図 第1700号住居跡出土遺物実測図(1)



第65図 第1700号住居跡出土遺物実測図(2)

第1700号住居跡出土遺物観察表 (第64・65図)

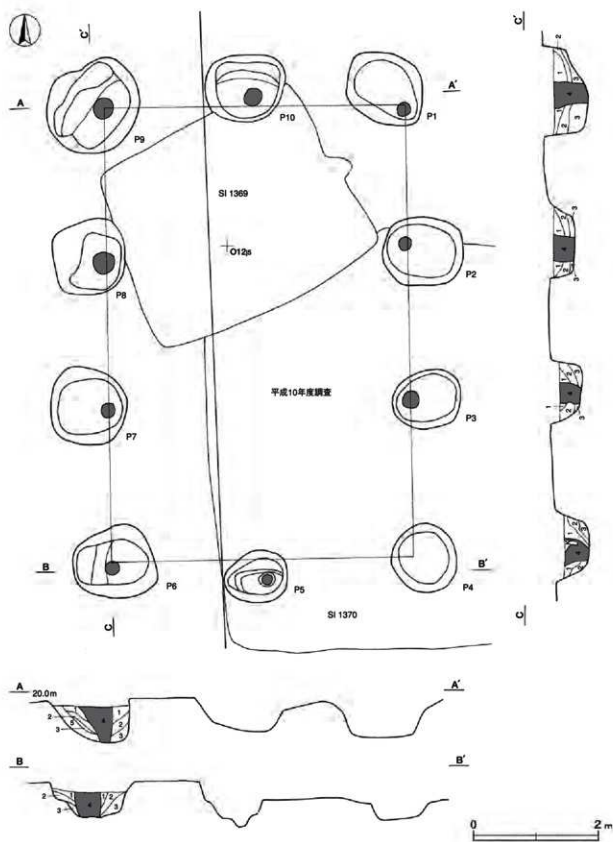
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
115	土師器	環	14.6	4.9	7.8	長石・石美	橙	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下層回転ヘラ削り、内面磨き、底面下方ヘラ削り	罐内	100% PL16
116	土師器	環	12.6	4.4	7.0	長石・石美・雲母	ぶい暗	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下層回転ヘラ削り、内面磨き、底面一方ヘラ削り	下層	80% PL16
117	土師器	環	[14.2]	5.3	(7.6)	長石・石美	赤褐	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下層手持ちヘラ削り、内面磨き、底面一方ヘラ削り	罐内	20%
118	土師器	直筒壺	[13.4]	(2.0)	-	長石・石美	橙	普通	体部外面ロクロナデ、内面磨き	罐内	30% PL18
119	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・石美・雲母	灰	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	中層	20%
120	須恵器	甕	[20.8]	(7.5)	-	長石・石美・雲母・小礫	ぶい暗	不良	口辺部内外面磨ナデ、体部外面縦位の平行引き、底面不削ヘラナデ	床面～下層	10%
121	須恵器	鉢	[32.4]	(17.0)	-	長石・石美・雲母	ぶい暗	普通	口辺部内外面磨ナデ、体部外面縦位の平行引き、体部外面下層ヘラ削り、内面磨き・指差磨	罐内	10%
122	須恵器	甕	-	(16.4)	15.8	長石・石美・雲母	ぶい暗	不良	体部外面縦位の平行引き、体部外面下層ヘラ削り、底面ヘラナデ、指差磨・指差磨	罐内	30%
123	須恵器	円皿	[12.4]	(2.9)	-	長石・石美・小礫	灰	普通	縦面ナデ、基部・縁部ナデ	床面	30% 両面・底面磨削 円皿

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	不明	(3.2)	2.5	-	(13.9)	土製	ナデ	覆土中	
M24	鐵	(9.2)	1.7	0.5	(11.6)	鐵	長三角形、両丸造、両側、脇挟有り	床面	PL23
M25	洋	6.5	7.1	2.3	61.6	砂鉄他	着磁性有り、外面焼土付着	下層	
M26	洋	4.7	3.8	2.7	42.3	砂鉄他	着磁性有り、外面焼土付着	中層	
M27	釘	(8.5)	0.5	0.3	(14.3)	鐵	脚部屈曲	床面	PL24
M28	刀子	(4.1)	1.0	0.3	(3.9)	鐵	刃先部・基部欠損、両側	覆土中	

(2) 掘立柱建物跡

第91号掘立柱建物跡 (第66・67図)

位置 調査区東部のO125区、標高20mほどの西へ傾斜する台地の縁辺部に位置している。本跡の東半部は平成10年度に調査が終了している。



第66図 第91号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第1369・1370号住居跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、N-0°を桁行方向とする南北棟である。規模は桁行7.20m、梁行4.80mで、面積は約34.56㎡である。柱間寸法は桁行・梁行ともに2.40mを基調としている。柱筋はP5を除いて桁行・梁行ともほぼ揃って均等に配されている。

柱穴 10か所。平面形はP4・P7が円形で、その他は楕円形を呈している。規模は、長径105～150cm、短径80～145cmであり、深さは28～74cmで、西側の桁行に深い傾向がある。断面形は逆台形を基調としているが、P5は二段掘りとなっている。柱痕跡は土層断面図中の第4層が相当し、推定される柱の太さは40cmほどで、今年度調査区のすべての柱穴の底面から、柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色土・褐色土で版築状に互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1 層	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	4 層	色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 層	色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	5 層	色	ロームブロック多量
3 層	色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片30点（坏4、甕26）、須恵器片17点（坏4、蓋1、甕10、長頸瓶1、盤1）、鉄洋1点、磁器片1点（不明）、陶器片1点（1点）が出土している。128はP9の埋土から出土しており、内外面の摩耗が著しい。また、TP6・7はそれぞれP6・P7の埋土から出土している。

所見 本年度調査区からは、時期判断に相当する遺物の出土は少なかったが、東半部は平成10年度に調査が終了しており、良好な資料が出土している。規模や形状から見て、倉庫的建物と考えられる。廃絶時期は、須恵器の盤と斜位の平行明きが施されている須恵器片が出土していることから、9世紀前葉以後と考えられる。



第67図 第91号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第91号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第67図）

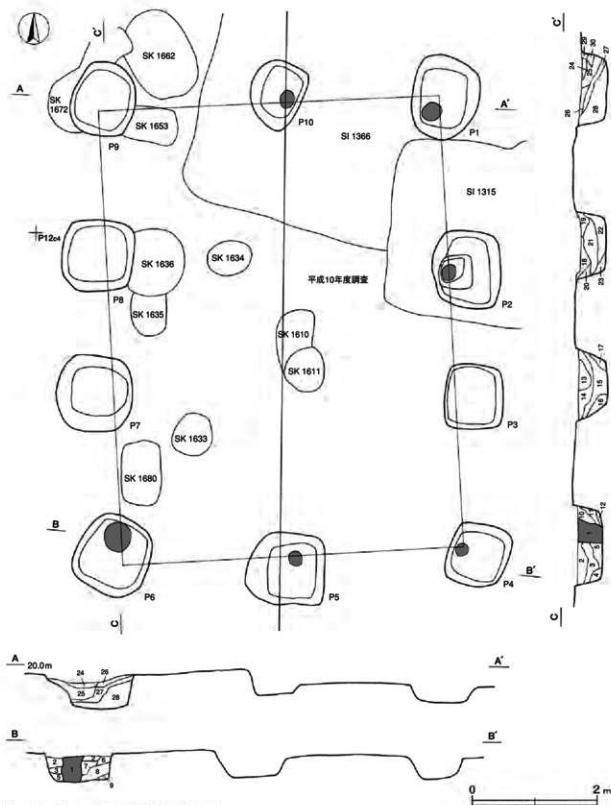
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
128	須恵器	甕	-	(29)	[8.8]	長石・石英・雲母	黒褐	不良	体部外面下縁回転ヘラ削り	P9埋土	5%
TP6	須恵器	甕	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面斜位の平行明き・体部内面ヘラナデ	P6埋土	5%
TP7	須恵器	甕	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面斜位の平行明き	P7埋土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M32	洋	2.1	1.6	1.2	3.8	鉄	外面焼土付着	P8埋土	

第115号掘立柱建物跡（第68・69図）

位置 調査区東部のP12c4区、標高20mほどの西へ傾斜する台地の縁辺部に位置している。本跡の東半部は平成10年度に調査が終了している。

重複関係 第1366号住居跡と第1636・1653・1672号土坑をそれぞれ掘り込み、第1315号住居跡に掘り込まれて



第68図 第115号掘立柱建物跡実測図

いる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、N-4'-Wを桁行方向とする南北棟である。規模は桁行7.20m、梁行5.40mほどで、面積は約38.88㎡である。柱間寸法は桁行2.40m、梁行2.70mを基調としている。柱穴 10か所。平面形は、隅丸方形ないし楕円形を呈している。柱穴の規模は、長径100~135cm、短径90~

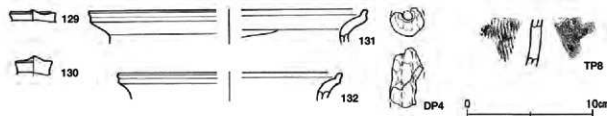
120cmで、深さは32～60cmであり、断面形は逆台形である。柱痕跡は土層断面図中の第1層が相当し、P6で明瞭に確認されている。推定される柱の径は30～40cmで、その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色土・極暗褐色土が互層をなし、強く突き固められている。

土層解説（各柱穴共通）

1	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	17	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	18	褐色	ローム粒子少量
3	極暗褐色	ロームブロック少量	19	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	21	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	22	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	23	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック多量	24	暗褐色	ロームブロック微量
9	褐色	ロームブロック多量	25	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
10	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	26	褐色	ロームブロック微量
11	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	27	褐色	ローム粒子中量
12	暗褐色	ローム粒子少量	28	褐色	ローム粒子多量
13	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	29	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
14	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	30	暗褐色	ロームブロック微量
15	褐色	ローム粒子中量			
16	褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量			

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片49点（坏3，高台付坏1，甕45），須恵器片17点（坏8，蓋2，鉢1，甕6），土製品1点（管状土錘）が出土している。131・132はP7の抜き取り痕跡から出土し、内外面の摩耗が著しい。また、129はP9の抜き取り痕跡、130はP8の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本年度調査区からは、時期判断できる遺物の出土は少なかった。東半部は平成10年度に調査が終了している。規模や形状から見て、倉庫の建物と推定され、廃絶時期は出土土器の形状から、9世紀前葉以前と考えられる。また、本跡の北側には桁行方向や規模を揃えた第91号掘立柱建物跡が位置し、同時期に機能していた可能性が高い。



第69図 第115号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第115号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
129	須恵器	甕	—	(0.9)	—	長石・石英・雲母	灰	良好	つまみ接合後ロクロナデ	P9抜き取り遺跡	5%
130	須恵器	甕	—	(1.4)	—	長石・石英・雲母	灰白	良好	つまみ接合後ロクロナデ	P8埋土	5%
131	土師器	甕	[22.0]	(2.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ	P7抜き取り遺跡	5%
132	土師器	甕	[17.6]	(2.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内外面横ナデ	P7抜き取り遺跡	5%
TP8	須恵器	鉢	—	(3.6)	—	長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行引き	P10埋土	5%

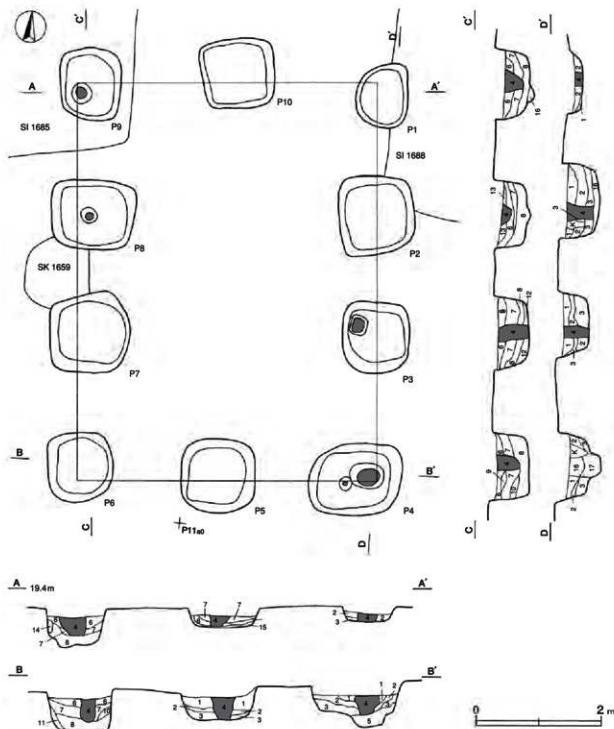
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	管状土錘	(2.7)	(4.8)	0.8	(13.2)	土(石英・雲母)	外面ヘラナデ、明褐色を呈する	P7埋土	

第189号掘立柱建物跡 (第70・71図)

位置 調査区北部のO11j0区、標高19mほどの南にやや傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1685・1688住居跡と第1659号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、 $N-5^{\circ}-W$ を桁行方向とする南北棟である。規模は桁行6.30m、梁行4.80mで、面積は約30.24㎡である。柱間寸法は桁行2.10m、梁行2.40mを基調としており、各柱穴はほぼ均等に配されている。また、P3・4・8・9の底面からは径20cmほどの柱のあたりが確認されている。



第70図 第189号掘立柱建物跡実測図

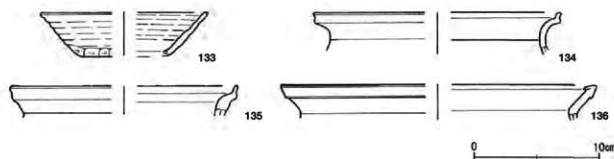
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形ないし楕円形を呈している。規模は、長径100～145cm、短径90～125cmで、深さは30～72cmである。南北梁行の中間柱にあたるP5・P10は深さ35cm前後で、掘方の規模の割には浅く、断面形は逆台形である。柱抜き取り痕跡は、土層断面図中の第16・17層が相当し、しまりが弱い。P1・P3・P7の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の太さは20cmほどであり、その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色土と褐色土で互層をなし、強く突き詰められている。

土層解説（各柱穴共通）

1	暗褐色	ローム粒子・炭化物微量	9	褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5	褐色	ロームブロック中量	13	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック中量
7	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	15	褐色	ロームブロック中量
8	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子少量
			17	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片195点（坏21、甕174）、須恵器片83点（坏25、高台付坏1、甕57）、灰陶器片4点（高台付椀）、礫1点が出土している。133・134・135はP4の抜き取り痕跡、136はP5の埋土からそれぞれ出土している。遺構の重複が著しく、遺物の大半は混入したものと考えられる。

所見 規模や形状から見て、倉庫的建物と推定される。廃絶時期は、出土土器と重複関係から9世紀後葉以前と考えられる。また、本跡の東側に第193号掘立柱建物跡、西側に第196号掘立柱建物跡がほぼ10mの間隔で並列しており、同時期に機能していたと推測される。



第71図 第189号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第189号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第71図）

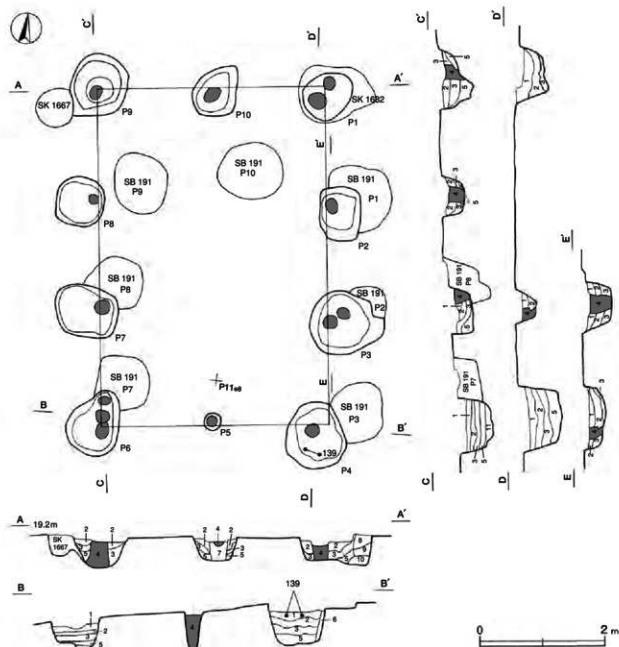
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
133	須恵器	坏	[13.2]	3.5	[7.0]	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部内外面ロケロナデ、体部外面下縁手すりへつ削り	P4抜き取り痕跡	15%
134	土師器	甕	[19.4]	(3.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶ黄	普通	口辺部横ナデ	P4抜き取り痕跡	5%
135	土師器	甕	[18.0]	(2.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶ黄	普通	口辺部横ナデ	P4抜き取り痕跡	5%
136	須恵器	甕	[24.8]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	口辺部横ナデ、口縁部内縁折り返し	P5埋土	5%

第190号掘立柱建物跡（第72・73図）

位置 調査区南西部のP11d7区、標高19mほどの南西にやや傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1682号土坑と第191号掘立柱建物跡を掘り込み、第1667号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の簡柱式建物跡で、N-7'-Wを桁行方向とする南北棟である。規模は桁行約5.10m、梁行3.60mほどで、面積は約18.36㎡である。柱間寸法は桁行、梁行とも1.80mを基調としている。柱筋はP4を除いて桁行・梁行ともほぼ揃って均等に配されている。



第72図 第190号掘立柱建物跡実測図

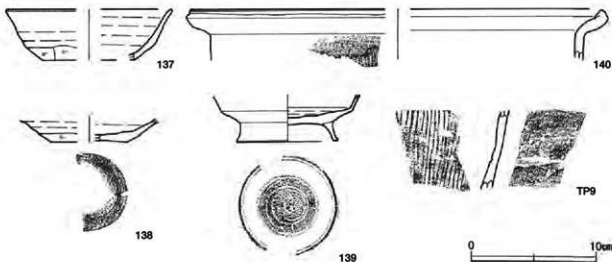
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形ないし楕円形を呈している。規模は、長径100~120cm、短径80~95cmで、深さは35~68cmであり、P5は他の掘方と比べると規模が小さい。断面形は、U字形、逆台形、二段掘りなど様々で、柱の建て替えが行われた痕跡が認められる。P1・P2・P5・P8・P9の土層断面からは明瞭に柱痕跡が確認され、推定される柱の径は20~30cmである。また、すべての掘方の底面から柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色土・褐色土で版築状に互層をなし、強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量 |
| | | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片52点(坏11, 高台付碗1, 甕40), 須恵器片55点(坏17, 高台付坏5, 甕33)が埋土を中心に出土している。137はP 8の埋土, 138はP 7の埋土からそれぞれ出土している。139は, P 4の覆土上層から出土した2片が接合したものである。また, 140はP 6の埋土, TP 9はP 1の埋土からそれぞれ出土している。

所見 柱穴の掘方はしっかりして, 欄柱式の建物構造から, 穀物類の収納施設と想定される。また, 本跡は第191号掘立柱建物跡をほぼ建て替えたものと推定される。構築時期は, 遺物の出土状況と土器の形状・重複関係から, 9世紀中葉以降と考えられる。さらに, 東側には第1698号住居跡が隣接しており, 関連がうかがえる。



第73図 第190号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第190号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
137	土師器	坏	[130]	4.0	[7.4]	長石・石英・ 高嶺土	赤褐	普通	体部内外面ロクロナデ, 体部外面下端手持らへつ磨り	P 8埋土	10%
138	須恵器	坏	—	(1.8)	[6.2]	長石・雲母	褐灰	普通	体部内外面ロクロナデ, 体部外面下層回転へつ磨り, 底部回転へつ磨り	P 7埋土	20%
139	須恵器	高台付	—	(3.7)	8.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転へつ切り後高台貼り付け	P 4上層	40%
140	須恵器	甕	[32.6]	(4.0)	—	長石・石英・雲母	褐灰	良好	口縁部内側折り返し, 体部外面縦位の平行叩き	P 6埋土	5%
TP9	須恵器	甕	—	(6.2)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面縦位の平行叩き, 内面輪積痕	P 1埋土	5%

第191号掘立柱建物跡 (第74・75図)

位置 調査区南西部のP11d8区, 標高19mほどの南西にやや傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1698号土坑を掘り込み, 第190号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の欄柱式建物跡で, N-4'-Wを桁行方向とする南北棟である。規模は桁行5.40m, 梁行3.60mほどで, 面積は約19.44㎡である。柱間寸法は桁行・梁行ともに1.80mを基調としている。柱筋はやや不揃いである。

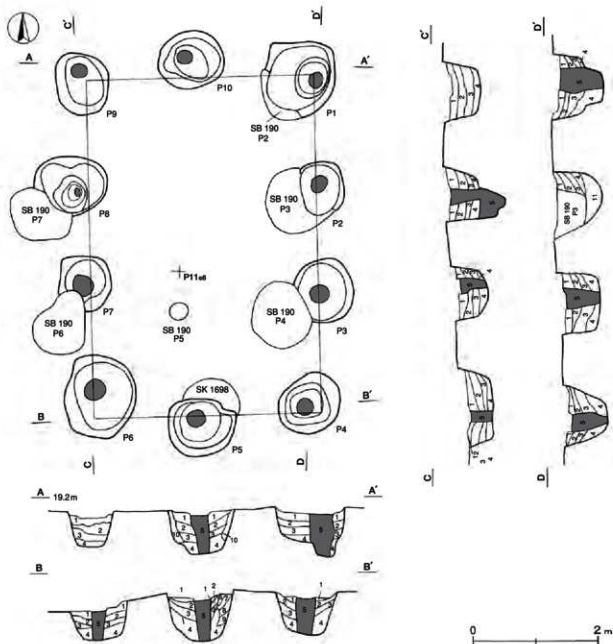
柱穴 10か所。平面形はP 3・P 10が円形で, その他は楕円形を呈している。規模は, 長径100~130cm, 短径85~100cm前後が多く, 深さは56~95cmである。断面形はU字形, 逆台形, 二段掘り込みなど様々である。また, 多くで掘方に乱れがあり, 柱の建て替えが行われた痕跡が認められる。柱痕跡は土層断面图中的第5層が相当し, P 2・P 9を除いて柱痕跡が明瞭に確認され, 推定される柱の径は20~30cmである。また, すべての掘方の底面から柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土であり, ローム土を主体とした暗褐色や褐色土で互層をなしているが, 強く突き固められてはいない。

土層解説 (各柱穴共通)

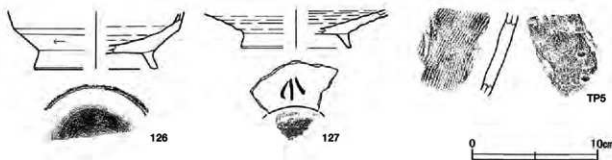
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームアブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームアブロック中量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 | 10 暗褐色 | ロームアブロック中量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームアブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片48点(坏7, 甕41), 須恵器片45点(坏29, 蓋2, 高台付坏1, 甕11, 釥2), 鉄滓1点が出土している。126はP8の埋土から出土しており, 内外面の摩耗が著しい。127はP6の埋土から出土しており, 体部外面に判読不明な墨書がされている。また, TP5はP5の埋土から出土している。

所見 規模や形状から, 穀物類などを納める倉庫的建物と思われる。時期は, 埋土出土の遺物から, 8世紀後葉以降に構築され, 9世紀中葉に廃絶されたと考えられる。その後, 本跡は第190号掘立柱建物跡へと建て替えられたと考えられる。また, 東側には第1353号住居跡が隣接しており, 同時期に存在したと想定される。



第74図 第191号掘立柱建物跡実測図



第75図 第191号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第191号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
126	須恵器	甕	(4.6)	[9.8]	[8.6]	長石・石英	褐色	普通	体形外面下部回転へつ削り、底部回転へつ削り後高台盛り付け	P 8 埋土	80%
127	須恵器	甕	(3.1)	[8.6]	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体形内外面ロクロナデ、底部回転へつ削り後高台盛り付け	P 6 埋土	5% 墨書
TP5	須恵器	甕	(6.6)	(6.6)	(6.6)	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部斜位の平行叩き、内面輪襷痕	P 5 埋土	5%

第193号掘立柱建物跡 (第76図)

位置 調査区北東部のO12g3区、標高20mほどの南へやや傾斜する台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第1676号住居跡と第1619・1620・1631・1648号土坑を掘り込み、第1679号住居跡に掘り込まれている。

規模と構造 北東部が調査区域外のため全体の規模は不明であるが、P 8 が確認されたことから、桁行3間、梁行2間の側柱式建物跡で、N-6'-Wを桁行方向とする南北棟と想定される。規模は桁行6.30m、梁行3.90mほどで、柱間寸法は桁行2.10m、梁行1.80m・2.10mと間尺が異なり、変則的な構造と考えられる。

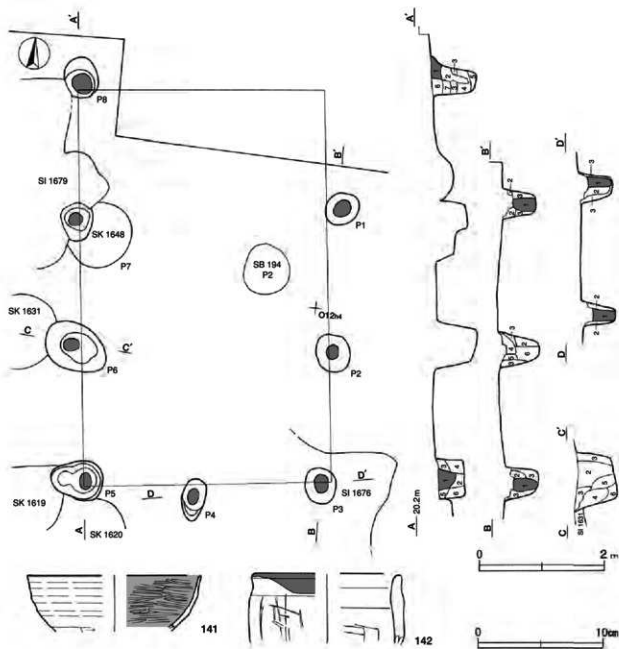
柱穴 8か所。平面形は円形もしくは楕円形を呈している。規模は、長径55~95cm、短径40~75cmで、規模が小さく、深さは50~73cmで、断面形はU字形を呈している。P 1・P 3・P 4からは柱痕跡が明瞭に確認されており、推定される柱の太さは20cmほどである。P 3の土層断面からは、抜き取り痕跡の部分で再度掘り込んだ様子が認められ、すべての掘方の底面から柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色や褐色土で埋め戻されており、強く突き固められてはいない。土層断面から比較的粗雑な埋め戻しが行われている痕跡が観察できる。

土層解説 (各柱穴共通)

1	暗褐色	ロームブロック微量	5	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量	6	灰褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量	7	褐色	ロームブロック多量
4	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片17点(坏3、甕14)、須恵器片4点(坏1、甕3)、鉄滓2点が出土している。141はP 7の抜き取り痕跡、142はP 6の抜き取り痕跡からそれぞれ出土している。

所見 掘方などから推定された柱の規模は、古代の他の掘立柱建物跡と比較して小さい。廃絶時期は、出土土器や重複関係などから9世紀後葉以前と推定される。



第76図 第193号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第193号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
141	土師器	環	[13.8]	(4.6)	-	長石・雲母・ 茶色砂子	いぶろ	普通	体部外面ロクロナデ、内面磨き	D7 取り戻後	20%
142	須恵器	甕	[11.3]	(5.5)	-	長石・石英	灰黄陶	普通	口辺部内外面横ナデ	D6 取り戻後	5% 口辺 部僅付着

第194号掘立柱建物跡（第77図）

位置 調査区北東部のO12g4区、標高20mほどの南にやや傾斜する台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第1257号住居跡に掘り込まれている。

規模と構造 北側が調査区域外のため全体の規模は不明で、東西方向は2間、南北方向は1間だけが確認されている。掘立柱建物跡でN-0'を桁行方向とする南北棟の可能性が高い。規模は確認された部分で桁

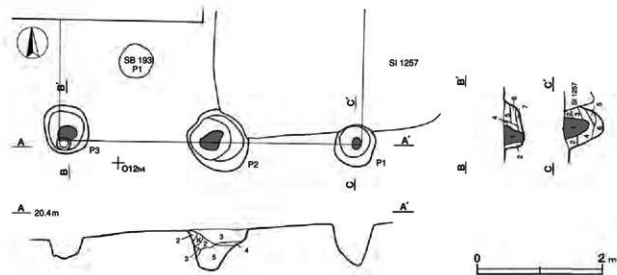
2.10m, 梁行4.80mである。柱間寸法は桁行が不明であるが、梁行は2.40mを基調とし、柱筋はほぼ揃っている。柱穴 3か所。平面形は円形を呈し、長径70~100cm, 短径60~100cmで小規模である。深さは32~67cmで、断面形はU字形や逆台形である。柱抜き取り痕跡は土層断面図中の第1~3層が相当し、締まりが弱い。P3の土層断面からは、抜き取り痕跡の部分を再度掘り込んだ様子が認められ、柱痕跡が明瞭に確認されている。推定される柱の太さは15cmほどで、すべての掘方の底面から柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色や褐色土で埋め戻されており、強く突き固められてはいない。土層から比較的粗雑な埋め戻しを行っていることが観察できる。

土層解説 (去柱穴共通)

1 暗褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック中量	6 暗褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 明褐色	ローム粒子多量		

遺物出土状況 土師器片14点(坏6, 甕8), 須恵器片3点(甕3)が出土している。出土遺物は、すべて細片であり、摩耗が著しい。

所見 遺物が少ないため時期を特定するのは困難であるが、第1257住居跡に掘り込まれていることから、10世紀前半と推定される。



第77図 第194号掘立柱建物跡実測図

第195号掘立柱建物跡 (第78・79図)

位置 調査区南部のP12e2区、標高20mほどの南へ緩やかに傾斜する台地の縁部に位置している。

重複関係 第1353号住居跡を掘り込み、第1686号住居跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の欄柱式建物跡で、桁行方向を $N-8^{\circ}-W$ とする南北棟である。規模は桁行6.30m, 梁行4.20mで、面積は約26.46㎡である。柱間寸法は桁行, 梁行ともは2.10mを基調としている。

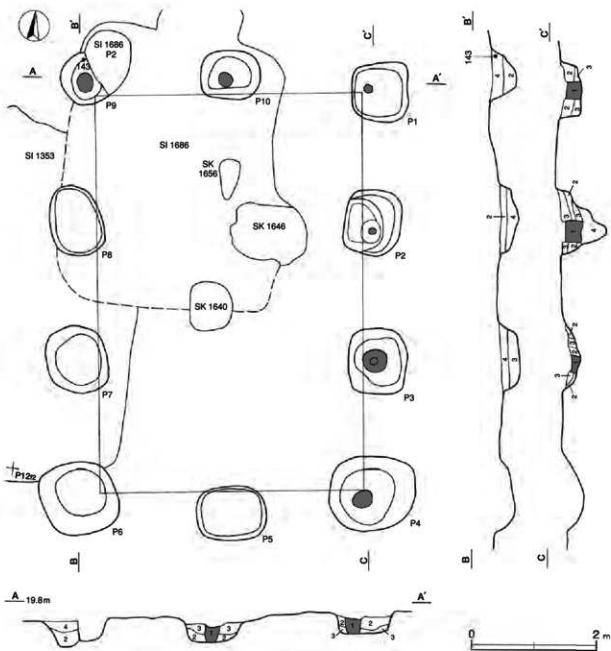
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形もしくは楕円形を呈しており、柱穴の規模は、長径105~110cm, 短径85~95cmである。深さは21~81cmで、断面形はU字形や逆台形を呈している。全体的に掘方の規模の割に浅い傾向にあるが、P2については断面形が二段掘りで掘り込みが深い。P1・P3・P10で柱痕跡が明瞭に確認されており、推定される柱の太さは25cmほどである。P5~P8を除き、底面から柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色や褐色土で埋め戻されて互層をなし、強く突き固められてはいない。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片33点(坏11, 甕22), 須恵器片11点(坏4, 高盤1, 甕3, 瓶1)が出土している。143は第1686号住居跡のP2が掘り込んでいることから, 第1686号住居跡に伴う遺物の可能性が高い。144・145はP1の柱痕跡からそれぞれ出土し, TP10はP3の埋土から出土している。

所見 掘方は浅いが, 形状や推定される柱の径から想定して, 軽量なものを保管した簡易な倉庫の建物と考えられる。時期は, 出土土器の形状と重複関係から9世紀前葉と考えられる。本跡の西側に第1698号住居跡, 北側に第1700号住居跡がそれぞれ隣接しており, 同時期に一連の施設として機能していたものと考えられる。



第78図 第195号掘立柱建物跡実測図



第79図 第195号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第195号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
143	土師器	坏	[14.2]	(4.5)	-	長石	浅黄褐色	普通	体部内外面ロクロナテ	P 9 埋土	30%
144	須恵器	高盤	-	(1.9)	[12.4]	長石	灰	普通	外周部ロクロナテ	P 1 柱痕跡	5%
145	須恵器	甕	[27.8]	(3.5)	-	長石・石英	灰	良好	口辺部内外面横ナテ	P 1 柱痕跡	5%
TP10	須恵器	甕	-	(5.3)	-	長石・石英・紫褐色微粒子	褐	普通	体部外面縦位の平行引き、内面ヘラナテ	P 3 埋土	5%

第196号掘立柱建物跡 (第80・81図)

位置 調査区西部のP 11a6区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1692号住居跡と第1691・1718号土坑を掘り込み、第1339・1341・1683号住居跡と第41号井戸跡、第1690・1693・1696号土坑、第197号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の身舎の南側に庇が付属する建物跡で、桁行方向をN-87°-Wとする東西棟である。桁行6.60m、梁行は身舎部で4.50m、庇の部分を含めると6.50mである。柱間寸法は、桁行・梁行ともに2.10~2.40mを基調としている。庇の間も2.10~2.40mほどで、P 11以外は均等に配されている。

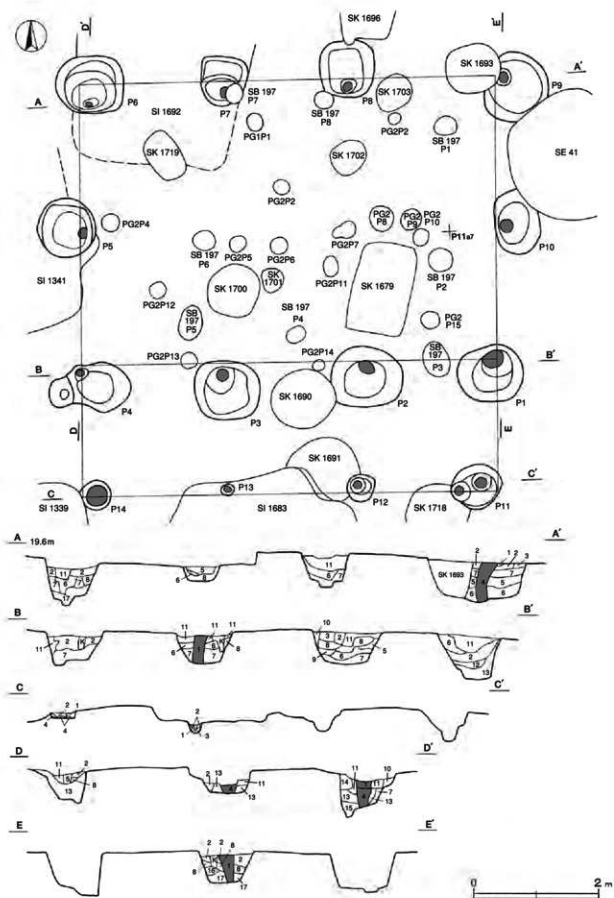
柱穴 14か所。身舎掘方の平面形は隅丸方形もしくは楕円形を呈しており、深さは45~80cmで、四隅の掘方が深い傾向にある。規模は、長径100~115cm、短径90~95cmで、断面形は逆台形や二段掘りなど様々である。庇の平面形は円形を呈し、深さは16~54cmで、断面形はすべてU字形である。全体的に底部の柱穴は小さく、浅い傾向がある。P 3・P 5・P 6・P 9・P 10からは柱痕跡が明瞭に確認されており、推定される柱の太さは20cmほどである。すべての柱穴の底面から、柱のあたりが確認されている。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした暗褐色土や褐色土で互層をなし、強く突き固められている。土層断面図中の第13・15~17層には砂質粘土粒子を含んでおり、掘方の底面に集中している。しかし、いずれも少量のため根固めとは考えられない。

土層解説 (各柱穴共通)

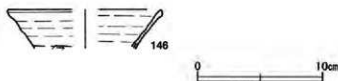
1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	11	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量	13	灰褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量	14	暗褐色	ローム粒子多量
6	褐色	ロームブロック多量	15	褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	16	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
8	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	17	灰褐色	ローム粒子多量、砂質粘土粒子中量
9	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片18点(坏4、甕14)、須恵器片5点(坏2、甕3)が出土している。出土遺物は、すべて細片で、摩耗が著しい。

所見 規模や庇をもつ形状から、倉庫の建物とは異なる建物と考えられる。遺物が少ないため、時期を特定するのは困難であるが、重複関係から見て、9世紀後葉に機能していたものと思われる。



第80图 第196号掘立柱建物跡実測图



第81図 第196号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第196号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第81図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
146	須惠器	坏	[124]	(31)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下端へウダり	P 5 埋土	10%

(3) 井戸跡

第39号井戸跡 (第82・83図)

位置 調査区中央部のP11a8区、標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.42m、短径1.35mの円形である。確認面から円筒状に掘り込まれ、深さ2.8mほど掘り下げた時点で崩落の恐れがあることから、下部の調査を断念したが、ローム層を掘り抜き、さらに白色粘土層も掘り込んでいることが確認された。

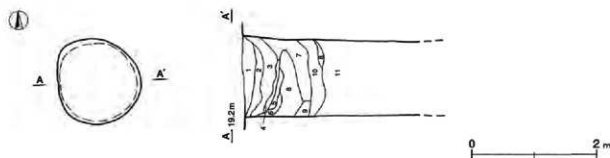
覆土 11層からなる。全体的に軟弱な土質である。第1～3層は焼土粒子や炭化粒子を含んでいるが、周囲からの土砂の流入を示す堆積状況のため、自然堆積と考えられる。第4～11層はブロック状の堆積状況でロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。以下の土層については不明である。

土層解説

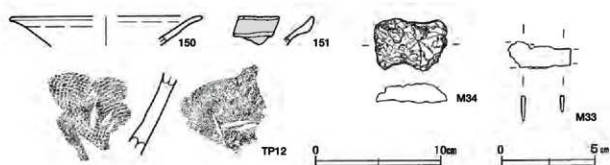
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	9 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・砂微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・砂微量	10 極暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、砂微量	5 におい赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック中量、砂微量
5 におい赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック中量、砂微量	11 暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量、砂粒少量、炭化物微量		
7 黄褐色	砂多量、ロームブロック・焼土ブロック中量		

遺物出土状況 土師器片20点(坏10、高台付碗2、甕8)、須惠器片9点(甕)、磁器片1点(碗)、鉄製品1点(刀子1) 鉄滓1点、巻貝、馬歯が出土している。151は口縁部が玉縁で、覆土中から出土している。また、馬歯は北壁際の覆土中層から出土している。

所見 木枠を持たず地面を掘り下げた素掘りの構造である。遺物が少ないため時期を特定するのは困難であるが、形状や出土土器から10世紀後半と考えられる。馬歯は、第41号井戸跡から馬骨が出土していることと併せて、農耕馬の飼育を裏付けるもので、水に関連した祭祀行為の痕跡とも想定できる。



第82図 第39号井戸跡実測図



第83図 第39号井戸跡出土遺物実測図

第39号井戸跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
150	土師器	甕形横	[15.2]	(2.3)	-	雲母・赤色粒子	にぶい	普通	体部内外面ロクロナテ	覆土中	10%
151	白磁	椀	-	(2.3)	-	緑青	浅黄	良好	口辺部内外面ロクロナテ，体部内外面乳白色無	覆土中	5%
TP12	土師器	甕	-	(6.1)	-	黒石・石末・雲母・赤色粒子	褐	普通	体部外面同心門の当て具痕	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M33	刀子	(3.3)	(1.4)	0.2	(2.4)	鉄	刃先部・基部欠損，片割	覆土中	
M34	鐔	4.2	5.8	1.6	58.5	鉄	着磁体有り，外面焼土付着	覆土中	

第41号井戸跡（第84図）

位置 調査区西部のO11j7区，標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第196号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径2.0mほどの円形である。確認面から0.5mまでは漏斗状，それ以下は径1.1mほどの円筒状に掘り込まれている。深さ1.90mほど掘り下げた時点で崩落の恐れがあることから下部の調査を断念したが，ローム層を掘り抜き，さらに白色粘土層も掘り込んでいることが確認された。

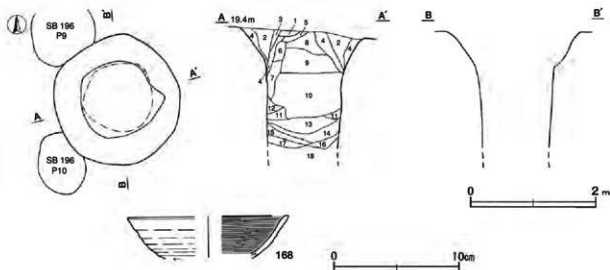
覆土 18層からなる。全体的に軟弱な土質である。ブロック状の堆積状況でロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	10	褐色	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
2	褐色	褐色	ロームブロック中量	11	暗	褐色	ロームブロック少量
3	褐色	褐色	ロームブロック少量	12	黒	褐色	ローム粒子少量
4	暗	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	13	暗	褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
5	暗	褐色	ローム粒子中量	14	暗	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
6	暗	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	15	黒	褐色	ローム粒子中量
7	褐色	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	16	黒	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
8	褐色	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	17	褐色	褐色	ローム粒子中量
9	褐色	褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック微量	18	暗	褐色	ローム粒子少量，炭化物微量

遺物出土状況 馬骨，雲母片岩2点が覆土中から出土している。168は，重複する第196号掘立柱建物跡からの混入と考えられる。

所見 遺物が少ないため，時期を特定するのは困難であるが，第39号井戸跡と隣接しており，共に馬骨が出土している共通性から，両者は密接な関係があると考えられる。いずれも小片で覆土中層から出土し，水に関連した祭祀行為の痕跡と想定される。



第84図 第41号井戸跡・出土遺物実測図

第41号井戸跡出土遺物観察表（第84図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
168	土師器	坏	[12.4]	(3.3)	-	長石・石英	明褐色	普通	体部外面ロケロ十字ア、体部外面下層回転へ少振り、内面微欠	覆土中	10%

第42号井戸跡（第85・86図）

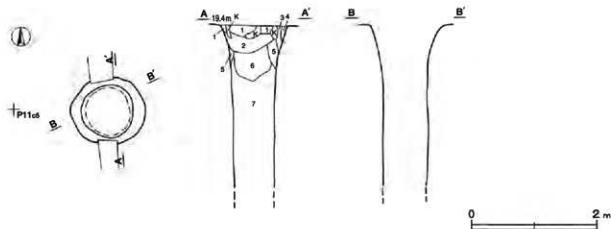
位置 調査区西部のP11b5区、標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.18m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-83°-Wである。確認面から0.5mまでは漏斗状、それ以下は径0.7mほどの円筒状に掘り込まれている。深さ2.6mほど掘り下げた時点で崩落の恐れがあることから、下部の調査を断念したが、ローム層を掘り抜き、さらに白色粘土層も掘り込んでいることが確認された。

覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状態でロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

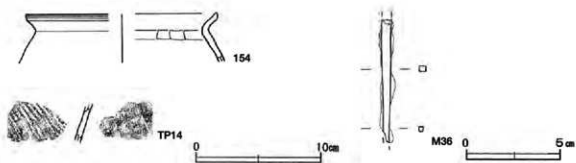
土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 | 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 | 褐色 | ロームブロック少量 | | | |



第85図 第42号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片9点(杯3, 甕6), 須恵器片6点(甕), 鉄製品1点(釘)が覆土中層から出土している。出土土器はいずれも磨減が著しい。154・TP14は覆土中から出土し, いずれも混入した品である。
所見 木杵を持たない素掘りの構造で時期は規模や出土土器の形状から9世紀後葉と考えられる。また本跡の北側には同時期に機能していたと想定される第196号掘立柱建物跡が隣接しており, 両者の関連が想定される。



第86図 第42号井戸跡出土遺物実測図

第42号井戸跡出土遺物観察表 (第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
154	土師器	甕	[15.2]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口辺部内外面横ナデ, 内面ヘラナデ	覆土中	5%
TP14	須恵器	甕	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	体部外面斜位の印	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M36	釘	(6.7)	0.4	0.5	(6.7)	鉄	頭部欠損	覆土中	PL24

(4) 土坑

第1640号土坑 (第87図)

位置 調査区南部のP12e2区, 標高20mほどの南へ緩やかに傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1686号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.80m, 短軸0.64mの隅丸方形で, 長軸方向はN-7°-Wである。深さは24cmで, 底面は皿状を呈し, 壁は外傾して立ち上がっている。

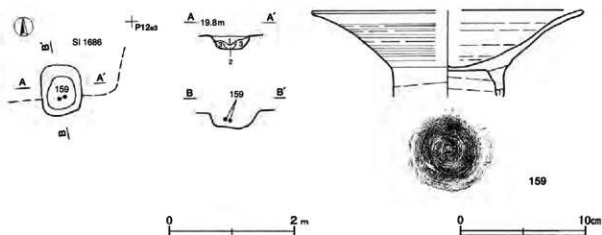
覆土 3層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積で, 埋め戻した痕跡が観察できる。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ローム粒 3 暗 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化
子・焼土粒子・炭化粒子微量 粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片3点(高台付杯1, 高台付碗1, 甕1)が出土している。159は, 中央部の覆土下層から逆位の状態で出土している。

所見 時期は, 出土土器から11世紀前葉と考えられる。第195号掘立柱建物跡の中央に位置し, 形状も似ていることから, 東柱の可能性も想定されるが, 土層断面からは柱痕跡が観察されず, 底面からも柱のあたりが確認できないため, 土坑として扱った。



第87図 第1640号土坑・出土遺物実測図

第1640号土坑出土遺物観察表 (第87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
159	土師器	高台杯	[21.4]	(6.8)	-	長石・石英	にぶ暗	普通	体内外面ロクロナデ、底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	下層	30% PL18

第1641号土坑 (第88・89図)

位置 調査区南東部のP12b2区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第192号掘立柱建物跡と第1678号住居跡を掘り込み、第1612号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.16m、短軸1.00mの隅丸方形で、長軸方向はN-20°-Eである。深さは21cmで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

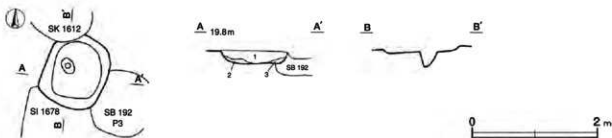
覆土 3層からなり、含有物や堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

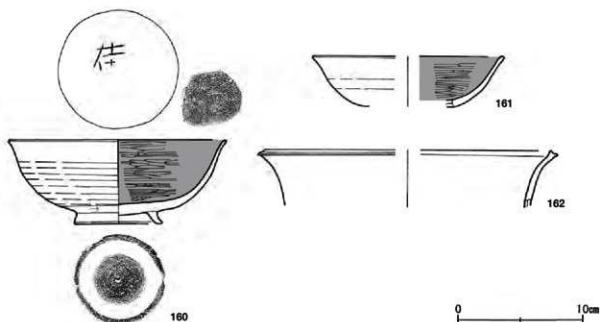
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片36点(坏11, 甕19, 高台付碗6)、須恵器片4点(坏1, 甕3)が出土している。160は、覆土中から出土しており、廃棄されたものと思われる。内面に「在」の刻書があり、焼成後に線刻されたものと思われる。161・162は覆土中からの出土で、人為的に打ち欠いた痕跡があり、細片であることから廃棄もしくは埋め戻しの際に混入したものと思われる。また、覆土中層から上層にかけてはアカハシが少量出土している。

所見 時期は出土土器の形状から、10世紀中葉と考えられる。遺物の出土状況から、廃棄土坑として利用された可能性が高い。また、本跡の3mほど南側には同時期に機能していたと思われる第1681号住居跡があり、両者の何らかの関係が想定される。



第88図 第1641号土坑実測図



第89図 第1641号土坑出土遺物実測図

第1641号土坑出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
160	土師器	鉢・附柄	17.2	6.7	7.0	石灰・雲母・炭化粒子	橙	普通	体部外面ロクロナテ、裏面磨き	覆土中	70% 須恵器 【表】 内装
161	土師器	鉢・附柄	15.0	(4.0)	-	雲母・赤色粒子	灰青	普通	体部外面ロクロナテ、内面磨き	覆土中	10%
162	土師器	壺	22.8	(4.4)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内外面横ナテ	覆土中	5%

第1643号土坑 (第90図)

位置 調査区南東部のP12c1区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1678・1700号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸120m、短軸118mの不整形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは33cmで、底面には若干凸凹が認められ、壁は外傾して立ち上がっている。

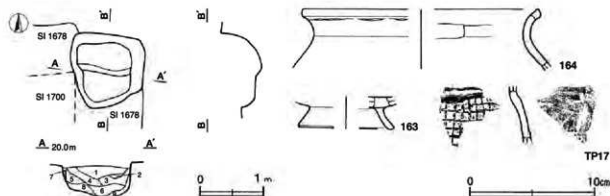
覆土 9層からなり、全体的にロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	6	暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量	7	明褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	8	にがい赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
4	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
5	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片23点(杯3, 高台付碗2, 壺18), 須恵器片12点(杯6, 壺6)が出土している。163・164・TP17は、いずれも覆土中から出土しており、細片で内外面の摩耗が著しい。

所見 時期は出土土器の形状から、10世紀中葉と考えられる。本跡の西側には、第1641号土坑が隣接し、形状・規模・土層が類似しているが、両者の関係は明確ではない。また、3mほど南側には同時期に機能していたと考えられる第1681号住居跡が位置し、両者の何らかの関係が想定される。



第90図 第1643号土坑・出土遺物実測図

第1643号土坑出土遺物観察表 (第90図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	土師器	高台付椀	-	(2.5)	[7.4]	長石・石英	浅黄橙	普通	高台内外面ナデ	覆土中	5%
164	土師器	壺	[18.8]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶ橙	普通	口辺部内外面横ナデ, 内面ヘラナデ, 輪積痕	覆土中	5%
TP17	瓶蓋器	壺	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄靑	普通	体部外面格子叩き, 内面輪積痕	覆土中	5% PL22

第1648号土坑 (第91図)

位置 調査区北東部のO12g3区、標高20mほどの南へやや傾斜する台地の縁部に位置している。

重複関係 第193号掘立柱建物跡と第1679号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.04m、短径0.94mと推定される楕円形で、長径方向はN-28°-Eである。深さは36cmで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

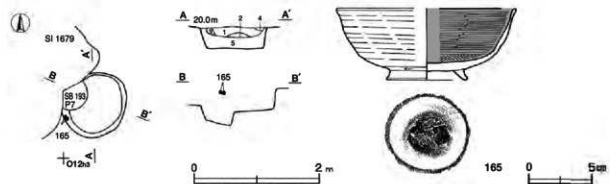
覆土 5層からなる。ローム土を主体とし、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	明褐色	ローム粒子多量
2	黒褐色	ロームブロック少量	5	明褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 覆土上層から、土師器片1点(高台付椀)が細片で出土している。人為的に打ち欠かれた痕跡があることから、廃棄されたものと思われる。

所見 時期は出土土器の形状から、9世紀中葉と考えられる。周辺には大きさや形状の類似した第1620・1644号土坑が位置し、両者の何らかの関連性が想定される。



第91図 第1648号土坑・出土遺物実測図

第1648号土坑出土遺物観察表 (第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
165	土師器	高脚甕	[140]	57	6.2	長石・石英・雲母	いぶ青	普通	体内外側面ロクロナデ、体部外周下端回転ヘラ削り、内面磨毛、底径測定不明	上層	60% PL18

第1668号土坑 (第92・93図)

位置 調査区南部のP11d9区、標高19mほどの南へ緩やかに傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1698号住居跡と第1740号土坑を掘り込んでいる。

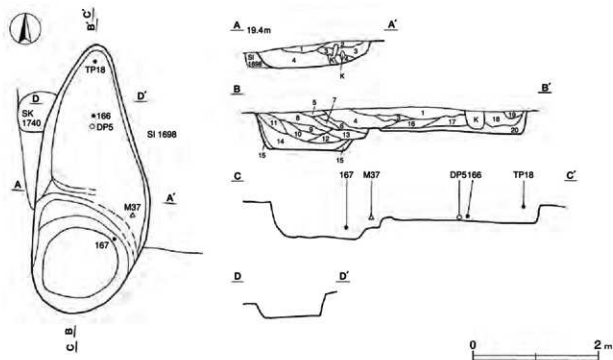
規模と形状 長径4.29m、短径1.82mの南北に長い不整楕円形で、長径方向はN-5°-Eである。深さは28~62cmで、南側ほど深くなり、底面は円形で皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 20層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

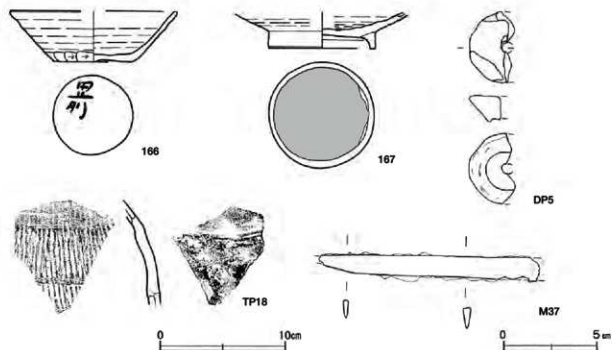
1	暗褐色	色	ロームブロック少量	11	黒色	色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐色	色	ローム粒子中量	12	黒褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	色	ローム粒子多量	13	暗褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	褐色	色	ロームブロック中量	14	黒褐色	色	ローム粒子少量、炭化物微量
5	黒褐色	色	ローム粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	色	ローム粒子中量
6	暗褐色	色	ロームブロック微量	16	暗褐色	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
7	黒褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	17	褐色	色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量
8	黒褐色	色	ロームブロック・炭化物微量	18	暗褐色	色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量
9	黒褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	19	暗褐色	色	ローム粒子微量
10	暗褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量	20	暗褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片57点(環1, 高台付輪1, 莞55), 須恵器片57点(環32, 蓋3, 高台付環3, 高台付盤1, 莞18), 土製品1点(紡錘車), 鉄製品1点(刀子)が出土している。166は、底部に「田前」の墨書があり、覆土下層から出土している。167は覆土下層から出土しており、底部に朱墨痕が観察できることから、甕に転用されたものと考えられる。D P 5は中央部の覆土下層, M37は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。また、覆土下層から中層にかけて細片が多く出土し、いずれも投棄されたものと考えられる。



第92図 第1668号土坑実測図

所見 時期は、9世紀中葉から10世紀後葉と思われる。東側に隣接する第1690・1696号住居跡と出土遺物が類似していることから、同時期に集落の一部を構成していたと考えられる。遺物の大半は破損しており、覆土下層から出土している状況や埋め戻した痕跡が認められ、廃棄土坑として利用された可能性が考えられる。また、「田前」と墨書された須恵器坏は、平成10年度に調査された同10区の第1315号住居跡、平成7年度に調査された7区の第689号住居跡、平成10～11年度に調査された8区の第1236号住居跡からも出土しており、集落の様相をうかがう上での好資料といえる。いずれも9世紀中葉から9世紀後葉にかけての住居であり、本跡の底面から出土した土器と時期が一致している。



第93図 第1668号土坑出土遺物実測図

第1668号土坑出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
166	須恵器	坏	[13.2]	4.0	6.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内外面口クロナデ、体部外周下端手持らへラ磨り、底部一方隅のへラ磨り	下層	60% 墨書 [田前] PL24
167	須恵器	钵	-	(2.9)	8.4	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部内外面口クロナデ、底部回転へラ切り後底面磨り付け	下層	90% 墨書 [田前] PL25
TP18	須恵器	钵	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部縦位の平行叩き、体部内面輪積痕	中層	5% PL22

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	輪軸車	[5.6]	(0.8)	(2.0)	(33.6)	土(長石・石英・雲母)	へラ磨き、円錐台形	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M37	刀子	(11.7)	1.2	0.3	(14.2)	鉄	刃部から基部にかけての破片	下層	PL23

第1683号土坑 (第94図)

位置 調査区中央部のP12a1区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.12m、短径0.88mの楕円形で、長径方向はN-7°-Eである。深さは14cmで、底面は皿状を呈しており、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。

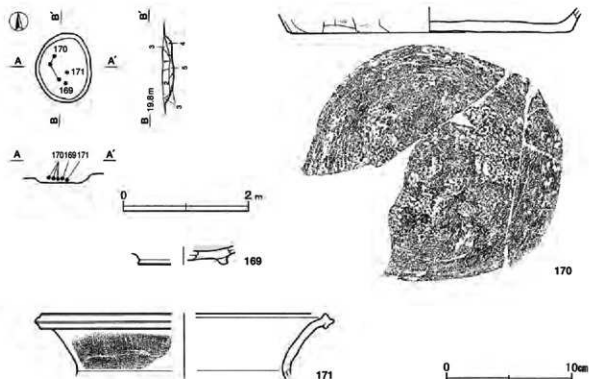
覆土 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 土師器片69点（坏17，高台付碗1，甕51），須恵器片12点（坏4，高台付坏2，甕6）が中央部の覆土中からまとまって出土している。169・170・171は、いずれも破片で出土していることから、廃棄されたものと思われる。遺物の大半は細片で、内外面の摩耗や剥離が著しい。

所見 時期は出土土器の形状から、9世紀後葉と考えられる。性格は、廃棄土坑と思われる。



第94図 第1683号土坑・出土物実測図

第1683号土坑出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
169	土師器	高台碗	-	(1.4)	[7.0]	長石	浅黄橙	普通	底部回転へら切り後高台貼り付け	下層	5%
170	土師器	甕	-	(1.9)	22.4	長石・石英・雲母・炭化粒子	明褐色	普通	底部外面下端へら削り	下層	10%
171	須恵器	甕	[22.6]	(5.2)	-	長石・石英	灰	良好	口辺部内外面横子デ、胴部外面縦位の平行削き	下層	5%

第1709号土坑（第95図）

位置 調査区南西部のP11e6区、標高19mほどの南西へやや傾斜する台地上に位置している。

規模と形状 大半が調査区域外に延びているため、南北軸3.12m，東西軸1.22mが確認できただけである。形状は不定形で、長軸方向はN-3°-Eと推定される。深さは82cmで、底面には凸凹が認められ、壁は北側に向かって緩やかに階段状に立ち上がっている。

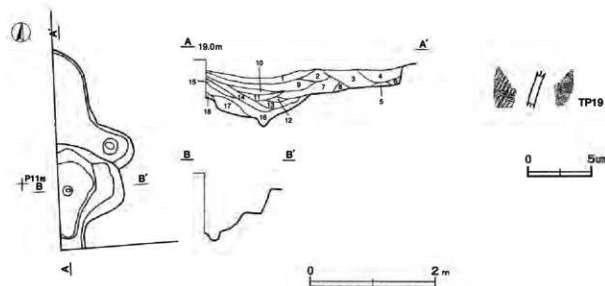
覆土 18層からなる。各層にロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	10	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	粘土ブロック・ローム粘土中量	11	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量	12	暗褐色	ローム粘土中量
4	黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量	13	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック中量	14	暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量
6	明褐色	ローム粒子多量	15	暗褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子少量
7	黒褐色	ロームブロック中量	16	暗褐色	粘土ブロック多量、ローム粘土中量
8	暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量	17	黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
9	黒褐色	ロームブロック少量	18	黒褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片11点(坏4, 高台付碗1, 甕6), 須恵器片5点(坏3, 甕2)が出土している。TP19は覆土中から出土している。出土した遺物はすべて細片で、摩耗や剥離が著しい。

所見 不定形で底面に凸凹が認められ、層位の大半が粘土ブロックを含み、遺物がほとんど出土していないことから、性格は粘土探掘坑と考えられる。時期は、斜位の平行叩きが施された須恵器片が出土していることから、8世紀以前に機能していたと思われる。



第95図 第1709号土坑・出土遺物実測図

第1709号土坑出土遺物観察表 (第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
TP19	須恵器	甕	-	(29)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	5%

第1743号土坑 (第96図)

位置 調査区北東部のO12g2区、標高20mほどの南へやや傾斜する台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第1679号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.58m、短径0.46mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。深さは24cmで、底面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

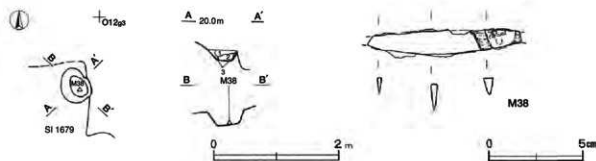
覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	3	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 鉄製品1点(刀子)が底面から出土している。

所見 刀子は、本跡と重複している第1679号住居に伴う遺物の可能性もある。時期は不明である。



第96図 第1743号土坑・出土遺物実測図

第1743号土坑出土遺物観察表 (第96図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M38	刀子	(8.1)	1.2	0.3	(8.5)	鉄	刃部から基部にかけての破片, 片側	底面	PL23

4 中世の遺構と遺物

中世の方形竪穴遺構2基, 井戸跡1基, 土坑2基を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 方形竪穴遺構

第29号方形竪穴遺構 (第97図)

位置 調査区西部のO11i5区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.08m, 短軸1.78mの長方形で, 主軸方向はN-73°-Eである。壁高は8~30cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。西部はスロープ状に立ち上がっている。西壁際に一部硬化面が見られる。

ビット 8か所。いずれも性格は不明であるが, P6・P7が長軸線上に並び, 深さは20cm前後である。

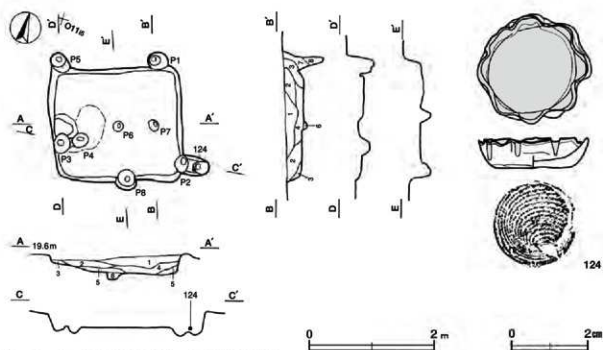
覆土 8層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂	6 黒褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	質粘土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片36点(坏21, 高台付坏1, 甕14), 須恵器片10点(坏1, 盤1, 甕8), 陶器1点(入子)が出土している。124は, 南東部コーナー付近のP2内から出土している。その他の遺物の大半は細片であり, 器面の摩耗が著しい。

所見 入子の他に図示できる遺物がないため断定はできないが, 時期は入子の形状が体部上方の8か所を外側からハラで押さえた輪花形であることから, 13世紀中葉以降と考えられる。また, 床面の一部に硬化面は認められるが, 火の使用は確認されず, 生活の痕跡は見られない。西側のスロープは出入口部と考えられる。



第97図 第29号方形竪穴遺構・出土物実測図

第29号方形竪穴遺構跡出土遺物観察表 (第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
124	古瀬戸陶器	入子	2.9	0.8	2.1	長石・石英	にぶい褐色	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り	P2内	100%

第30号方形竪穴遺構 (第98図)

位置 調査区西部のP11c5区、標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.44m、短軸2.06mの長方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は12~86cmで、直立している。

床 床面はほぼ平坦で、南部はスロープ状に立ち上がっており、硬化している。

ビット 2か所。いずれも平面形は径25cmほどの円形を呈している。P1は深さ16cm、P2は深さ15cmで、長軸線上に並んでいる。

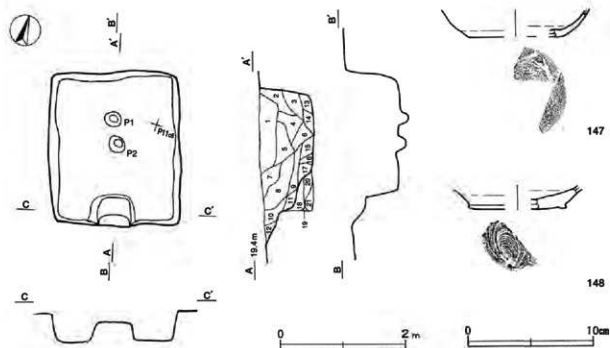
覆土 21層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。なお、土層断面図の18~21層は、スロープを断ち割ったものである。

土層解説

1	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	11	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化物少量
2	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	12	褐色	ロームブロック中量
3	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	13	褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	14	にぶい褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子中量
5	暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量	15	にぶい褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	16	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量	17	暗褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子少量
8	黒褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	18	にぶい褐色	粘土ブロック中量
9	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	19	褐色	粘土ブロック多量
10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	20	にぶい褐色	粘土ブロック多量
			21	にぶい褐色	粘土大ブロック多量

遺物出土状況 土師器片34点(坏20, 甕14)、須恵器片13点(甕)が出土している。147・148は覆土中からの出土である。また、須恵器片のほとんどは覆土上層からの出土であり、混入したものである。

所見 遺構内で火を使用した痕跡は確認されていない。また、床面が硬化していないことや日常雑器の出土がないことから、日常的に使用された遺構ではないと考えられるが、スロープ状の立ち上がりは、硬化しており、出入口と考えられる。時期は、規模や出土土器の形状から、11世紀前葉以降と考えられる。



第98図 第30号方形堅穴遺構・出土物実測図

第30号方形堅穴遺構跡出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
147	土師器	坏	-	(2.2)	[7.4]	茶石・石英・炭化粒子	橙	普通	体部内外面ロクロナデ	覆土中	10%
148	土師器	坏	-	(1.9)	[7.8]	石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ，底部回転糸切り	覆土中	10%

(2) 井戸跡

第40号井戸跡（第99図）

位置 調査区西部のP11a7区、標高19mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.36m、短径1.78mの楕円形である。確認面から0.6mまでは漏斗状、それ以下は径1.0mほどの円筒状に掘り込まれている。深さ1.7mほど掘り下げた時点で崩落の恐れがあることから、下部の調査を断念したが、ローム層を掘り抜き、さらに白色粘土層も掘り込んでいることが確認された。

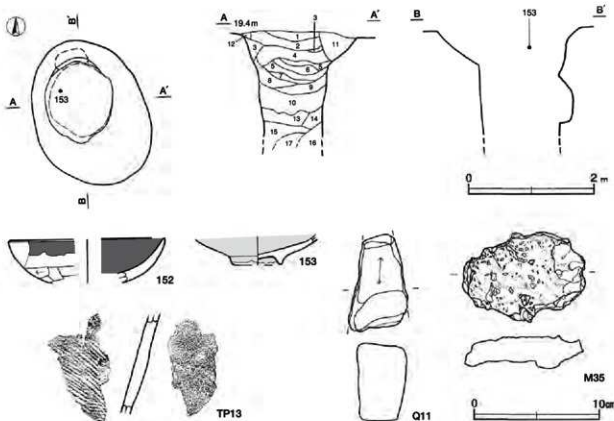
覆土 17層からなり、全体的に軟弱な土質である。ブロック状の堆積状況でロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	10	黒	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量
2	黒	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	11	黒	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子微量
3	黒	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	12	暗	褐色	ローム粒子少量
4	黒	褐色	ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量	13	黒	褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
5	黒	褐色	ローム粒子少量，炭化物微量	14	暗	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
6	にぶい	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	15	黒	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
7	黒	褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	16	黒	褐色	焼土粒子・炭化材少量，ローム粒子微量
8	暗	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化物微量	17	黒	褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
9	黒	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片28点(坏11, 高台付坏1, 甕16), 須恵器片16点(甕15, 瓶1), 土師質土器片1点(皿) 磁器片1点(青磁碗), 陶器片(常滑甕)1点, 鉄洋1点, 石製品1点(砥石), アカニシ貝が出土している。152は覆土中から出土したもので油煙が付着していることから, 灯明皿として利用されたものと思われる, 153は覆土上層から出土している。いずれも細片で廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は出土土器から, 13世紀代と思われる。本跡の西側には第197号独立柱建物跡が隣接しており, 両者の関連が考えられる。



第99図 第40号井戸跡・出土遺物実測図

第40号井戸跡出土遺物観察表 (第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
152	土師質土器	皿	[12.4]	(3.5)	-	長石・赤色粒子	微	普通	口辺部内外面微ナテ, 体部外面下端へラ削り	覆土中	10% 油煙付着 灯明皿
153	青磁	碗	-	(2.3)	[4.0]	緻密	オリーブ 灰	良好	内外面施釉	上層	5%
TP13	須恵器	甕	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面斜位の印き	覆土中	5% PL22

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	砥石	(7.6)	(4.8)	6.3	(298.5)	雲母片岩	砥面1面, 他は破断面	覆土中	
M35	洋	7.2	9.8	2.6	187.3	鉄	着磁性有り, 外面焼土付着	覆土中	

(3) 土坑

第1650号土坑 (第100図)

位置 調査区中央部のO12J2区, 標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1684号住居跡を掘り込み、第1617号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.36m、短径1.32mと推定される円形である。深さは16cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

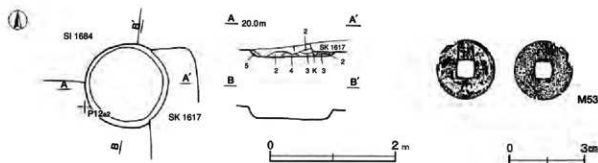
覆土 5層からなり、含有物やブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量			

遺物出土状況 土師器片5点(甕)が細片で出土しており、磨滅が著しい。また、古銭(開元通寶)が覆土中から出土している。

所見 時期は遺物が少ないため、断定はできないが、中世と考えられる。遺構の性格は、形態や埋め戻された堆積状況から墓塚の可能性がある。



第100図 第1650号土坑・出土遺物実測図

第1650号土坑出土遺物観察表 (第100図)

番号	器種	径	孔	重量	初録年	材質	特徴	出土位置	備考
M53	開元通寶	2.4	0.7	(21)	621	銅	磨銭、無背文、真書	覆土中	PL24

第1665号土坑 (第101図)

位置 調査区南部のP11c0区、標高20mほどの南へ緩やかに傾斜する台地上に位置している。

規模と形状 長径1.06m、短径0.97mの円形である。深さは31cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

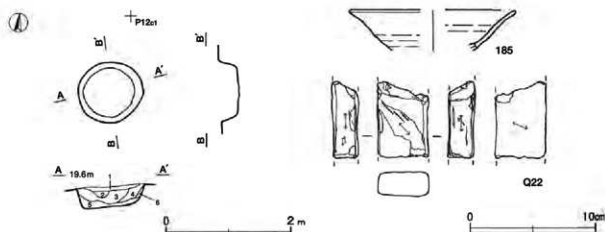
覆土 6層に分けられる。ローム土を主体とした暗褐色土と褐色土からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	色	ローム粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	色	ロームブロック少量
2	暗褐色	色	ローム粒子少量	5	暗褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	色	ローム粒子中量	6	褐色	色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片6点(坏2、甕4)、須恵器片1点(甕)、石製品1点(砥石)、鉄滓1点が出土している。185・Q22はそれぞれ覆土中から破損した状態で出土し、いずれも混入したものと考えられる。

所見 周辺には、南北の一直線上に規模や形状の類似した第1663・1664・1666・1673号土坑が位置しているが、土層断面に柱痕跡は観察できず、底面にも柱の痕跡が確認されないことから、掘立柱建物跡や柱穴列の掘方とは異なるものと判断した。いずれも10世紀後葉の住居跡を掘り込んでおり、形態や埋め戻した堆積状況から中世の墓塚の可能性も考えられる。



第101図 第1665号土坑・出土物実測図

第1665号土坑出土遺物観察表 (第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
185	土師器	環	[132]	(32)	-	茶石・苧母・茶色粒子	橙	普通	体部内外面ロクロナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	砥石	(6.1)	4.1	2.0	(82.9)	雲母片岩	砥面4面、両端は破断	覆土中	PL23

5 その他の時代の遺構と遺物

遺物の出土がないため、時期を明確にできない遺構は、掘立柱建物跡2棟、溝1条、火葬土坑1基、墓塚20基、土坑7基、ピット群7か所、柱穴列跡2基などである。いずれも平安時代の遺構を掘り込んでいることから、中世の所産である可能性が高いが、次に記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第197号掘立柱建物跡 (第102図)

位置 調査区西部のO11j6区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1692号住居跡と第196号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

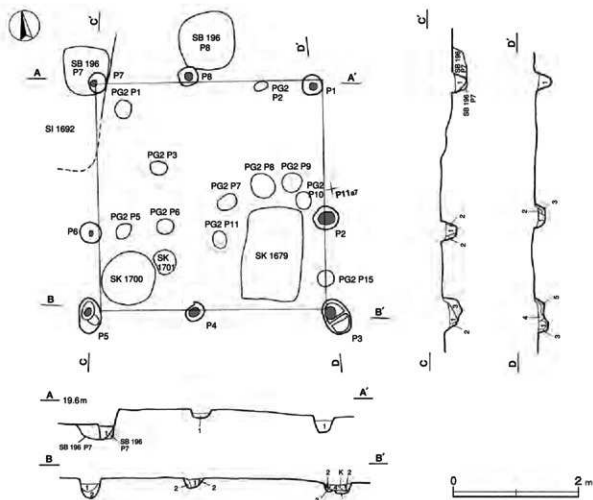
規模と構造 桁行2間、梁行2間の竪柱式建物跡で、桁行方向をN-9°-Eとする南北棟である。規模は桁行・梁行ともに3.60mで、柱筋も揃っている。面積は約12.96㎡である。柱間寸法は、最も間隔の狭いP5・P6間は1.20mほどで、最も広いP6・P7間は2.40mであるが、西・南の柱間が狭くなっている。

柱穴 8か所。平面形は円形を基調としており、深さは17~27cmである。規模は、径30cm前後でP3・P5は長径60cmと差が見られ、断面形はU字形もしくは逆台形を呈している。土層断面図中に明確な柱痕跡が認められないことから、柱はすべて抜き取られたものと考えられる。すべての柱穴の底面から柱のあたりが確認されており、推定される柱の太さは15~20cmである。その他の層は埋土であり、強く突き固められた痕跡はない。

土層解説 (各柱穴共通)

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック中量	5	褐色	ローム粒子中量
3	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量			

所見 覆土の色、形状などからいってピット群と同時期に機能していた可能性も考えられるが、40号井戸跡が東側に隣接していることから、井戸との関連も推測される。遺物がいないため、詳細は不明である。



第102図 第197号掘立柱建物跡実測図

第198号掘立柱建物跡 (第103図)

位置 調査区北西部のO1115区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1694号住居跡・第29号方形竪穴遺構を掘り込み、第107号溝跡に掘り込まれている。

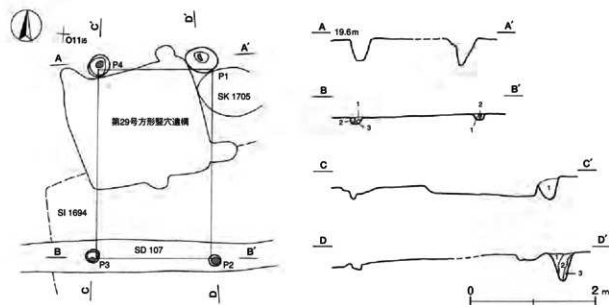
規模と構造 桁行1間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向をN-5°-Wとする南北棟である。規模は桁行3.00m、梁行1.80mほどで、面積は5.40㎡であり、柱筋もほぼ揃っている。

柱穴 4か所。平面形はいずれも円形を呈しており、深さは30~43cmである。柱穴の規模は、長径20~50cm、短径15~40cmほどで、断面形はU字形もしくは漏斗状である。土層断面図中に明確な柱痕跡が認められないことから、柱はすべて抜き取られたものと考えられる。すべての柱穴の底面からは、柱のあたりが確認されている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|--------|----------------|--------|----------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子微量 | | |

所見 柱穴の規模や柱のあたりの大きさなどから堅牢な上屋構造は考えにくい、南側には墓塚と想定される土坑群が隣接することから、墓塚に伴う小堂の可能性も考えられる。遺物が少ないため詳細は不明であるが、遺構の重複関係などから判断して、時期は13世紀中葉以降と考えられる。



第103図 第198号掘立柱建物跡実測図

(2) 溝跡

第107号溝跡 (第104図・付図1)

位置 調査区北西部のO114～O116区、標高20mほどの西へやや傾斜する台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第1694号住居跡と第198号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

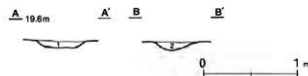
規模と形状 当調査区の北西部を東西方向(N-87°-E)にはほぼ直線的に延びており、確認された長さは7.60mである。規模は、上幅22～54cm、下幅6～43cm、深さ8cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がっている。また、底面の高低差はほとんど認められない。

覆土 2層からなる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量



第104図 第107号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が覆土中から出土しているが、混入したものと考えられる。

所見 本跡周辺には中世の墓塚群が集中しており、墓域を区画する機能を有していた溝と想定される。

(3) 土坑

ア 火葬土坑

第1712号土坑 (第105図)

位置 調査西部のP11c7区、標高19mほどの南西へやや傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1724号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 焚口と燃焼部から構成されている。焚口は長径1.25m、短径1.00mの楕円形で、深さは10cmほどである。焚口は皿状に掘り込まれ、壁は緩やかに立ち上がっている。燃焼部は長径1.00m、短径0.65mの楕円形で、深さは40cmであり、底面は熱を受けて赤変硬化している。壁は急に外傾して立ち上がっている。

ピット 燃焼部に3か所検出された。平面形はいずれも径10cmほどの円形で、深さは38~46cmであるが、性格は不明である。

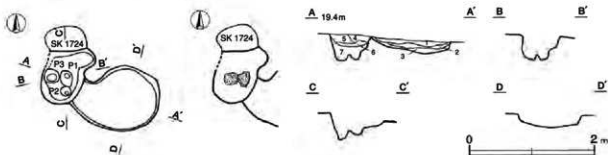
覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、砂質粘土粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 燃焼部から、燻2点のほか粉末化したカルシウムが出土している。燻にはいずれも熱を受けた痕跡が認められ、その周辺から粉末状の人骨片が出土している。

所見 火葬のための施設である。焼土と炭化物に混じって少量の粉末状の人骨片だけが出土しており、火葬後は拾骨されたと判断できる。時期が判断できる遺物の出土はないが、遺構の形態から中世と考えられる。本遺跡からは、これまで12基の火葬土坑が確認されており、調査4・7区からも同じ形態の火葬土坑が検出されている。

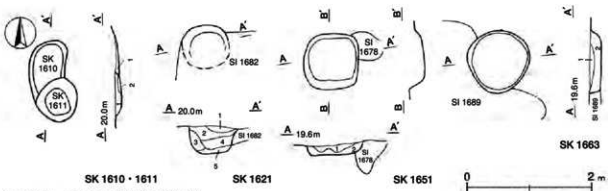


第105図 第1712号火葬土坑実測図

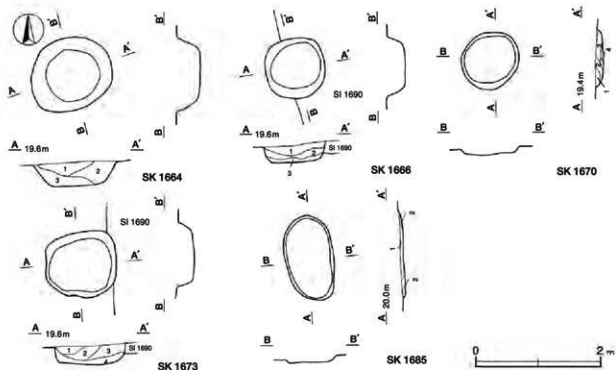
イ 墓塚の可能性ある土坑

土坑は、遺物が少ないために時期や性格が不明なものが多いが、調査区南東部や西部に位置する一群は、人為的に埋め戻された痕跡があり、形態的に円形や長方形を基調として、墓塚の可能性がある。以下、これらの土坑について実測図と土層解説を記載する。

・南東部の墓塚（第106・107図）



第106図 南東部の墓塚実測図(1)



第107図 南東部の墓塚実測図(2)

第1610号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第1611号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第1621号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子中量
5 暗褐色 ローム粒子中量

第1651号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第1663号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック少量

第1664号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ローム粒子中量

第1666号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第1670号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量

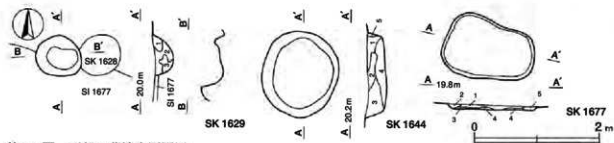
第1673号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

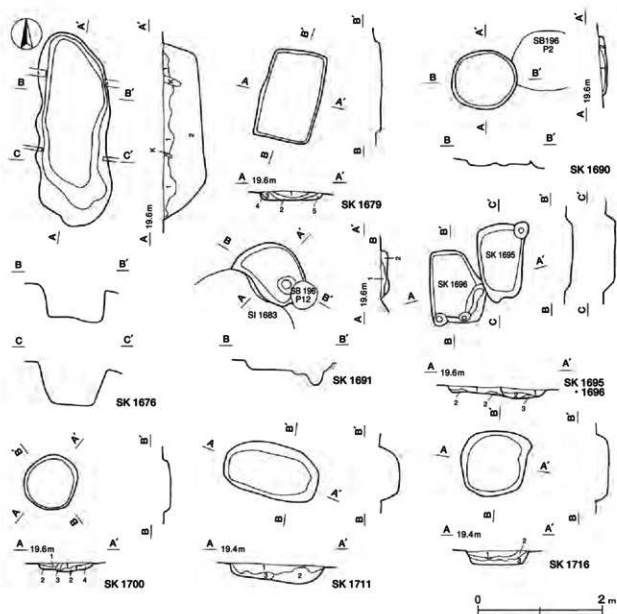
第1685号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

・西部の墓塚 (第108・109図)



第108図 西部の墓塚実測図(1)



第109図 西部の墓墳実測図(2)

第1676号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

第1677号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化材少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第1679号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第1690号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第1691号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第1695号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化材少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第1696号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第1700号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化材少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

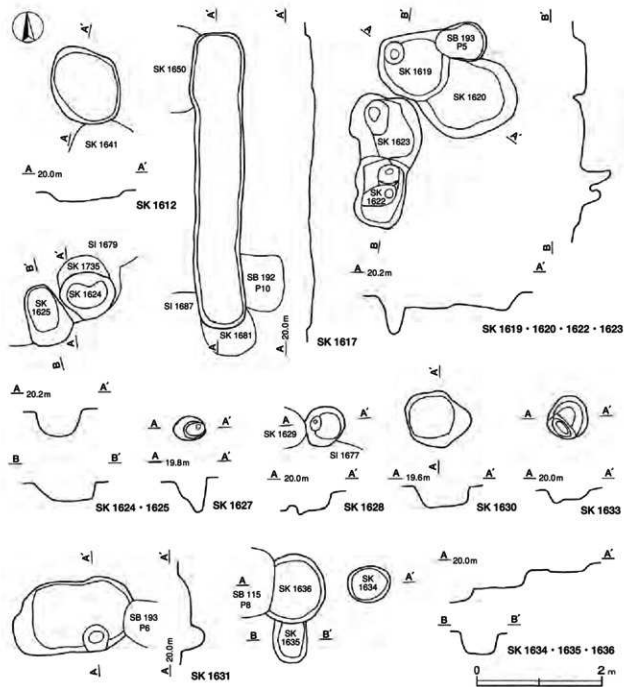
第1716号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームアブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

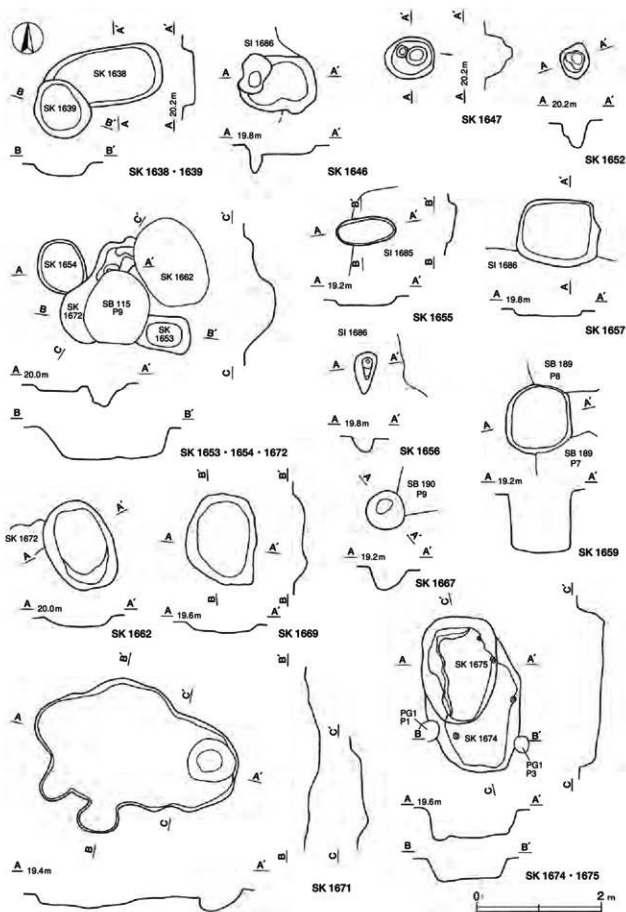
第1711号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームアブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームアブロック中量
- 3 暗褐色 ロームアブロック中量、砂質粘土粒子少量

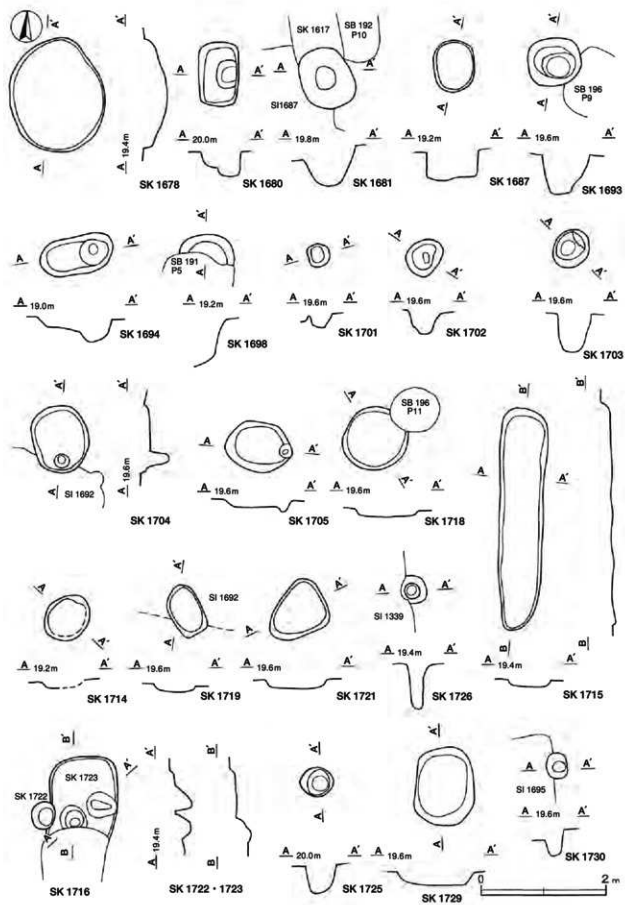
ウ その他の土坑 (第110~113図)



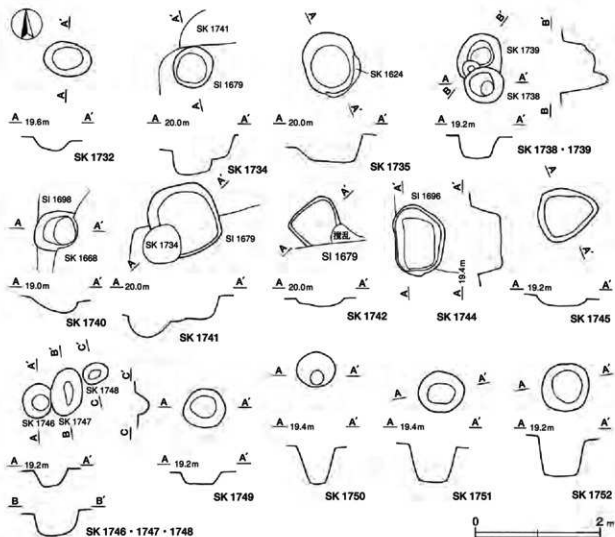
第110図 土坑実測図(1)



第111圖 土坑災測圖(2)



第112图 土坑实测图(3)



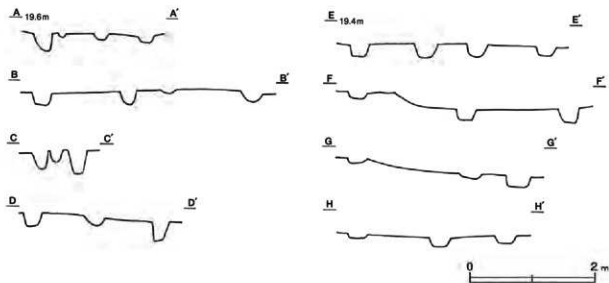
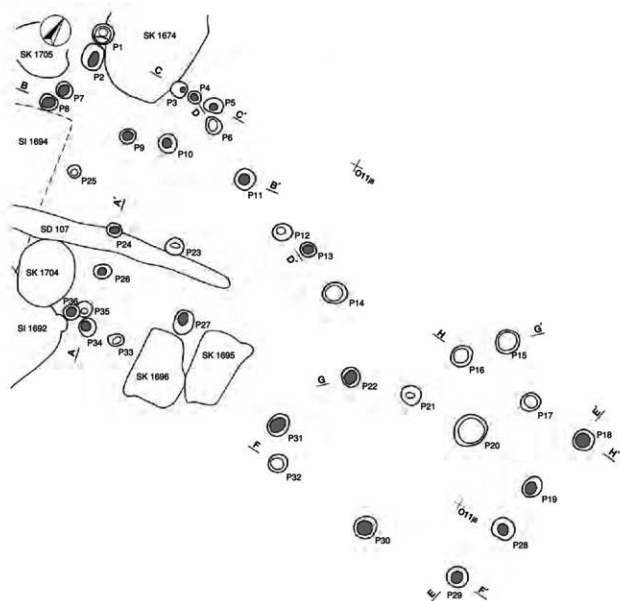
第113図 土坑実測図(4)

(4) ビット群

今回の調査で7か所のビット群が検出された。全体的な分布の状況は、調査区中央部から西部にかけて密に分布している。各ビットの形状・規模などは様々であるが、平面形は円形を呈し、径25～35cm前後、深さ20～40cm程度のもので多く、規模の大きな例は見られない。一部のビットには土層断面中に柱痕跡や、底面に圧痕が認められる。本来は何らかの建物の一部をなすものとも考えられる。建物の配列や構造を特定することはできなかった。覆土の特徴や遺構同士の重複関係から判断して、西側に広がる中世の一連の遺構とともに機能していたとも推測されるが、以下、実測図と一覧表を記載する。

第1号ビット群 (第114図)

調査区北西部のO11h5～O11j8区から36か所のビットが検出された。標高20mほどの平坦な台地上に立地し、平面形は径19～56cmの円形または楕円形で、深さは4～43cmである。覆土はロームを主体とする暗褐色土や黒褐色土を基調とし、粘性はあるが締まりはない。いずれも人為的に埋め戻された痕跡が見られ、一部のビットの底面には柱のあたりが認められる。第1・2号ビットから、土師器の細片がそれぞれ2点ずつ出土している。覆土上層からの出土で、混入したものと考えられるが、時期は不明である。



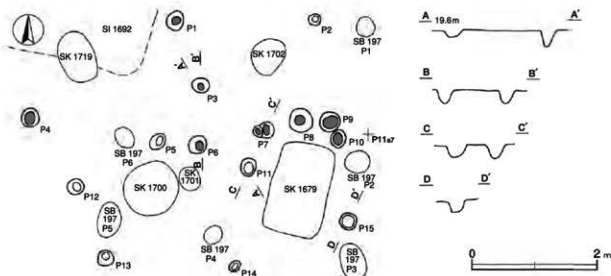
第114図 第1号ピット群実測図

第1号ピット群計測表 (第114図)

番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	35×34	18		P13	25×23	16	底面に柱のあたり痕	P25	23×21	9	
P2	41×33	25	柱痕有り	P14	40×34	4		P26	28×23	10	底面に柱のあたり痕
P3	27	28	柱痕有り	P15	40×39	18		P27	40×31	14	底面に柱のあたり痕
P4	24×19	18	底面に柱のあたり痕	P16	35×31	9		P28	38×35	21	底面に柱のあたり痕
P5	32×24	36	底面に柱のあたり痕	P17	30	13		P29	35×34	22	底面に柱のあたり痕
P6	29×26	20		P18	35	14	底面に柱のあたり痕	P30	37×36	16	底面に柱のあたり痕
P7	27×26	16	底面に柱のあたり痕	P19	35×30	20	底面に柱のあたり痕	P31	37×34	13	底面に柱のあたり痕
P8	30×28	21	底面に柱のあたり痕	P20	56×46	9	掘り込み大きい	P32	29	11	
P9	26×24	20	底面に柱のあたり痕	P21	34×32	12		P33	25×20	43	
P10	30	10	底面に柱のあたり痕	P22	31×30	9	底面に柱のあたり痕	P34	30×29	28	底面に柱のあたり痕
P11	35×34	15	底面に柱のあたり痕	P23	30×28	17		P35	(25)×24	11	
P12	31×29	29		P24	26×23	9	底面に柱のあたり痕	P36	25	20	底面に柱のあたり痕

第2号ピット群 (第115図)

調査区北西部のO11j5～O11a6区から15か所のピットが検出された。標高20mほどの平坦な台地上に立地し、平面形は径15～40cmの円形または楕円形で、深さは8～56cmである。覆土はロームを主体とする暗褐色土や褐色土を基調とし、粘性はあるが締まりはない。いずれも人為的に埋め戻された痕跡が見られ、底面には柱のあたりが認められる。遺物が出土していないため、時期は不明である。



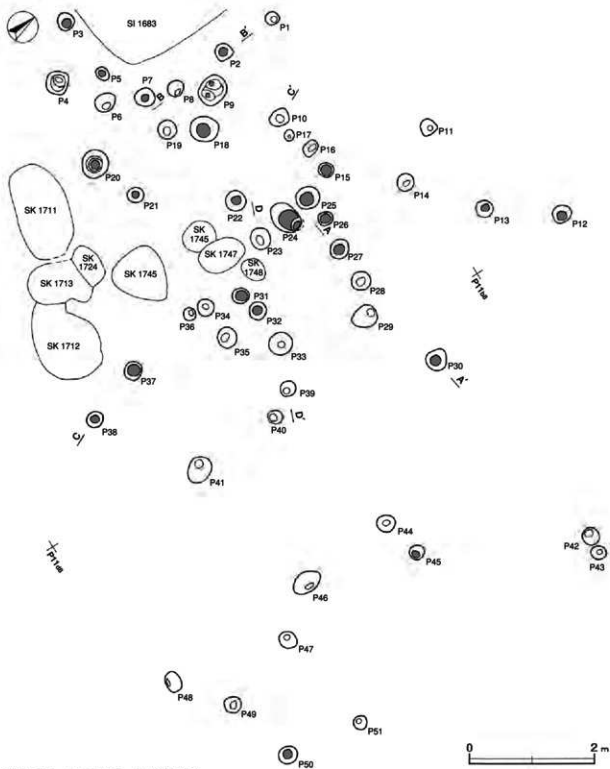
第115図 第2号ピット群実測図

第2号ピット群計測表 (第115図)

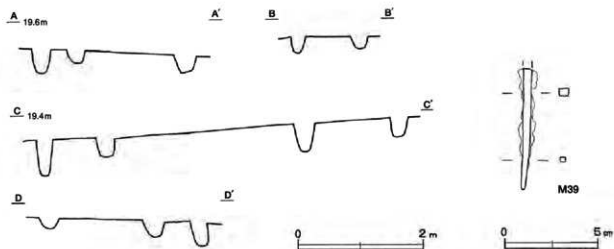
番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	32×27	47	底面に柱のあたり痕	P6	28×26	23	柱痕有り	P11	30×24	10	
P2	19×18	8		P7	35×20	25	複数の柱のあたり痕	P12	25	20	
P3	27×25	24		P8	40×36	40	底面に柱のあたり痕	P13	28×25	56	
P4	29×26	17	底面に柱のあたり痕	P9	35×32	30	底面に柱のあたり痕	P14	18×15	20	
P5	29×22	10		P10	29×24	17	底面に柱のあたり痕	P15	27×26	18	

第3号ピット群 (第116・117図)

調査区西部のP11a7～P11c9区から51か所のピットが検出された。標高20mほどの平坦な台地上に立地し、平面形は径14～54cmの円形または楕円形で、深さは3～75cmである。覆土はロームを主体とする暗褐色土や黒褐色土を基調とし、炭化物と砂質粘土粒子を少量含み、粘性はあるが締まりはない。いずれも人為的に埋め戻された痕跡が見られ、一部のピットの底面には柱のあたりが認められる。第18号ピットの覆土上層から、土師器の細片が1点出土している。混入の可能性が高く、時期は不明である。また、M39が覆土中から出土している。



第116図 第3号ピット群実測図



第117図 第3号ピット群・出土遺物実測図

第3号ピット群出土遺物観察表 (第117図)

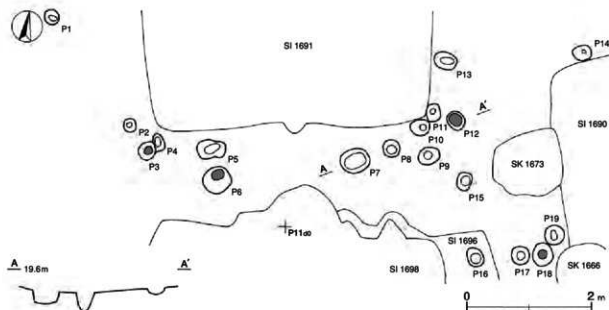
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	釘	(6.5)	0.5	0.4	(6.7)	鉄	頭部欠損, 断面方形	P18覆土中	PL24

第3号ピット群計測表 (第116・117図)

番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	24×22	28		P18	45×39	21	底面に柱のあたり痕	P35	33×29	20	
P2	30×29	20	底面に柱のあたり痕	P19	30×29	19		P36	21×20	20	
P3	27	44	底面に柱のあたり痕	P20	45×41	35	底面に柱のあたり痕	P37	30×27	30	底面に柱のあたり痕
P4	40×39	44		P21	26×23	33	底面に柱のあたり痕	P38	29×27	56	底面に柱のあたり痕
P5	23×19	29	底面に柱のあたり痕	P22	33×32	46	底面に柱のあたり痕	P39	25	38	
P6	34×28	48		P23	35×30	18		P40	24×21	49	
P7	31×29	35	底面に柱のあたり痕	P24	54×39	47	複数の柱のあたり痕	P41	42×35	31	
P8	28×22	24		P25	37×34	19	底面に柱のあたり痕	P42	27×26	34	
P9	48×40	45	複数の柱のあたり痕	P26	24×23	12	底面に柱のあたり痕	P43	25×23	19	
P10	31×30	30		P27	31×30	38	底面に柱のあたり痕	P44	30×27	49	
P11	29×27	38		P28	32×30	20		P45	25×22	43	底面に柱のあたり痕
P12	31×27	75	底面に柱のあたり痕	P29	41×33	42		P46	50×32	34	
P13	27	62	底面に柱のあたり痕	P30	35×34	28	底面に柱のあたり痕	P47	29×24	41	
P14	28×27	28		P31	28×23	3	底面に柱のあたり痕	P48	34×25	47	
P15	24×23	41	底面に柱のあたり痕	P32	28×27	21	底面に柱のあたり痕	P49	29×26	32	
P16	36×20	25		P33	37×35	25		P50	30×27	36	底面に柱のあたり痕
P17	18×14	16		P34	29×27	34		P51	24×22	26	

第4号ピット群 (第118図)

調査区中央部のP11c9～P12b1区から19か所のピットが検出された。標高20mほどの平坦な台地上に立地し、平面形は径20～45cmの円形、楕円形及び不整形円形で、深さは9～64cmである。覆土はロームを主体とする暗褐色土・黒褐色土・褐色土を基調とし、焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子を少量含み、粘性・締まりともにある。いずれも人為的に埋め戻された痕跡が見られ、底面には柱のあたりが認められる。第12・17号ピットから、土師器の細片がそれぞれ2点ずつ出土しているが、いずれも覆土上層からの出土で混入の可能性が高く、時期は不明である。



第118図 第4号ピット群実測図

第4号ピット群計測表 (第118図)

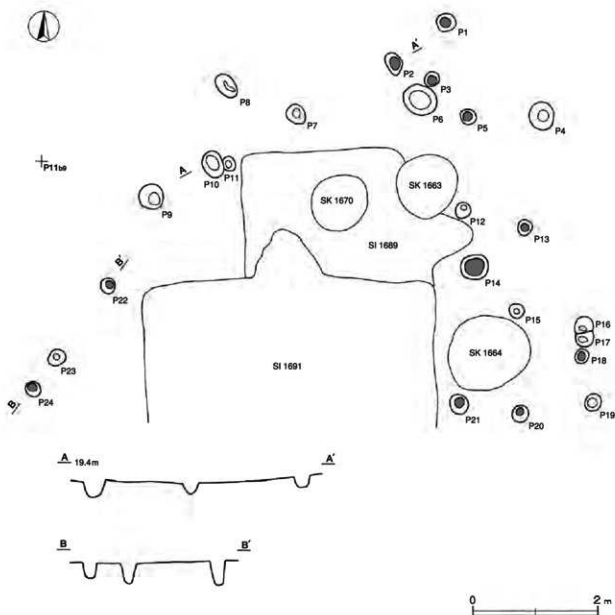
番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	24×22	64		P8	27	29		P15	28×23	32	
P2	22×20	34		P9	36×28	12		P16	29×24	15	
P3	28×27	52	底面に柱のあたり痕	P10	30×25	22		P17	30×28	27	
P4	28×(18)	37		P11	30×23	43		P18	38×32	32	底面に柱のあたり痕
P5	45×25	35		P12	31×24	9	底面に柱のあたり痕	P19	31×30	24	
P6	43	51	底面に柱のあたり痕	P13	36×25	11					
P7	42×38	22		P14	30×24	13					

第5号ピット群 (第119図)

調査区中央部のP11a9～P12c1区から24か所のピットが検出された。標高20mほどの平坦な台地上に立地し、平面形は径20～54cmの円形または楕円形で、深さは5～38cmである。覆土はロームを主体とする暗褐色土や灰褐色土を基調とし、砂質粘土粒子を少量含み、粘性はあるが締まりはない。いずれも人為的に埋め戻された痕跡が見られ、一部のピットの底面には柱のあたりが認められるが、遺物が出土していないため時期は不明である。

第5号ピット群計測表 (第119図)

番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	30×29	5	底面に柱のあたり痕	P9	39	38		P17	29×(23)	19	
P2	35×24	18	底面に柱のあたり痕	P10	44×33	25		P18	21×20	21	底面に柱のあたり痕
P3	23	8	底面に柱のあたり痕	P11	24×20	16		P19	27×25	16	
P4	44×40	21		P12	28×26	30		P20	26×24	22	底面に柱のあたり痕
P5	26×25	19	底面に柱のあたり痕	P13	23×22	11	底面に柱のあたり痕	P21	32×28	30	底面に柱のあたり痕
P6	54×45	29		P14	45×39	34	底面に柱のあたり痕	P22	23×21	38	底面に柱のあたり痕
P7	32×27	17		P15	23×22	17		P23	27×23	33	
P8	42×28	36		P16	27	32		P24	24×22	23	底面に柱のあたり痕



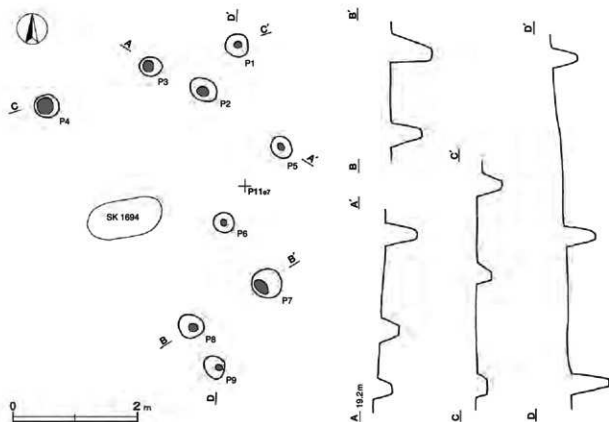
第119図 第5号ピット群実測図

第6号ピット群 (第120図)

調査区中央部のP11d6～P11e7区から9か所のピットが検出された。標高20mほどの平坦な台地上に立地し、平面形は径30～50cmの円形または楕円形で、深さは18～65cmである。覆土はロームを主体とする暗褐色土や黒褐色土を基調とし、粘性・締まりともにある。いずれも人為的に埋め戻された痕跡や、底面には柱のあたりが認められるが、遺物が出土していないため時期は不明である。

第6号ピット群計測表 (第120図)

番号	径×径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	径×径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	径×径 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	36×34	40	底面に柱のあたり痕	P4	40×34	18	底面に柱のあたり痕	P7	50×46	65	底面に柱のあたり痕
P2	44×34	29	底面に柱のあたり痕	P5	36×31	50	底面に柱のあたり痕	P8	42×37	48	底面に柱のあたり痕
P3	36×30	27	底面に柱のあたり痕	P6	35×30	47	底面に柱のあたり痕	P9	40×33	60	底面に柱のあたり痕



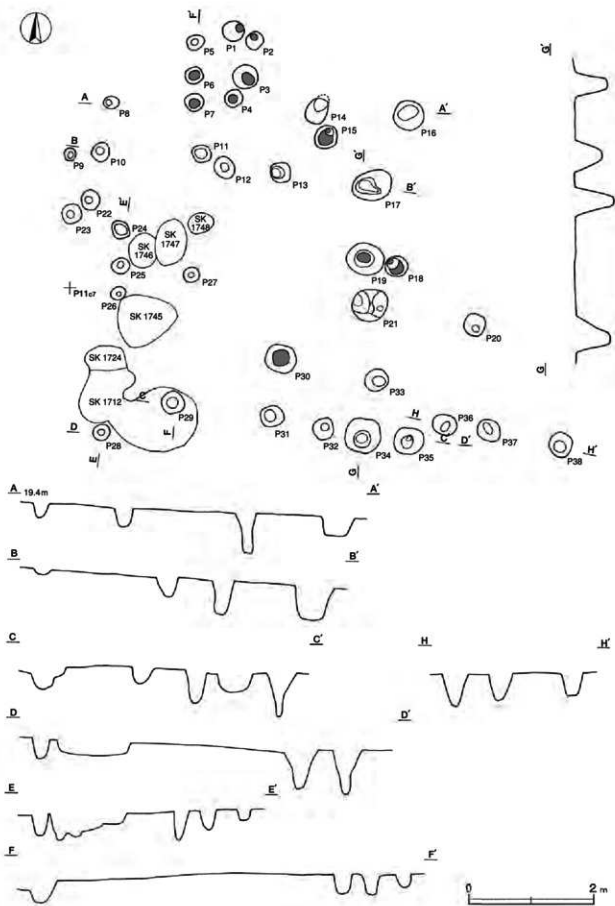
第120図 第6号ピット群実測図

第7号ピット群 (第121図)

調査区西部のP11a7～P11c8区から38か所のピットが検出された。標高20mほどの平坦な台地上に立地し、平面形は径19～66cmの円形または楕円形で、深さは9～69cmである。覆土はロームを主体とする暗褐色土や褐色土を基調とし、焼土粒子・炭化粒子を少量または微量含み、粘性・締まりはない。いずれも人為的に埋められた痕跡が見られ、底面には柱のあたりが認められるが、遺物が出土していないため時期は不明である。

第7号ピット群計測表 (第121図)

番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考	番号	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	備考
P1	35×32	44	底面に柱のあたり痕	P14	42×32	64		P27	26	22	
P2	30	47	底面に柱のあたり痕	P15	38×36	40	複数の柱のあたり痕	P28	28×26	35	
P3	40	48	底面に柱のあたり痕	P16	48×46	30		P29	40×37	37	本跡→SK1712
P4	29×27	40	底面に柱のあたり痕	P17	66×47	52		P30	50×44	28	底面に柱のあたり痕
P5	29×23	20		P18	35×32	45	複数の柱のあたり痕	P31	40×37	27	
P6	29×27	32	底面に柱のあたり痕	P19	60×49	44	底面に柱のあたり痕	P32	36×34	50	
P7	29×28	31	底面に柱のあたり痕	P20	38×35	45		P33	39×34	62	
P8	23×21	25		P21	57×52	65		P34	55×54	59	
P9	19	11		P22	31×29	9		P35	50×45	69	複数の柱のあたり痕
P10	31×28	9	底面に柱のあたり痕	P23	34×31	12		P36	39×33	51	
P11	32×28	21		P24	30×26	17	底面に柱のあたり痕	P37	40×34	41	
P12	34×30	31	底面に柱のあたり痕	P25	28×25	31		P38	40×37	36	底面に柱のあたり痕
P13	35×31	54		P26	26×22	45					



第121図 第7号ピット群実測図

(5) 柱穴列跡

覆土の特徴はピット群と類似しているが、配置に規則性があることなどから柱穴列跡と判断した。以下、その概要について記述する。

第1号柱穴列跡(第122図)

位置 調査中央部のP11a8区、標高19mほどの南へやや傾斜する台地上に位置している。

重複関係 第1671号土坑に掘り込まれている。

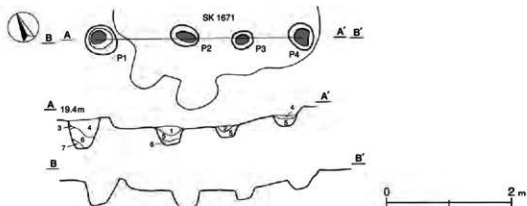
規模と形状 ほは東西に柱穴4か所が並列している。柱穴間の寸法はP1・P2間は1.40mで、P2～P4は90cmを基調としている。いずれも垂直に掘り込まれており、深さは15～40cmである。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子、炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 7 極暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 | | |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片3点(坏1, 甕2)が覆土上層から出土している。いずれも破片で摩耗しており、混入したものと考えられる。

所見 底面にはいずれも柱のあたり痕が認められる。覆土下層には砂質粘土粒子が含まれるが、根固めをする程の規模ではない。遺物が破片のため、時期は不明である。



第122図 第1号柱穴列跡実測図

第2号柱穴列跡(第123図)

位置 調査中央部のP11a8区、標高19mほどのやや南へ傾斜する台地上に位置している。

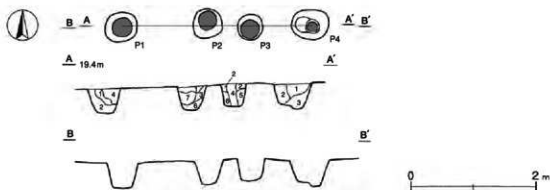
規模と形状 ほは東西に柱穴4か所が並列している。柱穴間の寸法はP1・P2間は1.40mで、P2～P4は80cmを基調としている。いずれも垂直に掘り込まれており、深さは35～43cmである。P2には柱のあたりが明瞭に確認でき、推定される柱の径は15cmほどである。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 甕3)、須恵器片3点(坏2, 甕1)が覆土上層から出土している。いずれも破片で摩耗しており、混入したものと考えられる。

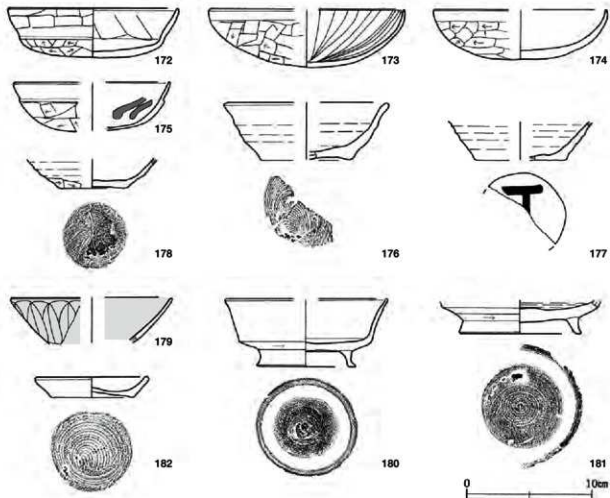
所見 底面にはいずれも柱のあたり痕が認められるが、出土遺物が破片のため時期は不明である。



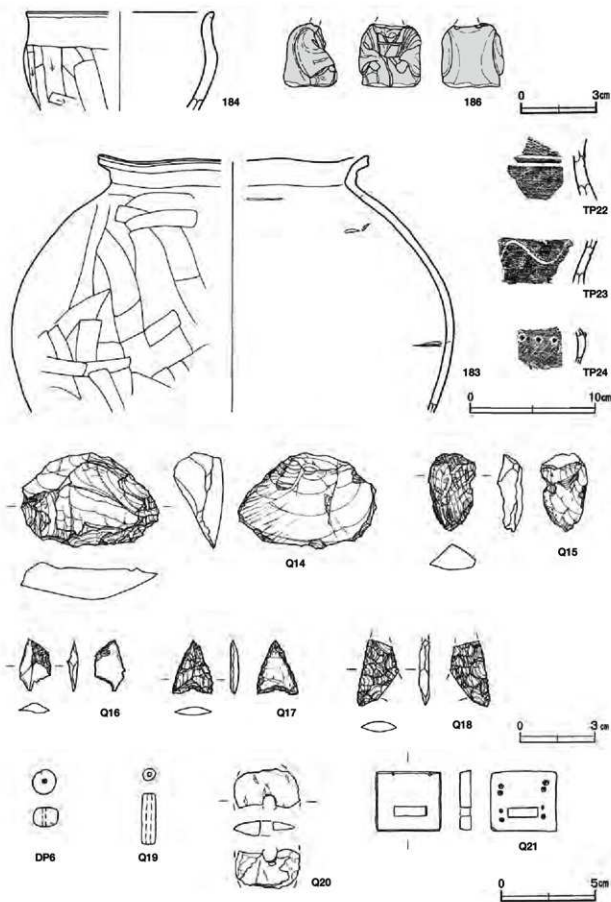
第123図 第2号柱穴列跡実測図

(6) 遺構外出土遺物 (第124~126図)

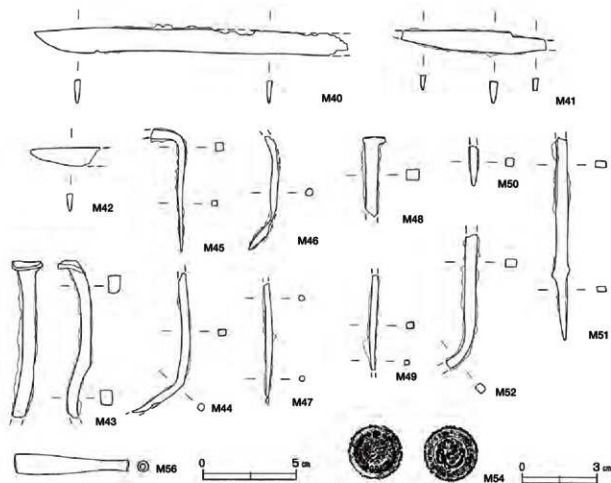
今回の10区の調査で出土した遺構に伴わない主な遺物について、遺物観察表で記述する。



第124図 遺構外出土遺物実測図(1)



第125図 遺構外出土遺物実測図(2)



第124図 遺構外出土遺物(3)

遺構外出土遺物観察表 (第122~124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法的特徴	出土位置	備考
172	土師器	環	13.6	3.9	-	長石・石英	橙	普通	口辺部外面ヘリ削り, 体部外面下端ヘリ削り	S1678 表土中	95% PL16
173	土師器	環	[15.4]	4.6	-	長石	明赤褐	普通	口辺部外面削りナデ, 体部外面下端ヘリ削り, 内面取付技法の縮文	表土	60% PL16
174	土師器	環	[13.6]	4.0	-	長石・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面削りナデ, 体部外面下端ヘリ削り	P12K区	40%
175	土師器	環	[12.4]	(3.8)	-	長石・石英	褐灰	普通	口辺部内外面削りナデ, 体部外面下端ヘリ削り	O11J区	30% 葉付層
176	土師器	環	[12.8]	4.5	[7.0]	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ, 底部回転糸切り	調査区北西部	30%
177	須恵器	環	-	(3.1)	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい青	普通	体部内外面ロクロナデ, 底部一方ヘリ削り	調査区北西部	30% 葉付層 PL16
178	須恵器	環	-	(2.4)	5.2	長石・石英	灰	普通	体部内外面ロクロナデ, 体部外面下端ヘリ削り, 底部多方向ヘリ削り	P11c0	20% 葉付層 PL16
179	青磁	碗	[12.8]	(3.6)	-	緻密	青緑	良好	内外面施釉, 蓮弁文	P12c4	15%
180	須恵器	筒形埴	[12.8]	5.4	7.8	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内外面ロクロ形施釉ナデ, 体部外面下端回転糸削り, 底部回転糸削り後高台削り付	O11K区	50% PL17
181	須恵器	盤	-	(2.7)	9.4	長石・石英・ 雲母・小礫	黒褐	普通	体部外面下端回転糸削り, 底部回転糸削り	P11K区	40%
182	土師器	小皿	8.8	1.7	6.5	長石・雲母・ 赤色粒子	にぶい青	普通	体部内外面削りナデ, 底部回転糸切り	O11K区	80% PL19
183	土師器	壺	[21.4]	(20.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい青	普通	口辺部内外面削りナデ, 体部外面ヘリ削り, 内面ヘリ削り	S1257 調査区南	40%
184	土師器	小形壺	[14.8]	(7.8)	-	長石・石英	にぶい青	普通	口辺部内外面削りナデ, 体部外面下端ヘリ削り	表土	20%
186	陶製人形	形埴	-	(2.6)	-	砂粒	淡黄	普通	外面施釉, 首部輪孔, 胴部中空	P11a5	70% 欠損 調査区 P122
TP22	須恵器	壺	-	(4.7)	-	長石・石英	灰	普通	形埴位の沈着層2条, 陶製伏工具による黄染	表土	5% PL22
TP23	須恵器	壺	-	(3.5)	-	長石・石英	暗褐色	普通	流状の沈着	表土	5% PL22
TP24	須恵器	壺	-	(2.7)	-	長石・石英	灰白	普通	瘤状の貼り付け文	表土	5% PL22

番号	器種	径	長さ	口径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Dp6	土玉	1.3	1	0.2	1.8	土(長石・石英)	外面横ナデ、一方向から穿孔。断面はほぼ円形		P12c4	PL22
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q14	スリパー	3.8	5.5	1.5	28.6	チャート	縦長調片、微潤靡面打面、断面三角形、片面に加撃調整		O11j0	PL22
Q15	調片	3.1	1.9	1.0	4.6	黒曜石	縦長調片、断面三角形		O12j2	PL22
Q16	調片	2.0	1.2	0.4	0.6	頁岩	断面三角形		S11682 表土中	
Q17	石鏝	2.1	1.6	0.3	1.1	珉瑯	四基無基鏝、表裏押圧潤靡		S11696 表土中	PL22
Q18	石鏝	(2.6)	(1.6)	0.4	(1.5)	チャート	断面三角形		S11689 表土中	PL22
Q19	管玉	2.6	0.7	0.7	2.3	緑色凝灰岩	全面研磨		S11744 表土中	PL22
Q20	紡錘車	(3.5)	0.7	0.8	(6.6)	粘板岩	円錐台形、孔径0.8cm		P12c4	PL23
Q21	高力	3.2	3.4	0.6	13.5	鮫紋岩	上面・側面丁寧な研磨。面取。穿孔4か所		P12c4	PL22
M40	刀子	(16.7)	1.3	0.3	(19.8)	鉄	刃部から基部にかけての破片。片側		P11a9	PL23
M41	刀子	(7.7)	1.2	0.2-0.4	(9.8)	鉄	刃部から基部にかけての破片。片側		P11a5	PL23
M42	刀子	(3.8)	1.0	0.4	(2.9)	鉄	刃先部・基部欠損。片側		表土中	
M43	釘	(8.4)	0.7-1.6	0.6	(21.1)	鉄	脚部屈曲。頭部は叩かれ、潰れている。断面方形		P11a5	PL24
M44	釘	(7.5)	0.5	0.4	(7.6)	鉄	先端部欠損。断面円形		P11a5	PL24
M45	釘	(6.4)	0.4	0.2-0.4	(5.2)	鉄	頭部欠損。頭部屈曲。断面方形		表土中	PL24
M46	釘	(5.9)	0.4	0.4	(3.1)	鉄	先端部欠損。断面円形		表土中	PL24
M47	釘	(6.1)	0.4	0.3	(2.8)	鉄	先端部欠損。断面円形		P11a5	PL24
M48	釘	(4.2)	1.2	0.6	(7.5)	鉄	断面方形		P11a5	PL24
M49	鏝*	(5.1)	0.3	0.4	(2.3)	鉄	基部の破片。断面長方形の棒状		P11a5	
M50	釘*	(2.1)	0.4	0.4	(1.0)	鉄	基部の破片。断面長方形の棒状		P11a5	
M51	鏝	(10.7)	1.0	0.4	(13.4)	鉄	基部の破片。棒状両有り。断面方形の棒状		表土中	PL23
M52	釘	(7.2)	0.6	0.5	(11.6)	鉄	頭部欠損。脚部屈曲。断面方形		表土中	PL24
M56	鋸管	6.0	1.1	1.1	7.1	銅	覆首。火黒欠損		P11a5	PL24
番号	器種	径	孔	重量	初鋳年	材質	特徴		出土位置	備考
M54	銅貨	2.2	-	2.9	明治4年	銅	五十銭。菊・桐・電紋様		O12j3	PL24

表2 古墳時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備考 (時期)	
								主柱穴	土人孔	ピット	炉・竈・竈穴				
1366	P12b5	N-17°-E	方形	5.48×5.43	12~20	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片	7世紀後半
1677	P12d4	N-8°-E	方形	4.07×3.71	2~10	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	-	不明	土師器、須恵器、磁器、砥石	6世紀前半

表3 奈良時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備考 (時期)	
								主柱穴	土人孔	ピット	炉・竈・竈穴				
1678	P12c3	N-8°-E	方形	3.95×3.71	2~10	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	人為	土師器、須恵器	8世紀中葉
1682	O12j3	N-2°-E	方形	4.29×4.19	51~56	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器、須恵器、瓦輪陶磁器、紡錘車、鉄製品、磁器、陶磁器	8世紀前葉
1684	O12j1	N-4°-E	長方形	3.67×3.28	30~55	平坦	ほぼ全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器、須恵器、鉄製品	8世紀中葉
1685	O11i9	N-1°-E	長方形	3.82×2.90	14~18	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器、須恵器、支脚	9世紀前葉
1694	O11i5	N-80°-E	長方形	3.83×2.64	-	-	-	-	-	7	-	-	不明	須恵器	8世紀代
1699	P114i9	N-4°-E	-	3.20×1.84	-	平坦	一部	-	-	-	-	-	不明	土師器、須恵器	8世紀後半頃

表4 平安時代整穴住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	備考 (時期)	
								土柱穴 (掘入ピット)	竈	貯蔵庫	蔵				
1257	O12g4	N-84°-E	方形	3.80×3.63	19-34	平坦	全周	-	-	4	蔵2	-	人為	土師器、須恵器、磁石、鉄製品	10世紀後半
1330	P11b5	N-7°-W	長方形	3.10×2.75	5-20	平坦	-	-	-	4	-	-	自然	土師器、須恵器	10世紀後半
1341	P11a5	N-87°-E	長方形	4.30×2.95	2-6	平坦	全周	-	-	4	蔵1	-	自然	土師器、須恵器、礫	10世紀後半
1333	P12e1	N-3°-E	方形	5.58×5.10	6-14	平坦	全周	7	1	2	蔵1	-	人為	土師器、須恵器、礫	9世紀前半
1369	O12j4	N-63°-E	長方形	4.00×3.05	4	平坦	-	2	-	-	蔵1	-	自然	土師器、須恵器	10世紀前半
1676	O12h4	N-57°-E	-	-	-	平坦	-	-	-	-	蔵1	-	不明	土師器、須恵器、磁器	9世紀中葉
1679	O12g2	N-83°-W	方形	3.32×3.19	16-28	平坦	全周	-	1	-	蔵1	-	人為	土師器、須恵器、鉄滓	10世紀後半
1680	O11g0	N-56°-E	方形	3.48×3.27	8	平坦	-	-	1	-	蔵1	-	人為	土師器、須恵器、支脚	10世紀中葉
1681	P12c3	N-89°-E	方形	3.30×3.20	-	不明	-	-	-	1	蔵1	-	不明	土師器、須恵器	10世紀後半
1683	P11b6	N-0°	長方形	3.30×2.78	30-34	平坦	全周	-	1	1	蔵2	-	人為	土師器、須恵器	10世紀前半
1686	P12d2	N-4°-E	長方形	4.43×3.24	8-15	平坦	-	-	2	1	蔵1	-	人為	土師器、須恵器、刀子、灰輪陶器	9世紀後半
1687	P12b2	N-70°-E	長方形	3.87×3.26	8-24	平坦	全周	-	-	2	蔵1	-	自然	土師器、須恵器、石製品、礫、鉄滓	10世紀後半
1688	O131	N-0°	長方形	4.04×3.48	16-30	平坦	全周	-	1	3	蔵1	-	人為	土師器、須恵器、磁石	9世紀中葉
1689	P11b0	N-84°-E	方形	2.98×2.92	8-15	平坦	-	-	1	2	蔵1	-	自然	土師器、須恵器、鉄製品	10世紀後半
1690	P12c1	N-10°-W	長方形	4.88×3.50	12-31	平坦	一部	-	-	4	蔵1	2	人為	土師器、須恵器、土師質土器、灰輪陶器、鉄製品、骨	10世紀後半
1691	P11b9	N-4°-W	方形	4.57×4.53	22-44	平坦	全周	4	1	4	蔵1	-	人為	土師器、須恵器、灰輪陶器、磁石、鉄製品	9世紀後半
1692	O11j5	N-17°-E	方形	2.95×2.70	6-8	平坦	-	2	-	7	蔵1	-	人為	土師器、須恵器、磁石	9世紀代
1695	P11d0	N-82°-E	長方形	3.30×2.62	10-14	平坦	-	-	-	1	蔵1	-	自然	土師器、須恵器、礫	10世紀後半
1696	P11d0	N-3°-W	長方形	4.52×3.92	30-38	平坦	一部	-	1	3	蔵2	-	人為	土師器、須恵器、灰輪陶器、石版	9世紀後半
1698	N11d9	N-4°-E	方形	4.85×4.78	23-27	平坦	全周	4	1	-	蔵1	-	人為	土師器、須恵器、灰輪陶器	9世紀後半
1700	P12c3	N-6°-W	方形	3.60×3.34	18-30	平坦	一部	-	1	-	蔵1	-	自然	土師器、須恵器、鉄製品、陶磁器	9世紀後半

表5 掘立柱建物跡一覽表 (10区)

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×棟	規模 桁×棟 (m)	面積 (㎡)	桁行間 (m)	棟行間 (m)	柱穴 (cm)	柱穴 (cm)			主出土遺物	時期
									構造	穴数	平面形		
91	O12j5	N-0°	3×2	7.20×4.80	34.56	2.40	2.40	欄柱	10	円形・楕円形	28-74	土師器片、須恵器片、陶磁器片、鉄滓	9世紀前半
115	P12c4	N-4°-W	3×2	7.20×5.40	38.88	2.40	2.70	欄柱	10	円形	32-60	土師器片、須恵器片、管状土師	9世紀前半
189	O11j0	N-5°-W	3×2	6.30×4.80	30.24	2.10	2.40	欄柱	10	隅丸方形・楕円形	30-72	土師器片、須恵器片、灰輪陶器片、礫	9世紀後半
190	P11d7	N-7°-W	3×2	5.10×3.60	18.36	1.80	1.80	欄柱	10	隅丸方形・楕円形	35-68	土師器片、須恵器片	9世紀中葉
191	P11d8	N-4°-W	3×2	5.40×3.60	19.44	1.80	1.80	欄柱	10	円形・楕円形	56-95	土師器片、須恵器片、鉄滓	8世紀後半-9世紀前半
192	P12b2	N-0°	3×2	5.40×4.20	22.68	1.80	2.10	欄柱	10	隅丸方形・円形・楕円形	42-88	土師器片、須恵器片、灰輪陶器片、鉄製品	8世紀後半-9世紀前半
193	O12g3	N-6°-W	3×2	6.30×3.90	24.57	2.10	1.80-1.80	欄柱 (8)	10	円形・楕円形	30-73	土師器片、須恵器片、鉄滓	9世紀後半
194	O12g4	N-0°	2	2.10×4.80	10.08	2.10	2.40	(欄柱) 3	10	円形	32-67	土師器片、須恵器片	10世紀前半
195	P12c2	N-8°-W	3×2	6.30×4.20	26.46	2.10	2.10	欄柱	10	隅丸形・隅丸方形	21-81	土師器片、須恵器片	9世紀前半
196	P11a6	N-87°-W	3×2	6.60×4.50 (6.60×6.50)	29.70 (42.90)	2.10-2.10	2.10-2.10	欄柱 欄柱	14	隅丸方形・隅丸形・楕円形	45-80	土師器片、須恵器片	9世紀後半
197	O11j6	N-9°-E	2×2	3.60×3.60	12.96	1.80-1.80	1.80-1.80	欄柱	8	円形	17-27	なし	中葉方
198	O11j5	N-5°-W	1×1	3.00×1.80	5.40	3.00	1.80	欄柱	4	円形	30-43	なし	13世紀中葉以降

表6 方形整穴遺構一覽表 (10区)

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主出土遺物	時期
				長×短径 (m)	高さ (m)					
29	O11j5	N-73°-E	長方形	2.08×1.78	8-30	外傾	平坦	人為	土師器 (人瓦)、土師器片 (灰、高台存残、壺)、須恵器片 (灰、壺、甕)	13世紀中葉以降
30	P11c5	N-17°-W	長方形	2.44×2.06	12-86	垂直	平坦	人為	土師器片 (灰、壺)、須恵器片 (壺)	11世紀前半以降

表7 井戸跡一覧表(10区)

番号	位置	長径方向	平面形	縦 横		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期・田→新)
				長径×短径 (m)	縦×横 (m)					
38	O119	N-6°-E	楕円形	1.92×1.62	[1.56]	外傾	平坦	人為	土師器片(葉)	4世紀後葉。本跡→SK1678
39	P11A8	-	円形	1.42×1.35	[2.80]	直立	平坦	人為	白磁片(陶)、土師器片(杯、高台付杯、葉)、須恵器片(葉)、高麗、香炉、刀子、高麗、土師器片(葉)、土師器片(葉、高台付杯、葉)、土師器片(葉、高台付杯、葉)、土師器片(葉、高台付杯、葉)	10世紀後葉
40	P11A7	N-18°-W	楕円形	2.36×1.78	[1.70]	外傾	平坦	人為	土師器片(葉)	13世紀代
41	O1117	-	円形	2.00	[1.90]	外傾	平坦	人為	鹿骨、雲母片石	10世紀後葉方。SB196→本跡
42	P11b5	N-83°-W	楕円形	1.18×1.06	[2.60]	直立	平坦	人為	土師器片(杯、葉)、須恵器片(葉)、釘	9世紀後葉

表8 土坑一覧表(10区)

番号	位置	長径方向 長径方向	平面形	縦 横		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (性格・時期・田→新)
				長径×短径 (m)	縦×横 (m)					
1610	P12c5	N-6°-E	楕円形	[1.10]×0.57		12	人為	平坦	緩斜	高麗方。本跡→SK1611
1611	P12c5	N-8°-E	不整形	0.68×0.61		20	人為	平坦	緩斜	土師器片(杯)、須恵器片(杯)
1612	P12b2	N-29°-W	楕円形	1.38×1.08		14	人為	平坦	緩斜	土師器片(葉)、須恵器片(葉、瓶)
1617	P12a2	N-7°-W	長方形	4.68×0.78		15	自然	平坦	緩斜	土師器片(杯、葉)、須恵器片(杯)
1619	O12b2	N-54°-W	不整形	1.24×1.18		22	自然	平坦	垂直	土師器片(杯)
1620	O12c3	N-45°-E	楕円形	1.43×1.00		33	人為	凹凸	緩斜	本跡→SB193・P5, SK1619
1621	P12c3	-	円形	0.76×0.280		44	人為	平坦	外傾	高麗方。SI1682→本跡
1622	O12c2	N-4°-E	楕円形	1.12×0.80		21	人為	平坦	緩斜	土師器片(葉)、須恵器片(杯)
1623	O12c2	N-39°-W	楕円形	1.34×1.12		30	人為	平坦	緩斜	骨
1624	O12g2	N-50°-W	不整形	0.90×0.885		41	人為	屈状	外傾	土師器片(杯)、須恵器片(葉)
1625	O12g2	N-22°-W	楕円形	1.03×0.665		38	人為	凹凸	緩斜	SI1679→本跡
1627	P12b1	N-86°-E	楕円形	0.50×0.39		52	人為	凹凸	外傾	
1628	P12d4	N-4°-W	不整形	0.64×0.61		30	人為	凹凸	外傾	須恵器片(杯)
1629	P12d4	N-63°-W	楕円形	0.76×0.64		32	人為	屈状	緩斜	高麗方。SI1677→SK1629→本跡
1630	O11g0	N-78°-W	楕円形	1.08×0.88		36	人為	平坦	緩斜	土師器片(杯、葉)、須恵器片(杯、葉)
1631	O12b2	N-74°-E	楕円形	1.96×1.18		18	人為	平坦	緩斜	土師器片(杯、葉)、須恵器片(葉)
1633	P12c4	-	円形	0.68		16-21	人為	凹凸	外傾	本跡→SB193・P6
1634	P12c4	N-62°-E	楕円形	0.68×0.60		16	人為	平坦	外傾	
1635	P12c4	N-2°-E	楕円形	[0.80]×0.53		36	人為	平坦	外傾	土師器片(葉)、須恵器片(葉)
1636	P12c4	-	円形	1.10		28	人為	平坦	外傾	土師器片(高台付杯、葉)、須恵器片(杯)
1638	O12b4	N-84°-E	楕円形	1.88×0.91		19	人為	平坦	外傾	土師器片(杯、葉)、須恵器片(葉)
1639	O12b4	N-29°-W	不整形	0.96×0.90		21	人為	平坦	外傾	土師器片(杯、葉)、須恵器片(葉)
1640	P12c4	N-7°-W	長方形	0.80×0.64		24	人為	屈状	外傾	土師器片(高台付杯、高台付杯、葉)
1641	P12b2	N-20°-E	長方形	[1.16]×1.00		21	人為	屈状	外傾	土師器片(杯、葉、高台付杯)、須恵器片(杯、葉)
1643	P12c1	N-10°-E	不整形	1.20×1.18		33	人為	凹凸	外傾	土師器片(杯、葉、高台付杯)、須恵器片(杯、葉)
1644	O12c3	N-0°	楕円形	1.36×1.20		29	人為	平坦	外傾	土師器片(杯、葉)
1646	P12d2	N-79°-W	楕円形	1.24×0.85		13-45	人為	凹凸	外傾	土師器片(杯、高台付杯、葉、高台付杯)、須恵器片(杯、葉)、灰釉陶器片
1647	O12g3	N-84°-E	楕円形	0.80×0.58		26-46	不明	凹凸	外傾	9世紀中葉。本跡→SB193・P7, SI1679
1650	O12c2	N-23°-W	円形	1.35×1.32		16	人為	平坦	外傾	古銭(開元通寶)、土師器片(葉)
1651	P12c4	N-3°-E	正方形	0.88×0.86		23	人為	平坦	外傾	土師器片(葉)、釘
1652	O12c4	N-17°-E	楕円形	0.54×0.46		22-43	人為	凹凸	外傾	須恵器片(高台付杯)
1653	P12b4	N-81°-W	長方形	[0.85]×0.54		50	人為	平坦	外傾	本跡→SB115・P9
1654	P12b4	N-5°-E	楕円形	0.86×0.65		10	不明	平坦	外傾	本跡→SK1672

番号	位置	長軸方向 長径方向	平面形	規		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 (性格・時期・目一新)
				長径×短径 (a) (m)	b (m)					
1655	O 11b8	N-84°-E	楕円形	0.95×0.44	10	自然	平組	外傾		SI1685→本跡
1656	P 12d2	N-3°-E	楕円形	0.66×0.30	7-22	人為	凹凸	外傾	土師器片(坏、爨)	本跡→SI1686
1657	P 12d2	N-86°-W	亂線形	1.26×1.05	11	自然	平組	外傾		SI1686→本跡
1659	O 11j9	-	不整形	1.12×1.02	94	人為	平組	垂直	土師器片(坏、爨)、須恵器片(坏、爨)	本跡→SB189・P7・8
1662	P 12b4	N-27°-W	楕円形	1.46×1.65	14	人為	平組	緩斜	土師器片(坏、爨)、須恵器片(爨)	SK1672→本跡
1663	P 11b0	-	円形	1.02×1.00	16	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)	墓域力、SI1689→本跡
1664	P 11b0	N-37°-E	楕円形	1.33×1.20	36	人為	平組	外傾	土師器片(爨)、須恵器片(爨)	墓域力
1665	P 11c0	-	円形	1.06×0.97	31	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)、須恵器片(爨)、砥石、灰注	墓域力、中沢力
1666	P 12d0	-	円形	0.95	30	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)、須恵器片(爨)	墓域力、SI1690→本跡
1667	P 11c7	-	円形	0.64	35	人為	円状	緩斜		SI190・P9→本跡
1668	P 11d9	N-5°-E	円形	4.29×1.82	28-62	人為	凹状	外傾	転倒器、刀子、土師器片(坏、高台付碗、爨)、須恵器片(坏、爨)、高台付杯、高脚、爨、刷毛筆	調査土跡、9世紀中葉-10世紀後半まで使用、SI1688-SK1740→本跡
1669	O 11g6	N-0°	円形	1.46×1.10	21	人為	凹凸	緩斜		
1670	P 11b0	-	円形	0.94×0.86	11	人為	平組	外傾		墓域力、本跡→SI1689
1671	P 11d9	N-76°-W	不整形	3.28×2.50	30	人為	凹凸	外傾	土師器片(坏、爨)、須恵器片(爨)	
1672	P 12b4	N-32°-E	円形	1.85×0.50	16-35	不明	凹凸	外傾		SK1654→本跡→SB115・P9、SK1662
1673	P 11c0	N-81°-E	不整形	1.10×1.00	32	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)、須恵器片(爨)	墓域力、SI1690→本跡
1674	O 11b6	N-3°-W	楕円形	(2.14)×1.53	35	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)、須恵器片(爨)	本跡→SK1675
1675	O 11b5	N-3°-W	楕円形	1.64(×1.19)	44	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)、須恵器片(坏、爨)	SK1674→本跡
1676	O 11b7	N-7°-E	円形	3.10×1.04	64	人為	平組	外傾		墓域力
1677	O 11g6	N-74°-W	円形	1.44×0.82	7	人為	平組	外傾		墓域力
1678	O 11j9	N-6°-E	楕円形	1.81×1.51	39	自然	凹状	垂直		
1679	P 11a6	N-15°-E	長方形	1.44×0.95	10	人為	平組	外傾	土師器片(坏)、須恵器片(爨)	墓域力
1680	P 12c4	N-4°-E	長方形	1.02×0.64	39	人為	平組	外傾		
1681	P 12b2	N-28°-W	楕円形	1.00×0.82	63	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)、須恵器片(坏、爨)	SI1687→SK1617→本跡
1683	P 12a1	N-7°-E	楕円形	1.12×0.88	14	人為	凹状	外傾	土師器片(坏、爨、高台付碗)、須恵器片(坏、高台付杯、爨)	9世紀後半
1685	P 12b3	N-10°-W	楕円形	1.36×0.76	8	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)	墓域力
1687	P 11a8	-	楕円形	0.80×0.65	44	自然	平組	垂直		SB196→本跡
1690	P 11a6	-	円形	1.06×0.95	10	人為	平組	緩斜		
1691	P 11a6	N-55°-W	円形	0.98×0.84	16	人為	凹凸	緩斜		本跡→SB196・P12
1692	O 11j7	-	円形	0.90	63	人為	平組	外傾	土師器片(爨)、須恵器片(爨)	SB196・P9→本跡
1694	P 11e6	N-77°-E	楕円形	1.21×0.59	17	人為	凹凸	緩斜	須恵器片(爨)	
1695	O 11b6	N-2°-E	楕円形	1.28×0.74	18	人為	平組	緩斜	須恵器片(爨)	墓域力、SK1696→本跡
1696	O 11b6	N-0°	亂線形	1.14×0.80	17	人為	平組	緩斜	土師器片(坏、爨)	墓域力、本跡→SK1695
1698	P 11e8	-	円形	(0.35)×0.87	66	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)	本跡→SB191・P5
1700	P 11a6	-	円形	0.87×0.85	10	人為	平組	緩斜		墓域力
1701	P 11a6	-	円形	0.35	20	人為	平組	緩斜		
1702	O 11j6	-	円形	0.61×0.50	35	人為	平組	緩斜		
1703	O 11j6	-	円形	0.63	60	人為	平組	外傾		
1704	O 11b6	N-15°-W	楕円形	1.08×0.88	12	人為	平組	外傾	土師器片(坏、爨)	SI1692→本跡
1705	O 11b5	N-83°-W	楕円形	1.08×0.88	18	人為	凹凸	緩斜	土師器片(高台付杯)、須恵器片(爨)	
1709	P 11c6	N-3°-E	不整形	(3.12)×(1.22)	82	人為	凹凸	外傾	土師器片(坏、爨、高台付碗)、須恵器片(坏、爨)	粘土探掘坑、8世紀以前
1711	P 11e6	N-75°-W	楕円形	1.52×0.85	30	人為	平組	外傾		墓域力
1714	P 11d8	N-41°-E	楕円形	0.81×0.67	9	不明	平組	緩斜	土師器片(爨)	
1715	P 11c6	N-3°-E	楕円形	3.54×0.71	12	自然	平組	外傾	土師器片(坏、爨)、須恵器片(爨)	
1716	P 11c6	-	円形	1.02	22	人為	平組	外傾		墓域力、SK1723→本跡
1718	P 11b6	-	円形	0.98	12	人為	平組	緩斜	土師器片(坏)	本跡→SB196・P11

番号	位置	長軸方向 長径方向	平面形	規		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	
				長さ(m)	幅(m)					
1719	O11j5	N-33°-W	楕円形	0.80×0.50	11	不明	平土	外傾		SI1692→本跡
1721	P11a5	N-34°-W	楕円形	1.02×0.77	15	自然	平土	縦斜		
1722	P11c6	N-7°-E	円形	0.44	23	人為	U字状	外傾		SK1723→本跡
1723	P11c6	N-7°-E	溝状窪	(1.12)×1.06	6	人為	平土	外傾		本跡→SK1716、1722
1725	O12a3	-	円形	0.52	46	人為	U字状	垂直		
1726	P11b5	-	円形	0.42	74	人為	U字状	垂直		本跡→SI1339
1729	P11a6	N-14°-E	楕円形	1.25×0.95	22	人為	平土	縦斜	土師器片(坏, 高台付坏), 須惠器片(甕)	
1730	P1140	N-35°-W	不整形	0.43×0.34	28	人為	U字状	外傾		SI1695→本跡
1732	O11j5	N-80°-W	楕円形	0.77×0.57	20	人為	傾斜	縦斜		
1734	O12a2	-	円形	0.67	40	人為	傾斜	外傾	土師器片(甕)	SK1741→SI1679→本跡
1735	O12a2	N-17°-W	楕円形	0.99×0.82	38	人為	平土	縦斜	土師器片(甕), 褐鉄缸	SI1679→本跡→SK1624
1738	P11c9	-	円形	0.60	39	人為	平土	外傾		SK1739→本跡
1739	P11c9	N-15°-W	楕円形	(0.54)×0.74	56	人為	U字状	外傾		本跡→SK1738
1740	P11d9	N-89°-W	楕円形	0.71×0.64	18	不明	傾斜	縦斜	須惠器片(坏)	SI1698→本跡・SK1668
1741	O12a2	N-26°-W	楕円形	1.14×1.08	34	人為	平土	外傾		本跡→SK1734→SI1679
1742	O12a2	N-38°-W	長方形	(0.74)×0.67	13	自然	平土	縦斜	土師器片(甕)	本跡→SI1679
1743	O12a2	N-32°-E	楕円形	0.58×0.46	24	人為	傾斜	外傾	刀子	本跡→SI1679
1744	P11e0	N-5°-W	楕円形	1.12×0.78	46	人為	平土	外傾	碧玉, 灰輪軸器片, 土師器片(坏, 甕), 須惠器片(坏, 甕)	SI1696・1698→本跡
1745	P11c7	N-85°-E	楕円形	0.95×0.80	15	人為	平土	縦斜		
1746	P11b7	-	楕円形	0.56×(0.44)	28	人為	平土	外傾		本跡→SK1747
1747	P11b7	N-4°-E	楕円形	0.75×0.51	39	人為	平土	外傾		SK1746→本跡
1748	P11b7	N-62°-E	楕円形	0.41×0.33	21	人為	U字状	外傾		
1749	P11b8	-	円形	0.67	20	自然	平土	外傾		
1750	P11a7	-	円形	0.62	59	人為	U字状	外傾		
1751	P11a7	-	円形	0.75	60	人為	平土	外傾		
1752	O11j8	-	円形	0.81	62	人為	平土	外傾		

表9 溝跡一覧表(10区)

番号	位置	長軸方向	規		断面	覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備考 (時期・田→新)		
			長さ(m)	幅(m)								
77	O11a5- O11b5	N-83°-W- N-14°-E	(8.26)	38-174	44-102	8-30	皿状	人為	U字状	外傾	土師器片(坏, 高台付坏, 甕), 須惠器片(甕), 磁器	8世紀代
107	O11a4- O11b6	N-87°-E- N-76°-E- N-84°-E	(7.60)	22-54	6-43	8	傾斜	不明	平土	縦斜	土師器片(甕)	中世, SI1694→本跡→SI198

表10 柱穴列跡一覧表

番号	位置	方向	柱穴数	平面形	深さ(cm)	ピット寸法(m)	出土遺物	備考
1	P11a8	N-77°-W	4	円形	20-50	0.90-1.40	土師器片	底面に柱の痕跡
2	P11a8	N-86°-W	4	円形	35-43	0.80-1.40	土師器片, 須惠器片	底面に柱の痕跡

第4節 遺構と遺物 (12区)

1 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代後期の竪穴住居跡 8 軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第1619号住居跡 (第127・128図)

位置 調査区北西部のQ7c3区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。北側は平成15年度に調査が終了している。

重複関係 第1724号住居跡を掘り込み、第210号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.04m、短軸5.91mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は11~22cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周回しており、幅15~20cm、深さ10~15cmで、断面形状はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで110cmで、袖部幅120cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されており、火床面が熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗 褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	5 におい黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・灰少量	6 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・粘土粒子微量
3 暗 赤褐色	焼土ブロック多量	7 灰 黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
4 極 暗 褐色	焼土ブロック・炭化物・灰少量	8 極 暗 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、砂粒微量

ビット 10か所。P1~P4は主柱穴で、深さは30~58cmである。P5は深さが28cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うビットである。P6~P10は深さが15~29cmで、性格は不明である。また、P1の底面には2か所の柱痕跡が認められる。

貯蔵穴 北東部に位置している。長径70cm、短径48cmの不整楕円形で、深さは24cmである。底面は皿状で、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

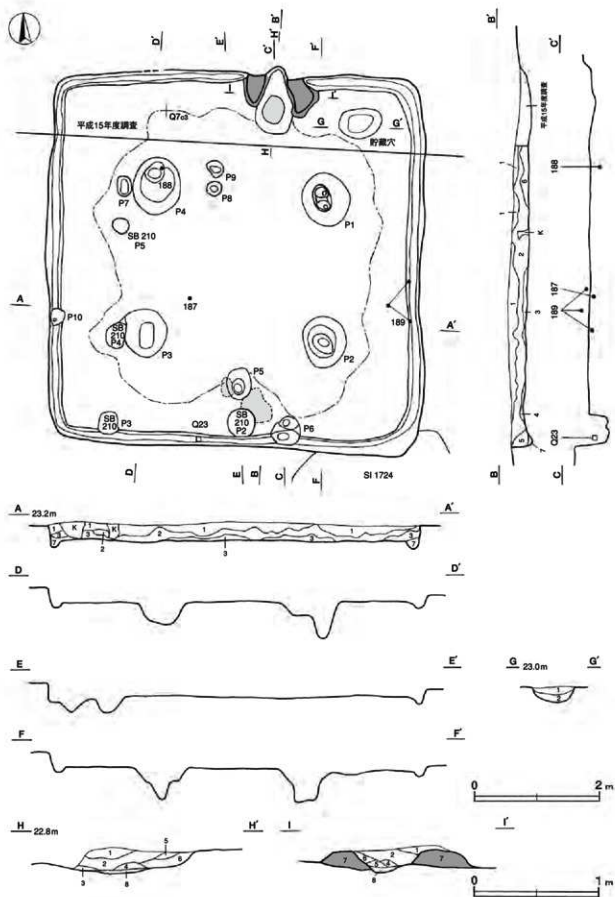
1 極 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	2 暗 褐色	ロームブロック中量
----------	----------------------	--------	-----------

覆土 7層に分けられ、含有物や不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。下層には、焼土ブロックや炭化粒子が含まれている。

土層解説

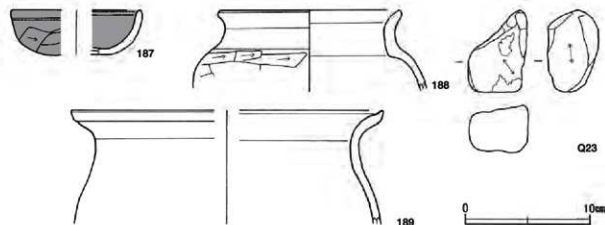
1 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	5 黒 褐色	炭化粒子中量、ロームブロック少量
2 におい褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	6 灰 褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化材少量
3 灰 褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量	7 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 におい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量		

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片242点(坏48、甕194)、灰軸陶器片1点(長頸瓶)、陶器片1点(碗)、雲母片岩1点(砥石)が東壁際と中央部を中心に散在した状態で出土している。187は中央部の覆土下層、188はP4内からそれぞれ細片で出土しているが、いずれも破断面の摩耗が著しい。189は東壁際の床面から覆土中層にかけて出土した破片が接合したもので、細片化していることや出土層位に幅があることなどから、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。灰軸陶器片や陶器片は混入したものである。



第127図 第1619号住居跡実測図

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。P1には2か所の柱痕跡が見られることから、建て替えを行った可能性も考えられるが明確でない。また、南側の床面には焼土ブロックが散在しており、埋め戻した痕跡が認められることから、廃絶に伴う焼失家屋と思われる。



第128図 第1619号住居跡出土遺物実測図

第1619号住居跡出土遺物観察表 (第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
187	土師器	環	[10.2]	3.5	-	長石・石英	こみ焼	普通	体部外面下層及び底部多方向手持ちへう煎り、内面横ナデ	下層	20%
188	土師器	甕	14.2 (6.3)	-	-	長石・石英・雲母片	灰黄褐色	普通	口辺部内外面横ナデ、体部外面へう煎り	P4内	20% PL48
189	土師器	甕	[24.8]	(9.0)	-	長石・石英・雲母片	こみ焼	普通	口辺部内外面横ナデ	床面・中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	砥石	6.5	4.8	3.8	141.1	雲母片岩	砥面2面、他は破断面	下層	

第1620号住居跡 (第129～131図)

位置 調査区北西部のQ7c4区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。北側は平成15年度に調査が終了している。

重複関係 第1722号住居跡と第1863・1923・1924・1937号土坑に掘り込まれている。

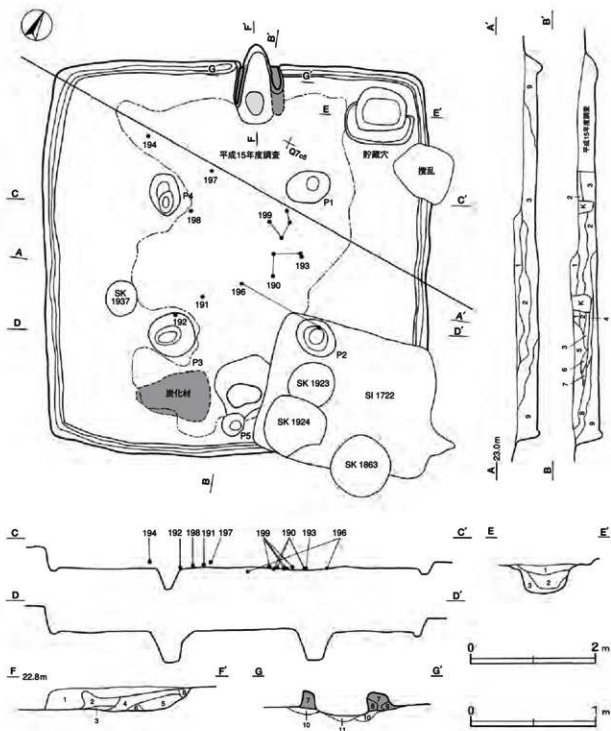
規模と形状 長軸6.27m、短軸6.13mの方形で、主軸方向はN-65°-Wである。壁高は20～30cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、出入り口付近から竈の手前にかけて踏み固められている。特に出入り口付近は硬化が著しく、高まりが確認できる。また、壁溝が周回しており、幅15～20cm、深さ5～10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで28cmで袖部幅80cmである。火床部は床面を12cmほど皿状に掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して作られている。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築され、火床面と袖部の内側は熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込み、外傾して緩やかに立ち上がっている。なお、第10・11層は掘方の土層である。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 5 極暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂粒少量 | 6 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 灰中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子少量 |
| 4 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、砂粒少量 | 8 におい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量 |
| | 9 におい黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子微量 |
| | 10 極暗褐色 ロームブロック少量 |
| | 11 極赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化材少量 |



第129図 第1620号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは31～54cmである。P5は深さ29cmで、竈に向かい合う位置にあることや硬化面の広がりから判断して、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、長軸80cm、短軸70cmほどの隅丸長方形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

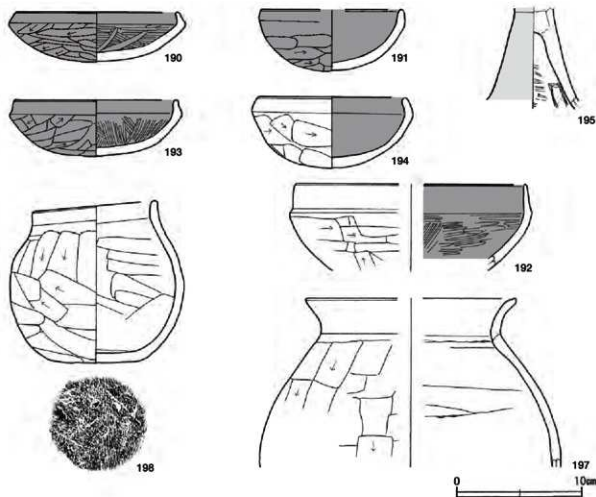
覆土 9層からなり、レンズ状を呈している。ロームブロックを各層に多く含む堆積状況で、人為堆積と考えられる。

土層解説

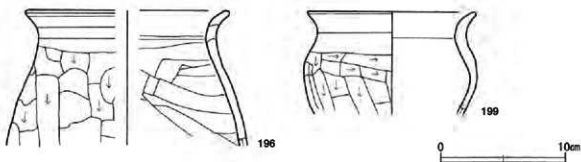
1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗褐色	ローム粒子中量
2	褐色	ローム粒子中量	7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量	8	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
4	褐色	ロームブロック多量	9	褐色	ローム粒子多量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片181点（坏71，甕109，高坏1）が散在した状態で出土している。190・198・199は、いずれも中央部の床面から破砕された状態で出土した破片が接合したものである。191も中央部の床面から出土しており、外面の磨滅が著しい。また、193は中央部の床面、194は北西コーナー部の覆土下層から細片で出土している。大半の遺物が中央部に集中し、ほぼ一個体になることからいずれも投棄されたものと考えられる。また、195は覆土中からの出土で混入したものであるが、周辺に5世紀代の遺構がないことから、本跡の西側に当該期の遺構が存在する可能性が高い。

所見 時期は、出土土器の形状から6世紀後葉以前と考えられる。主軸方向を北西に向け、第1619号住居跡とはあまりに隣接していることから、若干の時期差が考えられる。南壁際の床面には炭化材が散在し、埋め戻した痕跡が認められることから、廃絶に伴う焼失家屋と思われる。



第130図 第1620号住居跡出土遺物実測図(1)



第131図 第1620号住居跡出土遺物実測図(2)

第1620号住居跡出土遺物観察表 (第130・131図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
190	土師器	環	12.8	4.0	-	長石・石英	にぶ青	普通	体部外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	80% PL39
191	土師器	環	[11.2]	4.9	-	長石・石英	灰白	普通	体部外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内外面横ナデ	床面	90% PL39
192	土師器	環	[18.2] (6.9)	-	-	長石・赤色粒子	にぶ青	普通	体部外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	30%
193	土師器	環	13.0	4.5	-	長石	にぶ青	普通	体部外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	70% PL39
194	土師器	環	11.7	5.7	-	長石・石英	にぶ青	普通	体部外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内外面横ナデ	下層	70% PL39
195	土師器	高環	-	(8.0)	-	長石	赤	普通	脚部外面ナデ後赤彩	覆土中	30%
196	土師器	壺	[15.7] (10.7)	-	-	長石・石英・礫	橙	普通	体部外面ヘラ削り、体部内面ヘラナデ、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	10%
197	土師器	壺	[16.7] (13.3)	-	-	長石・石英	にぶ青	普通	体部外面ヘラ削り、体部内面ヘラナデ、口辺部内外面横ナデ、底部ヘラ削り	下層	10%
198	土師器	小形壺	9.6	13.0	7.6	長石・石英	にぶ青	普通	体部外面ヘラ削り、体部内面ヘラナデ、口辺部内外面横ナデ、底部ヘラ削り	床面	80% PL47
199	土師器	小形壺	13.3	(8.1)	-	長石・石英	にぶ青	普通	体部外面ヘラ削り、口辺部内外面横ナデ	床面	70% PL47

第1721号住居跡 (第132図)

位置 調査区東部のQ 8 4区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.60mほどの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は5~10cmで、壁は外傾して立ち上がっているものと推測される。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周囲しており、幅15~20cm、深さ5~10cmであり、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。袖部幅は50cmほどと推定され、壁外への掘り込みは40cmである。層位が薄いため詳細は不明であるが、袖部は砂質粘土で構築されていたものと推定される。火床面は25cmほど皿状に掘りくぼめた部分にローム土を埋め戻して作られている。若干赤変しているものの焼け締まりはあまり見られず、使用頻度は低かったものと思われる。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ロームブロック	4	暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2	暗 褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量	5	暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3	暗 赤褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1~P 4は主柱穴で、深さは48~56cmである。P 5は深さ40cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

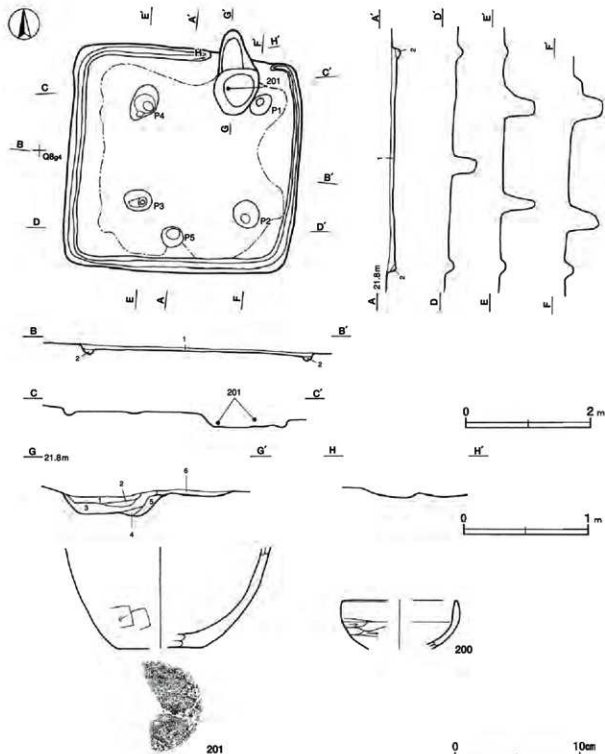
覆土 2層である。層厚が薄いため、詳細は不明である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	2	暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
---	----	---------------------	---	------	---------------------

遺物出土状況 土師器片43点(坏2, 堇41), 磁器片3点(碗), 鉄滓1点, 銅製品1点(不明)が竈周辺を中心に出土している。200は覆土上部, 201は竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも細片で, 内外面の磨滅が著しいことなどから廃棄されたものと思われる。遺物は破片が多いため図化できた資料も少ない。

所見 時期は, 出土土器から6世紀中葉と推定される。本跡は単独で調査区東部に位置し, ややコーナー寄りに竈が設置されている。調査区西側に位置する第1724・1734号住居跡とは同時期に機能していたと考えられるが, 主軸方向や竈の設置場所に違いが見られ, 血縁の違いや若干の時期差が想定される。



第132図 第1721号住居跡・出土遺物実測図

第1721号住居跡出土遺物観察表（第132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
200	土師器	坏	[8.9]	(3.8)	-	長石・石英	こみ黄	普通	体部外面へウケリ、口辺部内外面横ナデ	上部	10%
201	土師器	甕	-	(8.0)	[7.2]	長石・石英・霽	橙	普通	体部外面へウケリ、内面へウケナデ	下層	30%

第1724号住居跡（第133・134図）

位置 調査区北西部のQ7d3区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1619号住居跡と第210号独立柱建物跡・第1961号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.83mの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は6～20cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、出入り口施設から竈手前にかけて踏み固められている。また、壁溝が周回しており、幅10～15cm、深さ5～8cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで80cm、袖部幅100cmで、壁外への掘り込みはほとんど認められない。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に砂質粘土で構築されており、内側は著しく硬化して焼け締まり、左袖部には土師器甕が構築材として使用されている。火床部は35cmほど掘りくぼめた部分にローム土を用いて埋め戻して使用している。火床面は著しく熱を受けて赤変硬化しており、使用頻度の高さがうかがえる。また、煙道部は火床面から直立気味に立ち上がっている。竈は、廃絶後間もなく天井部材が崩落していることから、人為的に破壊された可能性が考えられる。

竈土層解説

1	こみい	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	10	赤	褐色	焼土粒子多量、炭化物・砂質粘土粒子少量
2	灰	褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	11	橙	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
3	褐色	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	12	こみい	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗赤	褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	13	黒	褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量
5	褐色	褐色	ロームブロック中量	14	明褐色	灰色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
6	明褐色	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量	15	褐色	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7	褐色	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	16	灰褐色	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
8	暗赤褐色	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	17	褐色	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
9	褐色	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量				

ピット 6か所。P1～P4は深さが32～52cmで、主柱穴である。P5・P6は深さが34cmと16cmで竈に向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 14層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不自然な堆積状況を示していることから、人為堆積と思われる。また、下層には焼土粒子や炭化粒子を含んでいる。

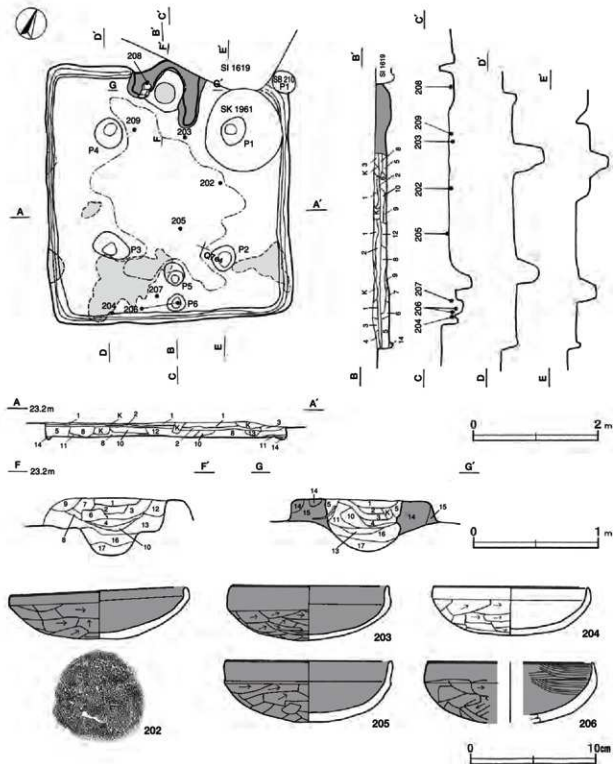
土層解説

1	褐色	褐色	ロームブロック中量	8	暗褐色	褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2	褐色	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	9	暗褐色	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3	暗褐色	褐色	ロームブロック少量	10	灰褐色	褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
4	褐色	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	11	灰褐色	褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
5	褐色	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	12	明褐色	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
6	褐色	褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量	13	灰褐色	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
7	灰褐色	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量	14	褐色	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量

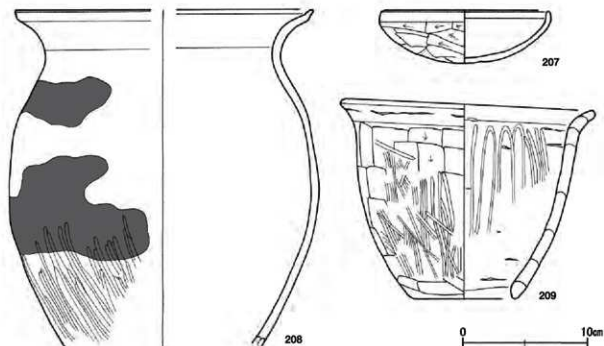
遺物出土状況 土師器片45点（坏14、甕2、瓶29）が全城から散在した状態で出土している。202は東側の床面、203は竈前面の床面からいずれも正位で出土している。口縁部の剥離は認められるが、ほぼ完形品であることから、遺棄されたものと思われる。また、204は南壁際の床面、205は中央部の床面、209は竈前面の床面からそれぞれつぶれた状態で出土しており、これらも遺棄されたものと思われる。206は南壁際の床面から覆

土下層にかけて出土した破片が接合したもので、出土層位に幅があることから、投棄されたものと思われる。また、208は左袖内から出土したもので、体部外面に煤が付着しており、生活用具が破損したため竈の構築材として使用された可能性が考えられる。

所見 壁際や覆土下層には焼土ブロックや炭化材が散在しており、埋め戻した痕跡が認められることから、廃絶に伴う焼失家屋と想定される。時期は、竈の構築材として使われた土師器甕や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第133図 第1724号住居跡・出土遺物実測図



第134図 第1724号住居跡出土遺物実測図

第1724号住居跡出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
202	土師器	坏	13.9	4.1	6.0	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	体外外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内面横ナデ	床面	95% PL39
203	土師器	坏	12.4	4.3	-	長石・石英	灰褐色	普通	体外外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内面横ナデ	床面	95% PL39
204	土師器	坏	12.4	3.8	-	長石・石英	橙	普通	体外外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内面横ナデ	床面	90% PL39
205	土師器	坏	13.2	4.8	-	長石	にぶい黄	普通	体外外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内面横ナデ	床面	80% PL39
206	土師器	坏	[13.0] (4.8)	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	体外外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内面横ナデ	床面～下層	70% PL39
207	土師器	坏	13.2	4.1	-	長石・雲母・紫色鉄子・塵	明赤褐色	普通	体外外面多方向手持ちヘラ削り、口辺部内面横ナデ	下層	60% PL39
208	土師器	甕	[23.7] (26.9)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体外外面下端ヘラ磨き、口辺部内外面横ナデ	竈左袖内	40% 煤付着
209	土師器	甕	19.8	15.9	8.4	長石・石英・塵	にぶい橙	普通	体外外面ヘラ削り後ヘラ磨き、口辺部内外面横ナデ、内面ヘラ削り、輪磨き	床面	90% PL45

第1732号住居跡 (第135～138図)

位置 調査区中央部のQ7g6区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1734号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.70m、短軸2.95mほどの東西に若干長い長方形で、主軸方向はN-66°-Wである。壁高は31～35cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周回しており、幅7～20cm、深さ5cmであり、断面形状はU字状を呈している。

竈 西壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅80cmで、壁外への掘り込みは30cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に砂質粘土で構築されており、内側は著しく硬化し焼け締まっている。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用しており、火床面が2か所確認されている。いずれも焼土が多量に堆積していることから、当初は火床面1を使用し、袖部などを付け足して火床面2に切り替えた可能性が想定され、使用頻度は高かったものと思われる。また、煙道部の立ち上がりの勾配は大きい。

竈土層解説

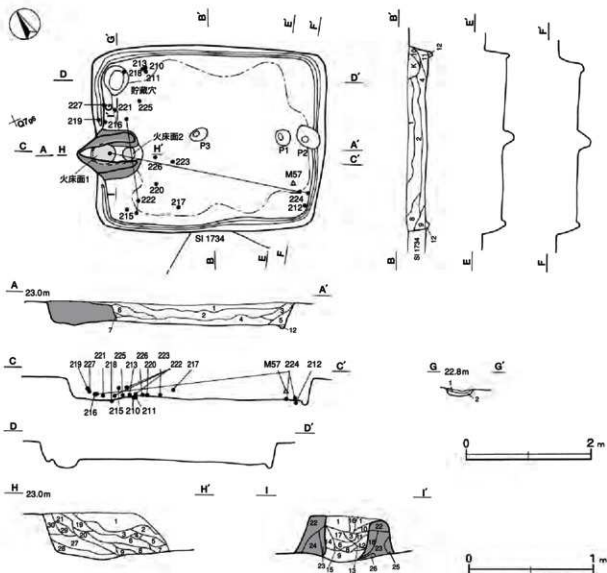
1	暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	16	褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2	暗 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量
3	灰 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	18	灰 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
4	灰 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量	19	灰 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
5	暗 赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	20	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
6	暗 褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	21	暗 褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	暗 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	22	暗 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗 赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	23	赤 褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量
9	黒 褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量	24	灰 褐色	砂質粘土粒子中量、砂質粘土粒子微量
10	褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	25	暗 褐色	焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子微量
11	灰 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量	26	黒 褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量
12	暗 赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	27	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化材微量
13	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	28	褐 色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
14	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	29	褐 色	ローム粒子少量
15	黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	30	暗 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 3か所。P1・P2は深さがそれぞれ23cmと28cmで竈に向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。P3の性格は不明であるが、寄棟状の上屋の柱穴とも考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置し、長径55cm、短径40cmほどの楕円形で、深さは13cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗 褐色	ローム粒子少量	2	褐 色	ローム粒子中量
---	------	---------	---	-----	---------



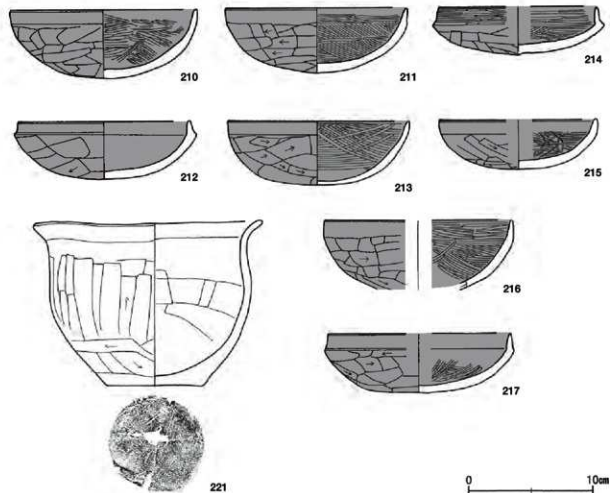
第135図 第1732号住居跡実測図

覆土 12層からなり、レンズ状の堆積状況である。下層はロームブロックを含み、人為堆積の状況を示し、中層から上層にかけてはローム粒子が少量で、自然堆積と思われる。

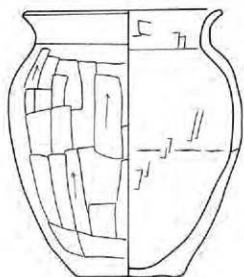
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック中量
4	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック微量
5	暗褐色	ローム粒子少量	11	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
6	暗褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量	12	褐色	ローム粒子中量

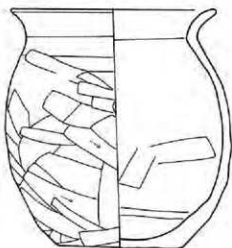
遺物出土状況 土師器片466点（坏49、甕284、瓶133）、土製品2点（支脚）、鉄製品1点（釘）、雲母片岩3点が竈周辺に集中して出土し、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。210・211・213は、いずれも竈脇の北西コーナー部の床面から正位で重って出土している。いずれも内外面の磨減や剥離は著しいが、遺棄されたものと思われる。また、217は南側の覆土中層からの出土で、埋め戻しの際に投棄されたものと思われる。甕や瓶は竈周辺から集中して出土しており、218は北西コーナー部の床面、219は西壁溝内、221・225・227は竈右側の床面から覆土下層、226は竈前面の床面からそれぞれつぶれた状態で出土し、遺棄されたものである。
所見 豊富な遺物量であり、一括廃棄されたものと想定される。遺物の出土状況から、竈の右側は、厨房空間として使用されていたことが示唆される。出土土器の形状と重複関係から、廃絶時期は7世紀前葉と思われる。



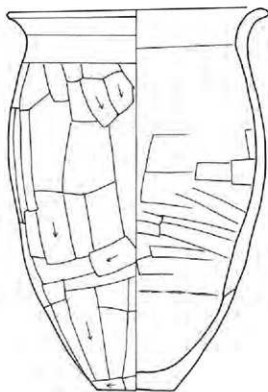
第136図 第1732号住居跡出土遺物実測図(1)



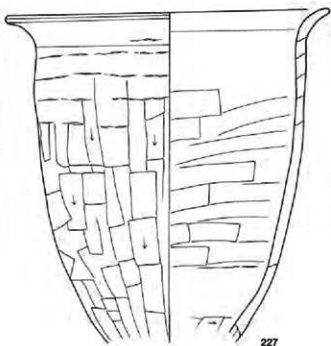
218



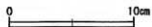
220



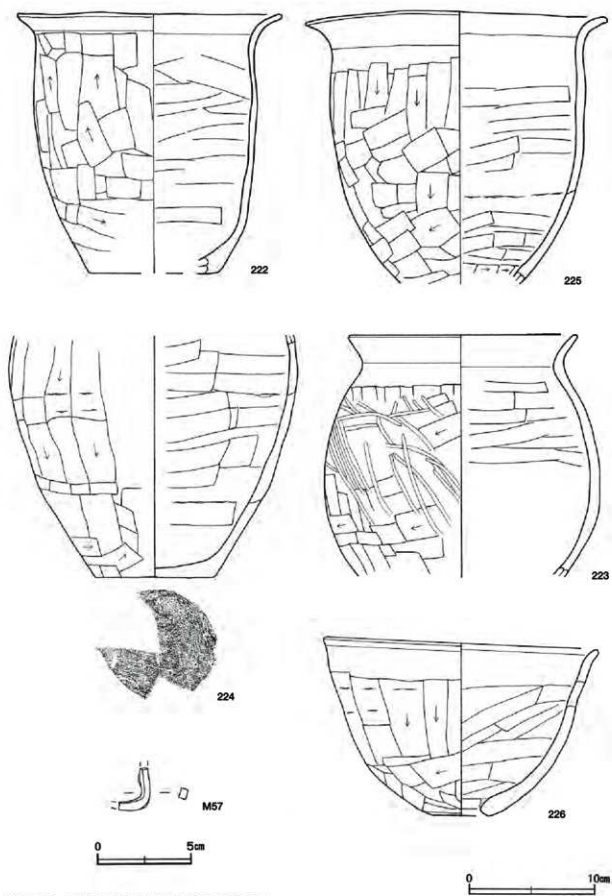
219



227



第137图 第1732号住居跡出土遺物実測図(2)



第138图 第1732号住居跡出土遺物実測図(3)

第1732号住居跡出土遺物観察表 (第136～138図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
210	土師器	坏	14.8	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	黒灰	普通	体外外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	96% PL40
211	土師器	坏	14.3	5.2	-	長石・石英	黒褐	普通	体外外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	100% PL40
212	土師器	坏	13.5	4.6	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体外外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	90% PL40
213	土師器	坏	14.2	5.1	-	長石・石英	黒褐	普通	体外外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	90% PL40
214	土師器	坏 [124]	3.7	-	-	長石・石英	黒褐	普通	体外外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	覆土中	30% PL40
215	土師器	坏 [122]	3.9	-	-	長石	橙	普通	体外外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	中層	25% PL40
216	土師器	坏 [149]	(5.5)	-	-	長石・石英	褐	普通	体外外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	下層	25% PL40
217	土師器	坏 [145]	-	-	-	長石・雲母	黒褐	普通	体外外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	中層	80% PL40
218	土師器	甕	15.3	21.3	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶ褐	普通	体外外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	床面	96% PL47
219	土師器	甕	20.1	30.6	6.0	長石・石英	にぶ褐	普通	体外外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	壁溝内	90% PL47
220	土師器	甕	15.8	18.9	10.0	長石・石英	にぶ褐	普通	体外外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	床面	85% PL47
221	土師器	甕	17.9	13.2	7.6	長石・石英・赤色粒子	にぶ褐	普通	体外外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	下層	85% PL47
222	土師器	甕	21.1	20.5	[102]	長石・石英・赤色粒子	にぶ褐	普通	体外外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	下層	70% PL48
223	土師器	甕	18.0	[192]	-	長石・石英・雲母	にぶ褐	普通	体外外面へう割り磨き、口辺部内外面横ナデ、内面へう割り	下層	50% PL48
224	土師器	甕	-	[192]	9.4	長石・石英・雲母	にぶ褐	普通	体外外面へう割り、内面ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	壁溝内	35%
225	土師器	甕	23.9	[217]	-	長石・石英	にぶ褐	普通	体外外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	床面	95% PL46
226	土師器	瓶	21.6	14.1	4.0	長石・石英	浅黄橙	普通	体外外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	床面	96% PL45
227	土師器	甕	25.1	[26.6]	-	長石・石英	橙	普通	体外外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、ヘラナデ、輪轡痕、底部へう割り	下層	90% PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M57	釘	(2.3)	0.5	0.5	(3.5)	鉄	断面方形の棒状、側部湾曲	中層	PL50

第1734号住居跡 (第139～143図)

位置 調査区北部のQ7h6区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1732号住居跡、第32号方形竈穴遺構、第206号柱立建物跡、第1755・1880・1928号土坑、第111号溝跡に掘り込まれている。

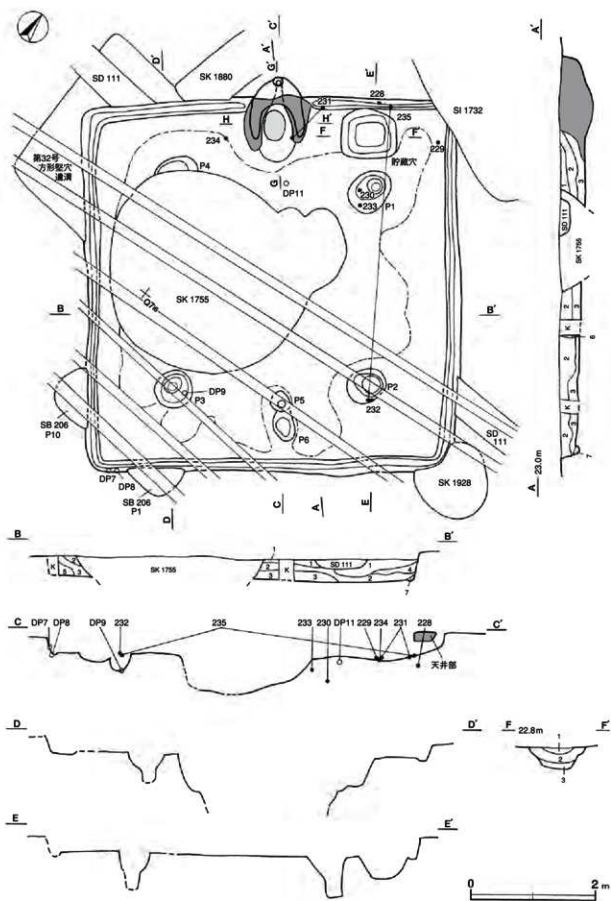
規模と形状 長軸5.94m、短軸5.90mの方形で、主軸方向はN-42'-Wである。壁高は23～28cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周回しており、幅10～15cm、深さ5～10cmで、断面形はU字状を呈している。

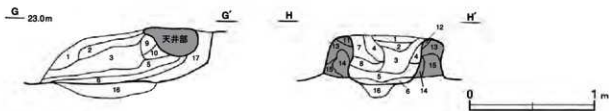
竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで135cm、袖部幅100cmで、壁外への掘り込みは35cmである。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を中心に周りに砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は10cm掘りくぼめた部分にローム土で埋め戻し、火床面は熱を受けて赤変硬化している。火床部には厚さ4cmの焼土が堆積しており、使用頻度の高さがうかがえる。土層断面図の第2・3・4・7・8層は崩落土層に相当する。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

■土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	9	暗褐色	色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量	10	褐色	色	焼土粒子中量、炭化材・砂質粘土粒子少量
3	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量	11	褐色	色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック少量
4	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	12	褐色	色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
5	暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量	13	にぶい黄褐色	色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
6	暗赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量	14	にぶい褐色	色	砂質粘土ブロック多量、焼土粒子中量
7	灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量	15	にぶい黄褐色	色	砂質粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化材少量
8	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	16	褐色	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
			17	暗褐色	色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量



第139図 第1734号住居跡実測図(1)



第140図 第1734号住居跡実測図(2)

ピット 6か所。P1～P4は主柱穴で、深さは42～66cmである。P5・P6はそれぞれ深さ15cmと30cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 北東部に位置している。長軸90cm、短軸80cmの隅丸長方形で、深さは35cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | | |

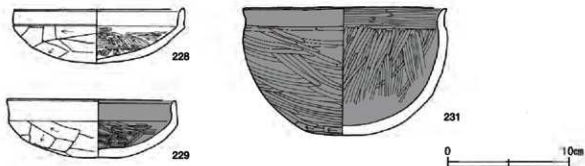
覆土 7層に分けられる。全体的にロームブロックを含んだ暗褐色土と黒褐色土からなる。不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

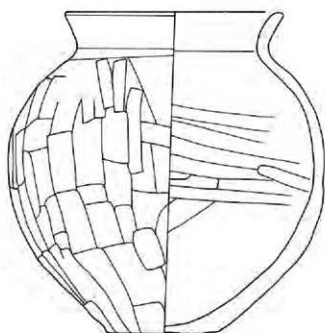
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片147点(環26、高台付環3、甕105、鉢13)、須恵器片34点(環9、甕25)、土製品6点(土玉5、支脚1)、灰軸陶器片1点(壺)、陶磁器片4点(不明)、碟1点が全域から散在して出土している。228は北壁溝内から出土し、遺棄されたものと思われる。229は東壁際の床面、232は南東部の床面からそれぞれ出土しており、打ち欠いた痕跡があることから、人為的に破壊して遺棄されたものと思われる。230・233はP1内から出土しており、廃絶時に遺棄されたものである。また、234は竈左袖付近の床面から破砕された状態で出土しており、これらも遺棄されたものと思われる。DP7～DP11は、大きさは不揃いで、孔が中心から外れているものも見られるが、南壁際やP3内、竈周辺から出土している。

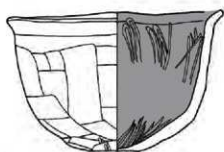
所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。当該期の住居は主軸方向が北西を向いているものが多い。竈付近の床面や主柱穴内からは多くの土玉が出土しており、竈封じなど祭祀的な行為が行われた可能性が考えられる。



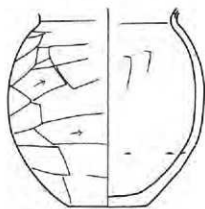
第141図 第1734号住居跡出土遺物実測図(1)



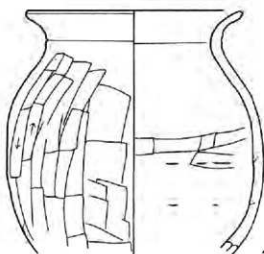
234



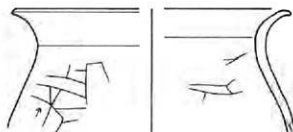
230



232



233



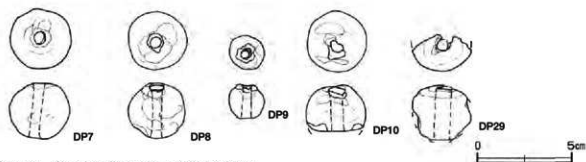
235



DP11



第142图 第1734号住居跡出土遺物実測図(2)



第143図 第1734号住居跡出土遺物実測図(3)

第1734号住居跡出土遺物観察表 (第141～143図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
228	土器	坏	13.7	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	壁溝内	60% PL40
229	土器	坏	13.6	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	体部外面多方向手持ちへう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き	床面	50% PL40
230	土器	鉢	16.8	11.0	4.8	長石・石英	C50黄	普通	体部外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、内面磨き、底部へう割り	P 1内	100% PL45
231	土器	鉢	16.5	10.5	-	長石	褐	普通	体部内外面磨き	下層	80% PL45
232	土器	甕	-	(15.9)	6.4	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面へう割り、内面横ナデ、輪痕状	下層	50%
233	土器	甕	17.0	(19.5)	-	長石・石英・赤色粒子・濃	にぶい橙	普通	体部外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、内面横ナデ、輪痕状	P 1内	70% PL48
234	土器	甕	17.2	25.6	9.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、内面横ナデ、底部へう割り	床面	70% PL48
235	土器	甕	[11.2]	(10.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へう割り、口辺部内外面横ナデ、内面横ナデ	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 7	土玉	3.3	2.9	0.6	28.1	土(長石・石英・赤色粒子)	ナデ、片面穿孔		PL49
DP 8	土玉	2.6	3.1	0.6	26.2	土(長石・石英・赤色粒子)	ナデ、片面穿孔		PL49
DP 9	土玉	1.8	1.8	0.4	5.2	土(長石・石英・赤色粒子)	ナデ、片面穿孔		PL49
DP10	土玉	3.1	(2.3)	0.8	(21.3)	土(長石・石英・赤色粒子)	ナデ、半部欠損		孔の中からは取れない。内面
DP29	土玉	(3.1)	(2.8)	0.7	(11.9)	土(長石・石英・赤色粒子)	ナデ、半部欠損		覆土中

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	支脚	(10.1)	6.8	5.8	(62.9)	土(長石・石英)	ナデ、熱を受けて脆い、にぶい橙色を呈する	床面	

第1735号住居跡 (第144～146図)

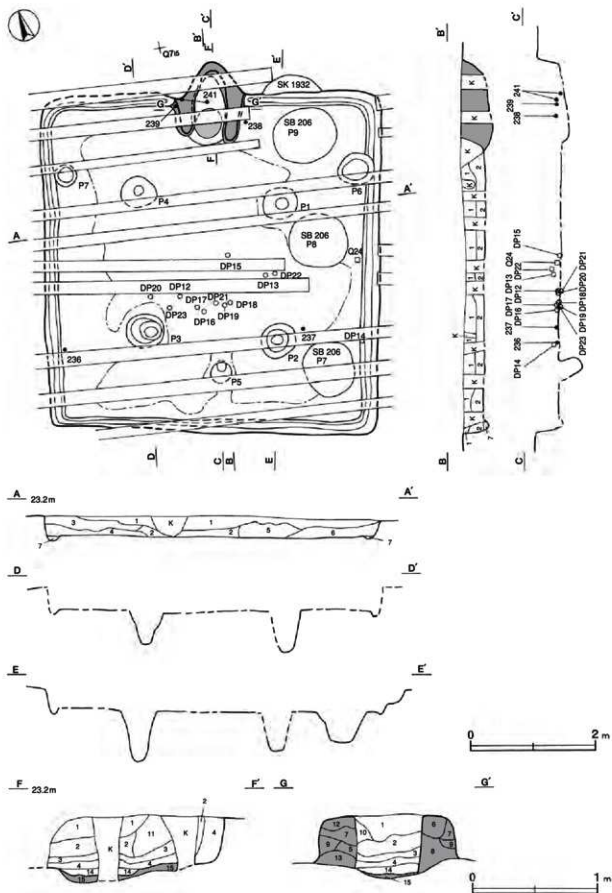
位置 調査区南西部のQ 7 14区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1932号土坑と第206号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.40m、短軸5.30mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は35～37cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周囲しており、幅15～20cm、深さ5～7cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅120cmで、壁外への掘り込みは45cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床部は10cm掘りくぼめられた部分に砂質粘土を貼り付けて使用している。火床部には焼土が多量に堆積しており、使用頻度の高さがうかがえ、煙道部の立ち上がりの勾配は大きい。竈は住居の廃絶後、天井部が間もなく崩落していることから、人為的に破壊された可能性が高い。



竈土層解説

1 灰 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	9 黒 褐色	ローム粒子中量、炭化物・砂質粘土粒子少量
2 褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化材少量	10 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 明 赤 褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子中量	11 灰 褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
4 暗 赤 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	12 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
5 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量	13 灰 褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量
6 灰 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	14 暗 赤 褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土粒子少量
7 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	15 暗 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量
8 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量		

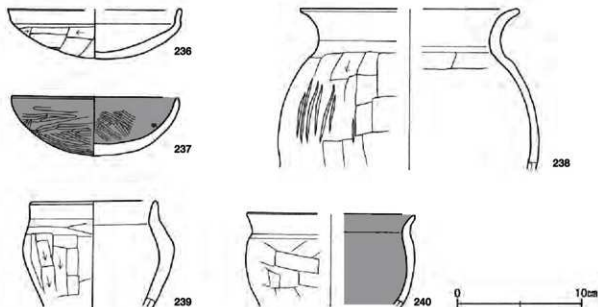
ピット 7か所。P1～P4は支柱穴で、深さは54～84cmである。P5は深さ38cmで、竈と向かい合う位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は、底面に柱痕跡が認められ、一般的な住居と土屋構造が異なるものと考えられる。

覆土 7層である。不自然な堆積状態で、全体的にロームブロックを含む暗褐色土と褐色土からなり、人為堆積と思われる。

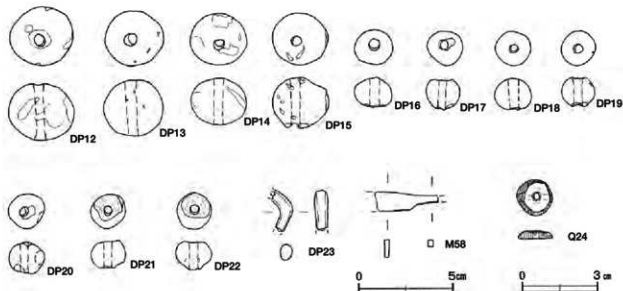
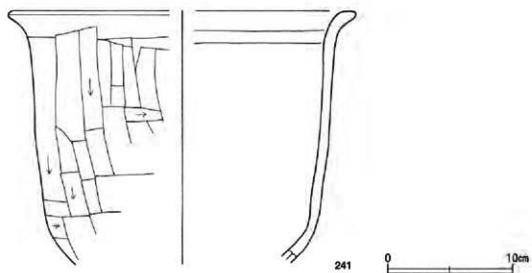
土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5 褐色	ローム粒子中量、炭化物少量
2 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗 褐色	ロームブロック・炭化物少量
3 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7 暗 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック・炭化物中量		

遺物出土状況 土師器片166点（坏26，甕139，瓶1），須恵器片19点（甕），陶磁器片11点（碗3，壺2，不明6），鉄製品1点（刀子），鉄滓1点，土製品12点（土玉11，勾玉1），石製品1点（白玉）が全域から出土している。236は西壁際の床面，237は東側の床面からそれぞれ細片で出土しており、内外面の摩耗や剥離が著しく、人為的に打ち欠いた痕跡が認められる。238は竈右側の覆土下層から出土しているが、竈内に遺棄されたものが、耕作による攪乱によって竈外に運ばれたか、袖部の構築材が竈外に運ばれた可能性が考えられる。外部外面には線状の擦痕が見られることから、砥石として利用された可能性もある。また、239は竈左袖付近の覆土下層，D P12～23は中央部や東壁際の床面から覆土下層，Q24は東壁際の床面からそれぞれ出土している。
所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。中央部の床面から白玉や土玉が集中して出土しており、廃絶に伴う何らかの祭祀的行為が行われた可能性が考えられる。



第145図 第1735号住居跡出土遺物実測図(1)



第146図 第1735号住居跡出土遺物実測図(2)

第1735号住居跡出土遺物観察表 (第145・146図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
236	土師器	坏	[13.6]	4.0	-	長石・石英・糠	いぶき	普通	体部外面下端及び底部多方向手持ちへう割り	床面	80% PL41
237	土師器	坏	13.2	4.6	-	長石	いぶき	普通	体部内外面磨き	床面	50% PL41
238	土師器	甕	[17.2]	(12.7)	-	長石・石英	いぶき	普通	体部外面へう割り、口辺部内外面横ナデ	下層	10% 体部外面破表
239	土師器	小形甕	9.8	(8.6)	-	長石・石英・紫色粒子	橙	普通	体部外面へう割り、口辺部内外面横ナデ	下層	30% PL47
240	土師器	小形甕	[13.4]	(7.4)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へう割り、口辺部内外面横ナデ	覆土中	15%
241	土師器	甕	[27.0]	(20.1)	-	長石・石英・糠	橙	普通	体部外面へう割り、口辺部内外面横ナデ	甕内	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	土玉	3.5	2.9	0.6	27.5	土(長石・石英・紫砂)	ナデ、片面穿孔	下層	PL49
DP13	土玉	3.1	3.0	0.5	28.2	土(長石・石英・紫砂)	ナデ、片面穿孔	下層	PL49
DP14	土玉	3.0	2.5	0.4	21.2	土(長石・石英・紫砂)	ナデ	下層	PL49

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP15	土玉	3.0	2.6	0.5	20.8	土(炭石・石英・炭粉)	ナデ、片面穿孔	床面	PL49
DP16	土玉	2.0	1.6	0.5	5.7	土(炭石・石英・炭粉)	ナデ、片面穿孔	床面	PL49
DP17	土玉	2.0	1.7	0.4	6.1	土(炭石・石英・炭粉)	ナデ、片面穿孔	床面	PL49
DP18	土玉	2.0	1.7	0.5	5.9	土(炭石・石英・炭粉)	ナデ、片面穿孔	床面	PL49
DP19	土玉	1.8	1.6	0.5	4.8	土(炭石・石英・炭粉)	ナデ、片面穿孔	床面	PL49
DP20	土玉	1.9	1.7	0.4	5.4	土(炭石・石英・炭粉)	ナデ、片面穿孔	床面	PL49
DP21	土玉	1.8	1.4	0.4	(4.0)	土(炭石・石英・炭粉)	ナデ、片面穿孔	床面	PL49
DP22	土玉	1.9	1.5	0.5	(4.7)	土(炭石・石英・炭粉)	ナデ	下層	PL49
DP23	勾玉	(2.2)	0.7	0.8	(1.7)	土(炭石・石英)	最先形土製品か、ナデ	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	白玉	1.38	1.36	0.34	0.9	滑石	孔径0.24cm、両面横位の研磨痕、片面穿孔	床面	PL50

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M58	刀子	(3.4)	1.0	0.3	(3.0)	鉄	刃部欠損、基部の破片、炭灰偏が顕る	覆土中	PL50

第1740号住居跡（第147・148図）

位置 調査区南西部のR7a4区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第206号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、長軸5.77m、短軸は2.97mだけが確認された。形状は方形または長方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は41～45cmで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、壁溝が確認された範囲で巡っており、幅は15～20cm、深さは5～10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道まで125cm、袖部幅175cmで、壁外への掘り込みは55cmである。天井部は崩落しており、土層断面図の第2～3層にあたる。袖部は床面より若干高く掘り残した地山を中心としてその周囲に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は6cm掘りくぼめた部分に砂質粘土を貼っており、火床面は熱を受けて赤変硬化していることから、使用頻度は高かったものと思われる。また、煙道部の立ち上がりの勾配は大きい。竈は住居の廃絶後、天井部が間もなく崩落していることから、人為的に破壊された可能性が高い。

竈土層解説

1	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	13	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2	暗褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	14	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
3	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量			
4	暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量			
5	暗赤褐色	炭化粒子多量、焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量	15	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量
6	暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子中量			
7	ぶい赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量	16	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
8	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量			
9	暗赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土粒子少量	17	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
10	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量			
11	灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量	18	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量
12	灰褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子少量	19	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土粒子少量

ピット 2か所。いずれも主柱穴で、深さは42～53cmである。

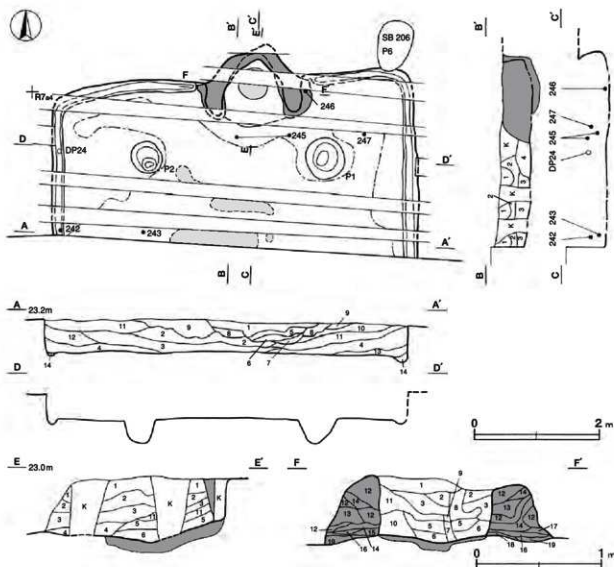
覆土 14層からなり、レンズ状の堆積状況であるが、全体的にロームブロックを含んでいることから、人為的堆積と思われる。また、下層には焼土粒子や炭化粒子を含んでいる。

土層解説

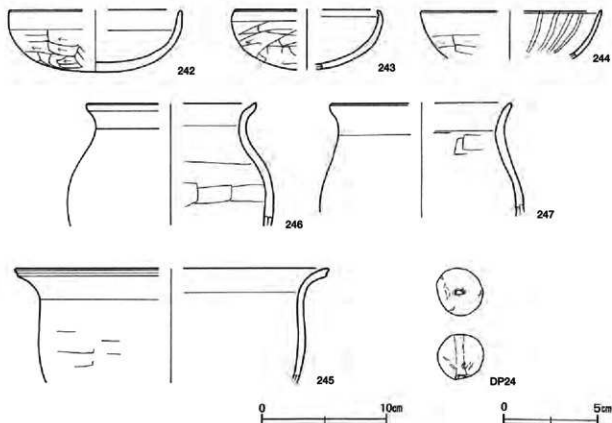
1 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量	8 黒褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	9 黒褐色	ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量
3 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量	10 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	11 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子少量
5 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, ロームブロック少量	12 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
6 黒褐色	焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量	13 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	14 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片414点(坏87, 甕327), 須恵器片51点(坏16, 高台付坏2, 甕25, 蓋8), 灰軸陶器片4点(壺), 鉄滓1点, 土製品2点(土玉1, 支脚1), 骨片が全域から散在した状態で出土している。また, 流れ込んだ陶磁器片5点, 縄文土器片2点も出土している。遺物の大半は床面から浮いた状態で出土しており, いずれも細片であり, 埋め戻しの際に投棄されたものと思われる。242は西壁際の覆土中層, 243は中央部の覆土中層からそれぞれ出土し, いずれも内外面の摩擦が著しい。また, 245は竈前部の覆土中層, 246は竈右側の下層からの出土である。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後葉と考えられる。床面からは焼土塊が検出されており, 廃絶に伴った焼失家屋と推定される。遺物の大半は小片で, 食器具類はあらかじめ持ち出された可能性がある。



第147図 第1740号住居跡実測図



第148図 第1740号住居跡出土遺物実測図

第1740号住居跡出土遺物観察表 (第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
242	土師器	坏	[13.5]	5.0	-	長石・石英	にぶい濁	普通	体部外面ヘラ削り、口辺部内外面横ナデ	中層	40% PL41
243	土師器	坏	[11.4]	(4.7)	-	石英・赤色粒子	黒濁	普通	体部外面ヘラ削り、口辺部内外面横ナデ	中層	30%
244	土師器	坏	[14.4]	(3.8)	-	長石	明赤濁	普通	体部外面下層ヘラ削り、口辺部外面ナデ、内面放射状の縄文	覆土中	10%
245	土師器	甕	[25.0]	(9.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ	中層	10%
246	土師器	甕	[13.4]	(9.7)	-	長石・石英・雲母	明赤濁	普通	内面ヘラナデ	下層	10%
247	土師器	甕	[14.4]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	明赤濁	普通	内面ヘラナデ	中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP24	土玉	2.5	2.4	0.5	13.8	土(長石・石英・雲母)	ナデ、片面穿孔	中層	PL49

2 奈良時代の遺構と遺物

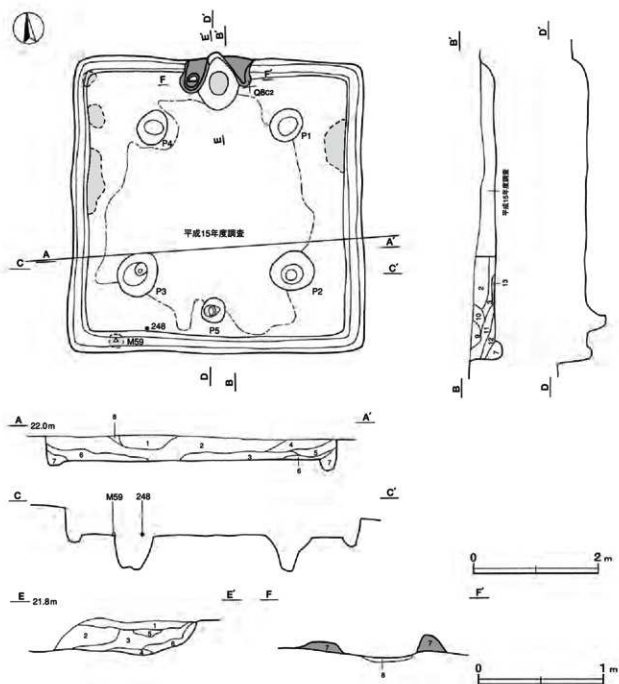
奈良時代の竪穴住居跡2軒と掘立柱建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1621号住居跡 (第149・150図)

位置 調査区北東部のQ8c1区、標高22mほどの台地の縁辺部に位置している。北半部は平成15年度に調査が終了している。

規模と形状 長軸4.70m、短軸4.64mの方形で、主軸方向はN-84°-Eである。壁高は28~40cmで、壁はほぼ



第149図 第1621号住居跡実測図

直立している。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が周回しており、幅20cm、深さ10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており、焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅130cmほどである。袖部は、床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を用いて構築されている。左袖部の中央には床面の高さまで掘り込まれたピットが確認されており、袖部の芯材として壘等を据えておいた痕跡とも考えられるが明確ではない。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量	6 極暗 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子・砂粒微量
2 暗 赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・炭化粒子少量	7 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	8 暗 赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子・砂粒微量
4 暗 赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量		
5 暗 赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量		

ビット 5か所。P1～P4は支柱穴で、深さ48～57cmである。P5は深さ33cmで、竈に向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うビットである。

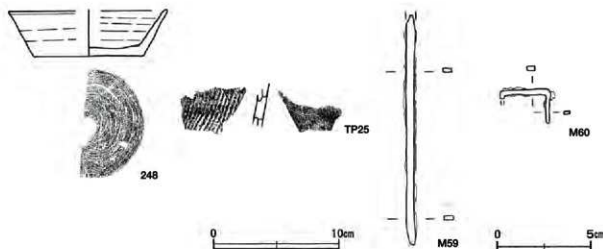
覆土 13層からなり、全体的にロームブロックは少量であるが、不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗 褐色	ロームブロック中量
2 極暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 極暗 褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量	9 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
4 黒 褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗 赤褐色	焼土粒子・炭化物中量、ロームブロック少量	12 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
		13 暗 褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 本年度の調査区からは、土師器片68点(坏4, 甕64), 須恵器片9点(坏5, 甕3, 鉢1), 鉄製品2点(鉄, 門金具), 礫1点が出土している。248は南壁際の覆土下層, TP25は北東コーナー部の覆土中から出土しており、摩耗や剥離が著しい。いずれも床面から浮いた状態で出土していることから、埋め戻しの際に投棄されたものと思われる。また、M59は南西コーナー部の床面から出土している。

所見 調査区北東部に単独で検出されている。壁際には焼土塊が散在しており、施絶に伴う焼失家屋と考えられる。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。平成15年度の調査では、平底で底径が大きく器形の低い須恵器坏や口縁部が大きく外方に開く土師器の甕が出土している。詳細は、「茨城県教育財団文化財調査報告」第214集を参照されたい。



第150図 第1621号住居跡出土遺物実測図

第1621号住居跡出土遺物観察表 (第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
248	須恵器	坏	[12.3]	3.6	8.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内外面口ロナア, 底部回転ヘリ切り	下層	50% PL41
TP25	須恵器	鉢	-	(3.5)	-	長石・小礫	灰	普通	体部外面縦位の平行引き, 内面横ナゲ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M59	鏝	(122)	0.5	0.2	(5.3)	鉄	覽致部から基部にかけての破片, 断面形長方形	床面	PL50
M60	円金具	(18)	27	0.3	(1.9)	鉄	コの字状を呈し, 先端部は直角に屈曲する	覆土中	

第1729号住居跡 (第151・152図)

位置 調査区西部のQ7e3区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1728号住居跡と第112号溝跡に掘り込まれている。

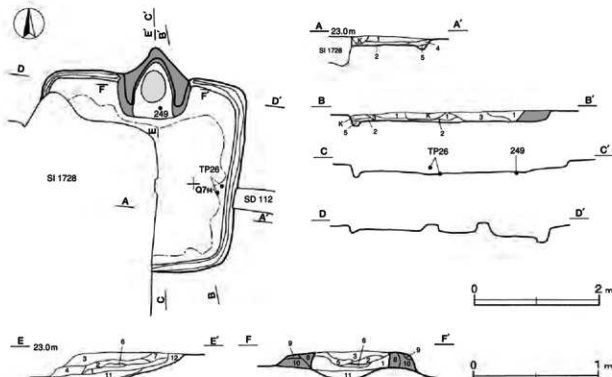
規模と形状 長軸3.23m, 短軸3.10mの方形で, 主軸方向はN-3'-Eである。壁高は8-15cmで, 各壁は外傾して立ち上がっている。

床 南西部が第1728号住居跡に掘り込まれているため, 詳細は不明であるが, ほぼ平坦で隙隙を除いて踏み固められていたものと思われる。壁溝が確認されている範囲で測っており, 幅10-20cm, 深さ5-10cmで, 断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されており, 焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅110cm, 壁外への掘り込みは45cmである。天井部は崩落しており, 土層断面図の第2・5層がそれにあたる。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面を6cm, 皿状に掘りくぼめて作られており, 火床面は熱を受けて赤変硬化している。焼土が多量に堆積している状況から, 使用頻度の高さがうかがえる。また, 煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | 7 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 4 灰赤色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 10 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |



第151図 第1729号住居跡実測図

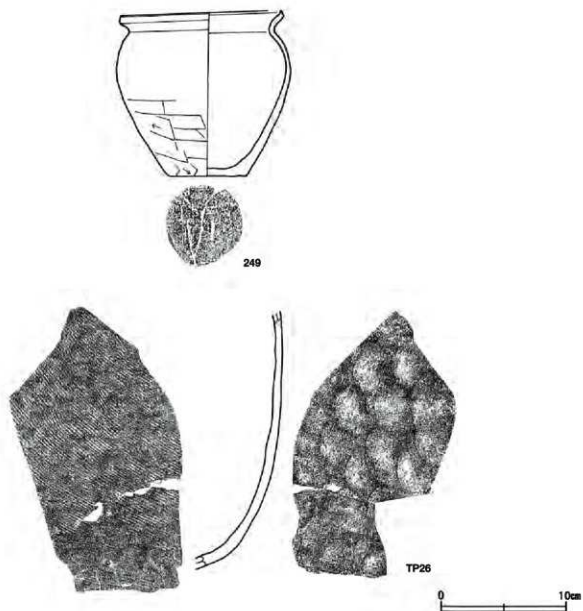
覆土 5層に分けられる。ロームを主体とする暗褐色土と黒褐色土からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック中量	4	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子微量		
2	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量	5	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量
3	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量					

遺物出土状況 土師器片26点（坏3，甕23），須恵器片2点（甕）が出土しており、大半は東壁際に集中している。249は竈内の火床面から細片で出土した破片が接合したものである。熱を受けた痕跡が認められ、支脚として使用されていた可能性が高い。また、T P 26は東壁際の床面から覆土中層にかけて出土したものである。

所見 時期は、出土土器と重複関係から8世紀中葉と考えられる。



第152図 第1729号住居跡出土遺物実測図

1729号住居跡出土遺物観察表 (第152図)

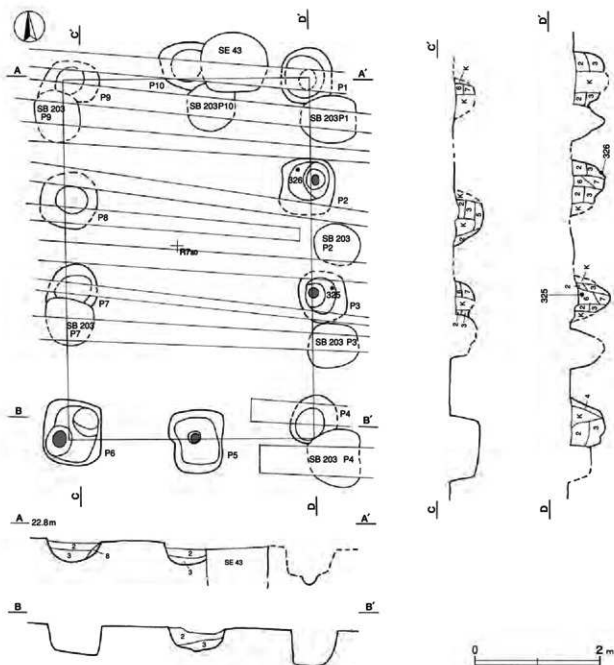
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
249	土師器	小形甕	12.6	13.2	6.2	長石・石英・礫	赤	普通	体部外面下端及び底部へラ削り、口辺部内外面横ナシ	竈内	80% PL47
TP26	須恵器	甕	-	(20.5)	-	長石	暗灰	普通	体部外面斜位の平行引き、内面滑面痕	床面～中層	10% PL49

(2) 掘立柱建物跡

第209号掘立柱建物跡 (第153・154図)

位置 調査区南部のR 7 a0区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第203号掘立柱建物跡と第43号井戸跡に掘り込まれている。



第153図 第209号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間、梁行2間の南北棟の側柱式建物跡で、桁行方向はN-1°-Wである。規模は桁行5.70m、梁行3.90mで、面積は約22.23㎡である。柱間寸法は桁行・梁行とも1.8mであるが、南梁間が2.1mとも考えられる。柱筋は、桁行・梁行ともほぼ揃っている。

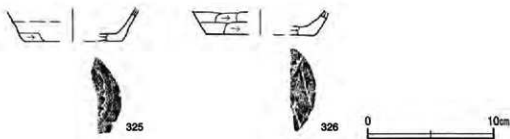
柱穴 10か所。平面形は円形ないし楕円形を呈している。規模は、長径80~105cm、短径70~95cmで、深さは32~58cmである。断面形は、第203号掘立柱建物跡と重複関係のないP2・P3から判断すればU字形と推測される。また、掘方の多くに乱れがあり、柱の建て替えが行われた痕跡が認められる。P2・P3からは柱の抜き取り痕跡が確認されており、土層断面図中の第6・7層が相当する。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした褐色土で強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

1	褐色	ロームブロック中量	5	褐色	ロームブロック多量
2	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量
3	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
4	褐色	ローム粒子中量	8	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片10点(坏2, 甕8), 須惠器片3点(坏), 礫1点が出土している。325はP2の埋土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は出土土器や重複関係から、8世紀中葉~後葉に機能し、第203号掘立柱建物跡へと建て替えられたと考えられる。側柱式の構造から倉庫的な建物と想定される。



第154図 第209号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第209号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
325	須惠器	坏	-	(2.6)	[7.8]	長石・石英 サリ-ア	普通	普通	体部内外面ロクロナダ、体部外面下端へウ崩れ、底部細粒ヘラ切り	P3埋土	10%
326	土師器	甕	-	(2.1)	[8.7]	長石・石英・ 茶色粒子	褐	普通	体部外面下端へウ崩り、底部木炭痕	P2埋土	5%

第214号掘立柱建物跡 (第155図)

位置 調査区南部のQ7j8区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第10号ピット群に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱式建物跡で、桁行方向はN-78°-Eである。規模は桁行3.00m、梁行2.40mで、面積は約7.20㎡である。柱間寸法は桁行が1.50m、梁行が2.40mを基調としており、柱筋は桁行・梁行ともほぼ揃っている。P7は、建物のほぼ中心に位置していることから、総柱建物の可能性も考えられるが、両梁間とも掘方は検出されていない。

柱穴 7か所。平面形は円形ないし楕円形を呈し、規模は、長径70~100cm、短径60~100cmである。深さは68~84cmで、U字形にしっかりと掘り込まれている。柱痕跡は土層断面図中の1層に相当し、P2・P4から確

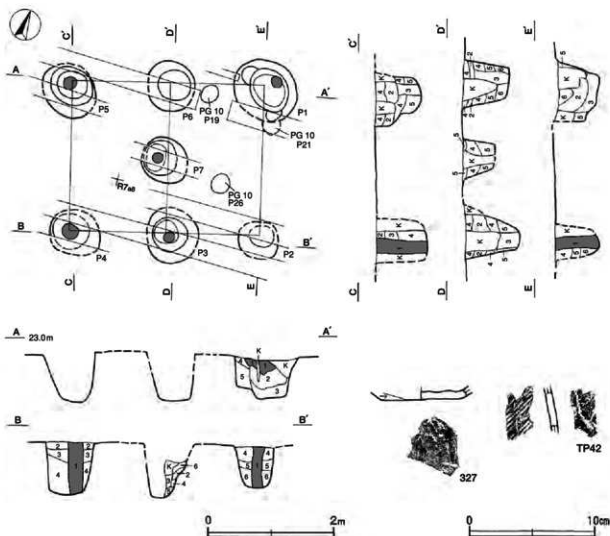
認できる。推定される柱の太さは、底面の柱のあたりから15~25cmである。その他の層は埋土であり、ロームを主体とした褐色土で強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | | | |
|---|-----|------------------|---|----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 | 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片12点(坏3, 甕9), 須恵器片5点(坏3, 甕1, 鉢1)が出土している。327はP4, TP42はP3の抜き取り痕跡からそれぞれ出土している。

所見 時期は出土土器から、8世紀中葉以前に廃絶されたものと想定される。規模に比べて掘方が深く、建物中央に掘方をもつ構造で、上屋構造などについては明確でない。



第155図 第214号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第214号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
327	須恵器	坏	—	(1.0)	[6.0]	長石・石英・雲母	灰	良好	底部へウ崩り	柱痕跡	5%
TP42	須恵器	鉢	—	(3.7)	—	長石・石英	褐色	普通	体部外面斜位の叩き	P3抜き取り痕跡	5%

3 平安時代の遺構と遺物

平安時代の竪穴住居跡12軒と掘立柱建物跡10棟、井戸跡1基、土坑5基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1722号住居跡（第156・157図）

位置 調査区北部のQ7c5区、標高23mほどの台地の縁部に位置している。

重複関係 第1620号住居跡を掘り込み、第1863号土坑に掘り込まれている。

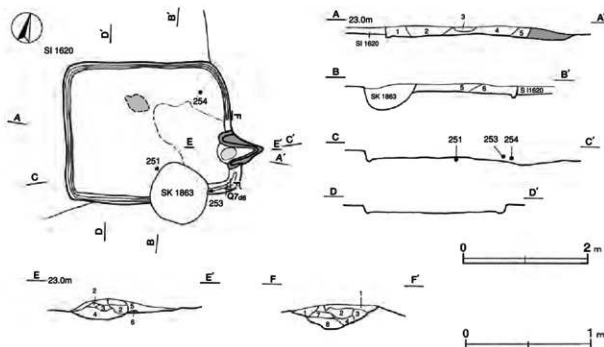
規模と形状 長軸2.63m、短軸2.26mのN-80°-Eを主軸とする東西に長い長方形である。壁高は5~12cmで、各壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、竪前面がよく踏み固められているが、それ以外は軟弱である。また、壁溝が周囲しており、幅10cm、深さ5cmであり、断面形はU字状を呈している。

竪 東壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで70cm、袖部幅60cm、壁外への掘り込みは40cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土を貼り付けて構築されていたものと推定される。火床面は若干赤変しているものの焼け締まてはいない。中央部には焼土ブロックが散在しているが、覆土下層に焼土や炭化物が見られない状況から、灰の掻き出しが行われたと想定される。また、煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がっている。

焼土層解説

1 暗赤褐色	砂質粘土中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	7 黒褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量



第156図 第1722号住居跡実測図

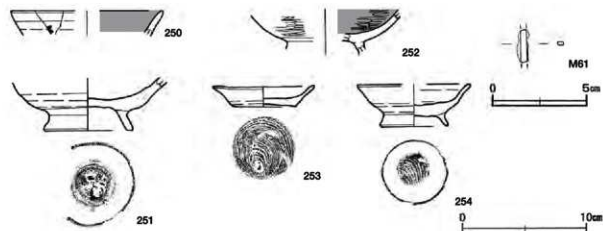
覆土 6層に分けられる。含有物やブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1 褐色	ローム粒子・炭化物微量	4 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
2 褐色	ロームブロック・炭化物微量	5 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
3 深い赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片40点（坏17，高台付碗7，甕13，小皿1，高台付小皿2），須恵器片7点（坏3，甕4），鉄製品1点（鎌か）が各壁際を中心に出土している。250は覆土中からの出土で、口辺部に判読不能の文字が黒書されている。251は中央部南寄りの床面から細片化して出土している。また、253は南壁際の覆土下層、254は北東コーナー部の覆土下層から正位でそれぞれ出土している。いずれも床面から浮いた状態で出土しており、埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や東廬の住居形態などから10世紀後葉以前と考えられる。床面が軟弱な上、火床面が焼け締まっていない状況から、短期間で廃絶された可能性が想定される。



第157図 第1722号住居跡出土遺物実測図

第1722号住居跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
250	土師器	坏	[12.0]	(2.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ロクロナデ	覆土中	5% 体部外面黒書付
251	土師器	高台付碗	-	(4.2)	7.1	長石・石英・赤色粒子・糠	浅黄橙	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下層へラ削り、底部回転へラ切り後高台取り付け	床面	40%
252	土師器	高台付碗	-	(3.6)	-	長石	橙	普通	体部内外面磨き	覆土中	5%
253	土師器	小皿	8.0	1.7	5.0	長石・赤色粒子	にぶ黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り	下層	100% PL44
254	土師器	高台付碗	[8.8]	3.4	5.2	長石・雲母	にぶ黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下層へラ削り、底部回転糸切り後高台取り付け	下層	40% PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M61	鉄	(1.7)	0.3	0.2	(0.9)	鉄	断面長方形	覆土中	

第1723号住居跡（第158・159図）

位置 調査区北部のQ7d5区、標高23mほどの台地の縁辺部に位置している。

規模と形状 北部が削平された状態で検出されたため、北壁の立ち上がりは確認されなかった。南側部分の形状と暗褐色を呈する床面の広がりから、N-87°-Eを主軸とする長軸2.71m、短軸2.61mの方形と推定される。壁高は37~40cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化している。壁溝が北東部を除いて確認されており、幅は10cm、深さは5cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで75cm、袖部幅70cmで、壁外への掘り込みは40cmである。火床部は床面を18cm皿状に掘りくぼめた部分に厚さ15cmの砂質粘土を貼り付けて使用し、火床面は熱を受けて赤変硬化している。袖部は火床部を構築後、床面より若干くぼんだ部分に砂質粘土を貼り付けている。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。廃絶後、間もなく天井部が崩落したと判断でき、人為的に破壊されたものと推定される。土層断面第10・11層は掘方の土層である。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量	7	暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量
2	褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量	8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量	9	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量
4	暗褐色	焼土粒子中量、炭化物・砂質粘土粒子少量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	11	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量
6	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	12	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量

ピット P1は、深さは33cmで性格は不明である。

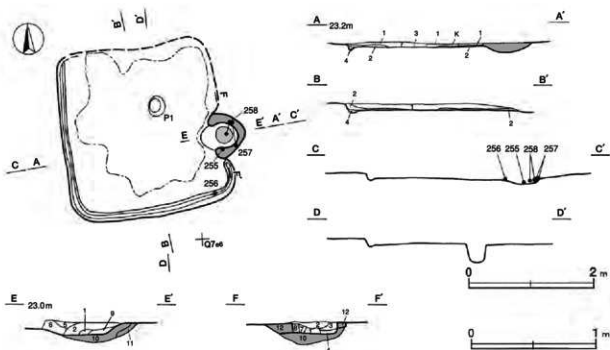
覆土 4層に分けられる。層位が薄いので詳細は不明である。

土層解説

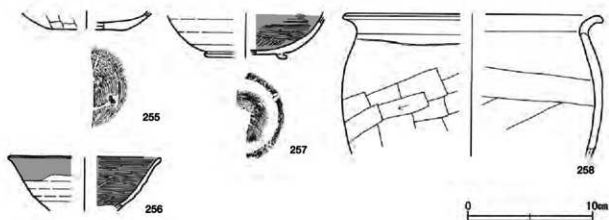
1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	3	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量	4	褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片17点(坏4、甕9、高台付碗4)、須恵器片1点(甕)が出土している。255は竈内、256は東壁際の壁溝内からいずれも小片で出土している。また、257・258は竈内から細片で出土しており、熱を受けた痕跡が認められないことから、廃絶の際に投棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器や東竈の住居形態などから10世紀後葉と考えられる。同時期と考えられる第1722・1726・1727号住居跡は調査区北西部に集中しており、本跡とともに集落の一部を形成していたものと考えられる。



第158図 第1723号住居跡実測図



第159図 第1723号住居跡出土遺物実測図

1723号住居跡出土遺物観察表 (第159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
255	土師器	坏	-	(1.5)	[6.4]	長石・石英・ 赤色粒子	明褐色	普通	体部外面下端手持ちへう削り、底部回転糸切り	竈内	10%
256	土師器	高台槽	[120]	(4.3)	-	長石	にぶ褐色	普通	体部外面口クロナデ、内面磨き	竈内	10% 口辺部縁付着
257	土師器	高台槽	-	(3.6)	[6.4]	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外面口クロナデ、内面磨き、底部回転糸切り、高さ台貼り付け	竈内	30%
258	土師器	甕	[20.2]	(11.1)	-	長石・石英	にぶ褐色	普通	体部外面へう削り、内面へうナデ、輪襷痕	竈内	20%

第1726号住居跡 (第160・161図)

位置 調査区中央部のQ77区、標高23mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.02m、短軸2.80mの方形で、主軸方向はN-100°-Eである。壁高は7~16cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。また、壁溝が南西コーナー部を除いて周囲しており、幅10~15cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで75cm、袖部幅80cmほどで、壁外への掘り込みは50cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を貼り付けて構築されており、内側が熱を受けて焼け締まっている。火床面は地山面をそのまま使用し、熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

甕土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	7	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	8	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック少量	9	赤褐色	焼土粒子多量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	10	にぶ赤褐色	焼土粒子中量・砂質粘土粒子少量
5	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	11	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量			

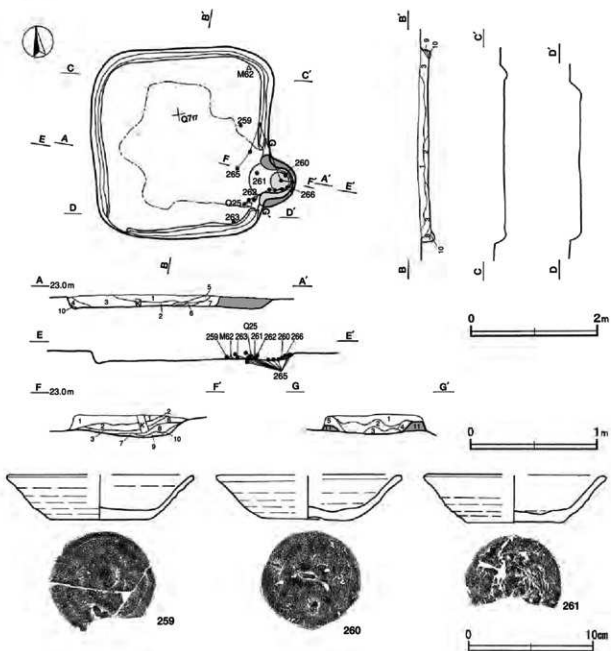
覆土 10層に分けられ、不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

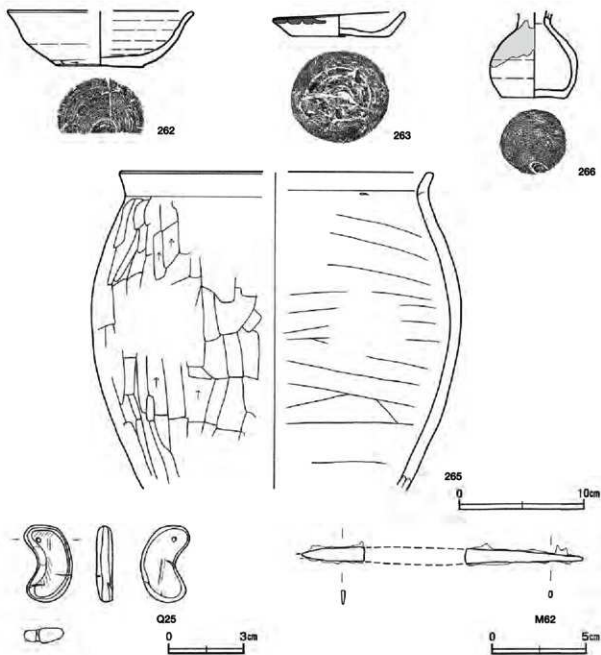
1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	9	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片81点（坏13，高台付碗2，甕45，小皿1，皿20），須恵器片27点（坏5，甕21，小瓶1），土製品1点（不明），鉄製品3点（鎌，刀子，不明），石製品1点（勾玉），雲母片岩3点が竈周辺を中心に出土している。259は竈左側の床面から破砕された状態で出土している。260・261・262・266は竈内からの出土で，いずれも熱を受けた痕跡は認められない。263は南壁際の床面から出土している。口辺部に煤が付着していることから，灯明具として使用した可能性が考えられる。265は竈前面の床面から覆土中層にかけて出土したものが接合したものである。また，雲母片岩3点は竈内及び竈前面からの出土で熱を受けた痕跡があり，支脚として使用されたものと思われる。

所見 時期は，小皿と高台付碗が出土していることや東竈の住居形態などから10世紀後葉以前と考えられる。竈内から出土した土器片の破断面は磨滅しておらず，熱を受けた痕跡も認められないことから，住居の廃絶に際して一括投棄されたか，竈内に意図して遺棄されたものと考えられる。



第160図 第1726号住居跡・出土遺物実測図



第161図 第1726号住居跡出土遺物実測図

第1726号住居跡出土遺物観察表 (第160・161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
259	土師器	環	[14.7]	3.5	7.9	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ, 底部回転ヘラ切り	床面	60% PL41
260	土師器	環	[14.4]	3.5	6.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内外面ロクロナデ, 底部回転ヘラ切り	壺内	65% PL41
261	土師器	環	[14.2]	3.8	7.2	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内外面ロクロナデ, 底部回転ヘラ切り	壺内	40% PL41
262	土師器	環	[14.6]	4.4	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内外面ロクロナデ, 体部外面下層ヘラ削り, 底部回転糸知り	壺内	30% PL41
263	土師器	小皿	10.4	2.0	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内外面横ナデ, 底部回転ヘラ切り	床面	100% PL44 口部破損付
265	土師器	甕	[24.7]	[25.0]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 輪轆痕	床面~中層	40%
266	須恵器	小瓶	-	(6.8)	5.2	長石・石英	黄灰	普通	体部外面ロクロナデ, 底部回転糸知り	壺内	90% PL47

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	勾玉	3.1	1.9	0.6	6.3	粘板岩	研磨痕が粗く、整形時の擦痕有り。	床面	PL50

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M62	刀子	[150]	0.8	0.2	(11.1)	鉄	刀身一部欠損	床面	PL50

第1727号住居跡 (第162図)

位置 調査区西部のQ7E3区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1728・1730A・1730B号住居跡、第1779号土坑を掘り込み、第1870号土坑に掘り込まれている。
規模と形状 長軸3.66m、短軸2.98mの東西に長い長方形で、主軸方向はN-85°-Eである。壁高は25~30cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。掘りあげ後、ロームブロックを用いて均一に床が貼られ、土層断面図の7~10層がそれに相当する。壁際を除いて踏み固められており、特に竈前面の硬化が著しい。また、壁溝が周囲しており、幅10~15cm、深さ5~10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで105cm、袖幅110cmで、壁外への掘り込みは55cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を貼り付けて構築され、火床面と袖部の内側が熱を受けて赤変硬化している。火床面には焼土が多量に堆積している状況から、使用頻度の高さがうかがえる。竈前面には焼土ブロックが散在しており、灰の掻き出しが行われたと想定される。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	11	褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	12	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
3	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	13	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量
4	暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
5	暗褐色	砂質粘土粒子中量	15	にぶい赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	16	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
7	赤褐色	焼土粒子中量	17	暗褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
8	にぶい赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子微量	18	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
9	暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	19	黒褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量
10	にぶい赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

ビット 4か所。P1は深さ14cmで竈に向かい合う位置にあることから、出入り口施設に伴うビットである。

P2~P4は深さ17~28cmで、性格は不明である。

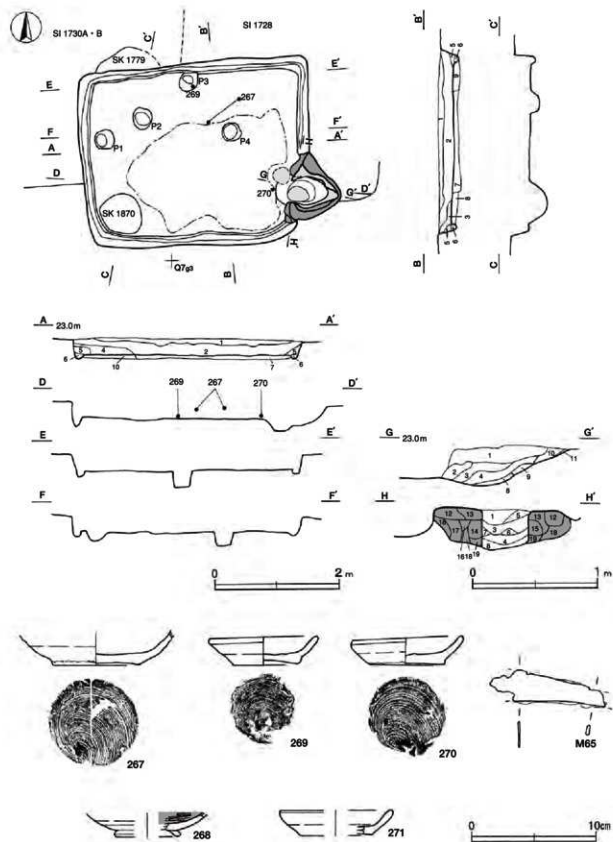
覆土 10層に分けられ、レンズ状の堆積状況を示しているが、全体的にロームブロックを含んでいることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・砂質粘土粒子少量	8	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック少量	9	暗褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			
6	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片151点(坏71、高台付椀1、甕75、小皿4)、須恵器片45点(坏14、高台付椀1、高台付皿1、甕28、甌1)、鉄製品1点(鎌)が壁際を中心に出土している。267は北側の覆土中層から破砕された状態で出土し、269は北壁際の床面、270は竈前面の覆土下層からの出土で、いずれもほぼ完形品である。また、M65は覆土中の出土である。大半が床面から若干干涸いた状態での出土で、投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器と東竈の住居形態から10世紀後葉と考えられる。



第162图 第1727号住居跡・出土遺物実測図

第1727号住居跡出土遺物観察表（第162図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
267	土師器	杯	—	(2.6)	7.0	長石	浅黄橙	普通	体部外面ロクロナデ、底部回転糸切り	中層	30%
268	土師器	筒形埴輪	—	(1.9)	[3.0]	石葉・雲母・炭化粒子	灰青	普通	体部外面ロクロナデ、内面磨き	覆土中	5%
269	土師器	小皿	8.4	2.2	5.2	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り	床面	90% PL44
270	土師器	小皿	8.6	2.3	6.0	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転糸切り	下層	80% PL44
271	土師器	小皿	[8.8]	2.0	[5.6]	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内外面ロクロナデ	覆土中	20% PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M65	鎌	(9.4)	2.4	0.3	(36.0)	鉄	刃部先端欠損	覆土中	PL50

第1728号住居跡（第163・164図）

位置 調査区西部のQ7E3区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1729号住居跡、第1779号土坑を掘り込み、第1727・1730A・B住居跡と第112号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.12m、短軸3.81mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は36~42cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。掘りあげ後、ロームブロックを用いて均一に床が貼られ、土層断面図の第7層がそれに相当する。また、ピットの内側が踏み固められている。壁溝が周回しており、幅15~20cm、深さ10~15cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口から煙道部まで135cm、袖部幅110cmで、壁外への掘り込みは45cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に、砂質粘土にローム土を混ぜて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの地山面を使用し、火床面は熱を受けて赤変硬化している。焼土が多量に堆積していることから、使用頻度は高かったものと推定される。また、煙道部は外傾して緩やかに立ち上がっている。なお、土層断面図の第1・2層は天井部の崩落層に相当すると考えられる。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量
2	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	10	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
			11	褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	12	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量
4	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化物少量	13	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5	赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量	14	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量
6	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	15	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量
7	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量	16	褐色	ロームブロック多量、砂質粘土粒子少量
8	灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量			

ピット 5か所。P1~P4は主柱穴で、深さ18~30cmである。P5は出入り口施設に伴うピットで、深さ18cmである。

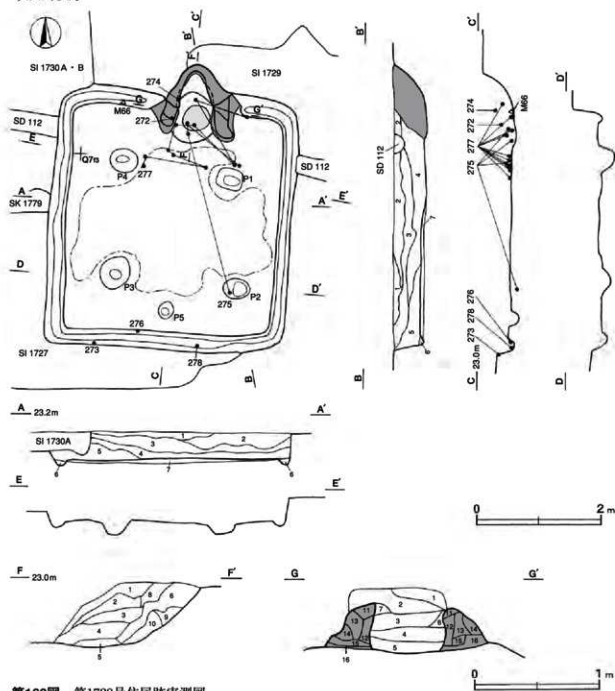
覆土 7層からなり、レンズ状の堆積状況を示しているが、各層にロームブロックを含んでいることから、人為堆積と思われる。

土層解説

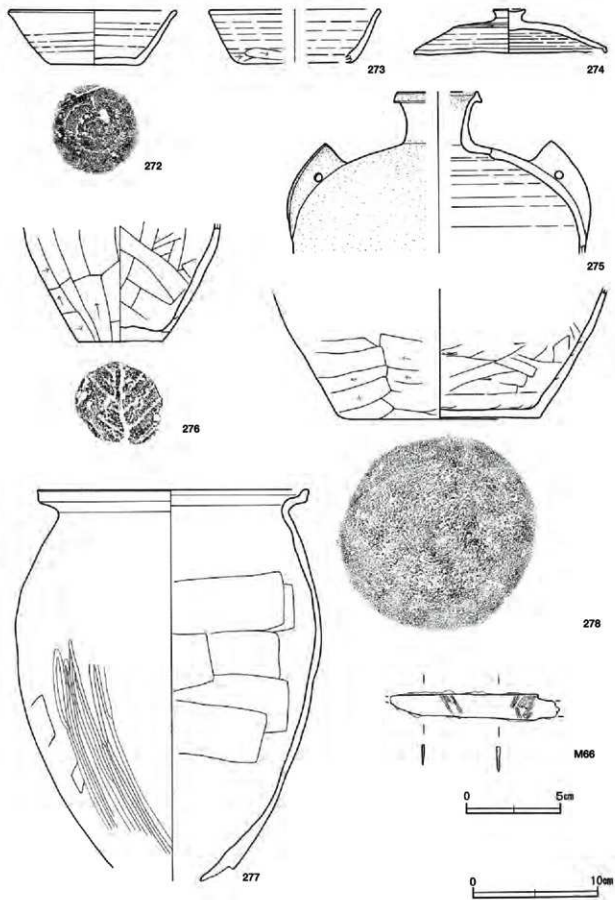
1	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
			5	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
2	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	6	暗褐色	ロームブロック少量
			7	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3	褐色	ロームブロック中量、炭化物少量			

遺物出土状況 土師器片109点（坏8，甕78，瓶23），須恵器片63点（坏30，蓋7，甕20，瓶1，有耳壺5），鉄製品1点（刀子）がほぼ全域から散在した状態で出土している。大半は床面から若干浮いた状態で出土しており，埋め戻しの段階で投棄されたものと思われる。272は竈左袖部内からの出土で，熱を受けた痕跡は認められない。274は竈内の覆土上層から出土したものが接合したものである。275は竈前面から出入り口付近の床面から覆土中層にかけて出土した破片が，277は北東コーナー部から竈前面にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。いずれも広範囲に散在している状況から，破壊して投棄されたものと思われる。構築土層からも遺物は出土しているが小片で図化できない。

所見 貼床下にも硬化面が検出されていることから，建て替えの可能性が想定される。時期は出土遺物や重複関係から，9世紀前葉以前と考えられる。また，須恵器有耳壺が出土しており，有力者の住居であったことがうかがえる。



第163図 第1728号住居跡実測図



第164图 第1728号住居跡出土遺物実測図

第1728号住居跡出土土物観察表 (第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
272	煎煮器	坏	13.2	4.4	7.0	長石・石英・雲母	こい黄緑	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラ切り	庭左袖部内	70% PL41
273	煎煮器	坏	[13.4]	4.3	[10.1]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内外面ロクロナデ、体部外面下端ヘラ削り	床面	30%
274	煎煮器	蓋	15.2	3.5	-	長石・石英・雲母	こい黄緑	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	上層	95% PL43
275	煎煮器	有耳蓋	[6.4]	[12.8]	-	長石・石英・雲母	黒褐	良好	ロクロナデ形、口辺部内外面積ナデ、外面積ナデ	床面～中層	20% PL48
276	土師器	甕	-	(9.2)	6.8	長石・石英・雲母・鐵	こい黄緑	普通	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、輪積痕、底面不平整	壁溝内	30%
277	土師器	甕	21.4	(31.1)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	体部外面下端から中位磨き、内面ヘラナデ	床面～中層	70% PL46 転写願
278	煎煮器	甕	-	(10.3)	16.0	長石・石英・雲母	こい黄緑	普通	体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラナデ、輪積痕	壁溝内	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M66	刀子	(9.0)	1.4	0.2	(13.1)	鉄	基部欠損、両面有り、刀身に木質付着	床面	PL50

第1730 A号住居跡 (第165～170図)

位置 調査区西部のQ7e2区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1728・1730 B号住居跡を掘り込み、第1727・1745号住居跡と第112号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 西壁が調査区域外に延びているが、長軸5.78m、短軸5.24mの南北に長い長方形で、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は25～38cmで、各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、第1730 B号住居跡の上にルームブロックで貼床され、柱穴の内側が踏み固められている。壁溝が確認されている範囲で巡っており、幅15～20cm、深さ7～15cmであり、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されていたものと推定され、焚口部から煙道部まで160cm、袖部幅170cmで、壁外への掘り込みは80cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山面に砂質粘土とローム土を混ぜて構築されている。火床部は17cm掘りくぼめた部分にローム土を埋め戻し、火床面は熱を受けて赤変硬化している。火床面には多量の焼土が堆積しており、使用頻度の高さがうかがえる。また、煙道部は階段上に立ち上がっている。廃絶後、間もなく天井部が崩落したと判断でき、人為的に壊されたものと推定される。第5・15層は掘方である。

土層解説

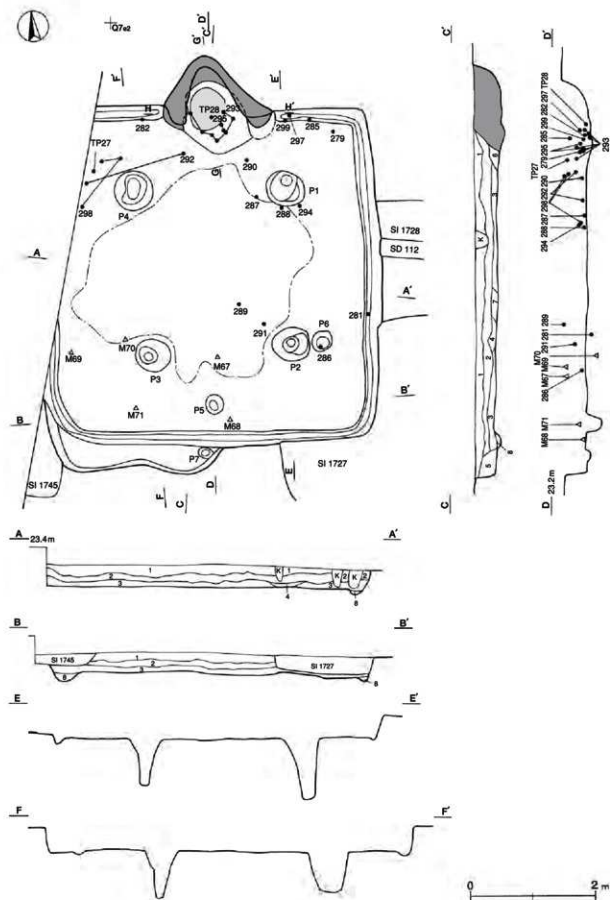
1	灰	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量	8	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	灰	褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物少量	9	こい黄褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量
3	灰	褐色	粘土ブロック多量、焼土粒子少量	10	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量
4	暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量	11	灰褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック中量	
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子中量	12	褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	
6	こい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	13	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量	
7	黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子中量	14	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量	
			15	こい黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量	

ビット 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さ64～97cmである。P5は竈に向かい合う位置にあり、出入り口施設に伴うビットで、深さ25cmである。P6・P7の性格は不明である。

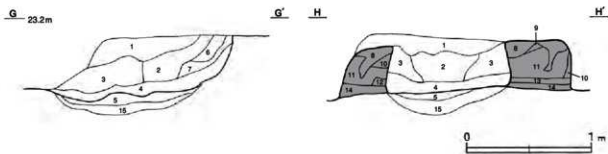
覆土 8層に分けられ、レンズ状の堆積状況を示しているが、各層にローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	6	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化物少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4	褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量	8	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量



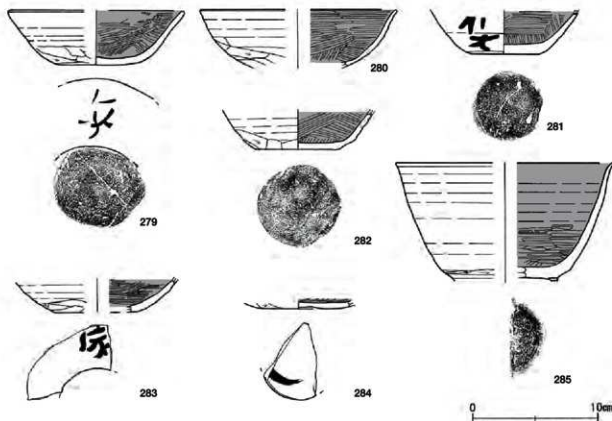
第165图 第1730A号住居跡实测图(1)



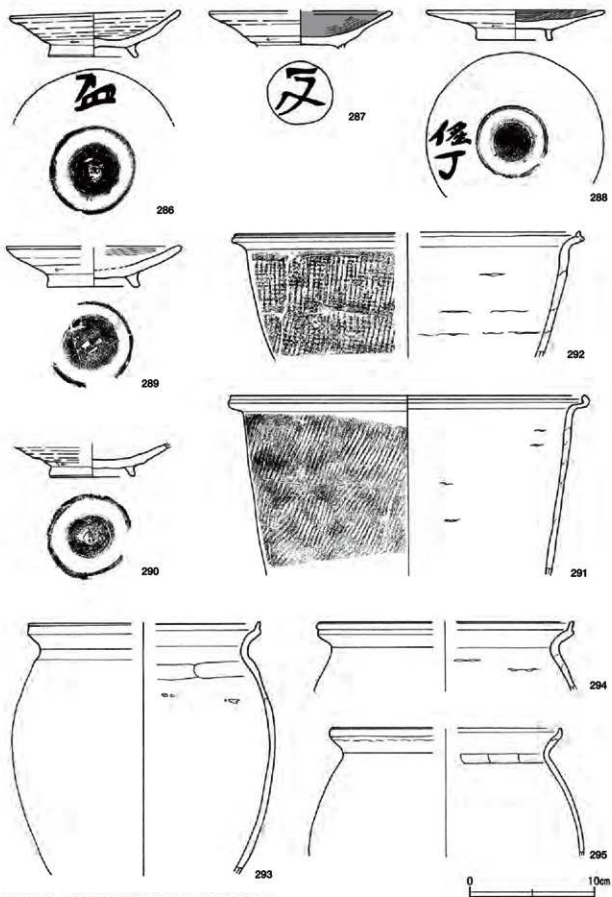
第166図 第1730A号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片545点(坏95, 高台付坏2, 高台付碗3, 高台付皿5, 甕432, 小皿6, 瓶2), 須恵器片223点(坏62, 高台付坏3, 盤2, 鉢16, 甕139, 瓶1), 鉄製品4点(刀子2, 鎌1, 鎌1), 鉄滓1点がほぼ全域から散在した状態で出土し, 墨書土器7点も検出されている。遺物のほとんどは, 床面から浮いて細片で出土しており, 埋め戻しの際に投棄されたものと考えられる。供膳具や煮炊具は甕の両脇に集中し, 279は北東コーナー部の床面から覆土下層, 285は北東コーナー部の覆土上層, 287は甕前の床面, 282は甕左袖付近の覆土下層からそれぞれ出土している。299は甕右袖付近の覆土下層から出土した破片が接合したもので, 土圧によってつぶれたものと考えられる。また, 286はP6付近の床面から出土しており, 内面に煤が付着している。鉄製品も南西部から集中して出土しており, 投棄の可能性がある。

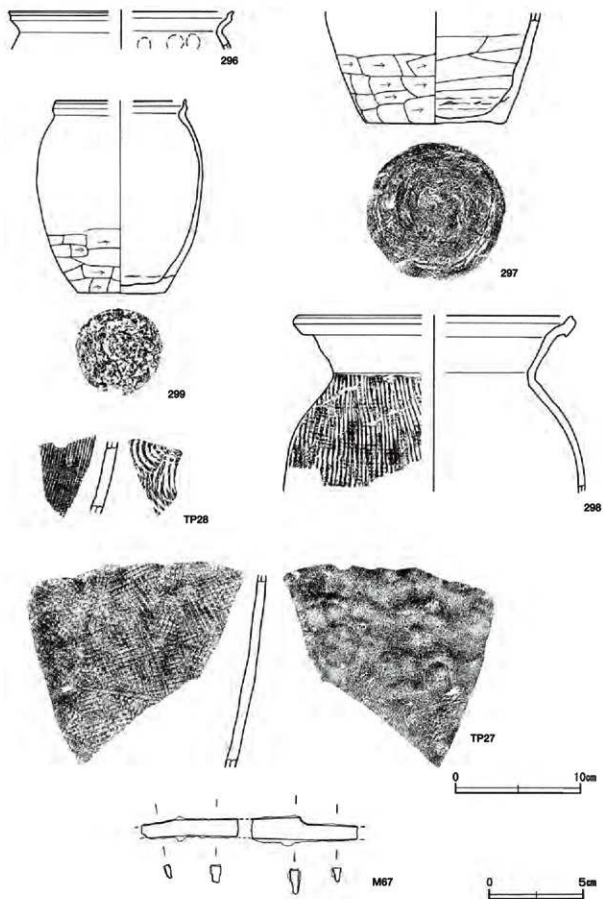
所見 時期は出土土器や重複関係から9世紀後葉以前と考えられ, 本跡は第1730B号住居跡から建て替えた住居である。



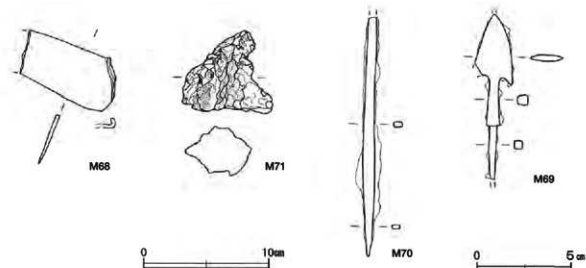
第167図 第1730A号住居跡出土遺物実測図(1)



第168图 第1730A号住居跡出土遺物実測图(2)



第169図 第1730A号住居跡出土遺物実測図(3)



第170図 第1730A号住居跡出土遺物実測図(4)

第1730A号住居跡出土遺物観察表 (第167~170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
279	土師器	環	[13.8]	4.3	6.2	長石・赤色粒子	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端手持ちヘラ削り、内面削き、底部ヘラ削り	下層	60% 体部裏面 [表] 口内
280	土師器	環	[15.5]	(4.6)	-	長石・赤色粒子	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端手持ちヘラ削り、内面削き	覆土中	20%
281	土師器	環	-	(3.5)	5.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端手持ちヘラ削り、内面削き	床面	60% 体部裏面 口内
282	土師器	環	-	(3.3)	6.4	長石・石英	橙	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端手持ちヘラ削り、内面削き、底部ヘラ削り	下層	50%
283	土師器	環	-	(2.7)	[6.6]	石英・赤色粒子	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端手持ちヘラ削り、内面削き	覆土中	60% 体部裏面 [表] 口内
284	土師器	環	-	(0.7)	[6.2]	長石・雲母	にぶい	普通	体部外面ヘラ削り、底部ヘラ削り	覆土中	60% 体部裏面 口内
285	土師器	高台皿	[17.2]	9.4	-	長石・石英	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端ヘラ削り、内面削き	上層	50% PL42
286	土師器	高台皿	13.4	3.7	7.0	長石・石英・雲母	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後高台削り付	床面	60% 体部裏面 [表] 口内
287	土師器	高台皿	[14.3]	(3.0)	-	長石・雲母	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端回転ヘラ削り、内面削き、底部回転ヘラ削り後高台削り付	床面	60% 体部裏面 [表] 口内
288	土師器	高台皿	14.0	2.4	6.0	長石・石英	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端回転ヘラ削り、内面削き、底部回転ヘラ削り後高台削り付	床面	60% 体部裏面 [表] 口内
289	土師器	高台皿	[13.8]	3.2	7.0	長石・石英	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端回転ヘラ削り、内面削き	上層	60% 体部裏面 口内
290	土師器	高台皿	-	(2.6)	6.6	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ロクロナデ、体部外面下端ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後高台削り付	下層	50%
291	須恵器	鉢	28.2	(14.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面縦位の平行削り、口辺部内外面横ナデ、内面ヘラナデ、輪横削	下層	30%
292	須恵器	鉢	[27.4]	(9.9)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	体部外面縦位の平行削り、口辺部内外面横ナデ、内面ヘラナデ、輪横削	下層-上層	20%
293	土師器	甕	[18.4]	(20.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ、内面ヘラナデ、輪横削	床面-中層	40%
294	土師器	甕	[20.2]	(5.4)	-	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ、内面ヘラナデ、輪横削	下層	10%
295	土師器	甕	[18.4]	(10.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口辺部内外面横ナデ、内面ヘラナデ、輪横削	下層	10%
296	土師器	甕	[17.9]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ、指頭削	覆土中	5%
297	土師器	甕	-	(8.8)	11.0	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り、内面ヘラナデ、輪横削	下層	10%
298	須恵器	甕	[21.8]	(14.0)	-	石英・長石・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面縦位の平行削り、口辺部内外面横ナデ、輪横削	下層-上層	20% PL48
299	土師器	小形甕	[10.4]	15.2	6.8	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面下端ヘラ削り、口辺部外面及び内面ナデ、輪横削	下層	70% PL47
TP27	須恵器	鉢	-	(15.3)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外面格子状の叩き、内面輪横削、指頭削	上層	10% PL49
TP28	須恵器	鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面格子状の叩き、内面同心円状の当て削	床面	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M67	刀子	[11.5]	1.5	0.3	(12.8)	鉄	刀身・基部一部欠損、刃先彎曲		上層	PL50	
M68	鎌	(7.6)	4.3	0.3	(40.7)	鉄	基部破片		下層	PL50	
M69	鎌	(8.7)	(2.0)	0.3	(12.5)	鉄	正三角形形式、両丸造、両開、断面正方形		上層	PL50	
M70	鍔	(12.6)	0.5	0.3	(16.7)	鉄	鍔身長欠損		貼床層	PL50	
M71	滓	6.6	7.2	3.8	168.5	鉄	外面焼土付着		中層		